08病Ⓟ1-002A4

兵庫県立こども病院 年報 2025 VOL.56



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 25 VOL.56



基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

1　患者の権利を尊重した医療の実践

2　安全・安心と信頼の医療の遂行

3　高度に専門化されたチーム医療の推進

4　地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携

5　親とこどもが一体となった治療の推進

6　こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成

7　医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上

8　継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

患者の権利

1　あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
2　あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
3　あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
4　あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

ご　挨　拶

兵庫県立こども病院　院長　　杉 多 良 文

2025年度『年報』の発行にあたり、日頃より当院の運営と地域医療の推進に深いご理解と温かいご支援を賜っております連携医療機関・関係諸機関の皆様に心より御礼申し上げます。本年報は2025年度における当院の診療実績、研究・教育活動、ならびに医療安全・感染対策の取り組みなどをまとめたものです。当院の活動をご理解いただく一助となれば幸いです。

2025年は大阪で55年ぶりとなる日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されました。前回の大阪万博が開催された1970年は当院が開設された年でもあり、当院もまた開設から55年という節目を迎えました。この半世紀余りの間に、小児医療を取り巻く環境は大きく変化しました。少子高齢化は急速に進み、2025年は、1947～49年生まれの団塊の世代約800万人が75歳以上となる一方、出生数は67万1236人となり、10年連続で過去最少を更新し、合計特殊出生率も過去最低の1.14となりました。

このような人口動態の大きな変化の中にあっても、当院は「子どもたちの健やかな成長を目指す」という基本理念を元に、高度専門小児医療の提供と地域小児医療を支える最後の砦としての使命を果たすべく、日々診療に取り組んでおります。

一方で、物価や人件費の上昇に加え、少子化による患者数の減少など、当院を取り巻く経営環境は非常に厳しくなっています。しかし、子どもたちは社会の宝であり、未来を担うかえがえのない存在です。病気や障害と闘う子どもたちとご家族を支えるという私たち

の使命が揺らぐことは決してありません。当院は、将来にわたって最後の砦としての診療機能を維持するため、医療の質を高めながら、収支改善や経営基盤の強化に取り組んでまいります。そして、子どもたちの未来のために、私たちはこれからも挑戦と改革を続け、日本で一番の小児病院を目指して歩み続けてまいります。今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に本年報の発行にご尽力いただきました広報委員会の皆様に深謝申し上げます。

目　　次

Ⅰ　病　院　概　要

1　兵庫県立こども病院の設立目的…… 1
2　沿　　革…… 1
3　業　務　図…… 4
（1）機構一覧表…… 4
（2）担当医師表…… 5
（3）外来診療スケジュール…… 6
4　職　　員…… 7
（1）職種別人員表…… 7
5　近畿厚生局長への届出に関する事項…… 8
6　研修・教育認定施設内容…… 9
7　委員会等一覧……10

Ⅱ　医事経理関係……17

Ⅲ　診　療　統　計

1　総合診療科……33
2　救急科……34
3　代謝・内分泌内科……37
4　リウマチ科……39
5　アレルギー科……40
6　神経内科……41
7　血液・腫瘍内科……42
8　循環器内科……44
9　腎臓内科……46
10　感染症内科……48
11　臨床遺伝科……49
12　精神科……54
13　小児外科……58
14　心臓血管外科……62
15　脳神経外科……65
16　形成外科……68
17　整形外科……69
18　リハビリテーション科……71

19　眼科……72
20　耳鼻咽喉科……73
21　泌尿器科……75
22　小児歯科……76
23　麻酔科……77
24　新生児内科……79
25　産科……83
26　放射線診断科／放射線治療科……87
27　小児集中治療科……89
28　病理診断科……90
29　看護部……91
30　薬剤部……97
31　検査部……101
32　放射線部……104
33　栄養管理部……108
34　リハビリテーション部……113
35　家族支援・地域医療連携部……115
36　ME室……119
37　医療安全部……121
38　感染対策室……124
39　褥瘡管理室……128
40　がん相談支援センター……129
41　院内学級……130
42　医師事務作業補助者（医師クラーク）……131

Ⅳ　学術・研究・教育活動
1　書　　籍……133
2　雑 誌 発 表……136
3　学 会 発 表……152
4　報　　道……181
5　実習生・研修生受け入れ状況……182
6　院外合同研修……188

Ⅴ　ボランティア……189

Ⅰ　病　院　概　要

1．設　立　目　的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

（1）近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。

（2）小児に関する医療相談機関であること。

（3）小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。

（4）小児医療従事者の育成研修機関であること。

などであります。

平成６年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第３次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

さらに、平成25年２月には小児がん拠点病院に指定され、平成26年４月に小児がん医療センターを設置しました。

平成28年５月には、須磨からポートアイランドに移転開院し、その後、平成29年４月には小児救命救急センターに指定されました。

2．沿　　革

（1）名　　称	兵庫県立こども病院
（2）開　　設	昭和45年４月１日（現管理者　飯島　一誠）
（3）所 在 地	神戸市中央区港島南町１丁目６番７　ＴＥＬ 078-945-7300（代表）
（4）診 療 科 目	循環器内科　腎臓内科　脳神経内科　血液・腫瘍内科　代謝・内分泌内科 周産期内科　新生児内科　心臓血管外科　脳神経外科　小児外科 整形外科　形成外科　精神科　アレルギー科　リウマチ科　小児科 泌尿器科　産科　眼科　耳鼻咽喉科　リハビリテーション科　放射線科 麻酔科　病理診断科　救急科　小児歯科
（5）病 床 数	一般290床（稼働282床）
（6）沿　　革	
昭和45年４月１日	病院開設（管理者　平田　美穂）
昭和45年４月30日	病院本館完成
昭和45年５月８日	診療開始

昭和45年７月23日	基準寝具実施（寝第295号）
昭和45年９月17日	基準給食実施（食第307号）基準看護実施（看第130号）
昭和46年12月28日	母と子の指導教室完成　現在は母と子の教室と呼称
昭和47年２月１日	基準看護一般特類変更承認（険第98号）
昭和47年12月１日	基準看護精神特類変更承認（険第219号）
昭和49年10月１日	基準看護一般特二類変更承認（険第108号）
	基準看護精神特一類変更承認(険第108号）
昭和50年４月１日	管理者変更受理（管理者　児嶋　喜八郎）
昭和54年３月31日	全館防災設備工事完成
昭和54年８月２日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和55年４月１日	昭和55年３月26日　兵庫県条例第11号　兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和56年５月５日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和56年10月７日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和56年10月12日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和56年12月６日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和57年４月１日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和58年４月１日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和58年４月11日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和58年10月１日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和60年３月18日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和60年３月28日	日帰り手術棟完成
昭和60年４月３日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和60年４月15日	日帰り手術棟手術開始
昭和61年３月31日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和61年４月１日	管理者変更受理（管理者　玉木　健雄）
昭和61年４月１日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和61年10月１日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和62年１月22日	自家発電設備改良工事完成
平成元年２月１日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成３年５月１日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第220号）
平成４年４月１日	基準看護一般特三類（260床に）変更承認（険第363号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成４年５月９日	週40時間制試行
平成４年５月18日	病床数260床に変更承認（精神病棟廃止）
平成４年７月６日	病床数290床に変更承認（兵庫県指令医第１－67号）
平成４年７月29日	周産期医療センター安全祈願祭
平成４年11月７日	週40時間制本格実施
平成５年４月１日	管理者変更受理（管理者　竹峰　久雄）
平成６年７月20日	周産期医療センター定礎式
平成６年９月１日	管理者変更受理（管理者　小川　恭一）
平成６年９月30日	ドクターズカー購入
平成６年９月30日	周産期医療センター完成

平成６年10月１日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置
平成６年10月３日	周産期医療センター開設記念式典
平成６年10月４日	周産期医療センター診療開始
平成７年１月17日	阪神・淡路大震災
平成７年９月１日	本館改修工事に着手
平成８年４月１日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年６月30日	本館改修工事完了
平成11年４月２日	管理者変更受理（管理者　山本　節）
平成12年３月１日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年４月24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年10月10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年２月28日	立体駐車場完成
平成14年４月１日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第0401006）
平成14年４月１日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年10月15日	第３次小児救急開設（稼働病床260床）
平成15年４月２日	管理者変更（管理者　中村　肇）
平成15年10月30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1030005号-511 , 519 , 526 , 533）
平成15年11月28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1128007号-330）
平成16年３月22日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年４月１日	アレルギー科追加
平成18年４月１日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年４月１日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年10月１日	小児救急医療センターを開設（稼働病床266床）
平成20年４月１日	管理者変更（管理者　丸尾　猛）
平成21年４月１日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年７月３日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年12月16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年１月４日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年４月１日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年１月４日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成23年４月１日	日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される
平成24年４月９日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年２月８日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年４月１日	管理者変更（管理者　長嶋　達也）
平成26年４月１日	小児がん医療センター設置
平成26年12月８日	新生児専用ドクターズカー運行開始
平成28年５月１日	ポートアイランドに移転開院 リハビリテーション科追加
平成29年４月１日	管理者変更（管理者　中尾　秀人） 小児救命救急センターとして指定される
平成30年２月１日	兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院として指定される
令和２年１月１日	がんゲノム医療連携病院として指定される
令和３年４月１日	管理者変更（管理者　飯島　一誠）

3．業　　務　　図

（1）機構一覧表（2026.3.31現在）



（２）担当医師表（2026.3.31現在）

（１）総合診療科	笠井正志、鉄原健一、山田健太、吉田美苗、近藤亜那、岡﨑沙也香
（２）救急科	田中亮二郎、松井鋭、竹井寛和、谷澤直子、大西康裕、吉井拓眞、浪方悠
（３）感染症内科	笠井正志
（４）臨床遺伝科	森貞直哉
（５）新生児内科	芳本誠司、三村仁美、岩谷壮太、松井紗智子、武岡恵美子、生田寿彦、西牧良
（６）脳神経内科	丸山あずさ、冨岡和美、石田悠介、末宗和樹
（７）循環器内科	城戸佐知子、田中敏克、小川禎治、亀井直哉、久保慎吾、三木康暢、中井亮佑
（８）腎臓内科	飯島一誠、貝藤裕史、田中悠
（９）代謝内分泌内科	尾﨑佳代、池田紀衣子
（10）血液・腫瘍内科	長谷川大一郎、森健、石田敏章、齋藤敦郎、神前愛子、植村優、二野菜々子、菊池菜摘
（11）集中治療科	黒澤寛史、椎間優子、青木一憲、古島夏奈、長井勇樹、宮下徳久、先濱大、黒江崇史
（12）アレルギー科	濵田佳奈
（13）リウマチ科	中岸保夫、水田麻雄
（14）小児外科	畠山理、横井暁子、久松千恵子、田村亮、村上紫津、冨岡雄一郎、中谷太一、福井慶介
（15）心臓血管外科	松久弘典、岩城隆馬、松島峻介、東田昭彦
（16）脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
（17）形成外科	小野田素大、井手恵里子
（18）整形外科	小林大介、衣笠真紀、森下雅之、北村仁美、有本章彦
（19）リハビリテーション科	坂田亮介
（20）泌尿器科	杉多良文、春名晶子、植松陸
（21）耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香
（22）眼科	野村耕治、河原佳奈
（23）精神科	関口典子、持田啓、玉岡文子
（24）小児歯科	曽根由美子
（25）産科	船越徹、平久進也、松本培世、荒井貴子、窪田詩乃、木原智子、長澤友紀
（26）放射線科	赤坂好宣、乗本周平、田原潤子
（27）麻酔科	香川哲郎、髙辻小枝子、大西広泰、池島典之、宮本義久、上嶋江利、末田グリンドロド彩、藤原孝志、田中康智、小西麻意、南遼平、上野真穂、山内佑允、林一恵、山本修弘
（28）病理診断科	吉田牧子
（29）フェロー	飯田智恵、柏坂舞、桝田千晶、酒井善紀、錦織朱、中田絢之（総合診療科） 山田茉美、小川碧、齊藤麗、南川洋平、森脇彩賀、西林優（救急科） 佐伯玲、長沢晋也、坂本康大（感染症内科） 西内徳子、松島愛香、後藤弘樹、春田真之介（新生児内科） 伊藤　立人、國澤久路（脳神経内科） 広田幸穂、稲瀬広樹、渡邊望、上原晴香（循環器内科） 金奏希、小倉愛由、池田茂生（腎臓内科） 西藤知城（代謝内分泌内科） 吉川なつこ、上島可奈子、髙橋知滉、松尾進、辻香菜、鳥井大輝（血液・腫瘍内科） 小川裕子、種岡飛翔、伊藤啓太、林谷俊和、原田晋二、三浦和樹、鈴木雅大、植田智希、岡田怜、前田未知可、石井邦哉、松井佑一郎（小児集中治療科） 長谷川智大（アレルギー科） 植松綾乃、吉村翔平、佐々木航（小児外科） 久保沙羅（心臓血管外科） 豊國秀昭、牧仁美（眼科） 久保田いろは（産科）
（30）専攻医	髙橋英里、上原和大、田中敦、原将輝、小田原洋一、和田のどか、元植彩乃、中野知貴、稲永優医、安富健人、佛坂智仁、山田祥仁、井上 遼太郎、山本修平、源吉駿、團野安純、山口純伶、高亜羅、上坂紗貴子、田中将之、平野裕樹、濱松勇輝、服部望、Hauser Noel Donald、萩永桃子、藤村尚輝、松尾麻紗子、相良百華

（3）外来診察スケジュール（2026.3.31現在）

曜日 / 科目		月 午前	月 午後	火 午前	火 午後	水 午前	水 午後	木 午前	木 午後	金 午前	金 午後
内科	救急総合診療	1.3.5週 ◎吉田 2.4週 ◎近藤	担当医	◎水田	担当医 在宅外来（三村） ◎担当医 川崎病フォロー	◎桝田	担当医 在宅外来 1.3.5水野 2.4山田	◎山田	担当医 在宅外来（芳本） ◎担当医 川崎病フォロー	◎冨岡（和）	担当医
内科	アレルギー		◎担当医	担当医	◎担当医		◎担当医		◎担当医	担当医	◎担当医
内科	リウマチ			中岸	◎水田	中岸	水田		◎桝田		
内科	感染症内科						◎笠井（正）				
内科	臨床遺伝科			◎森貞	◎森貞			◎森貞	◎森貞		
内科	神経	◎冨岡 末宗	丸山 伊藤		丸山 石田			◎石田 國澤		◎丸山 伊藤	
内科	神経							◎発達行動（関口） ◎発達行動（冨岡）			
内科	循環器	田中（敏）		◎田中（敏）	田中（敏）	城戸		◎城戸	城戸	◎小川	小川
内科	循環器	◎亀井	亀井	◎中井		◎三木	三木			◎久保	久保
内科	循環器特殊	城戸（思春期）	城戸（成人先天性）		小川（OD不整脈）			田中（カテーテル）	担当医（シナジス） 1.3.5週 三木 2.4週 小川 ペースメーカー		
内科	腎臓	◎貝藤	担当医	◎貝藤	◎貝藤	◎田中（亮）	担当医		担当医	◎貝藤	◎田中（亮）
内科	腎臓	◎金		◎金		◎田中（悠）					◎田中（悠）
内科	代謝内分泌		検査	◎池谷 森脇	池谷 森脇	◎西林 尾崎	西林 尾崎	◎西藤 森脇/池谷	西藤 森脇/池谷	◎尾﨑 西藤/西林	尾﨑/西藤/西林
内科	代謝内分泌		1.3週 坊								西藤 長期フォロー
内科	新生児				◎松井 三村		◎松島/◎西内 岩谷		◎芳本/◎武岡 生田		◎後藤/◎西牧
内科	血液・腫瘍	◎長谷川	中谷（尚）		◎長谷川 化学療法のみ	森 がんゲノム		◎石田	二野	◎森 齋藤 化学療法のみ	菊池 小阪
内科	血液・腫瘍	植村	神前								
内科	血液・腫瘍	神前（長期フォロー）									
外科	小児外科	◎福井	福井	◎村上	村上	◎中谷（太）	中谷（太）	◎久松	久松	◎横井	横井
外科	小児外科		横井	◎畠山	畠山	田村					
外科	ヘルニア外来	1.3.5週◎畠山 2.4週 ◎横井						1.3.5週◎村上 2.4週 ◎田村			
外科	特殊外来				在宅／担当医 ストマ／久松						
外科	心臓	◎松久 松島 東田	◎松久 松島 東田			◎松久 松島 東田	◎松久 松島 東田			◎松久 松島 東田	◎松久 松島 東田
外科	脳神経	◎小山	小山			◎阿久津 担当医	◎阿久津 担当医			◎河村	◎河村
外科	脳神経	◎頭の形外来									二分脊椎
外科	形成			◎担当医 言語療法				◎担当医 言語療法			
外科	整形		◎小林	◎小林	◎有本	◎坂田				◎衣笠	二分脊椎
外科	整形		◎坂田	◎森下	◎衣笠 2週側弯外来	◎森下				◎有本	
放射線治療科			出水						朴		
眼科		◎野村 豊国			コンタクト外来	◎野村 柳沢 豊国	検査	◎野村 豊国	検査		
泌尿器科		担当医		◎杉多 ◎春名 ◎植松 高	検査	◎担当医			検査	◎春名（杉多） ◎植松 高	二分脊椎
耳鼻咽喉科		大津	大津	勝沼 担当医	◎担当医			◎大津	◎大津	完全予約制	完全予約制
耳鼻咽喉科		1週.3週 補聴器		3週.4週 補聴器							
耳鼻咽喉科		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚	
歯科		◎曽根	曽根	◎曽根				◎曽根	曽根	1.3.5週 曽根	
精神科		関口	◎関口	玉岡	◎玉岡	◎持田	持田	長谷川	関口	◎関口	関口
精神科		◎持田	持田			玉岡	◎玉岡	持田	◎持田	玉岡	◎玉岡
ADHD外来				前田	前田						
産科		◎船越 窪田	超音波検査	◎荒井 平久/木原	超音波外来	◎平久 松本	超音波検査	◎松本 荒井	超音波外来	◎窪田 木原/平久	超音波検査

＊急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。　◎印は新患担当医となります。

兵庫県立こども病院　〒650-0047　神戸市中央区港島南町1-6-7
代表　TEL 078-945-7300
予約センター直通　TEL 078-945-7329　（平日　9時～16時まで再診、9時～17時まで初診）
予約センター直通　FAX 078-945-7330　（24時間対応　初診のみ）

4．職　　員

（1）職種別人員表（2026.3.31現在）

職種別		現員［人］
事務職		15
技術職	医師・歯科医師	113（1）
	薬剤師	20
	診療放射線技師	13（1）
	臨床検査技師	19（1）
	栄養士	6
	看護師	612（11）
	視能訓練士	4
	心理判定員	3（1）
	精神保健福祉士	1
	医療福祉相談員	4
	保育士	4
	言語聴覚士	4
	臨床工学技士	11
	理学療法士	5
	作業療法士	1
	遺伝カウンセラー	1
	小計	845（16）
技能労務職	調理員	7
合計		853（16）

注1　「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。
　2　（　）外書きは、臨時的任用職員

５．近畿厚生局長への届出に関する事項（令和８年３月31日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【初診料の施設基準】
医療ＤＸ推進体制整備加算　（医療ＤＸ）第4330号
【入院基本料等の施設基準】
一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)　（一般入院）第1099号
【入院基本料等加算の施設基準】
救急医療管理加算　（救急医療）第125号
診療録管理体制加算3　（診療録3）第255号
医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)　（事補1）第188号
急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上)
(※夜間30対1、夜間看護体制加算、看護補助体制充実加算1)　（急性看補）第194号
療養環境加算　（療）第183号
無菌治療室管理加算1　（無菌1）第26号
緩和ケア診療加算　（緩診）第29号
小児緩和ケア診療加算　（小緩診）第1号
医療安全対策加算1(※医療安全対策地域連携加算1)　（医療安全）第515号
感染対策向上加算1(※指導強化加算、抗菌薬適正使用体制加算)　（感染対策1）第54号
患者サポート体制充実加算　（患サポ）第238号
重症患者初期支援充実加算　（重症初期）第26号
褥そうハイリスク患者ケア加算　（褥瘡ケア）第54号
ハイリスク妊娠管理加算　（ハイ妊娠）第116号
ハイリスク分娩管理加算　（ハイ分娩）第68号
術後疼痛管理チーム加算　（術後疼痛）第21号
病棟薬剤業務実施加算1　（病棟薬1）第226号
病棟薬剤業務実施加算2　（病棟薬2）第31号
データ提出加算2　（データ提）第180号
入退院支援加算1(※入院時支援加算1、2)　（入退支）第259号
入退院支援加算3(※入院時支援加算1、2)　（入退支）第259号
せん妄ハイリスク患者ケア加算　（せハイ）第121号
精神疾患診療体制加算　（精疾診）第34号
地域医療体制確保加算　（地医確保）第47号
【特定入院料の施設基準】
小児特定集中治療室管理料(※早期離床・リハビリテーション加算)　（小集）第1号
総合周産期特定集中治療室管理料(※成育連携支援加算)　（周）第7号
小児入院医療管理料1(※プレイルーム加算(保育士1名、2名)、無菌治療室加算、養育支援体制加算)　（小入1）第8号
食事療養費1(※食堂加算)　（食）第119147号
【医学管理等】
心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)　（遠隔ペ）第39号
がん性疼痛緩和指導管理料　（がん疼）第429号
がん患者指導管理料イ　（がん指イ）第69号
がん患者指導管理料ロ　（がん指ロ）第55号
外来緩和ケア管理料　（外緩）第19号
移植後患者指導管理料(臓器移植後)　（移植管臓）第10号
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)　（移植管造）第10号
小児運動器疾患指導管理料　（小運指管）第91号
乳腺炎重症化予防・ケア指導料　（乳腺ケア）第37号
慢性腎臓病透析予防指導管理料　（腎防管）第61号
院内トリアージ実施料　（トリ）第75号
外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算、がん薬物療法体制充実加算)　（外化診1）第74号
開放型病院共同指導料　（開）第72号
ハイリスク妊産婦連携指導料1　（ハイ妊連1）第27号
ハイリスク妊産婦連携指導料2　（ハイ妊連2）第11号
薬剤管理指導料　（薬）第485号
医療機器安全管理料1　（機安1）第170号
【在宅医療】
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料　（在洗腸）9号
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)　（持血測2）第11号
【検査】
遺伝学的検査　（遺伝検）第9号
骨髄微小残存病変量測定　（骨残測）第2号
がんゲノムプロファイリング検査　（がんプロ）第12号
先天性代謝異常症検査　（先代異）第8号
抗ＨＬＡ抗体(スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査)　（抗ＨＬＡ）第5号
ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)　（ＨＰＶ）第344号
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)　（ウ細多同）第4号
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)　（ウ細髄液）第9号
検体検査管理加算(Ⅳ)(※造血器腫瘍遺伝子検査)　（検Ⅳ）第51号
国際標準検査管理加算　（国標）第8号
遺伝カウンセリング加算　（遺伝カ）第6号
遺伝性腫瘍カウンセリング加算　（遺伝腫カ）第9号
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算　（血内）第32号
胎児心エコー法　（胎心エコ）第28号
ヘッドアップティルト試験　（ヘッド）第54号
脳波検査判断料1　（脳判）第3号
神経学的検査　（神経）第146号
補聴器適合検査　（補聴）第42号
小児食物アレルギー負荷検査　（小検）第94号
【画像診断】
画像診断管理加算2　（画2）第120号
CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満、3テスラ以上)　（※大腸ＣＴ撮影加算）　（Ｃ・Ｍ）第898号
冠動脈CT撮影加算　（冠動Ｃ）第80号
心臓MRI撮影加算　（心臓Ｍ）第64号
小児鎮静下MRI撮影加算　（小児Ｍ）第15号
【投薬】
抗悪性腫瘍剤処方管理加算　（抗悪処方）第64号
【注射】
外来化学療法加算1　（外化1）第145号
無菌製剤処理料　（菌）第520186号
【リハビリテーション】
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)　（心Ⅰ）第112号
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)〔※廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)〕　（脳Ⅱ）第475号
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)　（運Ⅰ）第356号
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)　（呼Ⅰ）第231号
障害児(者)リハビリテーション料　（障）第33号
がん患者リハビリテーション料　（がんリハ）第82号
集団コミュニケーション療法料　（集コ）第77号
【精神科専門療法】
児童思春期精神科専門管理加算　（児春専）第6号
児童思春期支援指導加算　（児春支）第8号
【処置】
ストーマ合併症加算　（スト合）第35号
【手術】
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算　（処骨）第3号
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)　（頭移）第5号
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術　（内脳腫）第7号
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(※植込型心電図検査)　（ペ）第211号
(※植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)　（大）第101号
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)　（膀形埋嚢）第8号
胎児胸腔・羊水腔シャント術　（胎羊）第2号
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術　（胃瘻造）第217号
輸血管理料Ⅰ　（輸血Ⅰ）第276号
コーディネート体制充実加算　（コ体充）第5号
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算　（造設前）第77号
凍結保存同種組織加算　（凍保組）第1号
【麻酔】
麻酔管理料(Ⅰ)　（麻管Ⅰ）第261号
麻酔管理料(Ⅱ)　（麻管Ⅱ）第24号
【放射線治療】
高エネルギー放射線治療　（高放）第90号
【病理診断】
病理診断管理加算1　（病理診1）第47号
悪性腫瘍病理組織標本加算　（悪病組）第29号
【その他】
看護職員処遇改善評価料106　（看処遇106）第1号
外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)　（外在ベ1）第740号
入院ベースアップ評価料144　（入ベ144）第1号
【歯科関係】
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)　（歯外在ベ1）第313号
歯科矯正診断料　（矯診）第164号

6．研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	◆［厚生労働省認定］ 厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設 ◆［専門医教育病院学会指定］ 日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医特殊修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系） 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設 日本集中治療医学会 集中治療専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 日本てんかん学会研修施設
姉妹提携・交流協定病院	シアトル小児病院（アメリカ合衆国） プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア） 中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）

7．委員会等一覧（2025年４月～2026年３月）

	委員会名	会長･委員長	庶務担当	2025開催回数	2025活動内容と結果
1	幹部会	飯島院長	総務	毎月 第２月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
	（１）運営協議会 （経営実施計画推進委員会）	飯島院長	総務	毎月 第４月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
	（２）保険診療対策委員会	杉多副院長	医事	12回 （毎月最終水曜日）	①減点内容の精査について、 ②保険診療対策ニュースについて
	①在宅医療部会	畠山家族支援･ 地域医療連携部長	医事	２回	①在宅医療の運用、②在宅医療機器、③在宅医療物品、に関すること。
2	医療安全管理委員会	中岸医療安全部長	医事	12回 （毎月第４月曜日）	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
	（１）セーフティー マネージメント部会	中岸医療安全部長	医療安全	12回	①各部門の毎月のインシデント発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価
	①身体的拘束最小化チーム	宮下集中治療科医長	医療安全	０回	
	（２）医療安全管理検証部会	田中副院長 （診療支援･医療安全担当）	医事	８回	①有害なインシデント原因の追及 ②再発防止策の策定
	（３）MET部会	中岸医療安全部長	医療安全	６回 （隔月第２火曜日）	①起動症例の検討とフィードバック
	（４）医療機器安全管理部会	中岸医療安全部長	医療安全	５回 （隔月第３木曜日）	①より安全に医療機器を管理し、効率的･計画的に機器の運用を図る
3	倫理委員会	杉多副院長 （診療担当）	総務	８回	詳細は別紙のとおり
	（１）臨床研究専門部会	貝藤部長 （医療情報担当）	総務	204回	204件の迅速臨床研究倫理審査を施行した
	（２）利益相反部会	森貞ゲノム 医療センター長	総務	０回	
	（３）臨床倫理コンサルテーションチーム	長井集中治療科医長	総務	５回	R7.12新設 ①ポスター等を用いた活動の院内周知 ②チームカンファレンスに加え、診療科･病棟･関係職種と連携した合同カンファレンスの実施
4	臓器提供に関する委員会	杉多副院長	総務	０回	
	（１）臓器提供院内コーディネート部会	青木集中治療科部長	総務	10回	臓器移植に係る院内シミュレーション･勉強会の実施 院内マニュアルの改訂
5	脳死判定委員会	小山脳神経外科部長	総務	０回	
6	こども安全(虐待防止) 委員会	関口精神科部長	地域	定例３回 事例発生時 49回	年間事例の報告 処遇検討
7	衛生委員会	田中副院長 （診療支援･医療安全担当）	総務	12回	職員の健康障害の防止対策等について審議 産業医とともに、毎月職場巡視を実施
8	防災対策委員会	田中副院長 （診療支援･医療安全担当）	総務	１回	R7.12、R8.3に防災訓練を実施 R8.3災害研修会を実施
9	医師及び看護師の負担等軽減推進委員会	飯島院長	総務	１回	R８年度の計画を審議
10	職務発明審査会	飯島院長	総務	０回	

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	2025開催回数	2025活動内容と結果
11	広報委員会	貝藤部長 (医療情報担当)	総務	7回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行(年3回) ②2024年報の発行 ③病院ホームページの更新
	(1)SNS部会	長谷川小児がん医療センター長兼診療部長	総務	0回	
12	研修教育委員会	中岸医療安全部長	総務	3回	①症例検討会、院内研修会の実施状況について ②各部会からの報告
	(1)臨床研修病院部会	中岸医療安全部長	総務	0回	
	(2)小児科専門医研修プログラム部会	濱田アレルギー内科医長	総務	毎月 第3木曜日	小児科専門医研修プログラムの企画・立案と実施の管理 小児科専攻医に対する指導と評価 見学説明会の開催など小児科専攻医のリクルート
13	図書委員会	貝藤部長 (医療情報担当)	経理	3回	2025年度の電子ジャーナル、購入図書の検討
14	省エネルギー推進委員会	飯島院長	経理	1回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
15	国際交流推進委員会	田中副院長 (診療支援・医療安全担当)	看護	0回	
16	患者サービス向上等推進委員会	細見総務部長	看護	6回	①ハートメッセージの検討 ②接遇研修の企画・評価 ③きょうだいルーム開催の検討 ④ボランティア活動支援(交通安全教室)
17	治験審査委員会	杉多副院長 (診療担当)	薬剤	6回	詳細は別紙のとおり
18	受託研究審査委員会	杉多副院長 (診療担当)	経理	12回	新規受託研究審査
19	共同研究審査委員会	杉多副院長 (診療担当)	総務	0回	
20	臨床研究支援室運営委員会	貝藤部長 (医療情報担当)	経理	3回	こども病院・理研ジョイントシンポジウム
	(1)生物統計部門	貝藤部長 (医療情報担当)	経理	0回	
21	医療の質向上委員会	香川副院長(医療連携・医療情報・感染対策担当)	医事	1回	医療の質に対して検討
22	診療材料委員会	長谷川小児がん医療センター長兼 診療部長	経理	4回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITSシステムデータに基づく診療材料変更提案の審議
23	医療用ガス安全管理委員会	高辻麻酔科部長	経理	1回	①医療用ガス設備に係る定期点検の報告 ②医療ガス安全講習会開催
24	情報システム管理委員会	貝藤部長 (医療情報担当)	医事	11回 (毎月第1火曜日)	①情報システムに関する要望についての審議と対応 ・ランサムウェア対策(NASバック)について ・電子カルテの設定変更について ・電子カルテ予備端末の確保 ②情報システムの運用状況、障害状況の確認 ③ヘルプデスク対応実績報告
25	診療記録等管理委員会	芳本周産期医療センター次長	医事	6回	①診療録監査について (1)質的監査の実施状況報告 (2)量的監査(入院診療計画書・退院サマリー不備件数)の報告 ②DPCコーディングに関する報告 ③災害時等における紙カルテの運用シミュレーション ④機能評価受審対応
26	院内感染対策委員会	笠井小児救命救急センター長兼感染対策部長	検査	毎月 第2金曜日 (11月以降第2月曜日)	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	2025開催回数	2025活動内容と結果
26	(1)感染対策チーム(ICT)	末田麻酔科医長	感染	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
	(2)抗菌薬適正使用 支援チーム(AST)	河原薬剤部次長	薬剤	毎月1回 チーム会議 月2回 コアメン バー会議 週1回 ケースカン ファレンス	①ケースカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング ②抗微生物薬適正使用に関する職員対象研修会を2回開催 ③第8回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会を開催 ④抗菌薬供給制限への対応 ⑤薬剤耐性菌対策の推進 ⑥AST業務手順書の改訂 ⑦術後感染予防抗菌薬の使用評価検討 ⑧小児におけるVCM-TDM2点採血の調査検討
27	外来運営委員会	田中副院長 (診療支援・医療安全担当)	医事	5回 (隔月第3月曜日)	①発達行動外来の新設について ②DtoPのオンライン診療について ③院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコールについて ④患者診察案内システムに関する質疑について
	(1)遠隔診療検討部会	田中副院長 (診療支援・医療安全担当)	医事	0回	活動なし
28	病棟運営委員会	奥看護部長	医事	5回 (隔月第3木曜日)	①病床利用状況の報告 ②夏休み期間中の病床運営検討 ③収支改善対策を考えた病床運用について
29	手術室運営委員会	松久部長 (手術調整担当)	看護	12回	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について ⑤手術室関連ヒヤリハット・インシデントの検討
30	集中治療室運営委員会	黒澤小児集中治療センター長	医事	12回 (毎月第3火曜日)	①病床運用状況について ②インシデント報告について
31	リハビリテーション 運営委員会	坂田リハビリテーション部長	リハ	1回	早期離床WG:PICUでのリハビリテーションラウンドの検討 早期リハビリテーションプログラムの改善点の検討 喀痰吸引WG:新任職員に対してナーシングスキルを使用した講習
32	薬事委員会	丸山小児救命救急センター次長	薬剤	3回	①医薬品の採用・中止の検討 ②医薬品の後発医薬品への切替えの検討 ③医薬品の製造中止または停止に伴う切り替えの検討 ④新規採用医薬品(5品目)、中止医薬品(8品目)、後発医薬品への切替え(7品目)
	(1)化学療法レジメン部会	河村小児がん医療センター次長	薬剤	4回	①新規化学療法レジメンの承認等 ②前部会以降に登録したレジメンの報告 ③連携充実加算、がん薬物療法体制充実加算取得に向けた薬剤師外来実施、研修会開催
33	放射線安全委員会	赤坂放射線部長	放射	1回	①診療放射線安全管理部会活動について ②放射線業務従事者管理状況について ③漏洩線量測定結果について
34	臨床検査委員会	田中副院長 (診療支援・医療安全担当)	検査	2回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望
35	栄養給食委員会	尾﨑栄養管理部長	栄養	2回	①院内約束食事基準の変更について ②嗜好調査の結果報告と検討 ③調乳・食事・食品の取り扱いマニュアルの改定 ④低出生体重児用ミルクの変更 ⑤宗教上の配慮が必要な患者の対応について検討
	(1)栄養サポートチーム(NST)部会	尾﨑栄養管理部長	栄養	2回	①血中アルブミン(トランスサイレチン)検査の外注化検討 ②NSTの今後のあり方と活動について検討

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	2025開催回数	2025活動内容と結果
36	輸血療法委員会	長谷川小児がん医療センター長兼診療部長	検査	隔月 第１水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③輸血療法マニュアル改定 ④輸血に関する諸問題の対応
37	褥瘡対策委員会	小野田形成外科部長	看護	11回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討
38	クリニカルパス委員会	齋藤血液・腫瘍内科部長	看護	10回	①クリニカルパスの作成・運用・管理 ②新規クリニカルパス承認・改訂 ③電子パス適応に関する運用決定・マニュアル改訂 ④クリニカルパス大会の開催・推進 ⑤クリニカルパス研修会
39	在宅推進委員会	丸山小児救命救急センター次長	地域	８回	①在宅療養支援に関する各システムの運用マニュアル検討・修正 ②地域医療機関との連携施設訪問・神戸市小児在宅医療研修会開催（１回/年 神戸市医師会と協同） ③地域医療者研修（７回）
40	呼吸療法委員会	香川副院長 （医療連携・医療情報・感染対策担当）	医事	11回 （毎月第３金曜日）	①呼吸ケアサポートチームからの活動（ラウンド・勉強会）報告について ②呼吸ケア部会からの活動（ヒヤリハット等）報告について
	（１）呼吸器ケアチーム	青木集中治療科部長	看護	10回	①院内マニュアル改訂 ②勉強会 ③患者ラウンド
41	小児がん医療センター運営委員会	長谷川小児がん医療センター長兼診療部長	医事	４回	①近畿ブロック小児がん診療病院連絡会/近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の案内・報告 ②第３期小児がん拠点病院認定について ③CAR-T細胞療法の症例報告 ④小児がんQIについて ⑤緩和ケア外来開設について ⑥近畿小児血液がん研究会準備状況について
	（１）アピアランスケア委員会	関口精神科部長	医事	４回	①相談症例の報告と相談 ②講演会について
	（２）免疫細胞療法部門会議	田中副院長 （診療支援・医療安全担当）	医事	５回 （定例３回・臨時２回）	①免疫細胞療法の実施状況 ②管理監督者照査
42	緩和ケア委員会	関口精神科部長	医事	３回	①緩和ケアチーム　チーム会議検討事項の報告 ②事例検討会の開催報告 ③緩和ケアマニュアルの改定について ④緩和ケア研修会開催について
43	総合周産期母子医療センター運営委員会	船越周産期医療センター長	医事	12回 （毎月第１月曜日）	①病床利用率等報告 ②周産期医療センター研修会について
	（１）アドバンス助産師部会	菊池産科・ MFICU看護師長	看護	11回	①病棟の助産業務の質の向上に向けた取り組みの検討 ②助産師相談外来の運営に関する協議 ③アドバンス助産師の質の担保に関する協議
	（２）成育連携チーム部会	杉友産科助産師	看護	12回	①プレネイタルビジットの症例に関する多職種での情報交換、協議 ②出生前介入の必要性の評価 ③介入症例の振り返り ④プレネイタルビジットの運営に関する協議
44	小児救命救急センター運営委員会	笠井小児救命救急センター長兼感染対策部長	医事	12回	①救急患者受入状況（応需率・患者動向等）報告 ②救急外来の整備検討 ③ヒヤリハット報告 ④年末年始等長期連休中の勤務体制検討
45	小児心臓センター運営委員会	田中副院長 （診療支援・医療安全担当）	医事	０回	活動なし

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	2025開催回数	2025活動内容と結果
46	予防接種センター 運営委員会	笠井小児救命救急 センター長兼 感染対策部長	医事	5回 （隔月第2 火曜日）	①予防接要注意者に対する接種件数報告 ②電話相談の実施状況報告 ③予防接種外来の運営状況報告 ④予防接種基礎講座の開催準備、結果報告
47	小児アレルギー疾患 センター運営委員会	濵田アレルギー内科 医長	医事	2回	①兵庫県アレルギー疾患医療連絡協議会について ②アレルギー疾患医療全国拠点病院連絡会議について
48	ゲノム医療センター 運営委員会	森貞ゲノム 医療センター長	医事	2回	①NIPT実施報告について ②ダウン症候群市民公開講座開催について
49	移行期医療対策委員会	畠山家族支援・ 地域医療連携部長	医事	0回	活動なし
50	地域医療支援病院委員会	（外部有識者）	総務	1回	地域医療連携実績等の報告
51	病院運営懇話会	（外部有識者）	総務	1回	運営状況等についての報告
52	ハラスメント防止委員会	高崎管理局長	総務	2回	
53	仕様策定委員会	飯島院長	経理	3回	医療機器購入の為の仕様条件を審議
54	職員ヘルスケア委員会	森貞ゲノム 医療センター長	総務	2回	①産業医及び臨床心理士（看護部）の活動報告 ②ヘルスケア通信の発行（年4回） ③長時間労働医師の面接指導の実施
55	病院DX委員会	香川副院長 （医療連携・医療情 報・感染対策担当）	医事	11回	病院DXの検討、導入、推進

各種委員会（別紙）

名　称	委員長	開催日時	場　所	出席者数	議　　題
倫理委員会	杉多 良文	5月14日　9:00～	3階総務前会議室	10	1 難治性乳び胸に対するオクトレオチド（ソマトスタチンアナログ製剤）の使用 2 オクトレオチド抵抗性の難治性乳び胸に対する OK432（ピシバニール®）による胸膜癒着療法
倫理委員会	杉多 良文	6月20日 17:10～	3階総務前会議室	8	1 ECMO の停止について
倫理委員会	杉多 良文	7月9日　9:00～	3階総務前会議室	12	1 半月体形成性糸球体腎炎に対するミコフェノール酸モフェチルの適応外使用 2 難治性横紋筋肉腫に対するビノレルビン / シクロフォスファミド化学療法
倫理委員会	杉多 良文	8月13日　9:00～	3階総務前会議室	12	1 ECHS1 欠損症に対するバリン制限食 2 難治性乳び胸に対するエチレフリンの適応外使用について 3 難治性乳び胸に対するミドドリン塩酸塩の適応外使用について 4 国内外の医療機関の臨床データに関する共同研究基盤への参画
倫理委員会	杉多 良文	10月8日　9:00～	3階総務前会議室	11	1 経静脈栄養関連胆汁うっ滞性障害に対する Omegaven®後用 2 難治性乳び胸に対するエチレフリン持続静注 3 ゲムシタビン・オキサリプラチンの適応外使用 4 重症心身障害児などにおける口腔内分泌物増加に対するスコポラミン軟膏
倫理委員会	杉多 良文	11月12日　9:00～	3階総務前会議室	11	1 難治性乳糜胸に対するミドドリン内服 2 再発・難治横紋筋肉腫に対するビンクリスチン / イリノテカン / テモゾロミド化学療法 3 再発・難治横紋筋肉腫に対するビンクリスチン / イリノテカン / テモゾロミド化学療法 4 難治性特発性血小板減少性紫斑病（免疫性血小板減少性紫斑病）に対するリツキシマブ治療 5 難治性特発性血小板減少性紫斑病（免疫性血小板減少性紫斑病）に対するエルトロンボパグ内服治療
倫理委員会	杉多 良文	1月15日　9:00～	3階総務前会議室	12	1 小児気管狭窄に対する PTA バルーン使用（緊急避難・治療目的）について 2 難治性特発性血小板減少性紫斑病（免疫性血小板減少性紫斑病）に対するロミプロスチム投与
倫理委員会	杉多 良文	3月11日　9:00～	3階総務前会議室	12	1 デスモイド腫瘍に対するビンブラスチン＋メソトレキセート療法 2 血糖マネジメント不良な Prader-Willi 症候群・2 型糖尿病・肥満症の小児に対するエンパグリフロジン・セマグルチドを用いた治療 3 気管支喘息大発作に対する吸入麻酔薬の投与について 4 難治性特発性血小板減少性紫斑病（免疫性血小板減少性紫斑病）に対するアバトロンボパグ内服 5 喉頭気管食道裂患児における全身麻酔時の尿道バルーン使用 6 びまん性肺胞出血に対する第Ⅶ因子製剤の局所吸入・気管支内投与 7 研究活動の逸脱行為等への対応について
治験審査委員会	杉多 良文	4月18日	総務部前会議室	9	現在進行中の治験 9 課題の継続について審議した。また、1 課題の終了、小児治験ネットワークの中央 IRB 審議について報告した。当院の治験に係る経費について、臨床試験研究経費ポイント算出表、治験薬等管理経費ポイント算出表、受託研究経費算定用紙を改訂し、ホームページに掲載した。
治験審査委員会	杉多 良文	6月20日	総務部前会議室	9	RBM-007（オリゴヌクレオチド）の長期投与試験の実施の適否、現在進行中の治験 7 課題の継続について審議した。また、1 課題の終了、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構、聖マリアンナ医科大学附属病院の中央 IRB 審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	8月15日	総務部前会議室	11	現在進行中の治験 8 課題の継続について審議した。また、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構、聖マリアンナ医科大学附属病院の中央 IRB 審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	10月17日	総務部前会議室	10	現在進行中の治験 8 課題の継続について審議した。また、2 課題の終了、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構、聖マリアンナ医科大学附属病院の中央 IRB 審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	12月19日	総務部前会議室	8	ONO-4538（ニボルマブ）の第Ⅱ相試験、MK-3475（ペムブロリズマブ）の第Ⅰ／Ⅱ相試験、NPC-33（ナキシタマブ）の第Ⅰ相試験、IPN60310（トボラフェニブ）の第Ⅰ相試験の実施の適否、現在進行中の治験 6 課題の継続について審議した。また、1 課題の終了、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構、聖マリアンナ医科大学附属病院の中央 IRB 審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	2月20日	総務部前会議室	10	現在進行中の治験 10 課題の継続について審議した。また、1 課題の迅速審査、1 課題の中止、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構、聖マリアンナ医科大学附属病院の中央 IRB 審議について報告した。モニターおよび監査担当者による直接閲覧時における「電子カルテ閲覧等に係る誓約書」の提出先について、治験審査委員会委員長宛から院長宛に変更することが了承された。

Ⅱ　医事経理関係

第１節　患者数統計

１．総　　括

（１）年度別　患者統計

区　　分				３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
外来	a	診療日数	日	242	243	243	243	242
	b	新患者数	人	14,085	15,443	15,895	15,022	13,471
	c	一日平均新患者数	人	58.2	63.6	65.4	61.8	55.7
	d	延患者数	人	110,330	111,753	110,708	108,193	105,483
	e	一日平均延患者数	人	455.9	459.9	455.6	445.2	435.9
	f	平均通院日数	日	7.8	7.2	7.0	7.2	7.8
入院	g	稼働日数	日	365	365	366	365	365
	h	稼動病床数	床	282	282	290	290	290
	I	入院患者数	人	6,704	6,638	7,445	7,399	7,536
	j	一日平均入院患者数	人	18.4	18.2	20.3	20.3	20.6
	k	退院患者数	人	6,689	6,647	7,435	7,400	7,519
	l	一日平均退院患者数	人	18.3	18.2	20.3	20.3	20.6
	m	延入院患者数	人	80,935	82,809	88,699	83,965	84,977
	n	一日平均延患者数	人	221.7	226.9	242.3	230.0	232.8
	o	病床利用率	%	78.6	80.5	83.8	79.3	80.3
	p	病床回転数	回	23.7	23.6	25.7	25.5	26.0
	r	日帰入院患者数	人	560	496	517	537	537
	s	ＮＩＣＵ・ＧＣＵ入院患者数	人	935	867	891	810	775
	t	平均在院日数	日	11.1	11.5	10.9	10.3	10.3
	u	外来入院比率	%	136.3	135.0	124.8	128.9	124.1
	v	入院率	%	47.6	43.0	46.8	49.3	55.9
計算式	f　平均通院日数 = d/b o　病床利用率 = (m/(h×g)×100 p　病床回転率 = ((I+k)/2)/h t　平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2) u　外来入院比率 = (d/m)×100 v　入院率 = (I/b)×100							

（2）月別　患者統計

令和７年度

区分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外来	a	診療日数	日	21	20	21	22	20	20	22	18	20	19	18	21	242
	b	新患者数	人	1,044	1,184	1,116	1,218	1,152	1,142	1,116	1,217	1,078	1,125	981	1,098	13,471
	c	一日平均新患者数	人	49.7	59.2	53.1	55.4	57.6	57.1	50.7	67.6	53.9	59.2	54.5	52.3	55.7
	d	延患者数	人	8,707	8,288	8,428	9,526	9,854	8,746	8,783	7,800	8,968	8,584	7,763	10,036	105,483
	e	一日平均延患者数	人	414.6	414.4	401.3	433.0	492.7	437.3	399.2	433.3	448.4	451.8	431.3	477.9	435.9
	f	平均通院日数	日	8.3	7.0	7.6	7.8	8.6	7.7	7.9	6.4	8.3	7.6	7.9	9.1	7.8
入院	g	稼働日数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼動病床数	床	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	3,480
	I	入院患者数	人	546	604	619	670	623	638	655	593	634	657	591	706	7,536
	j	一日平均入院患者数	人	18.2	19.5	20.6	21.6	20.1	21.3	21.1	19.8	20.5	21.2	21.1	22.8	20.6
	k	退院患者数	人	556	595	630	633	664	622	661	599	657	638	588	676	7,519
	l	一日平均退院患者数	人	18.5	19.2	21.0	20.4	21.4	20.7	21.3	20.0	21.2	20.6	21.0	21.8	20.6
	m	延入院患者数	人	6,683	7,272	7,125	7,268	7,157	6,873	7,085	7,047	7,379	7,070	6,576	7,442	84,977
	n	一日平均延患者数	人	222.8	234.6	237.5	234.5	230.9	229.1	228.5	234.9	238.0	228.1	234.9	240.1	232.8
	o	病床利用率	%	76.8	80.9	81.9	80.8	79.6	79.0	78.8	81.0	82.1	78.6	81.0	82.8	80.3
	p	病床回転数	回	1.9	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.1	2.2	2.2	2.0	2.4	2.2
	r	日帰入院患者数	人	49	32	34	55	63	40	49	36	49	41	37	52	537
	s	ＮＩＣＵ・ＧＣＵ入院患者数	人	40	75	61	92	67	61	59	61	66	63	49	81	775
	t	平均在院日数	日	11.1	11.1	10.4	10.2	10.1	9.9	9.8	10.8	10.4	9.9	10.2	9.8	10.3
	u	外来入院比率	%	130.3	114.0	118.3	131.1	137.7	127.3	124.0	110.7	121.5	121.4	118.1	134.9	124.1
	v	入院率	%	52.3	51.0	55.5	55.0	54.1	55.9	58.7	48.7	58.8	58.4	60.2	64.3	55.9

計算式

f　平均通院日数 = d/b
o　病床利用率 = (m/(h×g)×100
p　病床回転率 = ((I+k)/2)/h
t　平均在院日数 = (m−k)/((I+k)/2)
u　外来入院比率 = (d/m)×100
v　入院率 = (I/b)×100

2．月別科別外来患者数

令和７年度

科　名	区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	36	43	42	40	45	42	48	30	38	34	29	39	466
	再来患者数	894	712	715	818	977	846	762	635	822	710	709	980	9,580
	延患者数	930	755	757	858	1,022	888	810	665	860	744	738	1,019	10,046
腎臓内科	新患者数	10	7	11	16	15	9	6	7	6	9	6	7	109
	再来患者数	226	234	239	283	356	270	281	239	269	248	245	368	3,258
	延患者数	236	241	250	299	371	279	287	246	275	257	251	375	3,367
神経内科	新患者数	15	16	6	11	12	15	15	12	13	11	16	16	158
	再来患者数	446	395	422	405	434	404	426	367	471	406	383	506	5,065
	延患者数	461	411	428	416	446	419	441	379	484	417	399	522	5,223
血液内科	新患者数	14	3	6	7	10	16	10	11	6	9	4	10	106
	再来患者数	409	414	419	465	588	437	421	344	450	384	392	521	5,244
	延患者数	423	417	425	472	598	453	431	355	456	393	396	531	5,350
代謝・内分泌内科	新患者数	24	45	32	40	27	24	26	25	15	23	26	21	328
	再来患者数	692	685	655	811	769	717	739	691	745	788	727	797	8,816
	延患者数	716	730	687	851	796	741	765	716	760	811	753	818	9,144
新生児内科	新患者数	2	1	0	3	1	2	3	5	0	0	3	0	20
	再来患者数	184	162	133	177	160	162	183	141	146	157	141	167	1,913
	延患者数	186	163	133	180	161	164	186	146	146	157	144	167	1,933
心臓血管外科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	66	68	56	85	80	77	67	49	61	63	54	71	797
	延患者数	66	68	56	85	80	77	67	49	61	63	54	71	797
脳神経外科	新患者数	57	58	60	69	48	68	59	47	63	53	51	46	679
	再来患者数	366	315	257	352	403	321	289	175	301	267	247	359	3,652
	延患者数	423	373	317	421	451	389	348	222	364	320	298	405	4,331
小児外科	新患者数	32	31	24	33	38	23	36	26	28	24	24	24	343
	再来患者数	422	373	355	458	513	391	381	363	449	403	342	504	4,954
	延患者数	454	404	379	491	551	414	417	389	477	427	366	528	5,297
整形外科	新患者数	106	75	82	89	86	78	93	110	121	118	76	98	1,132
	再来患者数	719	508	586	706	744	650	654	524	657	613	460	762	7,583
	延患者数	825	583	668	795	830	728	747	634	778	731	536	860	8,715
形成外科	新患者数	18	37	39	38	29	37	31	33	30	28	34	34	388
	再来患者数	266	258	298	345	335	293	295	245	282	302	253	354	3,526
	延患者数	284	295	337	383	364	330	326	278	312	330	287	388	3,914
精神科	新患者数	13	15	12	12	13	11	15	14	15	12	14	13	159
	再来患者数	339	342	335	358	342	360	398	315	374	361	327	409	4,260
	延患者数	352	357	347	370	355	371	413	329	389	373	341	422	4,419
アレルギー内科	新患者数	18	17	16	12	10	12	12	17	8	7	10	12	151
	再来患者数	346	316	344	376	386	306	366	313	384	354	326	439	4,256
	延患者数	364	333	360	388	396	318	378	330	392	361	336	451	4,407
リウマチ科	新患者数	3	4	3	3	4	2	5	2	3	2	5	7	43
	再来患者数	120	97	96	132	136	90	111	99	123	130	101	135	1,370
	延患者数	123	101	99	135	140	92	116	101	126	132	106	142	1,413

科　名	区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新患者数	2	0	1	3	2	2	0	0	0	1	1	2	14
	再来患者数	16	9	4	9	16	7	6	15	12	17	15	16	142
	延患者数	18	9	5	12	18	9	6	15	12	18	16	18	156
臨床遺伝科	新患者数	9	6	8	3	3	5	11	6	4	14	0	15	84
	再来患者数	115	111	116	124	102	106	105	89	106	102	100	128	1,304
	延患者数	124	117	124	127	105	111	116	95	110	116	100	143	1,388
泌尿器科	新患者数	61	60	50	71	65	49	59	54	38	42	47	58	654
	再来患者数	377	340	366	399	400	372	364	298	376	349	282	406	4,329
	延患者数	438	400	416	470	465	421	423	352	414	391	329	464	4,983
産　科	新患者数	34	24	22	34	15	17	28	21	16	25	22	19	277
	再来患者数	266	289	327	317	256	259	258	210	229	230	215	241	3,097
	延患者数	300	313	349	351	271	276	286	231	245	255	237	260	3,374
眼　科	新患者数	48	39	38	48	37	45	43	37	30	39	27	39	470
	再来患者数	617	578	606	650	660	601	622	519	630	584	542	727	7,336
	延患者数	665	617	644	698	697	646	665	556	660	623	569	766	7,806
耳鼻咽喉科	新患者数	5	22	24	46	35	19	17	24	22	25	28	21	288
	再来患者数	195	243	293	329	343	248	295	243	333	326	286	383	3,517
	延患者数	200	265	317	375	378	267	312	267	355	351	314	404	3,805
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	延患者数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
麻　酔　科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	26	32	29	33	33	20	31	16	24	18	27	38	327
	延患者数	26	32	29	33	33	20	31	16	24	18	27	38	327
総合診療科	新患者数	16	25	17	26	17	19	9	11	14	14	5	15	188
	再来患者数	199	206	219	265	249	258	215	206	224	222	199	243	2,705
	延患者数	215	231	236	291	266	277	224	217	238	236	204	258	2,893
救　急　科	新患者数	468	578	530	544	582	550	501	658	532	547	476	528	6,494
	再来患者数	314	374	375	348	381	351	336	424	366	384	333	323	4,309
	延患者数	782	952	905	892	963	901	837	1,082	898	931	809	851	10,803
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯　科	新患者数	53	78	93	70	58	97	89	67	76	88	77	74	920
	再来患者数	43	42	67	63	39	58	62	62	56	41	76	61	670
	延患者数	96	120	160	133	97	155	151	129	132	129	153	135	1,590
合　計	新患者数	1,044	1,184	1,116	1,218	1,152	1,142	1,116	1,217	1,078	1,125	981	1,098	13,471
	再来患者数	7,663	7,104	7,312	8,308	8,702	7,604	7,667	6,583	7,890	7,459	6,782	8,938	92,012
	延患者数	8,707	8,288	8,428	9,526	9,854	8,746	8,783	7,800	8,968	8,584	7,763	10,036	105,483

3．月別科別入院患者数

令和７年度

科　名	区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	43	38	35	29	35	34	42	33	35	40	26	49	439
	退院患者数	51	43	48	33	41	40	51	41	41	42	33	54	518
	延患者数	693	669	566	619	523	509	542	475	513	441	370	531	6,451
腎臓内科	新規入院患者数	2	4	3	10	7	8	11	5	12	9	6	13	90
	退院患者数	3	3	9	10	11	7	13	9	11	8	12	11	107
	延患者数	92	110	174	143	130	140	178	81	147	136	160	155	1,646
神経内科	新規入院患者数	17	20	23	25	20	16	22	22	33	32	29	30	289
	退院患者数	27	32	27	37	26	19	30	33	38	37	40	40	386
	延患者数	191	187	191	251	185	159	212	192	210	220	238	235	2,471
血液内科	新規入院患者数	96	102	108	90	82	100	100	76	95	100	86	90	1,125
	退院患者数	93	109	120	82	85	98	96	85	103	98	75	92	1,136
	延患者数	1,516	1,512	1,178	1,093	1,298	1,375	1,452	1,381	1,443	1,326	1,333	1,550	16,457
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	14	17	14	16	17	11	15	14	13	12	15	15	173
	退院患者数	14	19	17	17	19	12	15	17	17	16	16	15	194
	延患者数	108	120	113	84	99	107	101	140	129	88	66	77	1,232
新生児内科	新規入院患者数	20	37	35	46	34	31	30	31	33	31	26	42	396
	退院患者数	25	26	27	29	41	25	21	25	36	28	27	30	340
	延患者数	896	1,018	1,207	1,309	1,342	1,118	1,273	1,336	1,268	1,201	974	1,024	13,966
心臓血管外科	新規入院患者数	10	8	12	15	19	6	5	10	8	16	12	13	134
	退院患者数	8	9	11	8	19	12	5	8	10	11	13	18	132
	延患者数	77	92	102	140	166	82	36	81	141	100	147	153	1,317
脳神経外科	新規入院患者数	7	8	10	9	9	13	31	29	23	22	22	32	215
	退院患者数	12	12	7	11	13	14	32	29	25	25	24	29	233
	延患者数	179	89	69	105	116	82	132	105	141	149	131	99	1,397
小児外科	新規入院患者数	35	29	51	52	58	42	43	39	36	40	35	55	515
	退院患者数	39	31	49	50	57	46	44	36	38	40	38	47	515
	延患者数	404	368	499	524	467	349	344	325	434	479	414	483	5,090
整形外科	新規入院患者数	38	26	27	30	33	28	36	24	33	23	22	26	346
	退院患者数	29	31	33	32	40	25	39	23	39	23	18	33	365
	延患者数	241	443	368	310	327	269	306	302	411	237	301	324	3,839
形成外科	新規入院患者数	12	20	22	24	27	29	20	21	19	31	19	27	271
	退院患者数	15	21	22	20	33	26	23	23	20	29	20	25	277
	延患者数	52	97	95	126	190	156	101	94	104	132	93	107	1,347
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	56	53	56	65	63	49	60	44	52	55	46	65	664
	退院患者数	56	53	56	65	63	49	60	44	52	55	46	65	664
	延患者数	56	55	57	74	68	52	63	55	56	62	46	69	713
リウマチ科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	2	0	3	4	1	0	10
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	1	1	3	3	2	1	11
	延患者数	0	0	0	0	0	0	3	1	10	20	17	7	58

科　名	区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	19	22	16	20	22	22	19	15	23	20	16	24	238
	退院患者数	18	22	17	19	23	20	22	14	25	18	17	25	240
	延患者数	71	89	76	87	106	101	107	81	98	83	71	110	1,080
産　科	新規入院患者数	22	21	27	34	23	33	32	17	23	20	18	22	292
	退院患者数	17	24	34	29	28	22	37	20	17	27	14	16	285
	延患者数	549	592	548	543	339	480	548	457	497	500	418	639	6,110
眼　科	新規入院患者数	15	25	28	30	24	19	27	20	24	27	28	26	293
	退院患者数	18	23	26	30	26	21	23	20	28	24	28	26	293
	延患者数	69	90	109	114	110	77	93	83	98	102	108	104	1,157
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	3	8	8	17	15	10	12	15	12	9	7	11	127
	退院患者数	4	8	4	18	18	10	8	17	17	9	7	9	129
	延患者数	13	36	46	112	89	54	50	105	95	38	38	56	732
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	115	147	115	130	114	165	132	149	129	138	146	141	1,621
	退院患者数	119	124	114	133	110	170	132	146	130	139	151	133	1,601
	延患者数	910	1,060	1,118	1,004	1,011	1,223	1,116	1,215	960	1,110	1,064	1,066	12,857
救急科	新規入院患者数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小児集中治療科	新規入院患者数	22	19	28	28	21	22	16	29	28	28	31	25	297
	退院患者数	8	5	9	10	11	6	9	8	7	6	7	7	93
	延患者数	566	645	608	630	591	540	428	538	624	646	587	653	7,056
歯　科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	新規入院患者数	546	604	619	670	623	638	655	593	634	657	591	706	7,536
	退院患者数	556	595	630	633	664	622	661	599	657	638	588	676	7,519
	延患者数	6,683	7,272	7,125	7,268	7,157	6,873	7,085	7,047	7,379	7,070	6,576	7,442	84,977

4．年度別科別外来患者数

令和７年度

科　名	区　分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
循環器内科	新患者数	533	573	557	506	466
	再来患者数	10,365	10,485	10,102	9,897	9,580
	延患者数	10,898	11,058	10,659	10,403	10,046
腎臓内科	新患者数	166	155	138	107	109
	再来患者数	3,054	3,137	3,194	3,192	3,258
	延患者数	3,220	3,292	3,332	3,299	3,367
神経内科	新患者数	165	160	179	152	158
	再来患者数	4,403	4,161	4,522	4,920	5,065
	延患者数	4,568	4,321	4,701	5,072	5,223
血液内科	新患者数	74	64	102	63	106
	再来患者数	5,361	5,135	5,282	5,285	5,244
	延患者数	5,435	5,199	5,384	5,348	5,350
代謝・内分泌内科	新患者数	338	278	291	300	328
	再来患者数	7,587	7,993	8,260	8,361	8,816
	延患者数	7,925	8,271	8,551	8,661	9,144
新生児内科	新患者数	14	15	23	19	20
	再来患者数	2,043	1,936	1,972	2,107	1,913
	延患者数	2,057	1,951	1,995	2,126	1,933
心臓血管外科	新患者数	0	3	1	1	0
	再来患者数	1,200	1,138	985	930	797
	延患者数	1,200	1,141	986	931	797
脳神経外科	新患者数	643	623	601	680	679
	再来患者数	4,258	4,208	3,883	3,936	3,652
	延患者数	4,901	4,831	4,484	4,616	4,331
小児外科	新患者数	462	381	400	420	343
	再来患者数	5,086	5,278	5,162	5,220	4,954
	延患者数	5,548	5,659	5,562	5,640	5,297
整形外科	新患者数	914	1,190	1,272	1,283	1,132
	再来患者数	7,439	7,578	7,624	7,412	7,583
	延患者数	8,353	8,768	8,896	8,695	8,715
形成外科	新患者数	423	400	433	422	388
	再来患者数	3,430	3,680	3,591	3,478	3,526
	延患者数	3,853	4,080	4,024	3,900	3,914
精神科	新患者数	208	187	192	147	159
	再来患者数	4,495	4,305	4,360	4,254	4,260
	延患者数	4,703	4,492	4,552	4,401	4,419
アレルギー内科	新患者数	174	137	134	164	151
	再来患者数	4,783	4,905	4,248	4,036	4,256
	延患者数	4,957	5,042	4,382	4,200	4,407
リウマチ科	新患者数	40	41	38	38	43
	再来患者数	1,148	1,265	1,335	1,297	1,370
	延患者数	1,188	1,306	1,373	1,335	1,413

科　名	区　分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
感染症内科	新患者数	7	12	5	6	14
	再来患者数	75	55	50	40	142
	延患者数	82	67	55	46	156
臨床遺伝科	新患者数	80	84	124	96	84
	再来患者数	1,066	1,011	1,119	1,197	1,304
	延患者数	1,146	1,095	1,243	1,293	1,388
泌尿器科	新患者数	672	650	646	609	654
	再来患者数	5,055	5,117	4,717	4,413	4,329
	延患者数	5,727	5,767	5,363	5,022	4,983
産科	新患者数	212	262	303	259	277
	再来患者数	3,604	3,302	3,456	3,040	3,097
	延患者数	3,816	3,564	3,759	3,299	3,374
眼科	新患者数	529	510	531	512	470
	再来患者数	8,055	8,414	7,465	7,414	7,336
	延患者数	8,584	8,924	7,996	7,926	7,806
耳鼻咽喉科	新患者数	421	411	463	405	288
	再来患者数	4,325	4,363	4,389	4,172	3,517
	延患者数	4,746	4,774	4,852	4,577	3,805
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	1	12	1	0	0
	延患者数	1	12	1	0	0
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	1	0	0	0	2
	延患者数	1	0	0	0	2
麻酔科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	618	424	291	433	327
	延患者数	618	424	291	433	327
総合診療科	新患者数	255	226	194	218	188
	再来患者数	3,309	3,113	3,196	2,694	2,705
	延患者数	3,564	3,339	3,390	2,912	2,893
救急科	新患者数	6,793	8,070	8,294	7,663	6,494
	再来患者数	4,143	4,423	4,761	4,886	4,309
	延患者数	10,936	12,493	13,055	12,549	10,803
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	1	0
	再来患者数	0	0	1	0	0
	延患者数	0	0	1	1	0
歯科	新患者数	962	1,011	974	951	920
	再来患者数	1,341	872	847	557	670
	延患者数	2,303	1,883	1,821	1,508	1,590
合計	新患者数	14,085	15,443	15,895	15,022	13,471
	再来患者数	96,245	96,310	94,813	93,171	92,012
	延患者数	110,330	111,753	110,708	108,193	105,483

5．年度別科別入院患者数

令和７年度

科　名	区　分	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
循環器内科	新規入院患者数	417	457	466	469	439
	退院患者数	467	526	541	570	518
	延患者数	6,011	7,032	7,111	7,181	6,451
腎臓内科	新規入院患者数	72	91	96	86	90
	退院患者数	84	105	110	101	107
	延患者数	1,482	1,612	1,401	1,571	1,646
神経内科	新規入院患者数	122	130	203	235	289
	退院患者数	174	203	293	319	386
	延患者数	2,127	2,324	2,281	2,997	2,471
血液内科	新規入院患者数	1,141	960	1,192	1,221	1,125
	退院患者数	1,150	978	1,218	1,234	1,136
	延患者数	17,466	15,521	18,001	16,974	16,457
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	89	73	147	184	173
	退院患者数	99	84	163	201	194
	延患者数	554	611	993	982	1,232
新生児内科	新規入院患者数	488	440	468	435	396
	退院患者数	415	374	399	393	340
	延患者数	14,042	13,677	14,972	13,056	13,966
心臓血管外科	新規入院患者数	125	151	139	141	134
	退院患者数	140	154	142	136	132
	延患者数	1,739	1,862	1,668	1,600	1,317
脳神経外科	新規入院患者数	136	139	140	107	215
	退院患者数	157	170	158	122	233
	延患者数	1,219	1,762	1,385	1,273	1,397
小児外科	新規入院患者数	557	512	573	567	515
	退院患者数	573	539	589	592	515
	延患者数	4,980	5,954	6,740	5,533	5,090
整形外科	新規入院患者数	294	346	322	328	346
	退院患者数	328	358	332	338	365
	延患者数	3,339	3,346	3,029	3,307	3,839
形成外科	新規入院患者数	267	281	286	292	271
	退院患者数	282	294	301	305	277
	延患者数	1,608	1,578	1,727	1,445	1,347
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	621	480	481	537	664
	退院患者数	627	484	481	538	664
	延患者数	709	564	531	654	713
リウマチ科	新規入院患者数	0	0	0	0	10
	退院患者数	0	0	0	0	11
	延患者数	0	0	0	0	58

科　名	区　分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	308	277	282	259	238
	退院患者数	311	286	283	261	240
	延患者数	1,346	1,326	1,261	1,199	1,080
産科	新規入院患者数	377	345	325	296	292
	退院患者数	384	344	323	297	285
	延患者数	6,848	6,929	6,611	6,360	6,110
眼科	新規入院患者数	309	297	315	291	293
	退院患者数	306	298	313	292	293
	延患者数	1,196	1,131	1,275	1,159	1,157
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	100	101	137	161	127
	退院患者数	100	101	140	163	129
	延患者数	604	642	837	1,034	732
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	1,033	1,294	1,564	1,430	1,621
	退院患者数	995	1,255	1,526	1,420	1,601
	延患者数	8,966	10,202	11,585	10,423	12,857
救急科	新規入院患者数	7	6	5	2	1
	退院患者数	0	2	1	0	0
	延患者数	8	8	10	2	1
小児集中治療科	新規入院患者数	241	258	304	358	297
	退院患者数	97	92	122	118	93
	延患者数	6,691	6,728	7,281	7,215	7,056
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	6,704	6,638	7,445	7,399	7,536
	退院患者数	6,689	6,647	7,435	7,400	7,519
	延患者数	80,935	82,809	88,699	83,965	84,977

6．年齢別患者状況

令和７年度

年　齢　区　分	外　　来		入　　院	
	患者数（人）	構成比（%）	患者数（人）	構成比（%）
0歳～1歳未満	2,885	9.0%	978	19.6%
1歳以上～3歳未満	4,650	14.4%	937	18.8%
3歳～6歳未満	5,751	17.8%	884	17.7%
6歳～13歳未満	11,498	35.7%	1,386	27.8%
13歳以上～16歳未満	3,811	11.8%	343	6.9%
16歳以上	3,632	11.3%	454	9.1%
合　　計	32,227	100.0%	4,982	100.0%

7．地域別患者状況

（1）外来

地域区分		6年度		7年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵庫県	神戸市	19,263	58.0%	18,511	57.4%
	姫路市	1,032	3.1%	1,026	3.2%
	尼崎市	394	1.2%	391	1.2%
	明石市	2,716	8.2%	2,709	8.4%
	西宮市	1,278	3.9%	1,327	4.1%
	洲本市	198	0.6%	190	0.6%
	芦屋市	625	1.9%	612	1.9%
	伊丹市	262	0.8%	262	0.8%
	相生市	44	0.1%	60	0.2%
	豊岡市	259	0.8%	271	0.8%
	加古川市	724	2.2%	693	2.2%
	赤穂市	95	0.3%	93	0.3%
	西脇市	149	0.4%	138	0.4%
	宝塚市	404	1.2%	405	1.3%
	三木市	401	1.2%	366	1.1%
	高砂市	225	0.7%	215	0.7%
	川西市	117	0.4%	137	0.4%
	小野市	207	0.6%	191	0.6%
	三田市	621	1.9%	598	1.9%
	加西市	111	0.3%	99	0.3%
	丹波篠山市	114	0.3%	130	0.4%
	養父市	71	0.2%	64	0.2%
	丹波市	273	0.8%	267	0.8%

（2）入院

地域区分		6年度		7年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵庫県	神戸市	2,624	53.2%	2,669	53.6%
	姫路市	153	3.1%	176	3.5%
	尼崎市	67	1.3%	66	1.3%
	明石市	397	8.0%	462	9.3%
	西宮市	200	4.0%	205	4.1%
	洲本市	57	1.1%	49	1.0%
	芦屋市	105	2.1%	78	1.6%
	伊丹市	42	0.8%	47	0.9%
	相生市	11	0.2%	12	0.2%
	豊岡市	35	0.7%	44	0.9%
	加古川市	123	2.5%	128	2.6%
	赤穂市	14	0.3%	9	0.2%
	西脇市	20	0.4%	25	0.5%
	宝塚市	58	1.2%	54	1.1%
	三木市	54	1.1%	57	1.1%
	高砂市	44	0.9%	34	0.7%
	川西市	17	0.3%	21	0.4%
	小野市	37	0.7%	33	0.7%
	三田市	89	1.8%	86	1.7%
	加西市	20	0.4%	22	0.4%
	丹波篠山市	17	0.3%	28	0.6%
	養父市	12	0.2%	12	0.2%
	丹波市	44	0.9%	41	0.8%

地域区分		6年度		7年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵庫県	南あわじ市	203	0.6%	200	0.6%
	朝来市	110	0.3%	94	0.3%
	淡路市	302	0.9%	289	0.9%
	宍粟市	46	0.1%	51	0.2%
	加東市	232	0.7%	215	0.7%
	たつの市	135	0.4%	142	0.4%
	猪名川町	38	0.1%	35	0.1%
	多可町	59	0.2%	69	0.2%
	稲美町	93	0.3%	99	0.3%
	播磨町	127	0.4%	139	0.4%
	市川町	15	0.0%	11	0.0%
	福崎町	38	0.1%	37	0.1%
	神河町	18	0.1%	21	0.1%
	太子町	69	0.2%	61	0.2%
	上郡町	19	0.1%	18	0.1%
	佐用町	25	0.1%	23	0.1%
	香美町	46	0.1%	52	0.2%
	新温泉町	20	0.1%	20	0.1%
	その他	164	0.5%	130	0.4%
	計	31,342	94.4%	30,461	94.5%
近畿圏		982	3.0%	964	3.0%
近畿圏外		868	2.6%	802	2.5%
総　計		33,192	100.0%	32,227	100.0%

地域区分		6年度		7年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵庫県	南あわじ市	43	0.9%	37	0.7%
	朝来市	47	0.9%	33	0.7%
	淡路市	16	0.3%	13	0.3%
	宍粟市	9	0.2%	7	0.1%
	加東市	36	0.7%	29	0.6%
	たつの市	19	0.4%	24	0.5%
	猪名川町	4	0.1%	7	0.1%
	多可町	11	0.2%	7	0.1%
	稲美町	16	0.3%	17	0.3%
	播磨町	25	0.5%	25	0.5%
	市川町	3	0.1%	3	0.1%
	福崎町	5	0.1%	5	0.1%
	神河町	2	0.0%	1	0.0%
	太子町	12	0.2%	9	0.2%
	上郡町	6	0.1%	2	0.0%
	佐用町	0	0.0%	0	0.0%
	香美町	8	0.2%	6	0.1%
	新温泉町	4	0.1%	0	0.0%
	その他	32	0.6%	15	0.3%
	計	4,534	91.9%	4,593	92.2%
近畿圏		165	3.3%	158	3.2%
近畿圏外		236	4.8%	231	4.6%
総　計		4,935	100.0%	4,982	100.0%

※実患者数

8．公費負担患者状況

令和7年度

公費負担制度	件　数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	408	21.9%
2. 育成医療	38	2.0%
3. 養育医療	182	9.7%
4. 児童福祉（措置）	52	2.8%
5. 特定疾患	13	0.7%
6. 生活保護	46	2.5%
7. 精神保健	13	0.7%
8. 自　　費	1,115	59.7%
合　　計	1,867	100.0%

9．時間外患者状況

令和７年度

科　名	区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来			1	1		2							4
	入院	1	1											2
	計	1	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	6
腎臓内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	外来													0
	入院	1	1						1		3			6
	計	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	6
血液内科	外来	2	1		3	1		1		1				9
	入院		1		1	4	1		2	1				10
	計	2	2	0	4	5	1	1	2	2	0	0	0	19
代謝・内分泌内科	外来			1					1					2
	入院		1										2	3
	計	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	5
新生児内科	外来													0
	入院	4	12	9	17	17	9	7	16	10	11	13	15	140
	計	4	12	9	17	17	9	7	16	10	11	13	15	140
心臓血管外科	外来	1								1				2
	入院		1											1
	計	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
脳神経外科	外来						1							1
	入院		1										1	2
	計	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
小児外科	外来	2	2	1	6	3	1	4	1	1	2	1		24
	入院			3	2	2	2	3	2	2	2	2	4	24
	計	2	2	4	8	5	3	7	3	3	4	3	4	48
整形外科	外来	1				1		1				1		4
	入院	1	1	1				4	1					8
	計	2	1	1	0	1	0	5	1	0	0	1	0	12
形成外科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リウマチ科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科　名	区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	外来					1								1
	入院													0
	計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
臨床遺伝科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	外来	1		1		1							2	5
	入院		1			1	2			1	1	1	2	9
	計	1	1	1	0	2	2	0	0	1	1	1	4	14
産　科	外来	4	2	4	3	1		2		1	4	1		22
	入院		3	1	5	2	5	3	1	4	3	2	1	30
	計	4	5	5	8	3	5	5	1	5	7	3	1	52
眼　科	外来			1								1		2
	入院													0
	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
耳鼻咽喉科	外来								1					1
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
リハビリテーション科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	外来								1	2	2			5
	入院	26	35	27	31	29	49	25	34	22	37	31	32	378
	計	26	35	27	31	29	49	25	35	24	39	31	32	383
救急科	外来	546	673	576	603	627	604	565	778	611	643	570	594	7,390
	入院													0
	計	546	673	576	603	627	604	565	778	611	643	570	594	7,390
小児集中治療科	外来													0
	入院	5	4	8	11	8	8	4	10	8	9	8	9	92
	計	5	4	8	11	8	8	4	10	8	9	8	9	92
歯　科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	外来	557	678	585	616	635	608	573	782	617	651	574	596	7,472
	入院	38	62	49	67	63	76	46	67	48	66	57	66	705
	計	595	740	634	683	698	684	619	849	665	717	631	662	8,177

10. 公小児がん患者入院延べ日数　　令和７年度【総計】13,937日

経理状況

区分			単位	令和６年度	令和７年度			
				決　算	最終予算	決　算	予算対比	前年対比
業務量	入院	許可病床数	床	290	290	290	0	0
		稼働病床数	床	290	290	290	0	0
		病床利用率	%	79.3	82.7	80.3	△ 2.4	1.0
		延入院患者数	人	83,965	87,514	84,977	△ 2,537	1,012
		1日当たり患者数	人/日	230	240	233	△ 7	3
		入院単価	円	106,417	109,208	107,562	△ 1,646	1,145
	外来	延外来患者数	人	108,193	105,917	105,483	△ 434	△ 2,710
		1日当たり患者数	人/日	445	436	436	0	△ 9
		外来単価	円	18,851	19,142	19,181	39	330
収支	入院収益		百万円	8,935	9,557	9,140	△ 417	205
	外来収益		百万円	2,040	2,027	2,023	△ 4	△ 17
	その他医業収益		百万円	128	144	147	3	19
	＊医業収益＊		百万円	11,102	11,728	11,311	△ 417	209
	長期前受金戻入額		百万円	576	738	716	△ 22	140
	医業外収益		百万円	168	398	420	22	252
	＊経常収益計①＊		百万円	11,846	12,865	12,446	△ 419	600
	給与費		百万円	9,641	10,169	10,247	78	606
		（うち退職給与金）	百万円	346	73	172	99	△ 174
		（うち退職給付引当金）	百万円	193	484	414	△ 70	221
		（うち賞与引当金）	百万円	527	565	565	0	38
	材料費		百万円	2,625	2,817	2,975	158	350
		（うち薬品費）	百万円	1,620	1,747	1,962	215	342
		（うち診療材料費）	百万円	909	962	911	△ 51	2
	経費		百万円	2,510	2,728	2,775	47	265
	減価償却費		百万円	815	1,223	1,220	△ 3	405
	資産減耗費		百万円	87	30	30	0	△ 57
	研究研修費		百万円	63	80	72	△ 8	9
	＊医業費用＊		百万円	15,741	17,047	17,319	272	1,578
	医業外費用		百万円	163	227	224	△ 3	61
	＊経常費用計②＊		百万円	15,903	17,274	17,544	270	1,641
	経常損益(繰入前)③(①－②)		百万円	△ 4,056	△ 4,409	△ 5,095	△ 686	△ 1,039
	特別利益④		百万円	1	6	4	△ 2	3
	特別損失⑤		百万円	2	7	6	△ 1	4
	純損益(繰入前)⑥(③＋④－⑤)		百万円	△ 4,058	△ 4,410	△ 5,100	△ 690	△ 1,042
	一般会計繰入金⑦		百万円	2,448	2,767	2,767	0	319
	経常損益(繰入後)⑧(③＋⑦)		百万円	△ 1,609	△ 1,642	△ 2,330	△ 688	△ 721
	当期純損益(繰入後)⑨(⑥＋⑦)		百万円	△ 1,610	△ 1,643	△ 2,333	△ 690	△ 723
経営指標	医業収益比率	給与費比率	%	86.8	86.7	90.6	3.9	3.8
		材料費比率	%	23.6	24.0	26.3	2.3	2.7
		（うち薬品費比率）	%	14.6	14.9	17.3	2.4	2.8
		（うち診療材料費比率）	%	8.2	8.2	8.1	△ 0.1	△ 0.1
		経費比率	%	22.6	23.3	24.5	1.3	1.9
	医業収支比率		%	70.5	68.8	65.3	△ 3.5	△ 5.2
	経常収支比率		%	89.9	90.5	86.7	△ 3.8	△ 3.2

決算の推移

入院日数	日	365	365	366	365	365
外来日数	日	242	243	243	243	242

（単位：床、%、人、千円）

区分			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			
			決算	医業比	前年比	決算	医業比	前年比	決算	医業比	前年比	決算	医業比	前年比	決算	医業比	前年比	前年度差引
業務量	稼働病床数	床	282	－	100.0	282	－	100.0	290	－	102.8	290	－	100.0	290	－	100.0	0
	病床利用率	%	78.6	－	100.4	80.5	－	102.4	83.6	－	103.9	79.3	－	94.9	80.3	－	101.3	1.0
	平均在院日数	日	11.1	－	91.7	11.5	－	103.6	10.9	－	94.8	10.3	－	94.5	10.3	－	100.0	0.0
	延入院患者数	人	80,935	－	100.4	82,809	－	102.3	88,699	－	107.1	83,965	－	94.7	84,977	－	101.2	1,012
	（1日当り）	人	222	－	100.5	227	－	102.3	242	－	106.6	230	－	95.0	233	－	101.3	3
	新規入院患者数	人	6,704	－	109.2	6,638	－	99.0	7,445	－	112.2	7,399	－	99.4	7,536	－	101.9	137
	延外来患者数	人	110,330	－	113.4	111,752	－	101.3	110,708	－	99.1	108,193	－	97.7	105,483	－	97.5	△ 2,710
	（1日当り）	人	456	－	114.0	460	－	100.9	456	－	99.1	445	－	97.6	436	－	98.0	△ 9
	新規外来患者数	人	14,085	－	124.4	15,443	－	109.6	15,895	－	102.9	15,022	－	94.5	13,471	－	89.7	△ 1,551
収益	入院収益	千円	8,437,060	80.1	103.7	8,708,948	80.7	103.2	9,417,451	81.4	108.1	8,935,308	80.5	94.9	9,140,305	80.8	102.3	204,997
	（1日1人）	円	104,245	－	103.3	105,169	－	100.9	106,173	－	101.0	106,417	－	100.2	107,562	－	101.1	1,145
	外来収益	千円	1,965,136	18.7	111.3	1,954,691	18.1	99.5	2,018,375	17.4	103.3	2,039,500	18.4	101.0	2,023,243	17.9	99.2	△ 16,257
	（1日1人）	円	17,811	－	98.1	17,491	－	98.2	18,232	－	104.2	18,851	－	103.4	19,181	－	101.8	330
	その他医業収益	千円	132,469	1.3	89.2	134,261	1.2	101.4	137,350	1.2	102.3	127,658	1.1	92.9	146,987	1.3	115.1	19,329
	医業収益計	千円	10,534,665	100.0	104.8	10,797,900	100.0	102.5	11,573,176	100.0	107.2	11,102,466	100.0	95.9	11,310,535	100.0	101.9	208,069
	医業外収益	千円	1,324,601	12.6	120.3	1,292,149	12.0	97.6	738,617	6.4	57.2	743,824	6.7	100.7	1,135,915	10.0	152.7	392,091
	特別利益	千円	200,171	1.9	160.6	2,015	0.0	1.0	5,254	0.0	260.7	734	0.0	14.0	3,778	0.0	514.8	3,044
	収益合計	千円	12,059,437	114.5	106.9	12,092,064	112.0	100.3	12,317,047	106.4	101.9	11,847,024	106.7	96.2	12,450,228	110.1	105.1	603,204
費用	給与費	千円	8,175,994	77.6	101.6	8,405,133	77.8	102.8	8,553,647	73.9	101.8	9,640,507	86.8	112.7	10,246,771	90.6	106.3	606,264
	うち退職給与金	千円	(173,315)	1.6	105.7	(196,328)	1.8	113.3	(153,971)	1.3	78.4	(345,611)	3.1	224.5	(171,825)	1.5	49.7	△ 173,786
	うち退職給付引当金	千円	(228,841)	2.2	88.5	(265,871)	2.5	116.2	(224,264)	1.9	84.4	(193,491)	1.7	86.3	(413,514)	3.7	213.7	220,023
	材料費	千円	2,438,313	23.1	107.1	2,475,656	22.9	101.5	2,719,131	23.5	109.8	2,624,830	23.6	96.5	2,975,317	26.3	113.4	350,487
	経費	千円	2,146,799	20.4	101.4	2,292,465	21.2	106.8	2,336,405	20.2	101.9	2,510,171	22.6	107.4	2,775,140	24.5	110.6	264,969
	減価償却費	千円	1,247,469	11.8	104.4	1,055,128	9.8	84.6	846,364	7.3	80.2	814,513	7.3	96.2	1,220,190	10.8	149.8	405,677
	資産減耗費	千円	16,186	0.2	92.3	9,222	0.1	57.0	9,117	0.1	98.9	87,089	0.8	955.2	29,842	0.3	34.3	△ 57,247
	研究研修費	千円	42,219	0.4	116.2	53,079	0.5	125.7	59,445	0.5	112.0	63,492	0.6	106.8	71,863	0.6	113.2	8,371
	医業費用計	千円	14,066,980	133.5	102.8	14,290,683	132.3	101.6	14,524,109	125.5	101.6	15,740,602	141.8	108.4	17,319,123	153.1	110.0	1,578,521
	医業外費用	千円	156,203	1.5	81.9	154,745	1.4	99.1	155,677	1.3	100.6	162,755	1.5	104.5	224,437	2.0	137.9	61,682
	特別損失	千円	157,191	1.5	37.1	7,270	0.1	4.6	11,436	0.1	157.3	2,122	0.0	18.6	6,367	0.1	300.0	4,245
	費用合計	千円	14,380,374	136.5	100.5	14,452,698	133.8	100.5	14,691,222	126.9	101.7	15,905,479	143.3	108.3	17,549,927	155.2	110.3	1,644,448
差引損益		千円	△ 2,320,937	△ 22.0	123.3	△ 2,360,634	△ 21.9	98.3	△ 2,374,175	△ 20.5	99.4	△ 4,058,455	△ 36.6	170.9	△ 5,099,699	△ 45.1	125.7	△ 1,041,244
一般会計繰入金		千円	2,227,470	21.1	94.4	2,306,021	21.4	103.5	2,280,767	19.7	98.9	2,448,446	22.1	107.4	2,766,896	24.5	113.0	318,450
経常損益		千円	△ 136,447	△ 1.3	37.2	△ 49,358	△ 0.5	36.2	△ 87,226	△ 0.8	176.7	△ 1,608,621	△ 14.5	1,844.2	△ 2,330,214	△ 20.6	144.9	△ 721,593
当期純損益		千円	△ 93,467	△ 0.9	14.0	△ 54,613	△ 0.5	58.4	△ 93,408	△ 0.8	171.0	△ 1,610,009	△ 14.5	1,723.6	△ 2,332,803	△ 20.6	144.9	△ 722,794

経常収支比率		%	99.0	－	101.7	99.7	－	100.6	99.4	－	101.6	89.9	－	90.2	86.7	－	96.5	－
医業収支比率		%	74.9	－	102.0	75.6	－	100.9	79.7	－	82.7	70.5	－	93.3	65.3	－	92.6	－

Ⅲ　診　療　統　計

１．総合診療科

１．スタッフ

科長：鉄原健一（４月～）

医長：水田麻雄（～９月．リウマチ科兼務）、冨岡和美（～９月）、吉田美苗（４月～）、
山田健太（４月～．感染症内科兼務）、近藤亜耶（４月～）、岡崎沙也香（９月～産休・育休）

フェロー：飯田智恵（４月～）、桝田千晶、柏坂舞（救急科兼務）、酒井善紀、中田絢之（４月～．感染症内科兼務）、錦織朱（４月～．代謝内分泌内科・救急科兼務）

専攻医：富田藍子、濱嶋一成、恒川礼奈、島岡健太（４～６月）
大西裕人、湯浅太陽、井上未紗子、平田理子（７～９月）
原将輝、上原和大、小田原洋一（10～12月）

他院からの研修生：フェロー１名、初期研修医４名

学生：４、５年生12名、６年生４名

２．業務

診療の範囲は、基礎疾患のない患者さんの肺炎、気管支喘息急性増悪、尿路感染症などの急性期疾患、外因系疾患、重症心身障害児・医療的ケア児の急性期疾患・在宅移行・短期入院、外科系専門診療科入院中の患者さんの内科管理、新生児科からの在宅移行、集中治療管理後の患者さんの管理、人生の最終段階の患者さんのお看取りなど広い。2025年１～12月の新規入院患者数は1,782名で2024年の1,627名より増加した。医療安全、虐待対応、倫理コンサルテーション、ICTなど院内の横断的な業務を行っている。他科との連携では、特に感染症内科とは日常業務を分担したり、フェローが総合診療科と感染症内科をローテーションしたりすることで小児総合診療医としての研鑽を積むこともできている。

教育は当院のフェロー、専攻医だけでなく、他院からのフェロー・研修医の短期研修を引き受けている。また神戸大学からの学生を12名受け入れた。2025年９月からは当院で鎮静のために入院が必須になったことに伴い、他科からの鎮静入院も依頼があれば担っている。

２．救急科

１．診療活動

小児救命救急センターは、2016年の新病院開院より、１次救急から３次救急まで内因系外因系問わずすべての救急患者さんに対応するため、救急外来を担当する救急部門、救急外来から入院を要する中等症以下の患者を担当する入院部門、重症患者を担当する集中治療部門に分けて運用されてきた。救急部門では救急患者の受け入れをより積極的に行うために、365日24時間体制でウォークインの患者さんはもとより、救急患者搬送の依頼に対しても可能な限り対応し、開院以降毎年救急外来受診者数と救急車による搬送件数は増加してきた。そしてこれまでの三次救急医療の実績を踏まえて2017年４月から全国で12番目、近畿圏では初めての小児救命救急センターに指定された。

しかし2020年は新型コロナ感染症の拡大により、総受診者数、救急車による搬送件数は減少した。2021年は小児新型コロナ患者の増加もあり総受診者数は11,888名（うち救急車による搬送件数1,603件、救急外来からの入院患者1,561名）に増加、2022年の総受診者数は13,680名（うち救急車による搬送件数2,290件、救急外来からの入院患者1,906名）、2023年の総受診者数は15,235名（救急車による搬送件数2,534件、救急外来からの入院患者2,303件）とさらに増加した。2024年は総受診者数は14,602名（救急車による搬送件数は2,399件、救急外来からの入院患者数は2,282名）、2025年は総受診者数は13,181名で救急車による搬送件数は2,317件でありいずれも減少傾向がみられたが、救急外来からの入院患者数は2,314名と増加し、集中治療部門への入院は2024年の331名から2025年の432名へと増加している。また、神戸市内における16歳未満患者の当院への割合も2024年の45.5％から2025年の47.7％へと増加がみられた。これらの事実は、少子化により小児患者が減っている中でも当院救急部門の存在意義を強く示すものと考える。今後も病院が掲げている「断らない救急」を実現すべく、体制整備を進めたい。

教育面では、Ｗｅｂも利用しながら、毎週１回７時30分から専攻医向けの勉強会や月１回科内で半日の勉強会を継続し、専攻医が中心となって重症患者を見分け対応するために必要な実技トレーニングも定期的に開催している。さらに、他院から小児科専攻医、救急科専攻医、初期研修医を積極的に受け入れ、小児救急を学べる場所として教育体制の充実を図った。

また他科との連携においては、集中治療科とは定期的なカンファレンスを開催し、整形外科とは毎週症例提示する場を設けアドバイスをいただくようにしている。

さらに救急隊との勉強会や神戸医療産業都市一般公開などでも講演を行い、院外にも活動の場を広げている。

２．スタッフ

救急科（2025年１～３月）：田中亮二郎（センター長）、林卓郎（部長）、松井鋭（医長）、竹井寛和（医長）、谷澤直子（医長）、村田慧（医長）、大西理史（医長）、吉井拓眞（フェロー）、柏坂舞（フェロー）、齊藤麗（フェロー）、小川碧（フェロー）

（2025年４～12月）：笠井正志（センター長）、丸山あずさ（センター次長）、松井鋭（科長、医長）、竹井寛和（医長）、谷澤直子（医長）、大西理史（医長）、吉井拓眞（医長）、浪方悠（医長）、齊藤麗（フェロー）、小川碧（フェロー）、南川洋平（フェロー）、山田茉美（フェロー　６月～）、森脇彩賀（フェロー　代謝内分泌科兼務）、西林優（フェロー　代謝内分泌科兼務）

• **当院専攻医**：小田原洋一（2025年２月）、平田理子（2025年４月）、上原和大（2024年６月）、濱嶋一成（2025年７月）、田中敦（2025年10月）、安冨健人（2025年11月）、井上遼太郎（2025年12月）

• **他院小児科専攻医**：神戸市立西神戸医療センター小児科専攻医　和田尚一郎（2025年１月）、神戸市立医療センター中央市民病院小児科専攻医　寺尾元（2025年３月）、神戸市立西神戸医療センター小児科専攻医　仲田文雄（2025年８～９月）、兵庫県立尼崎総合医療センター小児科専攻医　森新太郎（2025年10～11月）

• **他院救急科専攻医**：加古川医療センター救急科　久津見整（2025年11～12月）

• **他院総合診療科専攻医**：百年記念病院　広川岳彰（2025年４～６月）

• **初期研修医**：神戸市立医療センター中央市民病院　安田駿（2025年２月）、丹波医療センター　田中黎（2025年２月）、加古川医療センター　石田貴大（2025年４月）、はりま姫路総合医療センター　関口稜（2025年５月）、はりま姫路総合医療センター　森内優介（2025年８月）、はりま姫路総合医療センター　石原史也（2025年９月）、丹波医療センター　丸田実奈（2025年11月）、丹波医療センター　地主聡真（2025年12月）

• 神戸大学医学部の学生の半日研修も受け入れた

３．診療統計

小児救命救急センター診療統計（2025年１月～12月）

(1) 救急外来患者数・救急入院患者数・救急車搬送数

区　分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救急外来患者数	1,198	1,015	1,121	945	1,149	1,087	1,077	1,134	1,102	1,004	1,264	1,085	13,181
救急入院患者数	195	193	209	178	203	183	191	175	210	182	193	202	2,314
救急車搬送数	226	190	220	163	171	172	201	161	174	160	268	211	2,317

(2) 平日・休日別救急患者数

平日・休日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平　日	578	577	736	585	632	675	754	684	653	627	627	640	7,768
休　日	620	438	524	360	517	412	455	450	449	377	637	499	5,738
合　計	1,198	1,015	1,260	945	1,149	1,087	1,209	1,134	1,102	1,004	1,264	1,139	13,506

(3) 時間帯別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0：00～ 8：45	130	130	138	113	112	127	111	132	121	104	161	130	1,509
8：45～17：30	661	526	551	430	578	572	502	578	563	500	638	618	6,717
17：30～24：00	407	432	432	402	459	388	464	424	418	400	465	391	5,082
合　計	1,198	1,088	1,121	945	1,149	1,087	1,077	1,134	1,102	1,004	1,264	1,139	13,308

(4) 地域別救急患者数

地　域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
神戸市	913	768	858	725	895	853	869	857	831	779	993	825	10,166
（東灘区）	127	115	114	95	128	109	128	135	116	121	151	127	1,466
（灘　区）	110	99	81	77	121	36	87	103	82	93	107	98	1,094
（中央区）	143	123	157	122	113	148	102	106	114	122	168	124	1,542
（兵庫区）	97	74	96	83	99	74	89	95	96	71	112	72	1,058
（北　区）	88	76	96	85	96	98	110	82	105	89	91	120	1,136
（長田区）	56	62	57	67	62	61	77	69	65	65	75	61	777
（須磨区）	97	91	94	72	105	100	102	93	90	85	128	99	1,156
（垂水区）	119	87	95	75	104	97	101	115	91	81	87	78	1,130
（西　区）	76	41	68	49	67	76	73	59	72	42	74	46	743
阪神南地域	62	63	54	52	75	65	54	58	69	41	82	69	744
阪神北地域	24	17	23	27	20	18	8	19	19	19	28	26	248
東播磨地域	66	67	80	64	70	66	54	90	72	70	84	90	873
北播磨地域	45	25	28	14	19	29	21	29	26	27	23	24	310
中播磨地域	7	10	14	6	16	13	7	10	11	13	7	11	125
西播磨地域	0	3	4	1	1	4	5	2	7	2	3	1	33
但馬地域	3	4	4	2	3	2	1	2	4	0	1	3	29
丹波地域	3	11	5	9	7	6	7	4	9	15	6	4	86
淡路地域	11	10	9	9	9	6	11	7	6	10	7	8	103
兵庫県外	62	37	42	36	34	25	40	56	48	28	30	34	472
合　計	1,196	1,015	1,121	945	1,149	1,087	1,077	1,134	1,102	1,004	1,264	1,095	13,189

３．代謝・内分泌科

１．人事異動

部長（科長）	尾﨑　佳代
医長	池谷　紀衣子
フェロー	西藤　知城
	４月～６月　錦織　朱　　西林　優
	７月～９月　錦織　朱
	10月～12月　森脇　彩賀
	１月～３月　森脇　彩賀　　西林　優
非常勤	坊　亮輔（神戸大学より月２回外来応援）

本年はスタッフ２名、フェロー２～３名の４～５名体制で診療を行った。

非常勤として神戸大学小児科より坊　亮輔医師が月２回代謝外来を行っている。

フェローとして１年間、西藤　知城医師、半年間、錦織　朱医師、西林　優医師、森脇　彩賀医師が当科所属で診療を行った。

また、専攻医数名が１～２ヶ月間のサイクルで研修を行った。

２．診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟に関わる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。2025年も引き続き、代謝疾患の中の小児集中治療を必要とする疾患の受け入れ病院としての機能を保った。今年度は糖尿病や代謝疾患など専門性を求められるため、休日夜間を問わずオンコール体制で対応を行なった。その時には集中治療科と連携して診療にあたっている。また、神戸大学、兵庫医大と連携をとり、兵庫県全体の内分泌代謝疾患の活性化に努めた。

本年度の新規外来患者数は320名と昨年より50名増加した。性腺疾患と肥満が増加していた。外来患者数は、9000名を超えている。入院患者数は延べ1200名と増加した。昨年より1.5倍になり、休日、夜間の緊急入院割合著増している。地域の専門病院として今後もその役割を果たしていく所存である。施設としては日本内分泌学会と日本糖尿病学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医、糖尿病専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。内分泌を目指す若手の育成に重点を置いており、研究会を主催している。

【研究・学術活動】

尾﨑部長は小児内分泌学会評議員として活動し、尾﨑部長は副腎性腺委員会、災害対策委員会に所属し、委員会活動に従事した。性分化疾患ガイドラインの委員として作成に携わった。

当科は、患者様に対する治療法の改善並びに生活の質の向上を目的とした臨床治験に積極的に参加している。本年度は昨年度に引き続きSGA性低身長、成長ホルモン分泌不全性低身長を対象としたLong GH治療の治験に参加した。観察研究としてXLH（低リン血症性くる病）の研究に参加した。その他、軟骨無形成の治験にも参加した。

近年、病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、患者の生活の質の向上を目的とした臨床研究が推進されている。学会報告として、14報告であり。その分野は内分泌の全ての分野に満遍なく関わっている。論文発表が4報、当科から報告は3報とガイドラインとなった。また、他院との多施設共同研究も少しずつではあるが立ち上げている。

当科は今後も計画的に5年後10年後を見据えた臨床研究を立ち上げていく予定である。

入院患者

	患者数
低身長症	39
糖代謝異常	30
性腺疾患	8
甲状腺疾患	11
副腎疾患	16
肥満	4
マススクリーニング	1
その他	97
計	206

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	169
甲状腺疾患	34
性腺疾患	119
副腎	5
糖代謝異常	46
肥満	20
マススクリーニング	
先天性甲状腺機能低下症	20
先天代謝異常症	1
先天性副腎過形成	0
その他	124
計	538

4．リウマチ科

1．人事異動

本年は、総合診療科兼務の水田麻雄医師、桝田千晶医師と計３名体制で診療を担当した。

2．スタッフ

部長（科長）　中岸　保夫
医長　水田　麻雄
フェロー　桝田　千晶

3．診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病･リウマチ性疾患を対象に主に外来で診療している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、シェーグレン症候群、ベーチェット病、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。入院管理は総合診療科が主科として協力して診療を行っている。また遠方の患者さんは地域の小児科の先生方と、ぶどう膜炎に関しては眼科の先生方と、移行期においては成人リウマチ科の先生方との連携を積極的に行うなど、他施設との良好な協力関係の構築に努めている。

治療に関しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて最新の治療を行っている。また小児リウマチ性疾患は依然として病態が不明な部分が多いため、全国の小児リウマチ専門医と協力して病態解明や新たな診断･治療法の開発を目的とした基礎研究、臨床研究を積極的に行っており（当院HP参照）、臨床治験への参加、若手医師の教育や患者さん向けの講演会、厚生労働省の難治性疾患等政策研究事業などにも尽力している。

4．特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍しており、患児の気持ちを理解し、患児自身が理解･納得できるようにサポートしている。また患児それぞれに合わせて成人移行期に向けた支援も積極的に行っている。

5．診療実績

外来患者数　297名（うち初診　57名）

主な疾患			
全身型若年性特発性関節炎	16名（ 1名）	シェーグレン症候群	7名
全身型以外の若年性特発性関節炎	114名（11名）	高安動脈炎	6名（1名）
全身性エリテマトーデス	21名（ 4名）	川崎病（冠動脈病変なし）	47名（急性期は総合診療科入院）
若年性皮膚筋炎・多発筋炎	13名（ 1名）	ベーチェット病	7名
全身性強皮症・限局性強皮症	3名	自己炎症性疾患	13名（3名）
その他の患者			
関節痛・レイノー・ぶどう膜炎・周期性発熱など			

入院患者　全例総合診療科管理

川崎病、全身型若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など （生物学的製剤導入例含む）

5．アレルギー科

1．人事

スタッフ1名、フェロー1名の2名体制で診療を行った。人事異動なし。岡崎沙也香医師は総合診療科との兼務で当科診療に従事した。田中裕也医師（たなか小児科アレルギー科）、仲嶋健吾医師（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）は非常勤医師として当科診療に従事した。

科長	濵田　佳奈
フェロー	長谷川　智大
総合診療科兼務	岡崎　沙也香
非常勤	田中　裕也（木曜日）、仲嶋　健吾（金曜日）

2．小児アレルギー疾患センター

センター長	濵田　佳奈
副センター長	小坂　嘉之/田中　亮二郎

3．兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院

2014年6月に「アレルギー疾患対策基本法」が設立し、2015年12月末から施行されている。これはアレルギー疾患患者の増加に対応すべく医療提供の均てん化を目指したものである。その一環として2018年度より当院は兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定された。2025年度は兵庫県アレルギー疾患対策事業としてアレルギー疾患医療従事者等研修会を担当した（開催は2026年2月）。

4．診療活動

基礎疾患に合併したアレルギー疾患や重症例にも対応しているが、地域の医療機関からのご紹介や当院救急外来後のフォローなど基礎疾患を有しない例にも対応しており、重症度問わず診療を行っている。食物アレルギーの有病率は増加していること、食物経口負荷試験数は今年度も一定数維持されていることからも、需要は多いと考える。また、アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法などを積極的に取り入れている。

アレルギー専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）を中心にしたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎のスキンケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育施設であり、若手医師への教育を行っている。

5．診療実績（2025年1月～12月）

- 食物経口負荷試験　619例
- ダニ・スギ舌下免疫療法　導入71例
- アトピー・喘息・慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤投与継続例　29例（12月時点で継続中）
- 院外新規外来患者　161名

6．神経内科

1．人事異動

2025年 9 月に西山が退職し神戸大学小児科に異動、後任として総合診療科から冨岡が神経内科専属となった。フェローは2025年 3 月に相馬、鮫島が退職、後任として 4 月から國澤、末宗が着任し、昨年度に引き続き 6 名体制で診療を行なった。月 1 回の診療応援および臨床研究の指導に関しては、神戸大学小児科永瀬裕朗先生から西山に引き継ぎとなった。

2．スタッフ

部長（科長）	丸山　あずさ	
医長	石田　悠介	
	冨岡　和美（2025年10月～）	西山　将広（2025年 9 月退職）
フェロー	伊藤　立人	
	末宗　和樹（2025年 4 月～）	國澤　久路（2025年 4 月～）
	相馬　健人（2025年 3 月退職）	鮫島　智大（2025年 3 月退職）

3．活動状況

2025年は、神経内科外来初診459名、入院新規患者数は255名と年々増加の一途を辿っている。小児神経疾患全般を対象に幅広く対応しており、地域の病院およびクリニックからの紹介、他科からのコンサルトに関しては、専門的な評価と診断を行い、質の高い診療を心がけた。特にてんかん重積状態や急性脳症･脳炎など迅速な対応を要する病態に対しては、集中治療科･救急科と連携し、チームで一体的に診療を行なった。救急受診から集中治療、さらには回復期のフォローに至るまで一貫した医療を提供できる体制は、当院の大きな強みである。また冨岡は発達行動外来を担当し、心身症、神経発達症、マルトリートメントに関する診療にも取り組んだ。小児・思春期の心身症に対して、生物学的（Bio）、心理学的（Psycho）、社会的（Social）のBPSモデルを用いて総合的に評価し、身体症状と心理社会背景の双方に着目した包括的なアプローチを行っている。

4．研究・学術活動

学術活動については、けいれん重積・急性脳症・てんかん・神経発達に関する発表を14件、論文発表を13件行なった。昨年に引き続き神戸大学を中心とする国内 9 施設による多施設前向き急性脳症レジストリ研究を継続しており、急性脳症の病態解明や治療最適化に向けた新たな知見を世界に発信していきたいと考えている。急性脳症患者における神経損傷バイオマーカー研究、意識障害を呈する小児の脳波解析など、臨床に還元可能なエビデンス構築も積極的に進めている。また、摂食障害については、痩せに伴う認知機能の変化や脳波周波数解析、生化学バイオマーカーの推移に注目した研究も進めており、小児心身医学会による小児摂食障害ガイドラインの作成にも携わっている。

当院は小児神経専門医研修施設、日本てんかん学会研修施設、子どものこころ専門医の研修施設に認定されており、サブスペシャリティーの育成にも引き続き取り組んでいきたい。

神経内科外来初診	459例	検査および治療	
てんかん/その他の発作性疾患	245例	脳波	669例
神経発達症	43例	長時間ビデオ脳波	98例
急性脳症	15例	急性期脳波	261例
自己免疫性神経疾患	12例	末梢神経伝導検査	31例
頭痛/心身症	46例	体温管理療法	7例

７．血液・腫瘍内科

【人事】

小阪副院長の退官に伴い、長谷川が小児がん医療センター長に就任した。医師人事については、正規医師の岸本健治医師（大阪国際医療センター）、兵頭さやか医師（開業）、フェロー医師の田中裕介医師（大阪大学小児科）、川場大輔医師（鳥取大学小児科）が転出し、正規医師として菊池菜摘医師（国立がん研究センター中央病院）、フェローとして上島可奈子医師（群馬県立小児医療センター）、高橋知滉医師（埼玉県立小児医療センター）、辻香菜（倉敷中央病院）、鳥井大輝医師（神戸大学専攻医）が入職した。センター長以下14名の体制で始動した。短期ローテーターの異動については割愛する。

科長（診療部長、小児がん医療センター長）	長谷川　大一郎
部長	森　健
部長	石田　敏章
部長	神前　愛子
部長	斎藤　敦郎
医長	植村　優
医長	二野　菜々子
医長	菊池　菜摘
フェロー	松尾　進
フェロー	吉川　なつこ
フェロー	上島　可奈子
フェロー	高橋　知滉
フェロー	辻　香菜
フェロー	鳥井　大輝

【診療活動】

小児がん拠点病院として県内11施設を小児がん連携病院として指定し、地域医療圏における診療連携･患者集約化を進めている。2025年度の悪性腫瘍／非悪性血液疾患の新規診断患者数は例年並みで、依然として腫瘍性疾患に関しては学会登録ベースで全国屈指／西日本最大規模の症例数を維持した。一方、平均稼働病床は43.4人/日と例年よりやや低下した。詳細はそれぞれ別表を参照されたい。また、神戸陽子線センターとの診療連携に伴う小児に対する陽子線治療照射実績についても単年度症例数ベースでは全国最多規模を維持している。また、造血幹細胞移植症例も積極的に行い、2025年の造血細胞数は25例であった。2025年度のCAR-T細胞療法実施数は２例であった。

人材育成に注力し、科内スタッフの専門医取得支援を進めている。本年度新たに取得したものを加えて、小児科専門医12名（指導医６名）、日本血液学会血液専門医８名（指導医４名）、日本小児血液･がん学会専門医５名（指導医１名）、日本造血細胞移植学会移植認定医５名、がん治療認定医６名、日本血栓止血学会認定医１名の体制となった。日本小児血液・がん学会新研修制度における研修施設群（兵庫県立こども病院グループ:神戸大学附属病院／香川医科大学附属病院）を形成して人材育成に取り組んでいる。今後も、安全かつ質の高い診療基盤と、小児血液･がん専門医取得を目指す教育施設としてより強固な基盤を築いていけるよう体制を整えていく。

多角的な療養環境の整備を進めている。緩和ケア医療の内容充実に向けて神前医師、二野医師が緩和ケアチームにおいて精力的に活動している。緩和ケア外来は必要に応じて院外症例の受け入れに向けて準備を進めており、小児緩和ケア加算の算定を開始した。日本緩和医療学会研修施設として認定されており、研修教育体制の整備を進めている。

日本血栓止血学会より血友病診療連携地域中核病院に指定されたことを受けて血友病診療需要も増加しつつある。日本血栓止血学会教育研修施設に指定された。先天性凝固異常症など血栓止血領域においても看護部、地域医療連携部等と連携して患者の生活の質（QOL）を最大化することを目標に、診療の質と地域連携の核として診療連携を深めていく。

【研究・学術活動】

臨床業務と並行して、日本小児がん研究グループ（JCCG）等の委員会活動・研究活動等に従事した。

	学会・研究活動
長谷川　大一郎	神戸大学客員教授／JCCG理事／JACLS理事長／JCCG-AML委員会／ユーイング肉腫委員会／JACLS-ALL委員会、日本小児血液・がん学会止血・血栓委員会、日本小児血液・がん学会白血病リンパ腫委員会、日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会委員
森　健	JCCGリンパ腫委員会／JCCG再発ALL委員会
石田　敏章	JCCG神経芽腫委員会／JCCG横紋筋肉腫委員会
齋藤　敦郎	JCCG移植・細胞療法委員会／JACLS支持療法委員会
植村　優	JCCG ALL委員会／JACLS ALL委員会
菊池　菜摘	JCCGユーイング肉腫委員会

成果としてJCCG等の臨床試験の結果が報告されたほか、神戸大学等の近隣研究施設と連携し基礎研究や疫学研究等に取り組んでいる。競争的研究費獲得実績として、厚労科研１件（分担）、文部科研基盤C（研究代表）１件、AMED研究費６件（分担）、その他の研究助成２件（研究代表者）を獲得した。研究学術活動においても地域を主導する機関として益々実績を積み上げていくことが期待される。

【2025年１月～12月　新患】

血液腫瘍性疾患	合計	45
急性リンパ性白血病（ALL）		16
急性骨髄性白血病（AML）		6
慢性骨髄性白血病（CML）		3
ホジキン悪性リンパ腫（HL）		2
非ホジキンリンパ腫（NHL）		4
骨髄異形成症候群（ＭＤＳ）		2
若年性骨髄単球性白血病（JMML）		2
Down症一過性異常骨髄増殖症（TAM）		3
ランゲルハンス組織球症（LCH）		2
血球貪食性リンパ組織球症（HLH）		3
若年性黄色肉芽腫		2

固形腫瘍性疾患	合計	91
神経芽腫群腫瘍		11
網膜芽腫		7
腎腫瘍		1
肝腫瘍		2
骨腫瘍		6
軟部腫瘍		9
頭蓋外胚細胞腫瘍		11
脳脊髄腫瘍		32
その他の固形腫瘍		12

非腫瘍性疾患	合計	147
免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）		10
本態性血小板増多少（ET）		0
好中球減少症		5
遺伝性球状赤血球症（HS）		3
再生不良性貧血		2
自己免疫性溶血性貧血（AIHA）		1
先天性赤芽球癆		1
サラセミア		1
血友病A（保因者含む）		8
血友病B		0
フォンヴィルブランド病（疑い含）		1
カサバッハ・メリット症候群		0
その他の凝固異常		3
組織球性壊死性リンパ節炎（SNL）		0
先天性免疫不全症		1
血縁ドナー（候補含む）		15
骨髄バンクドナー		3
その他		93

セカンドオピニオン	6

合計（セカンドオピニオン除く）	283

8．循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸　佐知子	フェロー	稲瀬　広樹
	田中　敏克		伊藤　啓太
	小川　禎治		渡邊　望
	亀井　直哉		上原　晴香
	久保　慎吾		
	三木　康暢		
	中井　亮佑		
非常勤	則武　加奈恵		

スタッフ７名、フェロー４名、他に専攻医数名。専攻医は２か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主なる目的とする。またフェローは１年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

【診療活動】

（１）外来：月曜日から金曜日まで週５日、基本２診体制で対応している。新規患者は毎日受け入れており、総新規患者数は676名で例年通りであった。新患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損（83）、心房中隔欠損（43）、肺動脈狭窄（18）、動脈管開存（24）、ファロー四徴症（５）などであった。カテーテル治療相談外来（木曜午前、担当：田中医師）や移行期外来（月曜午前、担当：城戸）、成人先天性心疾患外来（月曜午後、担当：城戸）、OD・不整脈外来（火曜午後、担当：小川）、ペースメーカー外来（木曜午後、担当：小川・三木）など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、加古川中央市民病院などでの診療応援（外来応援）を続ける一方、2013年１月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。

（２）入院：１年間の総入院患者数は572名で、昨年よりやや減少した。６西病棟だけでは収容しきれず、救急HCU病棟･GCUにも入院を受け入れていただいた。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、PICU, HCU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。

（３）生理検査：総心電図件数4971件、Master負荷心電図件数1370件、Holter心電図件数566件、トレッドミル負荷心電図は198件で昨年同等であった。心エコーは8433件と昨年と増加傾向であった。胎児心エコーは199件（担当：亀井医師　主として木曜日）で、昨年より増加減少していた。また、2016年に新たに心肺機能検査（CPX）を導入し、2025年は17件であった。

（4）心臓カテーテル検査・治療：総件数318件と昨年より大幅に増加した。カテーテル治療の件数は122件で昨年と同等であった。今後も治療件数は増加すると予想され、待機期間が約６か月となっていることから、待機期間を短縮するために、麻酔科に協力を依頼し、一昨年より、木曜日の偶数週の午後を使用できるようになったことに加え、今年度より奇数週の金曜日の午後が使用できるようになった。それにより待機期間の減少につながっている。

（5）心臓MRI：毎週火曜日の午後に行っている。総件数は35件で昨年と同等であり、今後は心臓カテーテル検査にとって代わり、増加していくことが予想される。検査枠の拡大が今後の課題である。

（6）造影CT：年々検査数は増加し、今年度は147件であった。

【その他の活動】

（1）カンファレンス：月曜日夕方、火曜日と木曜日朝に心臓外科との合同カンファレンス、水曜日朝にカテーテル検査前カンファレンス、夕方に心臓外科と合同の抄読会、火曜日と木曜日の夕方にカテーテル検査後カンファレンスおよび心エコー検討会、を行い、討議の時間をもっている。

（2）学会参加：小児循環器病学会、JPIC学会、胎児心臓病学会、成人先天性心疾患学会、HOT研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

【入院患者内訳】

全入院患者の疾患内訳	総数
（カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり）	572
フォンタン型手術関連疾患（いわゆる単心室型心臓）	160
ファロー四徴症	39
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	21
心室中隔欠損	35
心房中隔欠損	40
動脈管開存	17
両大血管右室起始	55
大動脈弓離断・大動脈縮窄	24
房室中隔欠損	20
大血管転位	15
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	17
肺動脈狭窄	8
心膜・心筋疾患	15
大動脈弁疾患（狭窄・逆流）	8
川崎病・冠動脈後遺症	16
総肺静脈環流異常	16
両大血管右室起始・房室中隔欠損	0
感染性心内膜炎	4

全入院患者の疾患内訳	総数
不整脈	14
エプスタイン奇形	10
総動脈幹症	6
僧帽弁閉鎖不全・狭窄	6
肺動脈弁欠損	0
肺高血圧	2
大動脈・肺動脈窓	0
修正大血管転位	5
その他	18
カテーテル治療（カテーテル総数件318, 重複あり）	122
弁形成（大動脈弁・肺動脈弁）	8
血管形成	37
ステント留置術	2
コイル塞栓術（動脈管開存）	0
コイル塞栓術（側副血管・動静脈瘻その他）	29
バルーン心房中隔裂開術	9
心房中隔欠損閉鎖術（Amplatzer, FF-II, GCA）	21
動脈管開存閉鎖術（Amplatzer）	13
その他	3

９．腎臓内科

【人事】

2025年３月末日をもって稲熊洋祐医長、木村裕香医師が転出し、４月１日から田中悠医長、池田茂生医師、小倉愛由医師が着任した。2025年12月末日時点での腎臓内科員は貝藤、田中（悠）、金、池田、小倉と、田中（亮二郎）（副院長・小児救命救急センター長）の６名体制であった。

【診療活動】

入院延べ患者数、外来延べ患者数は緩徐ながらも増加傾向が続いている。本年の腎生検は25例と例年の７割程度にとどまった。その要因は、学校検尿の要精査児童･生徒が少なかったこと、治療後の再生検症例が少なかったこと、などが挙げられる。このような要因にも関わらず入院延べ患者数が増加傾向にあるのは、当科が管理している腎疾患患児の重症度が年々増していることによる。実際2025年の入院内訳をみると、入院患者数のおよそ２割は腹膜透析を中心とした腎代替療法を行っている慢性腎臓病患児であった。当科での管理を継続している在宅腹膜透析患児は６名（2025年12月末日現在）である。先行的腎移植の導入が進み、腹膜透析患児は全国的に減少している。一方、周産期の集学的治療や小児がんの治療技術の進歩などによって、複雑な全身疾患を背景に有した慢性腎臓病患児が全国的に増加している。このような患児では腎移植が困難な場合も少なくないため、QOLやADLを維持・向上させうる腹膜透析が選択される機会が多い。当科で管理中の腹膜透析患児も、その多くが複雑な全身疾患を併存しており、腎臓移植の具体的予定をたてられないでいる。当科は、小児病院という特性から、新生児～生後早期の低体重児や、腹部外科手術後、あるいは集学的がん治療後の末期腎不全児に対する腹膜透析療法の経験を豊富に有している。今後も引き続き、当科の知見を学会等で内外に広く知らしめるよう努め、兵庫県にとどまらず、近隣府県におけるあらゆる慢性腎臓病患児への関わりを積極的にすすめていきたい。腎移植を要する患児については神戸大学泌尿器科をはじめ、他院にその手術を依頼し、慢性期管理は当院で行うことを原則としている。現在７名の腎移植後患児を外来管理している。急性腎障害の腎代替療法や維持血液透析に移行を要する慢性腎臓病患者の血液浄化療法については集中治療科と連携して診療にあたっている。

【研究・学術活動】

貝藤部長は日本小児腎臓病学会の代議員として小児CKD対策委員会に所属し、また田中部長は同じく日本小児腎臓病学会の代議員として医療安全・倫理・災害対応・COI委員会に所属し、それぞれ委員会活動に従事した。

当科は従来から医師主導治験や多施設共同臨床試験に積極的に参加してきた。当院は全国的にみても、症例が非常に豊富な小児腎臓病の一基幹施設であると自負している。医師主導治験は企業治験と異なり、参加施設への研究費配分が十分とは言えず、薬剤部をはじめとした院内の関係部署に多大なご協力をいただいてようやく実施できている状況である。この場を借りて関係部署の皆様にお礼を申し上げるとともに、院内治験管理部門がより一層充実することを期待したい。

【2025年の入院症例内訳】

N049　ネフローゼ症候群	41
（うち先天性ネフローゼ症候群	4）
N185　慢性腎臓病ステージG5D	21
N039　慢性腎炎症候群	12
D690　IgA血管炎	12
（うち紫斑病腎炎	4）
N028　IgA腎症	8
N189　慢性腎臓病（5Dを除く）	3
Z940　腎移植後	2
D593　溶血性尿毒症症候群	2
E748　原発性高シュウ酸尿症	1
I150　腎血管性高血圧	1
M321　ループス腎炎	2
その他（腎疾患に合併した急性感染症）	4
合　計	109
（うち腎生検症例	25）

10. 感染症内科

【スタッフと診療体制】

2025年度は組織再編により総合診療科と密に連携することとした。感染症内科の医師も総合診療科の診療に参加することで、入院患者の状態把握、重症児の予防接種計画などをより円滑に行えるようになった。常勤医も増員し、今年度はコンサルテーションをより多く受けられた。常勤医は笠井正志（部長)、水野真介（医長)、山田健太（兼総合診療科医長)、佐伯怜（フェロー)、坂本康大（フェロー)、長沢晋也（フェロー)、中田絢之（兼総合診療科フェロー）の７名。非常勤医として杉野充伸（杉野小児科医院）を招聘した。

【主な業務内容】

１．感染症診療支援

24時間365日体制で各診療科からコンサルテーションを受けている(年次推移を表に示す)。また院外からの相談も受けている。今年度はコンサルテーション件数が増加し、779件のうち329件は実際にベッドサイドでの診察も行うことができた。また、外来では不明熱、先天性感染症、渡航前後の感染症相談、予防接種の相談などの紹介を受けている。

年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
件数	518	697	714	847	605	594	605	410	608	779

２．感染対策に関わるチーム医療（ICT、AST）

感染管理認定看護師、薬剤師、臨床微生物検査技師と共に、感染対策チーム（ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の一員として活動している。今年度は電子カルテ上で抗微生物薬の処方セットを作成し、適正使用支援および医療安全の面で、医療の質の向上に貢献できた。

３．兵庫県予防接種センター業務

一般市民や行政、医療従事者からのワクチン相談を受けている（相談件数の推移を表に示す)。他にもワクチン接種困難者への予防接種や、教育活動として予防接種基礎講座を開催した。

年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
件数	5	34	46	38	33	33	31	31	37	36

11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は常勤医１名（森貞直哉、臨床遺伝専門医･指導医）が診療を担当している。また、認定遺伝カウンセラーが診療を補佐している。

【診療活動】

臨床遺伝科は院内外からの紹介を受けた遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や、他科診療患者の急な依頼にも可能な限り応じることとしている。

具体的な診療内容

- 遺伝性疾患のトータル管理：Down症候群、神経線維腫症１型、Noonan症候群など
- 臨床診断されている患者の原因遺伝子解析：結節性硬化症、Marfan症候群など
- 各種遺伝学的検査・研究的遺伝子解析の提出
- 他施設で解析された事例の遺伝学的説明：染色体異常など
- 次子再発率、発症前診断、出生前診断などの遺伝カウンセリング

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

【遺伝子解析・遺伝学的検査】

当院症例の遺伝子解析は、保険診療でできるものとできないもの両方を受諾している。

保険診療で対応できるものは各種検査会社（かずさDNA研究所など）に依頼している。

保険診療で対応できないものは、主に神戸大学小児科をはじめとする国内の研究機関との共同研究として行っている。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が主導するIRUDの地域拠点病院（神戸大学）の協力病院としても活動している。また慶應義塾大学･岡山大学とは新生児を対象に全エクソン解析、全ゲノム解析を用いてゲノム情報を診療に役立てるPriority-iを行なっている。

【学会、研究活動】

他施設との共同研究を含め活発に行なっている。詳細は別項参照。

【院外講演】

- 「小児・周産期のゲノム医療」森貞直哉．鳥取新生児医療研修会、2025年３月14日、米子市

【今後の展望】

IRUDや出生前診断、がんゲノムなど、一般診療においても臨床遺伝の知識は既に必須となっている。さらに、ごく近い将来網羅的遺伝子解析の保険適用や、全ゲノム解析データの臨床実装化が推進されると予想されており、当科ではこどもたちのために精緻で迅速な遺伝診療を推進していきたい。

【別表】

染色体異常

疾　患　名	症例数
1q21.1重複症候群	1
1番染色体腕間逆位	1
3q微細欠失	1
4p-症候群	2
4q25欠失症候群	1
5p欠失症候群	1
5pトリソミー	1
6q25欠失	1
Williams症候群	2
7q部分モノソミー	1
8番染色体腕間重複	1
9p重複症候群	3
Jacobsen症候群	1
Frasier症候群	1
11番染色体中間部欠失	1
12番染色体部分トリソミー	1
13番染色体長腕中間部欠失	1
13番染色体サブテロメア欠失	1
15番染色体異常	1
16p11.2欠失症候群	1
16p13.11欠失症候群	1
17p13.1重複症候群	1
17p13.2欠失症候群	1
Smith-Magenis症候群	1
19p微小欠失	2
20番染色体異常	1
Down症候群	71
22q11.2欠失症候群	11
22q11.2重複症候群	2
22q12欠失	1
22q13重複症候群	1
その他の染色体異常	24

先天異常症候群

疾　患　名	症例数
Al-Raqad症候群	1
Alstrom症候群	1
ARCN1-related disorder	1
Ayme-Gripp症候群	1
Baller-Gerold症候群	1
Bardet-Biedl症候群	4
Beals症候群	1
Beckwith-Wiedemann症候群	5
CFC症候群	1
CHARGE症候群	3
Coffin-Siris症候群	2
Cornelia de Lange症候群	3
Cowden症候群	2
Denys-Drash症候群	1
Desanto-Shinawi 症候群	1
DYNC1H1遺伝子異常	1
GDACCF	1
Genitopatellar症候群	1
Hao-Foutain症候群	1
HUWE1遺伝子異常	1
Joubert症候群	6
Kabuki症候群	8
Kagami-Ogata症候群	1
KAT5遺伝子異常	1
KAT6A遺伝子異常	1
KBG症候群	1
Kleefstra症候群	2
Klinefelter症候群	4
LMBRD2遺伝子異常	1
Malan症候群	1
MED12関連遺伝子疾患	1
Menke-Hennekam症候群	1
Mowat-Wilson症候群	1
nail-Patella症候群	2
Nicolaides-Baraitser症候群	1
Noonan症候群	23
Opitz G/BBB症候群　Type 1	1
Phelan-McDermid症候群	1
PHF8関連知的障害	1
Pierre-Robin症候群	1
PIK3CA関連疾患	3
Pitt Hopkins症候群	1
Prader-Willi症候群	2
RASA1関連異常	1

疾　患　名	症例数
RHOA-related disorder	1
Rubinstein-Taybi症候群1型	1
Rubinstein-Taybi症候群2型	1
Silver-Russell症候群	2
SLC25A22遺伝子異常	1
Smith-Kingsmore症候群	1
Smith-Magenis症候群	2
Snijders Blok-Campeau症候群	2
Sotos症候群	6
SOX10異常	1
SUPT16H異常症	1
Temple症候群	1
Turner症候群	5
VATER連合	1
Vici症候群	1
Watson症候群	1
Williams症候群	4
Xia-Gibbs症候群	1
Xq25三重複症候群	1
Yunis-Varon症候群	1
ZMYND11遺伝子異常	1
ZTTK症候群	1
神経線維腫症1型（疑い含む）	70
レジウス症候群	1
下顎顔面骨遺骨症 Guion-Almeida型	1
口顔指症候群1型	2
毛髪・鼻・指節症候群1型	1
鰓耳腎症候群	3
その他の先天異常症候群	6

神経疾患

疾　患　名	症例数
Angelman症候群	2
BPAN1	1
CDKL5異常症	1
Charcot-Marie-Tooth病	5
DDX3X神経発達異常症	1
Dravet症候群	1
KIF1A遺伝子異常	2
顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー（FSHD）	2
ネマリンミオパチー	2

疾　患　名	症例数
Laign型ミオパチー	1
Bethlem型ミオパチー	1
その他のミオパチー	2
MEF2C遺伝子異常	1
Rett症候群	1
SMALED2（spinal muscular atrophy, lower extremity-predominant, 2）	1
SYNGAP1関連知的障害	1
TRMT1関連知的障害	1
WASF1遺伝子異常	1
ACTL6B関連神経発達疾患	1
DST遺伝子異常	1
KCNQ2遺伝子異常	1
MECP2重複症候群	1
Pelizaeus-Merzbacher病	1
PLA2G6関連神経変性症	1
RAB39B 関連神経疾患	1
家族性痙性対麻痺	2
インフルエンザ脳症	2
先天性グリコシル化異常症	1
てんかん	9
全前脳胞症	1
水頭症	1
滑脳症・多小脳回・皮質形成異常	3
小脳失調	1
大脳白質異常	1
熱性けいれん	2
自閉症	7
その他の知的障害・発達遅滞	64

内分泌代謝疾患

疾　患　名	症例数
21水酸化酵素欠損症	1
原発性高シュウ酸尿症	1
OTC欠損症	1
SHOX異常症	1
シトリン欠損症	3
モルキオ症候群	1
低カルシウム血症	1
低ホスファターゼ症	1
過成長症候群	4
低血糖	3

疾　患　名	症例数
低身長	18
肥満症	1
偽性副甲状腺機能低下症	1
甲状腺ホルモン不応症	1
性分化疾患	1

循環器疾患

疾　患　名	症例数
遺伝性QT延長症候群（疑い含む）	16
Fallot四徴症	1
Marfan症候群（疑い含む）	14
Loeys-Dietz症候群	3
MYH7関連心筋症	1
Valsalva洞拡張	1
WPW症候群	1
カテコラミン誘発多形性心室頻拍	2
再発性心膜炎	1
完全房室ブロック	1
肥大型心筋症	1
拡張型心筋症	1
肺動脈性高血圧	1
その他の先天性心疾患	4
その他の不整脈	6

遺伝性腎疾患

疾　患　名	症例数
常染色体顕性多発性嚢胞腎	4
多発性嚢胞腎	3
慢性腎疾患	9
HNF1B腎症	1
Megacystis-microcolon intestinal hypoperistalsis syndrome（MMIHS5）	1
ネフロン癆	1
Finland型先天性ネフローゼ症候群	1
多嚢胞性異形成腎	3
片腎欠損	2
尿細管性アシドーシス	1
尿細管性蛋白尿	1
尿道下裂	1
Potter症候群	1
非典型溶血性尿毒症症候群	1

骨系統疾患

疾　患　名	症例数
Acrodysostosis type 2（PDE4D異常症）	1
Campomelic dysplasia	1
CHST3異常症	1
Crouzon症候群	1
Femoral-facial syndrome	1
FGFR2異常症候群	1
MCTO	1
Pfeiffer症候群	2
Stickler症候群	1
垂直距骨	4
関節拘縮	3
側弯症	1
前頭骨幹端異形成1型	1
四肢短縮	1
多発性外骨腫症	1
多発性離断性骨軟骨炎	1
腰椎形態異常	1
膝・股関節脱臼	1
軟骨低形成	1
軟骨無形成	1
骨形成不全症	4
易骨折性	3
進行性骨化性線維異形成症	2
頭蓋骨早期癒合	1
その他の骨系統疾患	4

血液・腫瘍性疾患

疾　患　名	症例数
Fanconi貧血	1
先天性貧血	1
Diamond Brackfan貧血6型	1
DICER1遺伝子異常	3
von Hippel Lindau病	1
X連鎖性リンパ増殖症	2
慢性肉芽腫	1
横紋筋肉腫	1
網膜芽細胞腫	4
先天性プロテインC欠乏	1
家族性血球貪食性リンパ組織球症	2
遺伝性球状赤血球症	1

その他

疾　患　名	症例数
KDSR異常症	1
Usher症候群	1
聴力障害	1
Kearns-Sayer症候群	1
COL4A1遺伝子異常	1
EBP遺伝子異常	1
Isolated hypoganglionosis	1
McCune-Albright症候群	1
NSUN3遺伝子異常	1
筋拘縮型Ehlers-Danlos症候群	2
古典型Ehlers-Danlos症候群	3
血管型Ehlers-Danlos症候群	1
ミトコンドリア病	2
リンパ管形成不全	1
周期性発熱	5
大頭症	5
小頭症	1
家族性滲出性硝子体網膜症	1
太田母斑	1
先天性白内障	1
その他の目の異常	1
歯の異常	1
帽状腱膜下出血・血腫	1
肝線維症	1
肥満細胞腫症	1
心停止	2
錐体杆体ジストロフィー	1
顔面血管腫	1

12. 精神科

【スタッフ】

部長	関口　典子
部長	持田　啓
医長	玉岡　文子
非常勤医師	長谷川　弘子
心理士	藤井　美有　　弓場　洋之　　沖村　心
非常勤心理士	４名
精神保健福祉相談員	岩崎　志野

常勤医師は３名、非常勤医師は１名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）が週１回半コマ外来を担当している。

【活動内容】

１）対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は学齢期が中心だが、近年中学生年齢の増加が目立っている。

２）診療活動は外来診療が主である。初診予約待ちは１か月程度で推移している。急を要する院内紹介には随時対応している。

３）コンサルテーション・リエゾン領域では、産科においてメンタルヘルス外来を行っているほか、緩和ケアチーム、臨床倫理コンサルテーションチームの一員として活動している。その他の分野においても心因性の身体症状や虐待をはじめとして精神科が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。総合病院における精神科の役割として、他科と細やかで緊密な関係をとることを目指している。

４）児童精神科領域での啓蒙、教育研修として、医学部６年生、心理学大学院生の実習の受け入れを行った。兵庫県の子どもの心の診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

令和６年　新患分布

			1-2 幼児 前期	3-5 幼児 後期	6-8 学童 前期	9-11 学童 後期	12-17 中学 高校	18歳 以上	計
F0	F06	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害					1		1
F1	F19	多剤使用および他の精神作用物質使用による精神および行動の障害					1		1
F2	F20	統合失調症					1		1
	F23	急性一過性精神病性障害					2		2
F3	F31	双極性感情障害					1		1
F4	F40	恐怖症性不安障害			1	1	1		3
	F41	他の不安障害				3	1		4
	F42	強迫性障害			3	4	2		9
	F43	重度ストレス反応［重度ストレスへの反応］および適応障害		1	12	10	30	3	56
	F44	解離性［転換性］障害		1	3	7	5		16
	F45	身体表現性障害			3	8	8	1	20
F5	F50	摂食障害				2	3		5
	F51	非器質性睡眠障害			1		1		2
F6	F63	習慣および衝動の障害					3		3
F7	F70	軽度精神遅滞［知的障害］			9	7	8		24
	F71	中度［中等度］精神遅滞［知的障害］				1			1
	F72	重度精神遅滞［知的障害］			1		2		3
F8	F82	運動能力の特異的発達障害					1		1
	F84	広汎性発達障害		3	27	16	8		54
F9	F90	多動性障害			4	8	4		16
	F91	行為障害				2	4		6
	F93	小児期に特異的に発症する社会的機能の障害		1	2				3
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害		1	3				4
	F95	チック障害			2	1	1		4
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害		2	2	2			6
他		その他		3	9	10	12	4	38
計			0	12	82	82	100	8	284

【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉相談員は、こどもとおやの相談室として活動している。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉相談員でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施することを目指している。

① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を行っている。

入院では、様々な科と連携を取りながら介入を行っているが、小児がん拠点病院として血液腫瘍科との連携や、ターミナル期のサポートとして集中治療科との連携を主に行っているほか、新たに入院時重症患者対応メディエーターとして周産期医療や集中治療科からの依頼に応じている。また、緩和ケアチーム、臨床倫理コンサルテーションチームの一員としても活動している。

② 精神保健福祉相談員

外来、入院において、精神保健福祉に関する様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

心理士

項目 / 診療科	アセスメント			本人					家族			スタッフ	新患
	知能発達	性格	その他	プレイセラピー	カウンセリング	心理サポート	小児ガンフォロー	メディエーター	相談	結果報告	メディエーター	カンファ	
救急総合診療科	49	3	9						1				29
代謝内分泌科	75												7
神経内科	51	1	2						2				31
血液腫瘍科	25						1,602		31	2		7	34
循環器科	4					21			1	1		2	2
腎臓内科	2												
臨床遺伝科	9												6
新生児科	91										6		47
精神科	213	203	210	20	33	34			1				156
脳神経外科	35		6			28			2	2			17
整形外科												1	1
耳鼻咽喉科	5	1											3
救急集中治療科								2	8		63	9	14
産科								63	1		8		16
その他の科	1												1
合　　計	560	208	227	20	33	83	1,602	65	47	5	77	19	364

精神保健福祉相談員

2025（R7）年　1～12月

【相談内容別】

相談内容／対象	本人・家族	院内	保健福祉機関	児童相談所	学校・園・教育関係	訪問看護	福祉施設	その他	計
福祉・経済問題	94	60	4	3	0	0	7	15	183
療養問題	52	51	1	2	0	37	5	13	161
教育問題	27	14	0	0	103	0	5	0	149
家庭問題	4	5	0	0	0	0	0	1	10
心理情緒的問題	17	14	0	7	0	0	0	7	45
養育問題	15	210	30	17	5	1	0	6	284
受診援助	356	369	8	19	3	12	10	336	1,113
その他	2	11	0	0	0	0	0	3	16
計	567	734	43	48	111	50	27	381	1,961

【支援方法別】

面　接	164	297	1	1	12	2	0	2	479
電　話	394	330	41	40	94	35	25	145	1,104
文　書	9	107	1	7	5	13	2	234	378
計	567	734	43	48	111	50	27	381	1,961

【初回相談依頼】

救急総合診療科	4
集中治療科	1
代謝内分泌科	1
腎臓内科	0
精神科	53
小児外科	0
脳神経外科	1
整形外科	2
その他の科	271
家族	82
学校	4
こども家庭センター	2
市	3
その他	6
計	430

カンファレンス　101件

13. 小児外科

小児外科スタッフ

畠山　　理（科長・家族支援・地域医療連携部長兼務）
横井　暁子（部長）
久松千恵子（医長）
森田　圭一（医長：３月まで）
田村　　亮（医長：８月から）
村上　紫津（医長）
中谷　太一（医長：４月から）
福井　慶介（３月までフェロー、４月から医長）

フェロー

冨岡雄一郎
植村光太郎（３月まで）
吉村　翔太（４月からチーフフェロー）
植松　綾乃
佐々木　航

【人事異動】

2025年４月に複数名の人事異動があった。

スタッフでは３月末に森田医師が兵庫県立がんセンター呼吸器外科に異動となった。また４月から中谷医師が兵庫県立はりま姫路医療センターから当院に異動となった。４月から福井医師がフェローからスタッフに昇格した。

フェローでは３月末で植村医師が姫路赤十字病院に異動となった。

2025年８月に田村医師が海外留学から同院に赴任となった。

【診療活動】

入院手術は　603件、日帰り手術158件、総手術件数は763件であった。新生児外科手術例は31件であった。

カンファレンスについては、科内のカンファレンスは例年通り１）病棟カンファレンス（毎日朝･夕）、２）抄読会（週１回）を開催し、多職種カンファレンスでは、１）術前カンファレンス（週１回　放射線科診断医師参加）、２）術後カンファレンス（週１回　放射線診断科医師･病理診断科医師参加）、３）周産期カンファレンス（週１回　新生児内科参加）を開催、その他ICUカンファレンス（毎日朝）、腫瘍カンファレンス（週１回）、循環器カンファレンス（適時）に参加した。

当科の特色としては

１．高度専門医療

- 小児呼吸器外科：気管狭窄症・声門下腔狭窄症の手術に関しては日本で最多の症例数と治療成績を誇っている。小児外科・心臓血管外科・麻酔科・集中治療科が密接に連携、チーム医療を推進し、西日本を中心に全国から症例が集まっている。

2．新生児外科

- 総合周産期母子医療センターも一翼を担い出生前診断症例治療にも積極的に参画している。
- ３名の新生児認定外科医を中心に、新生児外科症例にも常に万全の体制で対応できるようにしている。

3．小児救急医療

- 小児救命救急センターの一員として重要な役割を担い、救急要請には100％対応できているようにしている。
- 外傷を含めた小児の救急疾患に対して、救急診療科、集中治療科と連携し、いつでも対応できる体制をとっている。

4．小児がん医療

- 小児がん拠点病院として多数例の固形腫瘍手術を行っている。３名の小児がん認定外科医を中心に、血液･腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科とチームを組んで最善の治療が提供できるように心がけている。隣接する神戸陽子線センター関連の難治性症例も年々増加している。

5．日帰り手術

- 鼠径ヘルニアをはじめとする短時間の手術は麻酔科の協力のもと、できる限り日帰り（１日入院）手術を推奨している。

6．障がい児に対する外科治療

- 障がい児に対する外科治療を積極的に進め､県内の療育施設と連携を取りながら外科治療の部分を担当している。

7．内視鏡外科手術の推進

- 内視鏡外科手術をはじめとした低侵襲手術に積極的に取り組んでいる。１名の内視鏡外科技術認定医を中心に病態にあわせたもっともよい治療を選択できるように取り組んでいる。

手術症例

頭頚部	頸部リンパ管腫		4
	甲状舌管嚢胞摘出術		3
	側頚瘻摘出術		
	梨状窩瘻摘出術		0
	経口的梨状窩瘻摘出		0
	喉頭気管食道裂手術		0
気道	声門下腔狭窄症		
		PCTR	0
		バルーン拡張	0
		レーザー焼却	0
		その他	0
	気管狭窄症		
		スライド気管形成術	15
		縫合不全・再形成	0
		その他の気管形成	0
		気管バルーン拡張術	0
		レーザー焼却	0
	後天性気管狭窄	端々吻合	0
	気管軟化症	前方固定	0
		気管後方固定術	1
	喉頭嚢胞切除		0
	気管切開術		23
	気管切開孔形成術		0
	気管切開孔閉鎖術		1
	喉頭気管分離術		1
	腕頭動脈離断術		0
	腕頭動脈胸骨固定術		0
	血管輪手術		0
肺	気胸手術		0
	肺部分切除		1
	開胸肺葉切除		0
	胸腔鏡下肺葉切除		2
	肺区域切除術		0
	胸腔鏡下肺生検		0
	肺剥皮術		0
胸壁	漏斗胸		
		Nuss bar挿入術	2
		Nuss bar抜去術	0
		Ravitch　その他	0
	乳び胸手術		0
	膿胸手術		3
横隔膜	先天性横隔膜ヘルニア	開胸閉鎖	0
		開腹閉鎖	3
		胸腔鏡下閉鎖	2
		腹腔鏡下閉鎖	0
	横隔膜弛緩症	開胸縫縮	0
		開腹閉鎖	0
		胸腔鏡下縫縮	0
		腹腔鏡下縫縮	0
食道	食道閉鎖症		
		TEF離断　食道食道吻合	1
		食道食道吻合術	1
		TEF離断　胃瘻造設術	2
		食道バンディング＋胃瘻	1
		胸腔鏡下食道閉鎖根治	2
		その他	1
	先天性食道狭窄症		
胃	胃瘻造設術	開腹	1
		PEG	0
		腹腔鏡(補助)下胃瘻造設術	4
		胃瘻再造設	0
	胃瘻閉鎖術		2
	噴門形成術		
		開腹	0
		腹腔鏡下	17
	肥厚性幽門狭窄症手術		3
	胃軸捻転に対する胃固定術		0
十二指腸	十二指腸閉鎖・狭窄症手術		2
小腸・大腸	腸回転異常症手術		3
	小腸閉鎖・狭窄症根治術		1
	観血的腸重積整復術		0
	メッケル憩室切除術		2
	腸閉塞解除術・腸管切除術		4
	腸管重複症手術		0
	H病/類縁疾患		
		腹腔鏡補助下Swenson手術	0
		腹腔鏡補助下Duhamel手術	0
		腹腔鏡補助下Soave手術	2
		経肛門Soave手術	0
		開腹Swenson手術	0
		直腸・結腸生検	1
		人工肛門造設・再造設術	3
	腸瘻造設・閉鎖・吻合		0
		胎便関連性腸閉塞	1
		特発性消化管穿孔	1
		壊死性腸炎	7
	胎便性腸閉塞		
	内ヘルニア手術		
		腸間膜裂孔ヘルニア	0
	外傷性消化管穿孔縫合閉鎖		0
	虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	28
		開腹虫垂切除術	0
	人工肛門ポリープ切除		0
	消化管ポリープ切除		0
	膵腸瘻手術		0

直腸肛門	直腸肛門奇形/鎖肛		
		LAARP	4
		PSARP	4
		仙骨会陰式	0
		肛門移動術（Potts）	0
		カットバック	4
		直腸前庭瘻閉鎖術	0
		人工肛門造設術	2
		人工肛門閉鎖術	4
		人工肛門再造設	0
		再肛門形成術	0
		Cloaca根治術	0
		膣形成	1
	肛門粘膜脱切除		5
	直腸脱手術		
		腹腔鏡	0
	肛門括約筋形成術		
	肛門周囲膿瘍手術		
	摘便		1
	肛門ポリープ切除		1
肝胆膵脾	先天性胆道拡張症		
		開腹	0
		腹腔鏡	1
		胆嚢瘻造設	1
	胆道閉鎖症		1
	肝生検		
	腹腔鏡下/開腹胆嚢摘出術		3
	門脈圧亢進症手術		0
	Rexシャント手術		0
	肝部分切除術		0
	肝外傷開腹止血術		0
	腹腔鏡下脾臓摘出術		1
	膵尾部切除術		0
	膵頭十二指腸切除術		0
腹壁	臍帯ヘルニア		0
		一期的閉鎖	0
	腹壁破裂		
		腹壁閉鎖術	1
	鼠径ヘルニア		
		鼠径法	55
		LPEC	103
		腹腔鏡補助下内鼠径	
	臍ヘルニア		23
	臍ポリープ切除		1
	腹壁・白線ヘルニア		0
泌尿・生殖器	精巣固定術		
	陰唇癒合剥離術		
	尿膜管遺残摘出術		2
	膀胱拡大術		1
腫瘍	肝芽腫		
		開腹腫瘍生検	0
		腫瘍摘出術	0
	神経芽腫		
		腫瘍生検	1
		腫瘍摘出術	3
	腎芽腫		
		腫瘍生検	0
		腫瘍摘出術	1
	胚細胞腫瘍		13
		生検	1
	肉腫		0
	縦隔腫瘍生検		5
	リンパ節生検		1
	その他の腫瘍生検		1
	その他の腫瘍切除		4
	リンパ管腫硬化療法		2
	リンパ管腫切除		0
	皮膚・皮下腫瘍摘出術		1
処置・検査	胸腔ドレナージ・ドレーン留置		23
	縦隔洗浄ドレナージ		0
	切開排膿・デブリードメント		7
	開腹止血術		0
	長期留置型CVカテーテル留置		88
	長期留置型CVカテーテル抜去		65
	中心静脈ポート留置　抜去		1
	PDカテーテル留置/抜去		7
	ドレナージ手術		1
	V-Pシャント		1
	気管支鏡検査・処置		100
	気管支鏡下肉芽切除・レーザー焼却		4
	気管支鏡下異物摘出		3
	上部消化管内視鏡検査		30
	上部消化管異物摘出		3
	食道バルーン拡張		11
	ERCP		0
	下部消化管内視鏡		8
	下部消化管ポリペクトミー		0
	その他		0
	スペーサー留置		1

新生児外科症例

病　　名	治　　療
先天性十二指腸閉鎖	根治術
新生児消化管穿孔	腹腔ドレナージ
Hirschsprung病類縁疾患	回腸瘻造設術
直腸肛門奇形	カットバック手術
先天性卵黄静脈瘤	卵黄静脈瘤切除術
新生児結腸穿孔	人工肛門造設術
新生児消化管穿孔	回腸瘻造設術
先天性十二指腸閉鎖	根治術
新生児消化管穿孔	穿孔部閉鎖
C型食道閉鎖	TEF離断、胃瘻造設
C型食道閉鎖、術中気管支損傷	全麻下気管挿管チューブ入れ替え
C型食道閉鎖	TEF離断、胃瘻造設
先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下胸腹裂孔ヘルニア手術
先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下胸腹裂孔ヘルニア手術
腹壁破裂	サイロ形成
腹壁破裂	腹壁閉鎖術
先天性横隔膜ヘルニア（重症）	サイロ形成、ECMO
後腹膜未熟奇形腫	摘出術
新生児消化管穿孔	回腸瘻造設術
胎便性腹膜炎	嚢胞ドレナージ
無顎症	気管切開術（EXIT）
無顎症	食道バンディング、胃瘻造設
胎便性腹膜炎	腸瘻造設術
低位鎖肛	一期的根治術
低位鎖肛	一期的根治術
壊死性腸炎	サイロ形成術
壊死性腸炎	腸瘻造設術
腸回転異常、中腸軸捻転	Ladd手術
壊死性気管支炎	気管支鏡検査
直腸肛門奇形	横行結腸人工肛門造設術
先天性横隔膜ヘルニア	開腹パッチ閉鎖術

14. 心臓血管外科

【スタッフ】

心臓血管外科科長	松久　弘典
医長	松島　峻介
医長	岩城　隆馬
医長	東田　昭彦
フェロー	久保　沙羅
フェロー	岡田　翼（９月まで）
専攻医	草木迫　充（10月から）

９月末でフェローの岡田翼医師が18カ月の修練を終え、神戸大学への異動となり、10月からは加古川中央市民病院外科専攻医プログラムに所属する草木迫充医師が当院での小児心臓外科研修を開始し、６人体制を維持した。

【診療体制】

外　　来：月、水、金の午前・午後１診

手　　術：定期手術は月、火、水、木、金

2025年の心血管手術は人工心肺使用160件（新生児12件）、人工心肺非使用34件（新生児20件）、その他52件であった。心疾患症例の在院死亡は２例であった。

地域連携：患者紹介元全医療機関を対象とした地域連携カンファレンスを開催しており、２月８日に第12回（院外参加24名）、６月28日に第13回（院外参加33人）、12月20日に第14回（院外参加42）を開催し、地域連携の強化を図っている。

教育活動：神戸大学３回生を対象とした学生講義（先天性心疾患の外科治療）を松久／松島が担当した。日本小児循環器学会主催小児心臓血管外科ウィンタースクールが３月２日に東京で開催され、松久が実技指導を行った。また神戸大学心臓外科との共同開催での中堅心臓外科医を対象とした、ウェットラボ（Advanced-adult/congenital heart training course）を３月22日に開催した。９月20日にはCHSS-Japan西日本合同ハンズオンセミナーを主催し、西日本を中心に若手小児心臓外科医15名が参加し、先天性心疾患モデルを使用した手術トレーニングを行った。12月８日にはHong Kongにて第９回World Congress of Pediatric Cardiology & Cardiac Surgeryの一環としてアジア小児心臓外科医会の３D Surgical Workshopが開催され、松久が実技指導を行った。小児心臓血管外科医生涯育成プログラムでは、昨年に引き続いて松久が委員長としてプログラムを運営し、全国の小児心臓外科医育成に注力している。

研究・学術活動：国際学会では松島医師が５月の第106回アメリカ胸部外科学会および10月の第39回欧州心臓胸部外科学会で発表を行い、松久が12月の第９回世界小児循環器・心臓外科学会で発表を行った。また昨年に引き続き神戸大学・兵庫県立大学との共同研究の一環として、松島／久保が大動脈弁・肺動脈弁モデルを作成し、兵庫県立大学での流体解析およびSPring-８にてその弁挙動を精密解析する実験を行った。

2025年人工心肺手術

術式（疾患）	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総　数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA				1											
CoA（simple）				3											
+VSD	1			1											
+TGA				1											
IAA+VSD				2											
+Truncus	1			1											
Vascular ring				1			2								
PA-IVS or critical PS	1			2											
（BDG）				1											
（Fontan）							1								
TAPVR	5		1	1											
PAPVR±ASD							2								
ASD				2			8								
AVSD（complete）				3			1								
+TF or DORV							1								
VSD（Ⅰ）				4			7								
VSD（Ⅱ or Ⅳ）	1			16			8								
TOF				6			3								
PA+VSD（Rastelli）				2			1								
（SP shunt）				5		1									
（UF±shunt）				1											
DORV				2			4								
TGA（simple）	2														
TGA+VSD+PS				2											
SV　（SP shunt）				4											
（Norwood）				2											
（BDG）				5			1								
（Fontan）							7								
TA　（SP shunt）				1											
（Fontan）							1								
HLHS（Norwood）				3											
（その他）							3								
（BDG）				3											
Aortic valve（弁置換）							1			1					
（Yasui）							1								
SAS							1								
Mitral valve（MR弁置換）							1								
Coronary disease							1								
その他	1						1								
再手術　PS解除							1								
RV-PA導管再置換							10			3					
その他							3								
総　数	12	0	1	75	0	1	70	0	0	3	0	0	160	0	2

2025年人工心肺非使用症例

疾患	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	10			3											
CoA+VSD	3														
IAA+VSD	1														
Vascular ring				4			2								
AVSD（complete）	1														
VSD（ⅡorⅣ）				2											
DORV	2			1											
TGA+VSD+PS				1											
HLHS（bill, PAB）	3														
その他				1											
総数	20	0	0	12	0	0	2	0	0	0	0	0	34	0	0

主な術式	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	
体肺動脈短絡術	1			7		1	3						11
肺動脈絞扼術	5			4									9
両方向性Glenn手術±α				8			1						9
肺動脈再建・形成術	1			5			7						13
右室流出路形成術							13			1			14
Rastelli型手術				5			3						8
動脈スイッチ手術	2												2
冠動脈瘻手術							1						1
Fontan型手術							10						10
Norwood手術	1			6									7
左側房室弁形成術				1									1
共通房室弁置換手術							1						1
大動脈弁上狭窄手術							1						1
大動脈弁置換術							1						1
大動脈弁輪拡大術							1						1
両側PAB	7												7

その他術式	例数
皮下膿瘍、デブリードメント	2
縦隔炎手術	4
ペースメーカー植え込み	2
ペースメーカー電池交換	7
心嚢ドレナージ	9
ECMO装着（ショック）	2
ECMO装着（気管形成術等）	7
ECMO装着（呼吸不全）	8
ECMO関連術式	3
頸動脈カットダウン	1
血腫除去	4
静脈結紮	1
胸骨ワイヤー抜去	1
大動脈／肺動脈吊上げ	1
総数	52

15. 脳神経外科

当施設は全国の小児神経外科医、あるいは脳神経外科に在籍し小児神経外科研修を要する若手医師における情報交換や国内研修を担う基幹となる施設の役割を担い、西日本を中心に広く小児神経外科症例に対する診療を行っている。また2017年11月より日本こども病院神経外科医会事務局が設置され、全国のこども病院脳神経外科医の交流、情報交換を支援し、小児神経外科症例の研修受け入れも継続している。

2025年度は河村淳史（診療科長〈部長〉、小児がん医療センター次長兼任）が隣接する神戸陽子線センター副センター長を兼任しながら、小山淳二（部長、小児救命救急センター部長兼任）、阿久津宣行（部長）の臨床指導医３名と、神戸大学医学部脳神経外科教室ローテーション医師２名との計５名で、診療に従事した。また産業医科大学脳神経外科教室から武田　康先生を小児神経外科研修に受け入れた。

脳神経外科専門医研修の一環としては、神戸大学脳神経外科教室より2024年７月１日～2025年１月14日に金永珠先生、2024年10月１日～2025年３月31日に香川裕哉先生、2025年１月15日～６月30日に岡藤悠真先生が専攻医、2025年４月１日～2025年９月30日に田邊大季先生がフェロー、2025年７月１日～12月31日に中村啓介先生、2025年10月１日から源吉　駿先生が専攻医として着任した。また神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科から６月に高松昴央先生、９月に徳田匡紀先生、12月に吉本　舞先生が派遣され小児神経外科を研修した。

診療活動では2025年は、外来新規患者数、再診患者数は比較的維持出来ており、北米、東南アジアに海外赴任なさっている邦人症例の帰国・受診・治療も確立してオンラインでの対応も含めて比較的堅調であったと言える。当施設脳神経外科の特色は当科単独ではなく、複数科との時間的、空間的緊密な縦横連携によるチーム医療であり、集学的治療を必要とする小児脳脊髄腫瘍の治療をはじめ、整形外科・泌尿器科・新生児内科との密な連携が必要な二分脊椎症例や、整形外科と合同の環軸椎脱臼や側弯症例の治療・外来管理、また救急・集中治療科をはじめ多数の関連科との協力が必要な頭部外傷を含む多発外傷症例を主とした救命救急診療などを中心に継ぎ目のない積極的な診療に取り組んでいる。

当施設は全国に15施設しかない小児がん拠点病院であることから、血液腫瘍内科・放射線診断科・臨床病理部と、隣接した神戸陽子線センター放射線治療科との連携で多くの小児脳･脊髄腫瘍の治療経験を有している。特に小児がん拠点病院として患児･家族に対して全人的医療を実施するために必要な部署と連携して院内での教育、リハビリも含めて治療チームを編成し、入院･外来で安心して頂けるよう診療に従事している。また入院中から外来に渡って必要な症例に対して緩和治療も医療チームにて継続している。外来では、青年期ＡＹＡ世代に至るまで長期の追跡・病態・生活評価・支援、移行期医療を担い、高次機能評価を元に、就学支援、就労支援に力を入れている。また新たな治療として３歳未満の症例も含めて放射線治療が必要であれば、他施設からの陽子線治療希望症例を随時、相談・受付しやすい環境を整えている。

更に広く普及し始めた毎週月曜日の『頭の形外来』では、ヘルメットによる矯正の適応、また外科的治療の適応症例を対象に治療を行っている。また頭部外傷に関しては精神科、神経内科、総合診療科、救急科、集中治療科、検査部、看護部、家族支援・地域連携部、外来スタッフ、病棟スタッフ、MSW、PSW、総務課、医事企画課、当科などを含む多職種チーム医療で対処を行っている。

先に述べた陽子線治療は、小児脳･脊髄腫瘍に対する放射線治療として晩期合併症を軽減できると期待されている新しい放射線治療法で、2025年も九州、四国地区をはじめ他施設からの症例も増加して関東地方の小児医療施設まで広がり、脳脊髄腫瘍に対して照射も堅調である。治療は隣接する神戸陽子線センター小児専用の照射室で照射を行うが、当院１階の渡り廊下で往来できるため当施設に入院しながら治療が可能である。隔離された小児専用の照射室、診察室を備えており、当院入院のままで化学療法を受けながら照射が可能であり、また常駐小児麻酔科による毎日の鎮静による治療も可能となっている。現在では、緻密な照射の調整が可能で、

全脳全脊髄照射にも有利なスキャン照射が可能である。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術･治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションなどを更新､最新手術機器導入により困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持している。また下記の学会への参加も積極的に行い、小児血液がん学会脳腫瘍委員会やその他の臨床試験、治験を担い、臨床研究にも従事している。

その他の活動

（1）カンファレンス；毎週水曜日　腫瘍治療検討会、月１回　二分脊椎カンファレンス、
随時　頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会

（2）学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コングレス、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会学術集会、小児血液・がん学会学術集会、日本小児脳腫瘍カンファレンス、日本脳腫瘍病理学会学術集会、日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会、日本脳神経外傷学会学術集会、Craniosynostosis研究会、日本てんかん学会、日本てんかん外科学会、日本子ども虐待医学会、近畿脳腫瘍病理検討会などへの参加

脳神経外科病床数		10
脳神経外科的手術の総数		161
脳腫瘍	摘出術	20
	生検術（開頭術）	0
	生検術（定位手術）	0
	経蝶形骨洞手術	0
	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	0
	その他	2
脳血管障害	破裂動脈瘤	0
	未破裂動脈瘤	0
	脳動静脈奇形	2
	頸動脈内膜剥離術	0
	バイパス手術	4
	高血圧性脳内出血（開頭血腫）	0
	高血圧性脳内出血（定位手術）	0
	その他	9
外傷	急性硬膜外血腫	1
	急性硬膜下血腫	2
	減圧開頭術	0
	慢性硬膜下血腫	4
	その他	2
奇形	頭蓋・脳	20
	脊髄・脊椎	23
	その他	4

水頭症	脳室シャント術	23
	内視鏡手術	10
	その他	11
脊髄・脊椎	腫瘍	1
	動静脈奇形	1
	急性疾患・変形性脊椎症	0
	急性疾患・椎間板ヘルニア	0
	急性疾患・後縦靱帯骨化症	0
	脊髄空洞症	0
	その他	0
機能的手術	てんかん	0
	不随意運動・頑痛症	0
	脳神経減圧症	0
	その他	1
その他		21
血管内手術	総数	0
	動脈瘤塞栓術（破裂）	0
	動脈瘤塞栓術（未破裂）	0
	動静脈奇形	1
	閉塞性脳血管障害	0
	［内ステント使用例］	0
	その他（腫瘍血管塞栓術）	0
定位的放射線治療	陽子線治療	28

脳神経外科　専攻医指導記録

専攻医　　金　永珠
研修期間　2025/01/01～2025/01/14　（研修期間最終14日間）
指導医　　河村　淳史、小山　淳二、阿久津　宣行

症　　例	執　刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術			
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		2	
脊椎・脊髄奇形		3	
水頭症脳室シャント	2	2	
神経内視鏡手術	2	1	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他	3	1	
血管内手術			
計	7	10	17
合　　計			17

フェロー　　田邊大季
研修期間　2025/04/01～09/30
指導医　　河村　淳史、小山　淳二、阿久津　宣行

症　　例	執　刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		7	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		3	
脊椎・脊髄奇形		9	
水頭症脳室シャント	2	6	
神経内視鏡手術		2	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他		5	
血管内手術			
計	2	33	35
合　　計			35

専攻医　　香川裕哉
研修期間　2025/01/01～2025/03/31　（研修期間後半3ヶ月）
指導医　　河村　淳史、小山　淳二、阿久津　宣行

症　　例	執　刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術			
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		2	
脊椎・脊髄奇形		3	
水頭症脳室シャント	2	2	
神経内視鏡手術	2	1	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他	3	1	
血管内手術			
計	7	10	17
合　　計			17
計	14	20	34
合　　計			44

専攻医　　中村啓介
研修期間　2025/07/01～12/31
指導医　　河村　淳史、小山　淳二、阿久津　宣行

症　　例	執　刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		9	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫	1		
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		3	
脊椎・脊髄奇形		6	
水頭症脳室シャント	3	1	
神経内視鏡手術		3	
脊椎・脊髄腫瘍		1	
脊髄空洞症			
その他	4		
血管内手術			
計	8	25	33
合　　計			33

フェロー　　岡藤悠真
研修期間　2025/01/15～06/30
指導医　　河村　淳史、小山　淳二、阿久津　宣行

症　　例	執　刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		7	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		3	
脊椎・脊髄奇形		9	
水頭症脳室シャント	2	6	
神経内視鏡手術		2	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他		5	
血管内手術			
計	2	33	35
合　　計			35

専攻医　　源吉　駿
研修期間　2025/10/01～12/31　（研修期間前半3ヶ月）
指導医　　河村　淳史、小山　淳二、阿久津　宣行

症　　例	執　刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		4	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形			
脊椎・脊髄奇形		3	
水頭症脳室シャント	1	3	
神経内視鏡手術		3	
脊椎・脊髄腫瘍		1	
脊髄空洞症			
その他	1		
血管内手術			
計	2	14	16
合　　計			16

16. 形成外科

2025年度は4月付けで寺北崇人医師、深山裕美医師の転出に伴い、米谷公佑医師、團野安純医師の就任を迎えた。昨今の県下の出生数減少の影響は今まであまり感じていなかったが、臨床の場においても少しずつ実感してくるようになった一年であった。新患数や手術件数に大きな影響は出ていないものの、唇顎口蓋裂を始めとしたある程度専門的な治療を要する先天奇形の新規紹介は明らかな減少傾向にある中で、診療科のアクティビティーを維持する試みとして以下の二点に注力している。第一に産科との連携下に、胎児診断のついた母体の面談を積極的に行った。特に先天性形態異常の胎児エコー診断症例に対し、母親との面談を行うことで出生前に一定の信頼関係を醸成し、出生後のスムーズな治療開始に結び付けられていると考える。第二に様々な形態異常に対する術後の整容的な二次修正の手術に注力した。思春期以降の患児本人の整容的な要望にも極力寄り添い、形成外科的手技にて対応できる方針を幅広く提供できるように手術手技の向上に努めた。キャリーオーバー症例の引継ぎも大きな課題ではあるが、それと同様に移行期（いわゆるAYA世代）年齢への診療の質は、今後もより一層取り組むべき課題と考えている。

年間の患者数及び手術件数　　2025年1月1日～12月31日

形成外科新患者数	198 名	†
形成外科入院患者数	292 名（延べ人数ではない）	

形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	292 件	（合計 292 件）
	腰麻・伝達麻酔	0 件	
	局所麻酔・その他*	0 件	
外来手術	全身麻酔	111 件	（合計 509 件）
	腰麻・伝達麻酔	1 件	
	局所麻酔・その他*	397 件	*その他には無麻酔や分類不明を入れる

手術内容区分

区　分	件数						
	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
Ⅰ. 外傷	17			4		1	22
Ⅱ. 先天異常	200			29		1	230
Ⅲ. 腫瘍	54		1	43		4	102
Ⅳ. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	16			1			17
Ⅴ. 難治性潰瘍							0
Ⅵ. 炎症・変性疾患							0
Ⅶ. 美容（手術）							
Ⅷ. その他							
Extra. レーザー治療	5		1	34	1	389	430
大分類計	292	0	2	111	1	395	801

17. 整形外科

2025年度の整形外科の人事では４月に山本茜先生が加西市民病院に転出し、入れ替わりに山口純伶先生が着任した。また2025年７月から2026年２月まで北村仁美先生が産休に入ったためその期間、元野紘平先生が大学の医局から派遣され業務の手伝いに入ってもらった。小林大介部長、坂田亮介部長（リハビリテーション科長兼務）、衣笠真紀部長、森下雅之医長、有本章彦医長は継続して勤務した。

本年度の手術件数は388件であり昨年度の329件を上回っていた。上腕骨の骨折に対する観血的整復術が62件と最も多かった。

学術活動として学会発表は総数23演題　雑誌発表は４編であった。

教育活動として例年通り神戸大学の学生講義を行い５～６回生の臨床実習を定期的に受け入れた。

印象としてここ数年、難治性疾患の対応を迫られることが多い。一般病院で小児疾患をなかなか受け入れてもらえないことが原因かと考える。この傾向は今後も続くと考えられ、まずは個人の知識、臨床経験を積み上げていくことで対応したい。

2025年整形外科手術・検査内容区分

手術

	病　　名	術　　式	手術数	小計
体　　幹	側弯症	矯正術	12	
	斜頚	切腱術	4	
	側弯症	その他（ロッド切除、除圧など）	0	
	脊椎疾患（側弯を除く）	頸椎固定術 など	0	16
股　関　節	先天性股関節脱臼など （麻痺性除く）	観血的整復術	3	
		大腿骨骨切り術	1	
		臼蓋形成術（ソルター骨盤骨切り術以外）	2	
		ソルター骨盤骨切り術	2	
	ペルテス病	大腿骨骨きり術	4	
	大腿骨頭すべり	ピン入れ替え	1	
		ピンニング	8	
	麻痺性股関節脱臼など、 先天性股関節脱臼以外の疾患	大腿骨骨切り	4	
		骨盤骨切り術など（大腿骨切り合併含む）	1	26
膝　関　節	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼	観血整復	6	
	関節炎 、円板状半月板など	鏡視下手術など	1	7
足　　部	先天性内反足	アキレス腱皮下切腱術（Ponseti）	12	
		軟部組織解離術　腱移行術 エバンス手術など	14	
	麻痺性変形（症候性）	足根骨骨切り（トリプル骨切り術など）	3	
		軟部組織解離術　腱移行術など	2	
		それ以外の変形矯正（創外固定、骨切り術含む）	0	
	垂直距骨	変形矯正術など	0	
	下腿内捻	下腿回旋骨切り	0	
	尖足	アキレス腱延長	18	49
下　　肢	脚長差　変形など	脚延長、変形矯正（創外固定使用）	2	
		成長抑止術（８プレート）	18	
		変形矯正 （創外固定使用以外）	1	
		ボトックス注射	27	
	足根骨癒合症	癒合部切除	4	
	外脛骨	摘出など	0	
	下肢 変形	矯正、切断など	7	59
上　　肢	橈骨頭脱臼	観血的整復術	1	
	上肢短縮	上肢骨延長術（上腕、前腕）	0	
	内反肘	矯正骨切り術	2	3
外　　傷	上肢骨の骨折 脱臼（顆上、外顆など）	整復固定術	62	
	下肢骨折	整復　固定	22	
	骨折後偽関節	骨接合術など	0	
	骨折など	鋼線牽引	0	
	腱断裂、外傷	腱縫合など	0	84
炎症・腫瘍	化膿性関節炎　脊椎炎	病巣掻爬、洗浄　穿刺	6	
	腫瘍　骨髄炎、LCH、病態不明など	生検術 病巣掻爬	13	
	腫瘍	骨	16	
		軟部	9	44
手指・足趾	多・合指（趾）症	余剰指切除	3	
		余剰趾切除	2	
		指間形成	3	
		趾間形成	1	
	手指変形	矯正、骨切り術など	4	
	足趾変形	矯正、骨切り術など	1	14
そ　の　他	瘢痕拘縮 先天性拘縮	形成術	1	
	剛直母指	腱鞘切開	6	
	その他		79	86
			総数	
年間手術件数			388	388

検査

部　　位	方　　法		
股関節	アルトロ	22	
股関節（先天性股関節脱臼）	牽引後、整復ギプス	3	
その他	アルトロ	3	
		28	28

18. リハビリテーション科

2025年度のリハビリテーション科は整形外科科長と兼務となる小林大介医師を部長として据え、2024年より着任した坂田亮介のもと診療を行っている。療法士は理学療法士長を新たに迎え、合計で理学療法士６名、作業療法士２名、言語聴覚士４名の体制で対応している。

診療対象は、リハビリテーションを必要とする小児患児全般で、運動器、脳血管、呼吸器、廃用、障害児、がん患者、早期離床、心臓血管などの各疾患群に対するリハビリテーションを提供している。当院が、小児診療の基幹病院としての使命を帯びており、疾患の重症度も高く、専門性の高いリハビリテーションを提供すべく日々の診療にあたっている。

がんリハビリテーションの充実を突破口とし、各病棟におけるリハビリテーションカンファレンスや回診、そしてリハビリテーションの高水準での標準化を行っている。引き続き病床数やニーズに比して不足しがちなマンパワーをカバーできるよう業務改善につとめていく所存である。

リハビリテーション部での実績についてはリハビリテーション部を参照されたい。

19. 眼科

今年度の眼科医師の状況は以下の通り。3月に専攻医の土橋一生が開業のため退職。5月に医長の河原佳奈が育休から週4日の時短勤務にて復職。フェローの牧仁美は引き続き週3日の時短勤務である。

近年、神戸大学医学部への入学者の約3～4割が女性であり、これは全国の国立大学医学部の中でも比較的高いとのことである。眼科に限って言えば入局者の半数が女性であり、また、以前とは違い押し並べて育休をフルに取得し復職後も数年間の時短勤務が続く。関連病院を見渡しても診療スタッフの未充足が慢性的である。当科も例外ではないが、幸い大学医局に所属しこども病院での勤務歴がある女性医師達のサポートに助けられている。彼女達も小児眼科領域の知識をアップデート出来るなど当科での診療に刺激を受けている様である。

2025年　眼科　新患統計 年間総数　687名

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳以上	
屈折異常	2	29	69	316	175	117	68	35	811
弱視	0	1	5	64	34	8	2	0	114
斜視及び疑い	0	24	32	227	146	71	33	22	555
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未熟児網膜症	0	3	1	6	1	3	1	0	15
眼瞼疾患	1	13	11	21	18	18	6	1	89
涙器疾患	4	1	10	9	0	2	0	0	26
結膜疾患	0	2	0	7	6	2	1	0	18
角膜・強膜疾患	2	3	6	2	13	7	3	4	40
ブドウ膜疾患	0	0	4	1	2	2	3	8	20
網膜・硝子体疾患	6	3	7	17	2	6	11	17	69
水晶体疾患	1	5	7	20	3	0	0	4	40
眼窩疾患	0	0	0	0	0	4	0	0	4
遺伝疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
視神経・視路疾患	0	0	2	5	7	7	12	1	34
眼振	0	2	1	3	1	0	0	1	8
緑内障	0	2	2	7	3	2	4	0	20
外傷	0	0	0	3	0	1	2	0	6
症候群	0	0	4	7	3	1	1	0	16
心因性視力障害	0	0	0	0	0	6	0	0	6
腫瘍	1	0	0	1	1	4	2	0	9
その他	6	5	3	11	9	1	1	0	36
小計	23	93	164	727	424	262	150	93	1,936

2025年　検査人数（合計629名）

視野検査（GP）	265名　521眼
視野検査（ハンフリー）	41名　81眼
PL検査・TAC	287名
色覚検査	36名
合計	629名

実習生受け入れ状況　大阪医療福祉専門学校　2名

20. 耳鼻咽喉科

1．スタッフ

部長（科長）	勝沼　紗矢香
フェロー	清水　昭一郎（2025年３月退職）
専攻医	上坂　紗貴子（2025年４月より現職）
非常勤	大津　雅秀

2．診療体制

【外来診療】

外来診療は、月曜、火曜、木曜、金曜に行っている。難聴、中耳炎、言葉の遅れ、扁桃肥大、アデノイド肥大に関する紹介が多い。週に１回、当院リハビリテーション科所属の言語聴覚士、院外の補聴器技能者と共に補聴器外来を行っている。

【手術加療】

日帰り手術枠が火曜、水曜、金曜、入院手術枠が水曜、金曜である。術式は、例年通り、扁桃摘出術、アデノイド切除術、鼓膜換気チューブ留置術が多い。３歳未満の重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群の治療で行う扁桃摘出術･アデノイド切除術は、地域の基幹病院でも安全性の確保が難しく、３歳以上また体重増加まで待機せざるを得ないことも多い。当院では、麻酔科、集中治療科、総合診療科並びに集中系病棟看護師の協力により、手術適応を厳選して行っている。引き続き安全性に十分配慮し手術に取り組みたい。

入院手術

口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術	83
アデノイド切除術	31
口蓋扁桃摘出術	8
鼓膜換気チューブ留置術 （うち当科の他手術と同時に実施）	49 (12)
鼻涙管チューブ挿入術	7
異物除去術	4
下甲介粘膜下焼灼術	0
その他	10
合計症例数（他科入院21例含む）	192

日帰り手術

鼓膜換気チューブ留置術	96
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	5
鼓膜換気チューブ抜去	4
異物除去術	3
その他	0
合計症例数	108

3．今後の展望

新生児聴覚スクリーニング（以下、NHS）の普及により、軽度・中等度難聴や一側性難聴も早期に発見されている。小児の聴力評価と管理は重要性を増しており、当院当科の果たすべき役割は大きくなっているといえよう。また、NHSリファー後、これまで以上に早期の精密聴力検査実施が推奨されてきていることや、先天性サイトメガロウイルス感染による難聴に対する投薬治療が保険適応になるなど、NHS体制は刻々と変化しており、当科ではそれに応じて適切な対応ができるよう努めている。一方、難聴児に対し補聴すればきこえの問題がすべて解決されるわけではなく、周囲のサポートと環境の整備など、聴覚障害に対する合理的配慮は必須である。補聴の目的は児の健全な発育であり、医療機関の介入だけで実現できるものではない。保護者と本人に、難聴とその対応について理解を深めてもらい、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校、難聴学級と連携

することで、難聴児ひとりひとりに最適な療育や教育の環境を整えることができるよう支援し、こども家庭庁の施策でもある「難聴児支援体制整備」に貢献していきたい。

4．言語聴覚療法

【人員および主な業務】

リハビリテーション部所属の言語聴覚士（以下、ST）が、耳鼻咽喉科外来にて、予約状況に応じて業務に従事した（1～4名、うち1名は時短勤務)。主な業務として、聴力検査、補聴器外来、ことばの遅れが指摘された児については医師のリハビリテーション処方に基づき発達及び知能検査を行った。

【業務詳細】

聴 力 検 査：一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などを対象児に合わせて実施している。補聴器適応となれば、補聴器外来へ繋げている。

補聴器外来：週一度実施。新生児聴覚スクリーニングの普及により、早期からの補聴器装用児が増えている。軟骨伝導補聴器をはじめとする新たな補聴器の登場により、外耳道閉鎖及び小耳症の児の補聴器装用が可能となった。また、デジタルワイヤレス補聴援助システムの導入も増えている。補聴器外来では1件あたりの予約時間を長めに設定し、慎重な評価、保護者への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

そ　の　他：年に1回、兵庫県内の各聴覚特別支援学校教員と、当院耳鼻咽喉科医師、当院STで各々カンファレンスを実施し、当院に通院し聴覚特別支援学校で支援を受けているお子さんの状況と今後の方針につき協力体制を築いている。

聴力検査数

標準純音聴力検査	736
標準語音聴力検査	60
気導純音聴力検査	5
遊戯聴力検査	1,644
延べ人数	2,465

補聴器適合聴力検査

補聴器適合聴力検査1回目	32
補聴器適合聴力検査2回目以降	446
延べ人数	478

発達及び知能検査

発達及び知能検査	38
延べ人数	38

21. 泌尿器科

3月に楠瀬正史が退職し、4月から高亜羅が入職したので、2025年度は2024年度と同様に4人体制（杉多、春名、植松、高）で診療を行った。

2025年度は、2024年度と比較して、外来新規患者数、入院患者数、手術数ともに減少した。少子化の影響と考える。尿道下裂患児の紹介は2024年同様多く、近畿以外の中国・四国・九州地方からも紹介があった。小児尿路結石患者は減少し、これは学校での熱中症対策の水分摂取が尿路結石予防に効を奏しているのではないかと考える。

神戸大学と連携し、ロボット支援下腎盂形成術を行うため、杉多がhinotori™ cockpit surgeonの資格を取得したが、残念ながら対象患者がいなかった。

学術活動は4月の日本泌尿器科学会総会、6月の日本小児外科学会、7月の日本小児泌尿器科学会総会・学術集会、9月の日本排尿機能学会、10月の日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会、11月の日本泌尿器科学会中部総会ならびに西日本泌尿器科学会で当科の診療内容、手術成績などを発表した。次年度も引き続き、安全・安心、かつ高度な診療を行い、国内外で活発な学術活動を行っていきたい。

（杉多記）

2025年手術実績【入院／244　外来／120】

【尿路系】

ＶＵR防止術（開腹）	16
ＶＵＲ防止術（気膀胱）	6
デフラックス注入術	6
膀胱尿管新吻合術	3
膀胱拡大術	2
尿管カテーテル抜去術	9
開腹腎盂形成術	4
腹腔鏡下腎盂形成術	3
腹腔鏡下腎摘出術	1
内尿道切開術	1
腎廔造設術	2
膀胱鏡（ステント留置含む）	8
経尿道的膀胱結石砕石術	4
経皮的腎結石砕石術	1
経尿道的尿管結石砕石術	2
その他	35
合　　計	103

【性器系】

尿道下裂形成術	55
陰茎形成術	3
精巣固定術	62
精巣捻転手術	17
消失精巣摘出術	7
腹腔鏡下精巣血管結紮術（F-S1期目）	3
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	4
陰嚢水腫根治術	16
埋没陰茎手術（包皮形成術）	13
包茎手術（環状切除術）	17
陰嚢形成術	5
顕微鏡下精巣静脈低位結紮術	7
高位精巣摘出術	2
その他	50
合　　計	261

22. 小児歯科

小児歯科の診療内容として、全身疾患を有する患児・心身障害児のう歯予防・う歯の修復治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に先天性の疾患を有する当院内科系をかかりつけとする患児に対しては、低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期歯科受診により、歯科疾患予防を積極的に行っていきたいと考えている。

小児がん患児の周術期における口腔ケア等管理については積極的に行っており、歯科衛生士による周術期口腔ケア介入症例は、ここ数年新患数の内訳のトップを占めている（年間約60名）。毎週火曜日午後に、歯科衛生士による７階病棟ラウンドを継続して行っている。

人事面においては、常勤歯科医師１名（曽根由美子）の体制ではあることに変わりはない。

新患内訳（2025）		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	40	2	5	0	47
	齲蝕	4	42	0	0	46
	乳歯晩期残存	7	4	0	0	11
	先天性歯	0	1	3	0	4
	その他	4	0	0	0	4
矯正歯科関連	不正咬合	4	0	0	0	4
	術前顎矯正	5	0	0	0	5
口腔外科関連	外傷	5	1	0	0	6
	埋伏歯・過剰歯	3	9	0	0	12
周術期口腔機能管理		65	0	0	0	65
その他（小児歯科以外）		1	0	0	0	1
計		138	59	8	0	205

23. 麻酔科

１．2025年の人事異動

専攻医・フェローの異動として、神戸大学から服部医師、兵庫医大から多木医師、愛媛大学から濱松医師、大阪医大から萩永医師、大阪公立大から藤村医師、兵庫県所属医師として松尾医師を迎えた。集中治療科からの麻酔科研修として三浦医師を迎え、山内医師が麻酔科から集中治療科へ出向した。他、短期研修として当院小児科･救急科から小松医師、齋藤医師、上原医師、南川医師、柏坂医師を迎えた。池島医師が県立がんセンターの緩和研修を終了した。

2025年12月末の時点では香川、高辻、大西、池島、宮本、上嶋、末田、藤原、田中、小西、南、上野、ノエル、多木、山本、濱松、萩永、藤村、松尾が従事している。

２．活動状況

（１）麻酔業務および件数：年間麻酔件数は3937件であり、対前年度比98.1％と減少した。

（２）業務内容としては平日１日当たり、小児手術７列（入院４列＋日帰り手術＋アンギオ＋病棟麻酔）、産科手術、術前診察、術後回診、慢性痛や緩和ケアへの対応、および麻酔科統括の業務を行っている。また静脈路確保困難児に対する、病棟での点滴確保や手術室でのPICカテーテル挿入を日常的に行なっている。

（３）術後疼鎮痛管理チーム：手術後に持続的鎮痛を行っている患者を対象に、麻酔科、看護師、薬剤師、臨床工学技師でチームを構成し診療を行っている。

（４）学術活動：当院の経験の共有と小児麻酔の教育・普及に寄与すべく、複数の麻酔関連学会での発表や講演、麻酔科雑誌への投稿を行った。

３．展望

当院麻酔科の理念は「患者に安全快適な麻酔を提供する」である。麻酔医療の提供はもちろんのこと、麻酔科医の育成、多職種との連携、臨床および研究を通して社会に認知される麻酔科を目指していきたい。

４．麻酔科　診療統計

年間総麻酔件数は3,937件。詳細は表の通りである。

【総麻酔件数】（麻酔科管理症例数）　2025.1.1～12.31

3,937件

【ASA PS】（米国麻酔学会による麻酔のリスク分類）

予定手術 1	2	3	4	5	6	合計
1,519	1,705	378	21	0	0	3,623
緊急手術 1E	2E	3E	4E	5E	6E	合計
95	113	71	33	2	0	314

【手術部位】

a．脳神経・脳血管	104	h．頭頚部・咽喉部	902
b．胸腔・縦隔	37	k．胸壁・腹壁・会陰	702
c．心臓・血管	304	m．脊椎	38
d．胸腔＋腹部	7	n．股関節・四肢（含：末梢神経）	457
e．上腹部内臓	86	p．検査	795
f．下腹部内臓	168	x．その他	200
g．分娩	137	合　　計	3,937

【麻酔法による内訳】

A．全身麻酔（吸入）	1,631
B．全身麻酔（TIVA）	1,499
C．全身麻酔（吸入）+硬・脊、伝麻	192
D．全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	457
E．脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	1
F．硬膜外麻酔	0
G．脊髄くも膜下麻酔	140
H．伝達麻酔	3
X．その他	14
合計	3,937

【年齢別内訳】

	男性	女性	合計
～　4週未満	43	43	86
～　1歳未満	267	178	445
～　6歳未満	817	609	1,426
～10歳未満	456	388	844
～15歳未満	400	344	744
～20歳未満	90	97	187
～30歳未満	17	67	84
～40歳未満	6	100	106
～50歳未満	0	15	15
～60歳未満	0	0	0
合　　計	2,096	1,841	3,937

24. 新生児内科

１．医師の人事

前年より引き続き生田寿彦、武岡恵美子、松井紗智子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司が在任した。西牧良は８月よりフェローから医長として引き続き勤務した。小林孝生医長は４月に北海道大学大学院に進学した。フェローの宇保早希医師は研修を終え４月に加古川中央市民病院小児科へ異動した。新たに春田真之介が４月よりフェローとして新生児専門医をめざして研修を開始した。後藤弘樹、松島愛香、西内徳子は引き続きフェローとして勤務した。ローテート専攻医（後期研修医）として、皇甫奈音、松井佑一郎、志風友規、大西裕人、湯浅太陽、井上未紗子，島岡健太、富田藍子、恒川礼奈、清川美里、中野知貴、佛坂智仁、高橋英里各医師が２～３か月ずつ研修をおこなった。

当センターは県内６総合周産期母子医療センターの中でも最大規模、最重症児の管理を担っており、宿日直制ではない24時間体制が必要な施設である。時短勤務、夜勤免除医師が勤務継続できることをめざしながら、専攻医の協力をえて、NICU常時２名専任医師体制を維持している。

２．診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りである。最近の超少産少子化の傾向は兵庫県、神戸市においても顕著であるが当科の入院数に大きな変化はない。病的新生児の収容先については集約化がすすんでいるものと考えられる。

神戸市ではドクターカーによる新生児迎え搬送可能な施設は2020年から当センターのみとなっている。2024年４月から運転手の常駐体制が整い迅速な迎え搬送が可能となった。搬送要請から15分以内に出動できるようになり重症仮死などの緊急重症例の搬送では我々の早期接触により予後改善につながるものと期待している。重症新生児仮死に対する低体温療法施行例は14例と前年の18例に続いて多かった。要因の一つとして無痛分娩例の増加により微弱陣痛、促進剤使用、吸引分娩、仮死という病態が目立っている。

３．研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀有な疾患管理、治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会、医学雑誌で発表しており、当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

４．県内新生児死亡率上昇の懸念

厚労省人口動態統計に基づく兵庫県の新生児死亡（生後28日未満）については、2024年データによると2023年13名から2024年41名と著増していた。当センターでは３名から２名となっていて増加はしておらず県全体での要因分析の必要がある。県内全域から最重症児を受け入れるべき当センターの役割は今後ますます増大するものと思われる。

2025年新生児内科統計

Ⅰ．新生児病棟統計

1）月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
39	34	39	20	37	35	47	34	31	32	31	33	412

2）診療科別入院数

新生児内科入院	412

新生児内科から転科	57
集中治療科	18
循環器内科	25
総合診療科	6
小児外科	4
代謝内分泌科	2
神経内科	1
血液腫瘍科	1

3）新生児内科入院形態と紹介医療機関地域　　腎臓内科　1

			神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外
院外出生		190	153	13	0	16	1	0	0	2	0	0	5
	一次搬送	136	117	8	0	11	0	0	0	0	0	0	0
	(14日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	二次搬送	22	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	三次搬送	32	14	5	0	5	1	0	0	2	0	0	5
	母体紹介歴	9	5	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0
院内出生		222	153	12	2	33	5	0	2	5	2	1	7
	緊急母体	71	53	5	0	10	0	0	1	1	0	1	0
	非緊急母体	151	100	7	2	23	5	0	1	4	2	0	7
日齢14未満一・二次搬送		380	292	20	2	44	5	0	2	5	2	1	7

Ⅱ．新生児内科統計

対象：新生児内科入院（日齢14未満一・二次搬送入院及び院内出生、転科例を含む）

1）院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	0	0	—	—	—
500–749 g	12	12	100%	0	0
750–999 g	13	13	100%	0	0
1,000–1,499 g	29	27	93.1%	0	0
1,500–1,999 g	41	38	92.7%	0	0
2,000–2,499 g	74	53	71.6%	0	1
2,500 g 以上	211	79	37.4%	8	22
計	380	222	58.4%	8	23

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22，23	2	2	100%	0	0
24，25	12	12	100%	0	0
26，27	9	9	100%	0	0
28，29	8	7	87.5%	0	0
30，31	19	18	94.7%	0	0
32，33	31	31	100%	0	0
34–36	78	59	75.6%	1	1
37以上	221	84	38.0%	7	22
計	380	222	58.4%	8	23

2）分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	0	0	—	—	—
500–749 g	12	11	91.7%	7	58.3%
750–999 g	13	13	100%	8	61.5%
1,000–1,499 g	29	28	96.6%	21	72.4%
1,500–1,999 g	41	31	75.6%	17	41.5%
2,000–2,499 g	74	48	64.9%	10	13.5%
2,500 g 以上	211	90	42.7%	5	2.4%
計	380	221	58.2%	68	17.9%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22，23	2	1	50.0%	0	0.0%
24，25	12	12	100.0%	7	58.3%
26，27	9	9	100.0%	6	66.7%
28，29	8	7	87.5%	7	87.5%
30，31	19	19	100.0%	16	84.2%
32，33	31	23	74.2%	14	45.2%
34–36	78	62	79.5%	14	17.9%
37以上	221	89	40.3%	4	1.8%
計	380	222	58.4%	68	17.9%

3）生存率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	0	0	—
500–749 g	12	1	91.7%
750–999 g	13	0	100%
1,000–1,499 g	29	1	96.6%
1,500–1,999 g	41	0	100%
2,000–2,499 g	74	1	98.6%
2,500 g 以上	211	3	98.6%
計	380	6	98.4%

週数	患者数	死亡数	生存率
22，23	2	1	50.0%
24，25	12	0	100%
26，27	9	1	88.9%
28，29	8	0	100%
30，31	19	0	100%
32，33	31	0	100%
34–36	78	0	100%
37以上	221	4	98%
計	380	6	98.4%

4）多胎割合（品胎 4 組）

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	0	0	—	0
500–749 g	12	5	41.7%	1
750–999 g	13	6	46.2%	2
1,000–1,499 g	29	13	44.8%	8
1,500–1,999 g	41	14	34.1%	1
2,000–2,499 g	74	25	33.8%	0
2,500 g 以上	211	6	2.8%	0
計	380	69	18.2%	12

週数	患者数	多胎	率	品胎
22，23	2	0	0.0%	0
24，25	12	7	58.3%	3
26，27	9	2	22.2%	0
28，29	8	3	37.5%	6
30，31	19	12	63.2%	3
32，33	31	9	29.0%	0
34–36	78	28	35.9%	0
37以上	221	8	3.6%	0
計	380	69	18.2%	12

5）人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP/HF
500 g 未満	0	0	—	—	—
500-749 g	12	12	100%	10	10
750-999 g	13	13	100%	3	14
1,000-1,499 g	29	21	72.4%	0	26
1,500-1,999 g	41	18	43.9%	1	33
2,000-2,499 g	74	32	43.2%	2	43
2,500 g 以上	211	62	29.4%	1	82
計	380	158	41.6%	17	208

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP/HF
22，23	2	2	100%	1	1
24，25	12	12	100%	11	12
26，27	9	9	100%	1	8
28，29	8	8	100%	1	8
30，31	19	16	84.2%	0	19
32，33	31	14	45.2%	0	28
34-36	78	37	47.4%	1	50
37以上	221	60	27.1%	2	82
計	380	158	41.6%	17	208

6）特殊治療

PDA閉鎖術	13例（三次搬送5例）
NO吸入療法	21例
NICU内手術	2例
ECMO	1例
CHDF	0例
PD	0例

低体温療法	14例
生後ステロイド全身投与	20例
在宅酸素療法	10例
ROPレーザー	0例
ROP抗VEGF	3例

7）新生児搬送出動回数　　51回

入院	44
転院	7

（ヘリ0回）

分娩立合い	1
時間外搬送	17

8）多胎生存率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎
500 g 未満	0	0	—	0
500-749 g	5	0	100%	1
750-999 g	6	0	100%	2
1,000-1,499 g	13	0	100%	8
1,500-1,999 g	14	0	100%	1
2,000-2,499 g	25	1	96.0%	0
2,500 g 以上	6	0	100%	0
計	69	1	99%	12

週数	患者数	死亡数	生存率	品胎
22，23	0	0	—	0
24，25	7	0	100%	3
26，27	2	0	—	0
28，29	3	0	100%	6
30，31	12	0	100%	3
32，33	9	0	100%	0
34-36	28	0	100%	0
37以上	8	1	87.5%	0
計	69	1	99%	12

25. 産科

本年も大きなトラブルや事故もなく運営できたことに産科スタッフ一同ならびに関連･関係各位に深謝いたします。

妊娠26週未満の単胎ならびに妊娠29週未満の多胎の切迫早産や前期破水、生後速やかに何らかのinterventionが必要な胎児形態異常症例は産科病棟が満床であっても受け入れております。

2025年は、船越　徹周産期医療センター長、産科科長兼部長、平久進也病棟医長、松本 培世医長、荒井貴子医長（時短勤務)、窪田詩乃医長（時短勤務)、木原智子医長、長澤友紀医長、江本永真専攻医の８人体制で始まりました。3月から長澤友紀医長が産休に入り、3月末に育休中の黒島瑞穂フェローが退職、江本永真専攻医は異動。4月1日から神戸大学産婦人科学教室より久保田いろはフェロー、木多杏依専攻医が入職しました。　その後、9月末に木多が異動、10月から田中将之専攻医（神戸大学専攻医プログラム）と平野裕樹専攻医（県立尼崎総合医療センター専攻医プログラム）が入職し9人体制となりました。

日本産科婦人科医会によると周産期母子医療センター産科には当直･オンコールがフルに可能な医師が８名以上必要とされておりますが、当科では現在７名です。

10月1日以降のスタッフは

船越　徹	周産期医療センター長、産科科長兼部長	1985年卒
平久　進也	部長、産科病棟医長	2003年卒
松本　培世	医長	2009年卒
荒井　貴子	医長	2010年卒
窪田　詩乃	医長	2012年卒
木原　智子	医長	2013年卒
久保田　いろは	フェロー	2019年卒
田中　将之	専攻医	2021年卒
平野　裕樹	専攻医	2022年卒

当院は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床はMFICU（母体胎児集中治療室）6床を含めて22床です。2人当直制（第1当直の7％と宿日直許可を得ている第2当直の65％は院外医師が担当）です。染色体異常を含めた遺伝相談も行っており（出生前診断･遺伝相談外来)、NIPTの認証医療機関（基幹施設）です。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しております。

NICUの事情による母体搬送受け入れ制限はほとんどありません。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、早産期前期破水（p-PROM)、多胎です。

2025年病床稼働率は75.5％、緊急母体搬送の受け入れ数は113件（受け入れ率79％）でした。

妊娠24週未満の頸管長短縮・胎胞形成例の治療的頸管縫縮術を行っております（14例)。

胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門･スタッフの協力を得て行なっております。2025年の超緊急帝切は2例でした。

胎児治療も行なっております(胎児頻脈性不整脈→経母体的抗不整脈薬投与、胎児胸水→胸水除去、EXIT:ex utero intrapartum treatment等)。2025年は久しぶりにEXITが1例あり母児ともに周術期管理に問題はなかったです。2023年から羊水過少例に子宮内環境を改善するため「人工羊水注入」を始めました。

また、他科から依頼された女児の診察等にも対応しております。「思春期女性外来」を開設し併存疾患のある児の月経困難症や性自認にも対応しております。

2024年４月から始まった「医師の働き方改革」に対しワークシフト・ワークシェアを少しずつ進め、「助産師主導分娩」は順調に増加し患者様からの評価が良いようです。

当院は「周産期新生児医学会専門医制度」の母体胎児研修の基幹施設です。2025年は荒井が「産婦人科指導医」と「超音波専門医」に合格し、産婦人科指導医５名、同専門医８名、周産期・新生児医学会指導医２名、同専門医（母体・胎児）５名、臨床遺伝専門医１名、超音波専門医１名となりました。

12月６日に兵庫県医師会館で「令和７年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会」を開催し、兵庫県こどものきこえ相談センター長 大津 雅秀先生から特別講演「小児難聴診療　―新生児聴覚検査から療育まで― 」にて新生児聴覚スクリーニングに関する最新情報わかりやすく詳細に解説いただきました。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を３月17日に開催しました。報告書からだけでは伺えないMRIの読み方について研修することができます。

病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2025年の紹介元へ戻れた方は523名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、当院には産科以外の成人を診る専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介しております。隣接する神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターでありますが、中央市民病院は母体合併症を、当院は胎児・新生児にフォーカスした診療の棲み分け、病院連携を行なっております。

1）2025年産科診療状況

入院患者数*	309
うち緊急母体搬送によるもの	113
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	523
総分娩母体数	207
22週以降分娩母体数***	190
正期産	81
早　産	109
うち34週未満	64
うち28週未満	19
過期産	0
22週以降多胎分娩	32
二絨毛二羊膜性（DD）双胎	17
一絨毛二羊膜性（MD）双胎	11
一絨毛一羊膜性（MM）双胎	0
品　胎	4
要　胎	0
22週以降経腟分娩	52
うち吸引分娩	2
うち骨盤位牽出術	0
帝王切開術	138
選　択	48
緊　急	90
うち超緊急	2
出産児数（22週以降、死産含む）***	226
正期産児	85
早産児	141
過期産児	0
低出生体重児（2,500ｇ未満）	148
極低出生体重児（1,500ｇ未満）	56
超低出生体重児（1,000ｇ未満）	28
巨大児（4,000ｇ以上）	0
22週未満死産数	17
同　死産児数	20
22週以降死産児数	3
治療的頸管縫縮術	14
予防的頸管縫縮術	14
小児婦人科手術	0

*入院患者数は2025.1～12入院したもの

**紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行なわれたものも含む

***分娩母体数、出産児数は2025.1～12に出産したもの

2）紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	1	0%	中播磨	姫路市	6	2%
	西宮市	7	2%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	8	3%		小計	6	2%
	小計	16	5%	西播磨	相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%		たつの市	0	0%
	三田市	0	0%		赤穂市	0	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	1	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小計	1	0%		宍粟市	0	0%
神戸市	中央区	88	28%		小計	0	0%
	西区	44	14%	但馬	豊岡市	2	1%
	須磨区	21	7%		美方郡	0	0%
	灘区	12	4%		養父市	0	0%
	東灘区	10	3%		朝来市	0	0%
	垂水区	9	3%		小計	2	1%
	北区	7	2%	丹波	丹波篠山市	1	0%
	長田区	6	2%		丹波市	1	0%
	兵庫区	0	0%		小計	2	1%
	小計	197	64%	淡路	洲本市	11	4%
東播磨	明石市	48	16%		淡路市	0	0%
	加古川市	9	3%		南あわじ市	0	0%
	高砂市	0	0%		小計	11	4%
	加古郡	0	0%	他府県	大阪	8	3%
	小計	57	18%		東京	1	0%
北播磨	西脇市	0	0%		鹿児島	1	0%
	三木市	0	0%		鳥取	1	0%
	小野市	6	2%		小計	11	4%
	加西市	0	0%	海外		0	0%
	加東市	0	0%	院内紹介		0	0%
	多可郡	0	0%	なし		0	0%
	小計	6	2%	計		309	

救急隊はその所属地域にカウントした

3）取り扱い疾患（重複あり）

疾患名*	件数	率
切迫早産	142	46%
胎児形態異常	95	31%
高年妊娠（35歳以上）	86	28%
多胎	49	16%
前期破水	44	14%
頸管無力症	40	13%
既往帝王切開	38	12%
胎児発育不全	27	9%
胎児機能不全	23	7%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	22	7%
妊娠高血圧症候群	20	6%
甲状腺疾患合併	16	5%
子宮筋腫合併	16	5%
胎位異常	15	5%
羊水染色体検査	14	5%
羊水過多	13	4%
胎児染色体異常	12	4%
B群溶連菌保菌者	11	4%
切迫流産	10	3%
羊水過少	9	3%
妊娠糖尿病	9	3%
胎児死亡	8	3%
弛緩出血	8	3%
他科合併症	8	3%
胎児水腫	6	2%
分娩停止	6	2%
心疾患合併	6	2%
胎児不整脈	5	2%
その他感染症	4	1%
胎盤機能不全	3	1%
前置・低置胎盤	3	1%
常位胎盤早期剥離	2	1%
その他	58	19%
計	828	

入院時、入院中に診断された疾患名
患者一人当たり2.7の疾患名を有した

4）入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	223	72%
平日日勤帯		
時間外	86	28%
平日夜勤帯	39	13%
休日日勤帯	26	8%
休日夜勤帯	21	7%
計	309	

5）入院時妊娠週数（母）

週数	件数	率
～21週	51	17%
22～24週	30	10%
25～28週	48	16%
29～32週	49	16%
33～36週	50	16%
37週～	71	23%
不明	0	0%
産後	10	3%
非妊娠	0	0%
計	309	

6）分娩時間帯（流産、死産含む）

時間帯	件数	率
時間内	144	70%
平日日勤帯		
時間外	63	30%
平日夜勤帯	35	17%
休日日勤帯	13	6%
休日夜勤帯	15	7%
計	207	

7）帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	108	78%
平日日勤帯		
時間外	30	22%
平日夜勤帯	13	9%
休日日勤帯	9	7%
休日夜勤帯	8	6%
計	138	

8）分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

週数	件数	率
～21週	15	7%
22～24週	6	3%
25～28週	17	8%
29～32週	23	11%
33～36週	65	31%
37～41週	81	39%
42週～	0	0%
不明	0	0%
計	207	

9）出産時児体重（22w以降、死産含む）

児体重	件数	率
～499 g	2	1%
500～999 g	26	12%
1000～1499 g	28	12%
1500～1999 g	39	17%
2000～2499 g	52	23%
2500～2999 g	43	19%
3000～3499 g	33	15%
3500～3999 g	3	1%
4000～4499 g	0	0%
4500～4999 g	0	0%
計	226	

26. 放射線診断科／放射線治療科

〈放射線診断科〉

１．人事異動等

フェローの山口千暁医師が３月31日で退職し、４月から専攻医で柳田医師が赴任した（９月まで)。

放射線診断科のスタッフは赤坂好宣医師、乗本周平医師、田原潤子医師(いずれも放射線科診断専門医、放射線科専門医研修指導医）専攻医として柳田医師（放射線科専門医）の４名体制になった。

昨年と同様、藤本雄介医師（月・木・金AM：超音波検査担当）に応援をしていただいている。

２．診療業務の実績

放射線診断科ではCT、MRI、RIの読影（日本医学放射線学会の画像診断管理認証施設に認定)、心臓以外の超音波検査の施行、上部および下部消化管造影検査の施行が主な業務である。

2025年の各検査の読影（施行）件数は以下の通り。

超音波検査	7,854（前年比101.0%）
CT	2,286（97.8%）
MRI	3,532（95.7%）
RI	196（98.5%）
消化管造影	180（120.0%）
合計	14,048（99.3%）

前年より微減の検査が多かったが、やはり少子化の影響が出てきていると感じる。

３．学術・研修・その他

定期カンファレンス（小児外科術前・術後：金曜、腫瘍：火曜、水曜)、不定期開催カンファレンス（胎児MR）で画像解説を通じて診断や治療方針検討に貢献している。

小児科医の放射線科研修が院内から３名（田中　敦、高橋英里、上原和大：各２か月)、尼崎総合医療センターから３名（高島慎之介、太田瑞貴、阿部有矢:各２ケ月）あり、コンスタントに研修の需要がある。主に超音波検査の習得が主目的となっている。

神戸市立医療センター中央市民病院放射線診断科から２名（野田敏行、若槻　開）の研修が週半日、３ケ月ずつ行われた。

赤坂医師が尼崎総合医療センターへ（木PM)、乗本医師が神戸陽子線センターへ（火PM）出張応援を続けている。

〈放射線治療科〉

１．人事異動

放射線治療科のスタッフは德丸直郎、福光延吉、出水祐介、ノル･シャズリナ、朴成哲、別所良祐の６名で、2025年１月にシャズリナ医師が加入、同年３月に岩下医師が退職、同年４月に別所医師が加入した。６名とも隣接する県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター放射線治療科と兼務である。

２．2025年の動向

放射線治療外来は出水医師と朴医師が担当した。リニアックが更新され、４月から受け入れを再開したため、９ヶ月間の集計であるが、症例数は陽子線センター開設以降で最多であった。現在、当院症例の大半を陽子線センターで治療しているが、陽子線治療は準備に時間がかかるため、迅速な対応が求められる緩和照射、また、陽子線治療では対応が難しい全身照射が必要な症例を積極的に受け入れているためと思われる。

６名とも当院腫瘍カンファレンスに出席し、積極的に議論に参加している。小児がんには放射線治療が必要な疾患が多く、当科医師の意見が治療方針を左右することも珍しくない。

陽子線センターには神戸大学の学生および研修医が見学に訪れるが、当院リニアックも見学コースに含め、小児放射線治療に対する理解を深めてもらっている。

放射線治療件数（2025年）：32例

（内訳）

局所照射	24例
全身照射	６例
全脳照射	２例

【参考】

陽子線治療件数（2025年）：58例

27. 小児集中治療科

【スタッフ】

2025年度の常勤医は黒澤寛史（診療科長）、椎間優子、青木一憲、小谷匡史、長井勇樹、宮下徳久、先濵大、古島夏奈、黒江崇史。フェローとして小川裕子、鈴木雅大、原田晋二、三浦和樹、岡田怜、前田未知可、林谷俊和、広田幸穂、種岡飛鳥、植田智希、石井邦哉、松井佑一朗、染谷真紀（非常勤）。麻酔科常勤医の研修受け入れ、循環器科フェローの研修受け入れを行なった。４名の専攻医が１－２か月ずつ研修した。

【資格】

集中治療科専門医７名、小児科専門医18名（指導医２名）、救急科専門医１名、麻酔標榜許可３名、呼吸療法専門医、循環器専門医、移植認定医　各１名
JPLS講師６名、PALSインストラクター３名、JATECインストラクター１名

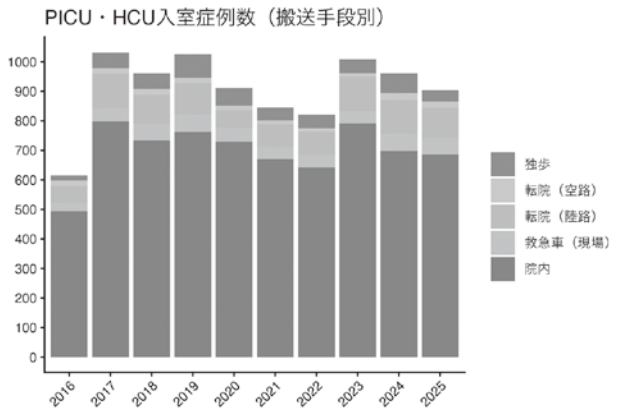
【診療体制】

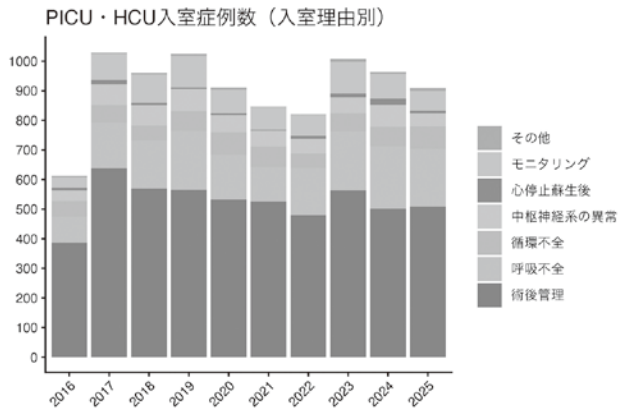
2025年度４月に新たに「小児集中治療センター」を開設した。小児集中治療センターは、重症小児を診療する当院の中央部門であり、診療場所はPICU 16床、HCU 11床と併せて27床からなる。PICUには専従医の配置が求められ、集中治療科医師が専従医として担当し（いわゆるClosed ICU）、関係各科と密に連携をとりながら重篤な症例の診療に当たっている。平日日中は７～８名、夜間は３名体制。休日は日中６～７名、夜間３名体制。感染対策に用いうる病床は５床。院内迅速対応チーム（Medical Emergency Team, MET）は集中治療科医師とPICU看護師が診療にあたっている。

【施設認定】

○日本専門医機構認定　集中治療科専門医研修施設
○日本集中治療医学会認定　集中治療科専門医研修施設
○日本急性血液浄化学会　認定施設
○日本呼吸療法医学会　呼吸療法専門医研修施設

【診療実績】





28. 病理診断科

病理診断科では、小児がん、小児の外科系疾患、胎盤、剖検など、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は日本小児がん研究グループ（JCCG）の病理診断委員会事務局である国立成育医療センターに病理標本や凍結腫瘍組織を送付して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、がんゲノム検査などの外部委託、小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝え、診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。多施設合同のカンファレンスや全国の学会・講習会・研究会に積極的に参加している。

2025年の動向

1名の神戸市立医療センター中央市民病院の病理診断科専攻医の医師が、連携病院である当院病理診断科にて週2日、2ヵ月間の研修を行われた。

2025年2月27日2025年検査部研修会を病理が担当し、病理診断科は、“Diffuse midline glioma, H3 K27-altered の5例～病理検査、JCCG中央病理診断・中央分子診断、がんゲノム検査から診療へ”を発表した。

2025年3月5日2024年度院内CPC第2回にて、臨床報告を小児集中治療科の相良優佳先生/宮下徳久先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院病理診断科専攻医の山川惇之介先生が担当された。

2025年9月25日2025年度院内CPC第1回にて、臨床報告を新生児内科の後藤弘樹先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院病理診断科専攻医の政岡亜実先生が担当された。

2025年の件数

組織診断件数　1,056件（うち術中迅速53件、骨髄257件、胎盤204件、腎生検24件、他院からの持ち込み29件）
細胞診断件数　301件（うち術中迅速病理診断に伴う捺印46件、婦人科スメア17件）
がんゲノム　10件
剖検件数　4件（新生児内科1件、集中治療科1件、産科死産児1件、代謝内分泌科1件）

29. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます

看護部目標

笑児看護の“倫を理める”

共働：組織の一員としての経営参画

- 診療報酬の理解と次期改定の準備
- 診療部、他部署との共働を強化し、患者にとって安全なベッドコントロール

共創：専門性を発揮するための働き方改革と効率化

- タスクシフト・シェアにとらわれない創造的な業務の削減

共育：コンプライアンスの遵守

- 手順と服務規律の遵守
- 患者、家族、職員間の信頼確保

看護部の活動

- 病床再編成に向けて、看護部のワーキング活動を通して、患者にとって安全・安心な病床運用を見直し、入院患者の円滑な受け入れ、病床の有効活用について、検討・実施した。
- 夜勤の始業開始時間を見直し、スムーズな導入、始業前業務削減を実施した。
- 多職種と協働し、鎮静を伴う検査の入院化による安全性の向上と経営参画に取り組んだ。
- ナイトサポーターの導入、看護補助者との協働推進を実施し、看護業務の負担軽減に取り組んだ。

5 階東病棟

在宅支援移行病棟として、退院後にこどもと家族の最善を多職種で考え、退院支援を目指して、緩和ケアやグリーフケア、兄弟支援にも倫理的視点で重点的に取り組み、地域へとつなぐことができた。流行性感染症の患者を、徹底した感染管理のもと積極的受け入れをしている。

5 階西病棟

次年度の病棟再編成に向け、医療ケアを必要とする患者に対し専門性の高い看護を統一して提供できるよう、看護の可視化を行った。また看護の質の維持と向上を目指し、Off-JT に加え計画的に再編成後の診療科の患者を受け入れ、人材育成を行った。

呼吸管理を必要とする患者に対してタスクトレーニングやシミュレーションを行い、看護実践力の向上を図った。

6 階東病棟

病棟再編成に向け、対話を通して部署の専門性のある看護の言語化をすすめた。全員がコアメンバーとなり、責任をもって子ども中心看護を実践する子ども中心の療養環境を創ることを目指して取り組んだ。

6階西病棟

社会の中で成長発達する子どもと家族のニーズをとらえ、安心して退院後の生活へ移行できるための意思決定を支えることができるよう、退院支援の充実に取り組んだ。退院後の生活への不安や戸惑いに寄り添い、地域と共に子どもと家族を支える必要性をスタッフ全員が認識することができた。

7階東病棟

スタッフ一人ひとりの倫理的思考を高め、こどもと家族のあるべき姿を考えた看護提供を目標に、プライマリー看護師の役割の明文化や、積極的なカンファレンスを通して病棟全体で考え、継続した看護が実践できるよう取り組んだ。

7階西病棟

「小児がん看護を言語化し、倫理的な視点をもった看護実践ができる人材を育成する」を目標に、倫理カンファレンスの定着、リフレクションを通してリーダー育成に繋げた。看護を言語化しケアにつなげることでケア実践、看護計画の充実を図った。

PICU

集中治療とケアを統合して実践できる看護チームを目指し、チーム医療を活かしながら、褥瘡予防と早期リハビリテーションの強化に取り組んだ。また、JET搬送での受け入れや三角搬送に付き添い、重症小児患者を早期に適切な医療機関へ繋ぐことができた。

HCU

医療依存度・看護ケアの高い患者への対応力が向上し、安全に他病棟へ患者をつなぐ体制を強化した。人材育成では、継続的学習と技術の可視化によりクリティカルケア能力の向上を図り、看護の質向上ではアセント実施率向上や記録改善を推進した。入退室基準の可視化や一般病棟との情報共有の強化により安全な患者移行に取り組んだ。

救急・HCU

対話を通して患者と家族のニーズを把握し、患者に合わせた看護の提供を目指し、人材育成と看護に関するカンファレンスに取り組んだ。カンファレンスを推進したことで、ニーズをとらえる力の向上に繋がった。

産科・MFICU

ハイリスク妊産婦とその家族のケアを継続して支援できる病棟を目指し取り組んだ。患者の相談内容に応じて、精神科・地域医療連携部などと協働した。また、小児専門病院の産科として「いちごクラス」を開催し、プレコンセプションケアを必要としている患者への支援を実施した。

NICU

周産期病棟間での連携を強化し、急性期から継続的な退院支援を行える体制の整備に向けて取り組みを行った。取り組みを通して、病棟全体の退院支援に対する意識の変化が見られたことで、必要な看護について考え、実践できる体制を整えることができた。

GCU

児の成長発達や疾患に合わせたケアと環境を整え、多職種･他部署と連携し、患者に切れ目のない退院支援を行うことを目指し取り組んだ。GCU 入室時から退院後の生活を見据えた支援を検討・計画し、多胎児や在宅医療ケアを要するような支援の密度の高い患者･家族に対して退院前後訪問を実践した。これにより、家族の児の養育困難や育児不安を早期に発見し支援に繋げた。

手術室

「多職種で安心、安全なチームをつくり、質の高い手術を提供する」を目標に取り組んだ。セーフティカンファレンスの導入を中心に、医師、看護師ともに安全なチームづくりに向け協働していった。手術に臨むこどもに対して、しゅじゅつがんばるプロジェクトを開始し、こどもへの支援を強化することができた。

外来

タスクシフトを行い、外来機能を充実させ、在宅支援が必要な患者がセルフケア能力を獲得できることを目指し、看護補助者・病棟看護師との協働を強化と人材育成・教育推進に取り組んだ。病棟看護師の業務拡大ができたことにより、育成した看護師が看護相談業務に専念することができ、セルフケア能力獲得のための支援を行うことができた。

看護部委員会

委員会名	活動報告
看護師長補佐会	始業前出勤削減と定着を目指し、マネジメントラダーの「組織管理・質管理・人材育成・危機管理」の視点で取り組みを行った。看護師への動機づけと各種データからの現状分析と対策の検討を行い、取り組みの定着を推進することができた。
教育委員会	OJT に繋がる研修を通して、研修生、教育委員、部署のスタッフが対話を大切にキャリア開発することを目標とした。活動として、①ジェネラリストラダーを踏まえた研修企画と運営② OJT と連動した支援③支援者側への支援④研修生のラダー行動目標、委員の「教え育む力」の評価を実施した。
教育担当者会	新人看護師の看護実践力の向上を目指し、OFF-JT と OJT の連動を図り、実践に繋がる研修企画と運営に取り組んだ。臨床心理士と連携し、新人看護師のレディネスの共有、支援方法の改善に繋げた。また、現場では新人看護師個々の進捗状況に合わせた支援を行い、相互理解を深めた。
臨地実習指導者会	スタッフ全員が学生に興味を持ち、連携しながら周産期および小児看護を伝えられることを目的に取り組んだ。指導者が継続した学生指導ができるよう、実習経過表や手術見学のオリエンテーションのあり方について検討後試行し、教員との連携を密にすることや学生の目標に応じて手術中の見学も可能とした。
看護基準・手順委員会	看護手順をナーシングスキル移行するために看護手順の見直しを行った。院内パンフレットの整備を行った。
感染対策委員会	手指衛生ラウンドおよびラウンド後の協議を通年実施し、手指衛生遵守率向上に向けた課題の抽出、対策の実施ができた。環境整備の取り組みも強化し、医療者エリアの環境測定値の改善が得られた。
安全対策委員会	看護師一人ひとりの確認力向上により、ヒューマンエラー予防の強化を図った。薬剤投与における6R 指差し呼称の徹底と確認行動の標準化に取り組み、シングルチェック導入後の関連インシデントはすべてレベル1以下にとどまり、重大事象の発生を防止した。 2チャレンジルールの浸透や違和感共有の促進により安全文化が醸成された。

委員会名	活動報告
看護記録管理委員会	看護の質改善につながる看護記録を整えることを目標に、委員会内での看護記録の共有を行うと共に、質的監査・量的監査の改定に取り組んだ。より効率的に監査を行うことができ、部署内での取り組みにつなげることができた。
クリニカルパス推進部会	クリニカルパスを正しく理解し、活用していくために、兵庫県立病院クリニカルパス運用標準マニュアルをベースに、院内の運用マニュアルを改定した。また、クリニカルパスの質改善を目指し、バリアンス分析の結果をもとにアウトカム評価の見直しにつなげた。
地域連携委員会	多職種と協働した退院支援ができることを目指し、在宅療養支援マニュアルの改訂に取り組んだ。改訂作業を通して、リンクナースは退院支援に必要な情報や支援内容についての理解を深めることができた。
研究支援委員会	看護実践の中で感じた疑問から研究に取り組めるよう、専門看護師が中心となり、研究プロセスにおいて支援を行った。
呼吸ケア部会	生命に直結するインシデント減少を目標に、監査、4E4M シートを使用したインシデント分析・対策を行った。また、病棟編成に向けて各部署で呼吸アセスメント能力向上に向けた机上シミュレーションの取り組みや、看護職員全員がバックバルブマスクでの換気が行えるよう取り組みを行った。
摂食嚥下障害ケア部会	摂食ケアが必要な患者の情報を共有し、各部署間の連携による摂食ケアの継続を目標に活動した。口腔ケア実施率を調査し、部会員が各部署で啓蒙活動を行った結果、前年度より実施率の上昇がみられた。

院外活動

- 認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク主催　つながろうキャンプin関西

  8月23日～25日　医療ボランティアとして4名参加

令和７年度　看護部院内研修

ラダー	研修名	習得するラダー	研修日	時間	場所	目的	受講生	講師
新人	新人フォロー① こども病院の看護	看護の核となる実践能力	4月3日(木)	8h	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	66名	教育担当者、栗林 CNS
	新人フォロー② はじめの一歩 「こどもの安全・感染」	看護の核となる実践能力	4月4日(金)	8h	講堂	標準予防策、正しい手指衛生ができる・医療事故防止標準マニュアルを理解できる	67名	河野看護部次長、中島 CN、教育担当者
	新人フォロー③ 安全な医療を提供するために 「療養環境」	看護の核となる実践能力	4月7日(月)	8h	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	56名	教育担当者
	新人フォロー④ 安全な医療を提供するために 「静脈注射・輸液管理」	看護の核となる実践能力	4月8日(火)	8h	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	67名	教育担当者
	新人フォロー⑤ カルガモ研修	看護の核となる実践能力	4月9日(水)	8h	各部署	リアリティーショックの軽減を図り、部署でメンバーの一員として働くことをイメージできる	62名	教育担当者、実地指導者
	新人フォロー⑥ 安全な医療を提供するために 「多職種のお仕事を知ろう」	看護の核となる実践能力	4月10日(木)	7h	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	65名	放射線部、検査部、薬剤部、保育士、教育担当者
	新人フォロー⑦「ストレスマネジメント・栄養」	看護の核となる実践能力	4月22日(火)	7h	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	62名	坂中臨床心理士、栄養指導課、森本 CN、茨木 CN、教育担当者
	新人フォロー⑧ 安全な医療を提供するために 「静脈注射 A 研修」	看護の核となる実践能力	4月28日(月)	7h	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	65名	薬剤部、教育担当者
	新人フォロー⑨ 「周手術期看護･フィジカルアセスメント」	看護の核となる実践能力	5月9日(金)	7h	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	64名	水島酸素商会、教育担当者
	新人フォロー⑩ BLS	看護の核となる実践能力	6月10日(火)	3h	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	65名	藤原看護師長(CN)、教育担当者
	新人フォロー⑪ 夜勤導入「報告・連絡・相談」	組織的役割遂行能力	6月13日(金)	3h	講堂	支援を受けて報告・連絡・相談ができる	65名	教育担当者
	新人フォロー⑫ 夜勤カルガモ	看護の核となる実践能力	6月中に準夜・深夜1回づつ	8h×2	各部署	夜勤勤務看護師の実際の活動を見学し、夜勤帯の看護を知ることができる 夜勤帯でチームの一員として働くイメージを持つことができる	62名	教育担当者、実地指導者
	新人フォロー⑬ 「家族看護･ストレスマネジメント」	看護の核となる実践能力	8月8日(金)	7h	講堂	支援を受けて家族の意向を把握し家族への支援ができる ストレスコーピングすることができる	61名	坂中臨床心理士、教育担当者
	新人フォロー⑭ フィジカルアセスメント実践編・PALS	看護の核となる実践能力	10月20.23.24 27.30.31日	7.5×6	講堂	こども病院の看護師として必要な基本的知識を習得し実践できる	60名	寺田 CN、前田 CN、長谷川 CN、教育担当者
	新人フォロー⑮ 「多重課題・入退院支援推進」	看護の核となる実践能力 組織的役割遂行能力	11月21日(金)	7h	講堂	入退院支援推進の基本的知識を習得する 支援を受けて、優先順位を考え業務を遂行できる	60名	教育担当者、家族支援・地域連携部
	新人フォロー⑯ 看護過程	看護の核となる実践能力	12月15日(月)	7h	講堂	看護過程の展開を学び、情報整理とアセスメントの考え方が整理でき、日々の実践に活かすことができる	57名	教育担当者、実地指導者
	新人フォロー⑰ BE AMBITIOUS!! 「看護を考える」	自己教育・研究能力	2月20日(金)	3h40m×2	講堂	看護実践を振り返り、自己の大切にしている看護を明確にし、次年度の課題を明確にできる	54名	奥看護部長、教育担当者
	新人フォロー⑱ 他部署研修	看護の核となる実践能力	10月～3月の間	8h～24h	各部署	他部署での看護を体験することで、経験できてない看護技術・知識を習得し、部署での看護実践に活かす	55名	教育担当者

ラダー		研修名	習得するラダー	研修日	時間	場所	目的	受講生	講師
ラダーⅡ	2年目	メンバーシップ	チームを運営する力	6月3日	3h	講堂	自己の役割を理解し、チームメンバーの一員として行動できる	54名	教育委員
		フィジカルアセスメント	看護の核となる実践力	10月6日	3h	講堂	フィジカルアセスメント能力を高め、看護実践に活用できる	52名	教育委員
		後輩育成サポート研修	教え育む力	2月3日	3h	講堂	後輩いくせいやプリセプターの役割を理解し、新人看護師を受け入れる心構えと準備ができる	50名	教育委員、藤山看護師長
	3年目	3年目　ケーススタディ	学び続ける力	5月28日	3h	講堂	自己のキャリアを考える・看護研究の基礎知識を習得しケーススタディに臨む	44名	古賀CN、教育委員
		ケーススタディ発表	学び続ける力	1月26日	3h	講堂	自己の看護をふりかえり、大切にしている看護を明確にできる	37名	教育委員
	既卒者	既卒支援① （ストレスマネジメント） 1か月後フォロー	セルフコントロールする力	5月13日	3h	北館研修室	ストレスマネジメントを意識し、セルフマネジメントができる	2名	教育委員
		既卒支援② （家族看護） 3か月後フォロー	看護の核となる実践能力	7月22日	3h		こども病院の看護に必要な知識を習得し、看護実践につなげる	2名	教育委員
		既卒支援③ （退院支援） 6カ月後フォロー	看護の核となる実践能力	10月7日	3h		こども病院の看護に必要な知識を習得し、看護実践につなげる	2名	教育委員
		プリセプターフォロー①	教え育む力	6月25日	3h	講堂	プリセプターの役割を理解し、新人とともに成長できる	34名	教育委員
		プリセプターフォロー②	教え育む力	11月10日	3h	講堂	プリセプターの役割を理解し、新人とともに成長できる	31名	教育委員
		入退院支援推進　基礎研修	看護の核となる実践能力	7月7日	3h	北館研修室	社会資源の知識を深め、関係者と情報共有しながら退院後の生活を見据え、支援を受け個別の看護計画を立案できる	18名	家族支援・地域連携部
		実地指導者研修	教え育む力	7月29日	3h	講堂	実地指導者の役割を認識し、学習者に合わせた学習支援ができる	18名	教育委員会
ラダーⅢ		看護倫理①	職業倫理 意思決定を支える力	8月4日	3h	講堂	倫理原則・倫理綱領に基づき、意識して行動でき、部署の倫理問題に気づき、支援を受けながら問題解決にむけて取り組むことができる	16名	坂本CN、教育委員
		看護倫理②	職業倫理 意思決定を支える力	6月9日	3h	講堂	倫理原則・倫理綱領に基づき、意識して行動でき、部署の倫理問題に気づき、支援を受けながら問題解決にむけて取り組むことができる	16名	栗林CNS、坂本CN、教育委員
		入退院支援推進　基礎研修	看護の核となる実践能力	7月27日	2h	北館研修室	患者の意思決定を尊重し、多職種と連携した退院支援が実践できる	7名	家族支援・地域連携部、藤山看護師長
		対話で看護を変えよう	自己教育・研究能力	8月25日	3h	講堂	学習者を理解し、対象に合わせた支援方法を理解し、行動できる	14名	吉村看護師長、奈須看護師長、教育委員
ラダーⅣ		入退院支援　アドバンス	看護の核となる実践能力	6月23日	2h	北館研修室	入退院支援の実践モデルとして退院支援を推進するとともに、質向上に向けて自部署の退院支援の課題解決に取り組む	3名	家族支援・地域連携部
		入退院支援　アドバンス 研修フォローアップ	看護の核となる実践能力	2月9日	2h	北館研修室		3名	家族支援・地域連携部、藤山看護師長
全看護師対象		トピックス研修①「なぜ薬は効く」	看護の核となる実践能力	10月24日	3h	講堂	こども病院の看護に必要な知識を習得し、看護実践につなげる	14名	薬剤部、教育委員
		トピックス研修②「ディストラクション」		11月28日	3h	講堂		11名	保育士、教育委員
		トピックス研修③「権利擁護と看護実践」		10月30日	3h	講堂		15名	栗林CNS、教育委員

30. 薬剤部

1．薬剤部員異動

【転出者】	主　査	礒元　啓吾	がんセンター	（令和７年４月１日付）
	主　査	陣田　剛志	病院局経営課	（令和７年４月１日付）
	主　任	岡本　沙央理	保健医療部薬務課	（令和７年４月１日付）
	副主任	藤田　愛美	淡路医療センター	（令和７年４月１日付）
【転入者】	主　査	奥貞　佳世子	尼崎総合医療センターから	（令和７年４月１日付）
	主　任	本上　ほなみ	尼崎総合医療センターから	（令和７年４月１日付）
	副主任	今井　瑞稀	丹波医療センターから	（令和７年４月１日付）
	主　事	尾辻　涼	新規採用者	（令和７年４月１日付）
	主　事	濵名　真紀	新規採用者	（令和７年４月１日付）

2．2025年度活動報告

本年の主な取り組み概要を以下に記す。

（1）病棟業務の充実による薬剤の適正使用等の推進

薬剤管理指導を主とした病棟での活動を通じて、患者指導や医療従事者への情報提供を行うことで医薬品の適正使用を推進した。昨年度から継続して病棟薬剤業務実施加算１、２を算定し、各病棟に年間を通して病棟薬剤師を配置した。また、病棟業務等と連携して、緩和ケアチーム、アピアランスケアチーム、褥瘡対策チーム、感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、術後疼痛管理チームなどのチーム医療に尽力するとともに、患者が安心して薬物治療を受けるために、薬剤管理指導業務の充実に努めた。

（2）抗菌薬適正使用支援チーム（AST）事務局としての活動

平成30年度の抗菌薬適正使用加算の算定開始以来、薬剤師がチームリーダーを務め中心となって活動している。外来患者への抗菌薬処方状況ではAWaRe分類Access74.8％とWHO目標を大きく上回り、抗菌薬適正使用体制加算を算定した。また、第８回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会の開催や院内外の勉強会の講師を務める等、抗菌薬の適正使用に努めた。

（3）治験審査委員会（IRB）事務局としての活動

昨年度より薬剤部に治験コーディネーター１名を新たに配置し、医師主導治験の医師負担軽減、薬剤部の治験事務局業務効率化を図り、新規治験受託体制を大きく整備した。

（4）薬剤師外来を開始

主に外来通院の抗がん剤治療患者を対象に、薬の服用方法、薬効、服薬の必要性、副作用の説明などを行い、患者の薬に対する不安や疑問に答えるだけでなく、医師の診察前に薬剤師が副作用の発現状況と重症度評価、服薬状況の確認などを行うことで担当医師と情報共有に務めた。

（5）院外処方箋問合せ簡素化プロトコルの運用

薬剤部で作成した「院外処方箋問合せ簡素化プロトコル」について当院と保険薬局で事前合意し、これに基づき院外処方における調剤上の形式的な疑義照会を簡素化することで、処方医、外来看護師、医事職員等の業務負担を軽減するとともに患者待ち時間短縮に寄与した。

（6）薬物治療の安全確保のためのインシデント防止への取り組み

インシデントが発生しにくい環境作りを目指し、より効果的な対策立案に努めた。基本的かつ最も重要な手順である音読照合の徹底を図りつつ、コミュニケーションエラー防止対策、新人等の経験が浅い職員へのリスクマネジメント教育の強化、昨年に引き続き単位選択間違いの処方監査もれ防止等に取り組んだ。

（7）薬学生の長期実務実習の受け入れ

今年度も薬学部長期実務実習生を受け入れ、教育、指導を行った。

（8）人材育成と自己研鑽の推進

部員の経験年数や適性を考慮し必要な経験が得られ、また自主性を持って取り組めるよう配慮した。新規採用職員については、日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師取得を推奨し、採用から3年で幅広い薬学的知識を持つジェネラリスト育成に取り組んでいる。日本病院薬剤師会がん薬物療法認定暫定研修施設認定、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修連携施設の認定を受けている。

（9）臨床研究への取り組み

今年度は、観察研究を中心に9演題を学会で発表し、小児領域での研究発表に取り組んだ。

3．今後の展望

小児薬物療法に必要な知識や技術の習得を推進し、病棟薬剤業務やチーム医療での積極的な活動と実践を通じて“臨床現場で活躍できる薬剤師”の育成を図るとともに、外来患者指導、薬薬連携の強化を図る。また、引き続き業務改善による効率化を図るとともに医療安全を最優先としインシデントの発生・再発防止に取り組む。

(1) 調剤件数

区　分	処方箋枚数	合　計			内用薬			外用薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入　院	75,052	110,505	125,491	774,561	68,984	74,324	394,921	41,521	51,167	379,640
外　来	18,026	20,705	29,019	179,253	8,354	13,337	85,754	12,351	15,682	93,499
計	93,078	131,210	154,510	953,814	77,338	87,661	480,675	53,872	66,849	473,139
一日平均	381.5	537.7	633.2	3,909.1	317.0	359.3	1,970.0	220.8	274.0	1,939.1

(2) 注射薬取扱件数

区　分	注射薬	
	処方箋枚数	延本数
入　院	150,214	949,498
外　来	12,466	20,822
計	162,680	970,320
一日平均	666.7	3,976.7

(3) 薬剤管理指導関係件数

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
薬剤管理指導	1,014	964	1,046	1,095	1,088	1,068	1,216	1,049	854	1,051	1,003	1,033	12,481
麻薬加算	14	14	10	4	3	9	6	1	2	5	13	3	84
退院指導	147	142	169	164	158	175	222	192	164	210	208	240	2,191

(4) 薬剤情報提供料　件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全　科	432	357	367	391	486	454	476	459	376	385	365	473	5,021

(5) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	486	491	482	436	454	438	637	373	416	470	483	410	5,576
高カロリー	153	147	133	172	143	114	332	157	154	176	206	145	2,032
計	639	638	615	608	597	552	969	530	570	646	689	555	7,608

(6) TDM件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全件数	16	54	10	14	39	23	20	31	15	39	25	38	324

(7) 院内ＤＩ業務

①　電子メール・電子カルテ掲示板掲載による情報提供

掲　載　日	件　　名
2024年1月26日	医薬品安全対策情報　No.323
2024年2月15日	医薬品・医療機器安全性情報　No.407
2024年3月12日	医薬品安全対策情報　No.324
2024年3月19日	医薬品・医療機器安全性情報　No.408
2024年4月12日	医薬品安全対策情報　No.325
2024年4月30日	医薬品・医療機器安全性情報　No.409
2024年6月19日	医薬品・医療機器安全性情報　No.410
2024年6月19日	医薬品安全対策情報　No.326
2024年7月1日	医薬品安全対策情報　No.327
2024年7月24日	医薬品・医療機器安全性情報　No.411
2024年8月26日	医薬品・医療機器安全性情報　No.412
2024年9月18日	医薬品安全対策情報　No.328
2024年9月18日	医薬品安全対策情報　No.329
2024年10月2日	医薬品・医療機器安全性情報　No.413
2024年11月1日	医薬品安全対策情報　No.330
2024年11月29日	医薬品・医療機器安全性情報　No.414
2024年12月23日	医薬品安全対策情報　No.331

②　主な問い合わせ内容

問　い　合　わ　せ　内　容
• 注射薬配合変化について • 注射薬溶解後の安定性について • 注射薬のフィルター透過性について • 食品と薬剤の相互作用について • 内服薬の飲み易い飲み方について • 冷所保存医薬品の常温での安定性について • 抗がん剤の適切な投与法について • 医薬品の副作用について • 血液製剤の投与法について • 小児薬用量について • 錠剤の粉砕可否について

(8) 院内製剤

① 内用液剤

製　剤　名	製剤量（単位/ml）
内服用ルゴール液	120mL
0.1%ミダゾラムシロップ	9,000mL

② 軟膏

製　剤　名	製剤量（単位/g）
10%テストステロン軟膏	1,200g

③ 外用液剤

製　剤　名	製剤量（単位/ml）
アセモトール	2,000mL
1/2カプト点眼	2,400mL
25%グリセリン液	3,660mL
30%硝酸銀	40mL
10%ピオクタニン青液	15mL
0.2%ピオクタニン青液	0mL
ツェンテール液	0mL

④ 予製剤

製　剤　名	製剤量（単位/g）	製　剤　名	製剤量（単位/g）
（倍散→倍散）		ベラプロスト（×50000）	1,500g
0.01%ジゴシン散	0g	ヒドロクロロチアジド散（×10）	500g
（錠→散）		ポラキス散（×100）	160g
インデラル散（×100）	900g	コートリル散（×20）	1,200g
グリチロン散	300g	デカドロン散（×1000）	875g
ロンゲス散（×100）	700g	カタプレス（75μg/g）	900g
レバチオ散（×50）	2,450g	カロナール散（×5）	0g

31. 検査部

１．人事異動（令和７年４月１日付）

【転出者】	副検査技師長	中澤　佳代	尼崎総合医療センターへ
	課長補佐	東村　義志	淡路医療センターへ
	課長補佐	足立　綾	健康科学研究所へ
	主事	吉原　希望	退職
【転入者】	副検査技師長	清名　浩晃	加古川医療センターより
	主任	吉川　千尋	尼崎総合医療センターより
	副主任	渡邊　一貴	淡路医療センターより
	副主任	頃安　祐菜	はりま姫路総合医療センターより
	主事	生駒　希久音	新規採用

２．活動報告

（１）臨床検査業務について

令和７年の院内検査件数は1,178,894件で、電子カルテ更新のため診療制限を行った昨年との比較においても102.6%とわずかな増加にとどまった。

９月より、鎮静薬投与患者の検査について全例モニタリングが開始された。脳波や聴性脳幹反応検査等にノイズが入りにくいパルスオキシメーターを導入し、外来看護師と協力して患者のモニタリングを行う運用を構築した。

設備面では、ホルター心電図一式、睡眠時無呼吸検査装置、病理検査の染色装置および免疫染色装置を更新し、業務の改善を図った。

（２）インシデント防止への取り組み

病院全体の取組みに合わせて、指さし呼称の徹底に取り組み、患者確認やデータ入力時の実施を推進した。また、KYT（危険予知トレーニング）の実施、マニュアルの定期的な見直しを行い、インシデントの防止を図った。

（３）院内感染対策

感染対策委員会事務局として本委員会を定期開催（年12回）した。感染対策チーム（ICT）の活動に力を入れ、院内感染対策に有効なPCR-based ORF typing（POT）法を実施しており、感染管理加算Ⅰ取得を継続している。

（４）安全な輸血療法

乳幼児の少量輸血に対応するため、無菌接合装置を用いて血液製剤（赤血球、血小板、新鮮凍結血漿）の無菌的分割を行なっている。また、輸血療法委員会事務局として本委員会を定期開催（年６回）し、適正な輸血療法の推進、血液製剤の有効利用を図り、赤血球製剤廃棄率は0.5%と低く抑えられている。また、輸血管理料Ⅰを取得している。

（５）人材育成・教育研修

若手職員の増加に伴い、人材育成の重要性が増している。今年度は他の県立病院の認定サイトメトリー技術者に、当院のフローサイトメーターを用いて指導してもらうなど、技術の向上を図った。また、心電図検定２級に２名が合格した。各種資格を保有している職員も多く、日々研鑽を積んでいる。

（6）ISO 15189第3回定期サーベイランス受審

ISO 15189とは、臨床検査室に特化した国際的な技術能力の第3者認定であり、認定取得は検査結果の信頼性の向上や医療安全への貢献に繋がる。当院は小児がん拠点病院、がんゲノム医療連携病院であることから、令和3年1月に認定を取得し、維持しており、国際標準検査管理加算を取得している。

＜認定・資格＞

超音波検査士（循環器）	4名	超音波検査士（消化器）	3名
超音波検査士（体表臓器）	1名	超音波検査士（産婦人科）	1名
細胞検査士	3名	認定輸血検査技師	1名
認定血液検査技師	1名	臨床工学技士	1名
二級臨床検査士（血液）	1名	二級臨床検査士（微生物）	2名
有機溶剤作業主任者	2名	臨地実習指導者	2名
管理栄養士	1名	衛生工学衛生管理者	1名
認定病理検査技師	1名	がんゲノム医療コーディネーター	1名
遺伝子分析科学認定士	1名	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	3名

3．次年度の課題

ISO 15189第4回定期サーベイランス受審を予定している。また、県立病院の厳しい経営状況を鑑み、経費削減や増収につながる試薬の使用量削減や委託検査の院内取り込み等に取り組んでいく。

(1) 臨床検査実施状況　（件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一　般	3,815	3,451	4,150	3,550	3,618	3,647	4,193	4,505	3,867	4,186	3,771	4,264	47,017
血　液	14,796	13,572	16,372	14,861	15,738	14,821	16,144	16,172	15,544	15,724	14,975	16,090	184,809
細　菌	1,849	1,759	1,888	1,388	1,900	1,824	2,009	1,775	1,717	1,946	1,980	1,942	21,977
血　清	5,655	5,054	5,942	5,241	5,482	5,411	5,843	5,980	5,504	5,491	5,057	5,507	66,167
生化学	63,197	57,437	69,717	61,964	65,241	61,449	67,261	69,375	63,574	65,904	61,362	68,530	775,011
病　理	160	173	159	149	151	138	178	173	194	234	178	145	2,032
生　理	1,348	1,290	1,997	1,597	1,351	1,392	1,613	1,973	1,503	1,364	1,190	1,548	18,166
外部委託	5,391	4,680	6,149	5,636	4,781	5,109	5,783	6,620	4,946	5,095	4,120	5,405	63,715
合　計	96,211	87,416	106,374	94,386	98,262	93,791	103,024	106,573	96,849	99,944	92,633	103,431	1,178,894

(2) 時間外（日、当直）検査実施状況　（件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
休日日勤帯	1,043	746	866	608	930	576	656	861	741	685	1,140	1,130	9,982
準夜帯	1,071	1,001	1,066	968	1,178	986	1,239	991	1,144	931	1,083	986	12,644
深夜帯	2,491	2,185	3,386	2,419	2,752	2,660	2,742	2,620	2,509	2,548	2,668	2,692	31,672
合　計	4,605	3,932	5,318	3,995	4,860	4,222	4,637	4,472	4,394	4,164	4,891	4,808	54,298

(3) 血液製剤使用状況

製剤			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RBC	使用量	単位数	254	186	266	288	295	310	296	301	291	233	361	304	3,385
	廃棄量	単位数	0	0	0	4	2	0	2	0	4	2	2	0	16
	廃棄率	%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.7%	0.0%	0.7%	0.0%	1.4%	0.9%	0.6%	0.0%	0.5%
FFP	使用量	単位数	108	77	150	179	156	252	198	193	148	117	139	162	1,879
	廃棄量	単位数	2	3	0	0	2	4	0	2	6	1	0	0	20
	廃棄率	%	1.8%	3.8%	0.0%	0.0%	1.3%	1.6%	0.0%	1.0%	4.1%	0.9%	0.0%	0.0%	1.1%
PC	使用量	単位数	840	570	810	1,780	1,870	905	1,075	1,210	1,090	1,600	1,925	1,450	15,125
	廃棄量	単位数	10	0	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0	30
	廃棄率	%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
ALB		単位数	330	299	381	359	371	338	389	456	249	573	434	604	4,782
FFP/RBC比			0.42	0.41	0.56	0.60	0.52	0.80	0.67	0.64	0.49	0.47	0.38	0.52	0.56
ALB/RBC比			0.97	1.10	1.30	1.20	1.30	1.10	1.31	1.50	0.90	2.46	1.20	2.00	1.41

(4) 血液培養検査

実施件数	3,420件
陽性率	6.0%

(5) 薬剤耐性（2024年の薬剤感受性試験実施株を対象）

黄色ブドウ球菌に占めるMRSA率	43.0%
大腸菌に占めるESBL産生率	33.2%
緑膿菌のイミペネム耐性率	14.9%
腸内細菌科細菌および緑膿菌のカルバペネマーゼ産生菌分離率	0.0%

院内合同研修（2025年）

1　公開研修会

名　称	主　催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者/担当	所属科名
院内研修会	研修教育委員会	2月27日	17：45 ～ 18：30	講堂	19	—	19	「病理検体の取り扱いについての注意点」 「Diffuse midline glioma,H3K27-alteredの5例」	川畑順子/ 吉田牧子	検査部/ 病理診断科

32. 放射線部

1．人事異動　令和７年４月１日付

【転出者】	主　　任	爰河　恵梨	尼崎総合医療センターへ
【転入者】	課長補佐	稲村　修三	西宮病院より
	主　　任	吉松　詩織	加古川医療センターより
	主　　事	田中　　凱	新規採用
【退　職】	課長補佐	中出　貴英	

2．活動状況

1）放射線検査業務実績（表１、２、３）

令和７年の放射線検査実績は、総検査人数47，469人で、前年より1,404人減少した。外来患者数が1,693人減少し、入院患者数が289人増加した。

時間外検査人数は6,472人で、前年より110人減少した。日勤帯で21人増加、準夜帯で159人減、深夜帯で28人増加した。

2）機器の更新（表４）

CT装置がキヤノンメディカルシステムズ社製Aquilion ONE INSIGHTに更新された

3）医療安全管理の取組み

① ポータブル撮影時、障害陰影物（衣類のボタン等、輸液チューブ、心電図の端子、ケーブルなど）がないか技師と看護師でダブルチェックを行った。

② 患者間違いや検査依頼項目の見落としがないように、患者氏名やID、撮影部位、撮影方法について、バーコードリーダーによる認証と指差し・声出し確認を実施した。

4）チーム医療の推進

県立病院に所属する診療放射線技師として以下に掲げる理念および基本方針を策定した。

【理念】

放射線の専門職として医療被ばくの適正化に努め、安心安全なチーム医療を推進します。

【基本方針】

１．患者さんと共にチーム医療の一翼を担い、専門分野の責務を全うします。

２．自己研鑽に励み、安全を担保した高度で良質な画像診断と放射線治療を提供します。

３．高額医療機器の適正な使用と精度管理に努め、病院運営に貢献します。

【スローガン】

みんな笑顔に！

「みんな笑顔に！」という言葉には、診療放射線技師を含めた医療スタッフが笑顔のある職場作りを目指すと共に、医療を受ける患者様が笑顔を取り戻せるようにサポートしますという思いが込められています。

5）資質向上と教育

学会・研修会（ＷＥＢ開催）へ積極的に参加している。

- 学会・研修会発表　　：４題
- 学会・研修会等への参加：日本放射線技術学会学術大会、日本小児放射線技術研究会、全国自治体病院学会、兵庫県核医学技術検討会等

＜認定資格＞

第１種放射線取扱主任者	５名	第２種放射線取扱主任者名	１名
放射線管理士	１名	衛生工学衛生管理者	２名
診療情報管理士	１名	放射線治療品質管理士	１名
放射線治療専門放射線技師	１名	核医学専門技師	１名
Ｘ線ＣＴ認定技師	２名		
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	３名		
血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	１名		
実習施設指導者・臨床実習指導者	１名		

３．令和８年の課題

県立病院に導入されている医療被ばく線量管理システムを使用した被ばく線量データを活用し、各々の放射線機器の性能や画像構築の最適化を行い、さらなる患者被ばく低減を目指す。

放射線機器の管理を適正に行い、安定稼働および安心安全な検査を継続すること。またチーム医療の推進を図り、医療事故防止について取り組んでいく。

(1) 放射線検査人数（表１）

区分			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
単純撮影	Ｘ線撮影	外来	1,443	1,203	1,743	1,478	1,224	1,307	1,599	1,748	1,373	1,366	1,182	1,383	17,049
		入院	85	73	65	62	80	100	73	70	83	76	60	85	912
		計	1,528	1,276	1,808	1,540	1,304	1,407	1,672	1,818	1,456	1,442	1,242	1,468	17,961
	ポータブル	外来	76	89	79	76	69	86	71	56	81	61	62	75	881
		入院	1,098	1,101	1,266	865	1,142	1,057	1,212	1,148	1,015	1,026	960	1,083	12,973
		計	1,174	1,190	1,345	941	1,211	1,143	1,283	1,204	1,096	1,087	1,022	1,158	13,854
単純撮影合計		外来	1,519	1,292	1,822	1,554	1,293	1,393	1,670	1,804	1,454	1,427	1,244	1,458	17,930
		入院	1,183	1,174	1,331	927	1,222	1,157	1,285	1,218	1,098	1,102	1,020	1,168	13,885
		計	2,702	2,466	3,153	2,481	2,515	2,550	2,955	3,022	2,552	2,529	2,264	2,626	31,815
造影撮影	消化器	外来	37	28	31	29	33	31	41	47	31	33	27	40	408
		入院	12	17	17	10	9	9	13	10	11	14	12	15	149
		計	49	45	48	39	42	40	54	57	42	47	39	55	557
	脳血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	1	2	1	0	2	0	2	2	0	0	0	1	11
		計	1	2	1	0	2	0	2	2	0	0	0	1	11
	心臓血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	22	28	29	31	18	28	24	29	26	33	25	23	316
		計	22	28	29	31	18	28	24	29	26	33	25	23	316
	その他血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器系	外来	20	17	18	29	22	19	21	23	20	23	13	28	253
		入院	9	3	4	6	10	5	3	4	5	5	6	4	64
		計	29	20	22	35	32	24	24	27	25	28	19	32	317
	その他造影	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	1	0	0	0	4	1	1	1	0	8
		計	0	0	0	1	0	0	0	4	1	1	1	0	8
造影撮影合計		外来	57	45	49	58	55	50	62	70	51	56	40	68	661
		入院	44	50	51	48	39	42	42	49	43	53	44	43	548
		計	101	95	100	106	94	92	104	119	94	109	84	111	1,209
ＣＴ検査		外来	116	88	112	80	101	94	92	100	84	79	108	87	1,141
		入院	105	104	82	91	78	90	115	89	112	103	81	95	1,145
		計	221	192	194	171	179	184	207	189	196	182	189	182	2,286
ＭＲＩ検査		外来	187	177	250	240	186	187	241	256	206	205	141	161	2,437
		入院	91	79	53	80	102	97	99	82	116	122	106	111	1,138
		計	278	256	303	320	288	284	340	338	322	327	247	272	3,575
核医学検査		外来	6	10	14	7	9	10	9	6	11	4	4	4	94
		入院	7	8	6	8	7	10	11	5	8	12	7	13	102
		計	13	18	20	15	16	20	20	11	19	16	11	17	196
放射線治療		外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	10	37	30	19	27	6	1	1	11	142
		計	0	0	0	10	37	30	19	27	6	1	1	11	142
超音波検査		外来	554	486	638	530	502	489	652	713	554	545	470	569	6,702
		入院	87	85	77	84	75	113	105	103	118	117	88	100	1,152
		計	641	571	715	614	577	602	757	816	672	662	558	669	7,854
骨塩定量		外来	26	27	45	23	21	16	40	51	21	27	28	33	358
		入院	4	6	3	1	1	4	3	3	2	3	3	1	34
		計	30	33	48	24	22	20	43	54	23	30	31	34	392
総合計		外来	2,465	2,125	2,930	2,492	2,167	2,239	2,766	3,000	2,381	2,343	2,035	2,380	29,323
		入院	1,521	1,506	1,603	1,249	1,561	1,543	1,679	1,576	1,503	1,513	1,350	1,542	18,146
		計	3,986	3,631	4,533	3,741	3,728	3,782	4,445	4,576	3,884	3,856	3,385	3,922	47,469

(2) 時間外　時間帯別検査人数（表２）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	362	307	359	196	328	251	260	299	277	219	299	344	3,501
業務時間（時）	51	45	51	32	50	39	41	49	46	35	53	59	551
準夜帯検査人数	204	195	225	191	199	185	236	191	187	177	161	168	2,319
業務時間（時）	59	59	66	53	60	58	74	56	53	53	51	52	694
深夜帯検査人数	68	78	63	35	40	43	64	53	53	33	76	46	652
業務時間（時）	31	36	28	16	20	21	31	26	27	15	35	24	310
検査人数（計）	634	580	647	422	567	479	560	543	517	429	536	558	6,472
業務時間（計）	141	140	145	101	130	118	146	131	126	103	139	135	1,555

(3) 時間外　検査種別検査人数（表３）

区　分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	521	499	518	333	467	367	458	453	384	332	415	440	5,187
一般撮影	196	203	221	247	219	234	169	197	242	216	228	218	2,590
CT	56	40	52	40	40	37	48	41	40	35	53	49	531
TV	3	3	2	3	1	5	6	4	3	0	2	8	40
MRI	2	0	3	3	1	0	2	2	1	2	3	3	22
アンギオ	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
合　計	778	748	796	626	728	643	683	697	670	585	702	718	8,374

(4) 放射線機器一覧表（表４）

機　器　名	製造・販売業者	装　置　名	購入年月
MRI装置	フィリップス・ジャパン	Ingenia 1.5T CX	H28年３月
MRI装置	GEヘルスケア・ジャパン	SIGNA Architect 3.0T	R３年３月
全身用CT装置（320列）	キャノンメディカルシステムズ	Aquilion ONE INSIGHT	R７年12月
放射線治療位置決め用CT装置（80列）	キャノンメディカルシステムズ	Aquilion PRIME	H28年３月
血管連続撮影装置	キャノンメディカルシステムズ	Alphenix INFX-8000V BP	R６年２月
FPDシステム（12式）	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart	H28年３月
長尺FPD装置（2台）	富士フイルムメディカル	CALNEO GL	H28年３月
泌尿器用Ｘ線テレビ装置	キャノンメディカルシステムズ	Ultimax-i	H28年３月
消化器用Ｘ線テレビ装置	富士フイルムヘルスケアシステムズ	CUREVISTA	H24年９月
診断用Ｘ線撮影システム（2台）	島津製作所	RADspeed Pro	H28年３月
医用画像システム	富士フイルムメディカル	SYNAPSE	H28年３月
3D画像解析ワークステーション	富士フイルムメディカル	VINCENT	H31年２月
被ばく線量管理システム	GEヘルスケア・ジャパン	Dose Watch	R２年３月
パノラマ・セファロX撮影装置	モリタ	Veraviewepocs 2DB	H28年３月
ガンマカメラ	GEヘルスケア・ジャパン	Discovery NM830	R５年３月
リニアック	エレクタ（株）	VersaHD	R６年12月
治療計画装置	エレクタ（株）	モナコ	R６年12月
移動型Ｘ線撮影装置（2台）	富士フイルムヘルスケアシステムズ	Sirius 130HP	H28年３月
移動型Ｘ線撮影装置（3台）	富士フイルムヘルスケアシステムズ	Sirius 130HP	H23年２月
線量モニタリングシステム	米国Sun Nuclear	1137型 IVD2	H28年３月
RI対応安全キャビネット	日本エアーテック	BHC-1307Ⅱ A2-RI-S	H28年３月
Ｘ線骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon W	H28年３月
アンギオ用動画サーバー	ネクシス	Nahri AQUA	H28年３月
超音波画像診断装置	日立アロカメディカル	Ascendus	H28年３月
超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with Xdclear	H25年12月
超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8	H24年３月
外科用Ｘ線Cアーム装置	シーメンスヘルスケア	Cios Select FD	R６年１月
外科用Ｘ線Cアーム装置	シーメンスヘルスケア	ARCADIS Orbic	H26年４月
造影剤自動注入器（アンギオ）	シーマン	ZONE MASTER MODELA	H21年12月
造影剤自動注入器（MRI）	根本杏林堂	Sonic Shot 7	R３年３月
造影剤自動注入器（MRI）	根本杏林堂	Sonic Shot 7	H28年３月
造影剤自動注入器（CT）	根本杏林堂	Dual Shot GXV	H23年９月
造影剤自動注入器（CT）	根本杏林堂	Dual Shot GX7	H28年３月
造影剤自動注入器（TV）	シーマン	ZONE MASTER SR Fusion	H28年３月
RIドーズキャリブレータ	CAPINTEC	CRC-55t	R５年３月
分注器	安西	AZ-2000N	H20年12月

33. 栄養管理部

１．人事

【退職者】	栄養管理部長兼務	小阪　嘉之	副院長	（令和７年３月31日付）
【転入者】	栄養管理部長兼務	尾﨑　佳代	代謝・内分泌内科部長（科長）より	
				（令和７年４月１日付）
	主　　事	栗原　梨緒	新規採用	（令和７年４月１日付）
	主　　事	前田　真洸	新規採用	（令和７年４月１日付）
	技能主任	藤原　真澄	西宮病院より	（令和７年４月１日付）

２．主な活動報告

食物アレルギー患者の増加に対する安全な病院給食の提供及び栄養管理・栄養指導の充実に努めている

（１）医療事故防止対策に関する取り組み

- 全県立病院及び当院で取り組む医療安全重点目標に対する取り組みを実施
- 食物アレルギーに関するインシデント防止は最重要取り組みとして実施継続
- 令和６年９月の電子カルテの更新及び部門システムの入れ替えに伴い、食物アレルギーの安全管理を考慮したシステム運用に変更

（２）チーム医療の推進

- 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会、化学療法レジメン部会などの委員会活動への積極的な参画

（３）患者給食のサービス向上のための給食イベント「病棟夏祭り」等の実施、季節ごとの行事に因んだ食事やおやつの提供、産科の出産「ねぎらい膳」の提供を継続

（４）病院の給食管理・栄養管理及びチーム医療に貢献できる栄養の専門職として人材育成を図る

（５）知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実

（６）栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

３．これからの展望

令和８年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理部の基盤業務において医療事故防止の取り組みを強化すると共に診療各部門等との更なる連携を図った栄養管理及び栄養指導･相談を行うなど患者サービスの充実・向上を推進する。

4．給食

（1）調製乳　月別延数

①　調製乳　人数

（単位　人）

区分／月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
調乳のみ人員(人)	2,261	2,396	2,598	1,939	2,157	2,268	2,500	2,472	2,426	2,387	2,336	2,434	28,174	86.4
調乳・食事人員：調乳(人)	97	146	204	210	193	169	165	140	165	173	111	150	1,923	5.9
小　計	2,358	2,542	2,802	2,149	2,350	2,437	2,665	2,612	2,591	2,560	2,447	2,584	30,097	92.3
調乳・食事人員(食事)	142	192	233	249	257	226	219	179	209	248	136	219	2,509	7.7
計	2,500	2,734	3,035	2,398	2,607	2,663	2,884	2,791	2,800	2,808	2,583	2,803	32,606	100.0

（注）調乳・食事人員……調乳（人）調製乳と食事が重複するもの

②　調製乳　種類及び本数

（単位　本）

種類／月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
13%レーベンスミルク		7,074	7,889	9,349	7,441	7,804	8,633	9,333	8,854	9,372	9,315	9,129	10,209	104,402	49.4
15%ＬＷ		1,874	2,409	2,267	1,182	1,147	950	1,635	2,467	2,178	2,369	1,313	1,307	21,098	10.0
特殊乳	13% LW													0	
	16% LW													0	
	7％レーベンスミルク													0	
	10% レーベンスミルク				14									14	
	12% レーベンスミルク													0	
	14% レーベンスミルク											48	16	64	
	15% レーベンスミルク	856	606	1,374	1,618	807	733	925	792	686	1,001	1,313	1,331	12,042	
	16% レーベンスミルク												147	147	
	17% レーベンスミルク	621	520	166	525	764	855	1,040	1,171	644	618	278	529	7,731	
	18% レーベンスミルク	279	54		14	88								435	
	19% レーベンスミルク	558	589	251	264	484	213	435	555	454	398	720	634	5,555	
	20% レーベンスミルク													0	
	12% E赤ちゃん													0	
	13% E赤ちゃん	112	127	114	68	81	43	15	54	9	128	52		803	
	14% E赤ちゃん													0	
	15% E赤ちゃん													0	
	9％MA -1				6									6	
	13% MA -1			7		28								35	
	14% MA -1													0	
	15% MA -1	305	462	1,191	625	700	869	1,003	465	284	363	317	409	6,993	
	16% MA -1													0	
	17% MA -1													0	
	20% MA -1													0	
	10% MCTフォーミュラ													0	
	13% MCTフォーミュラ													0	
	14% MCTフォーミュラ	972	689	1,184	640	880	1,031	1,164	1,843	1,638	1,354	1,074	1,273	13,742	
	15% MCTフォーミュラ						36							36	
	16% MCTフォーミュラ												9	9	
	17% MCTフォーミュラ													0	
	18% MCTフォーミュラ													0	
	14% 必脂 MCT(721)	63	268	181		16	112	175			6		28	849	
	13% 必脂 MCT													0	
	14% 必脂 MCT	20							27	261		13	105	426	
	15% 必脂 MCT													0	
	16% 必脂 MCT													0	
	17% 必脂 MCT													0	

	種類 / 月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
特殊乳	18% 必脂 MCT													0	
	10% エレンタール											189		189	
	13% エレンタール											70	29	99	
	15% エレンタール				2			11						13	
	16% エレンタール													0	
	20% エレンタール													0	
	26% エレンタール	12	36							72				120	
	27% エレンタール	232	48	9						5	8		28	330	
	10% エレンタールP	482	216	225	150	154	171	72	128	42		117	266	2,023	
	12% エレンタールP												18	18	
	13% エレンタールP	222	249	372	47	279	220	208	139	348	92	48	396	2,620	
	14% エレンタールP		6	4										10	
	15% エレンタールP	142	31	434	301	162	28	110	28	21	323	270	351	2,201	
	16% エレンタールP	20			27									47	
	17% エレンタールP			45		259	396	279	279	27				1,285	
	18% エレンタールP							18	40					58	
	19% エレンタールP			54										54	
	20% エレンタールP	505	224	311	218	159	8			257	24	180	121	2,007	
	22% エレンタールP													0	
	23% エレンタールP			27										27	
	26% エレンタールP	450	378	183	97	176	292	235	222	150	155	125	116	2,579	
	27% エレンタールP	4												4	
	12% ケトンフォーミュラ(登録品)				3	3								6	
	8% エレメンタルフォーミュラ													0	
	10% エレメンタルフォーミュラ													0	
	13% エレメンタルフォーミュラ	117	336	223	202	277	252	90				54	397	1,948	
	14% エレメンタルフォーミュラ													0	
	15% エレメンタルフォーミュラ	54	9					54						117	
	17% エレメンタルフォーミュラ	234	198	270	144	331	394	437	458	308	247	157	25	3,203	
	19% エレメンタルフォーミュラ		63											63	
	7% 低カリウム中リン													0	
	10% 低カリウム中リン													0	
	12% 低カリウム中リン	64												64	
	13% 低カリウム中リン													0	
	14% 低カリウム中リン													0	
	15% 低カリウム中リン		21	154			21	140				7		343	
	16% 低カリウム中リン													0	
	17% 低カリウム中リン	248	186											434	
	15% S-23蛋白除													0	
	15% S-22													0	
	15% ML-3													0	
	14% GSD-N													0	
	特殊乳　小計	6,572	5,316	6,779	4,965	5,648	5,674	6,411	6,201	5,206	4,717	5,032	6,228	68,749	32.5
濃厚流動食	GFO	33	19	72	174	115	190	115	101	28	48	8	101	1,004	
	アイソカルジュニア	1,214	821	862	737	543	430	819	603	579	591	744	577	8,520	
	MA-ラクフィア	250	248	318	298	277	268	324	480	344	254	409	268	3,738	
	ペプチーノ(プレーン)	6	172	19										197	
	リーナレン LP													0	
	リーナレン MP	91	51	49	52	27	19				22	30	2	343	
	濃厚流動食　小計	1,594	1,311	1,320	1,261	962	907	1,258	1,184	951	915	1,191	948	13,802	6.5
滅菌水		305	182	181	217	421	271	365	559	221	252	102	135	3,211	1.5
合計		17,419	17,107	19,896	15,066	15,982	16,435	19,002	19,265	17,928	17,568	16,767	18,827	211,262	100.0
空瓶　大200ｃｃ		6,572	7,022	6,762	7,306	7,694	7,194	7,461	6,922	6,547	6,686	6,758	5,688	82,612	53.0
空瓶　小100ｃｃ		6,432	5,760	6,360	6,144	6,408	6,168	6,816	6,072	5,616	6,288	6,720	4,368	73,152	47.0
合計		13,004	12,782	13,122	13,450	14,102	13,362	14,277	12,994	12,163	12,974	13,478	10,056	155,764	100.0

（2）患者食事数

①　患者食事数

（単位　食）

区分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合　計
常食	学　童　食	2,293	2,661	3,146	2,593	2,686	2,519	2,716	3,524	2,560	2,391	2,657	2,850	32,596
	妊　産　婦　食	1,295	1,351	1,464	1,547	1,575	1,396	1,335	831	1,160	1,330	1,089	1,310	15,683
	小　　計	3,588	4,012	4,610	4,140	4,261	3,915	4,051	4,355	3,720	3,721	3,746	4,160	48,279
軟菜・幼児・離乳	幼児・離乳食	2,683	2,248	2,708	2,771	3,185	2,534	2,119	2,006	2,473	2,857	2,780	3,045	31,409
	軟菜・流動食	1,038	919	1,088	1,050	1,125	1245	957	902	1,055	1,299	1,148	1,213	13,039
	小　　計	3,721	3,167	3,796	3,821	4,310	3,779	3,076	2,908	3,528	4,156	3,928	4,258	44,448
非加算特別食	ペ　ー　ス　ト　食	42	48	126	119	87	76	133	130	110	66	47	75	1,059
	アレルギー食													0
	自　　由　　食													0
	口　蓋　裂　食	21		10		10		22	86	24	17	10		200
	扁　摘　術　後　食	181	159	205	16	46	104	202	126	82	63	183	169	1,536
	移　植　対　応　食	298	185	287	372	483	417	417	340	261	416	383	479	4,338
	クローン病食													0
	低　残　渣　食	3						1	57	53	44	14	6	178
	肥　　満　　食													0
	減　　塩　　食													0
	その他特別食	522	543	741	724	666	462	654	709	545	518	399	519	7,002
	小　　計	1,067	935	1,369	1,231	1,292	1,059	1,429	1,448	1,075	1,124	1,036	1,248	14,313
加算特別食	腎　臓　食	64	1	6	77	90	63	11	77	71	3	6	47	516
	肝　臓　食	51	36	57	25	31	68	12	32	60	61	72	199	704
	糖　尿　病　食	5	84	123	49	134	204	35	48	222	181	249	155	1,489
	乳　び　胸　食		1	14		5					20	22		62
	心　臓　食													0
	エ　ネ　コ　ン　食							22	25	36	85	213	7	388
	ケ　ト　ン　食				2	3								5
	低ナトリウム食													0
	検　査　食（加）													0
	妊娠中毒症食	17		32			2	38				33	11	133
	妊産婦糖尿病食													0
	妊産婦肝臓病食													0
	高尿酸血症食													0
	小　　計	137	122	232	153	263	337	118	182	389	350	595	419	3,297
合　　計		8,513	8,236	10,007	9,345	10,126	9,090	8,674	8,893	8,712	9,351	9,305	10,085	110,337
検食等	保　存　食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検　　食	261	235	261	251	261	251	259	261	252	259	254	261	3,066
	合　　計	447	403	447	431	447	431	445	447	432	445	434	447	5,256
総　合　計		8,960	8,639	10,454	9,776	10,573	9,521	9,119	9,340	9,144	9,796	9,739	10,532	115,593

②　患者おやつ数

（単位　食）

区　分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合 計
おやつ数	2,565	2,491	2,851	2,683	3,004	2,726	2,601	2,611	2,542	2,881	2,812	2,965	32,732

（3）患者外食事数（保育食）

（単位　食）

区　分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合 計
保育児食	149	176	214	158	114	109	145	140	127	179	170	182	1,863

5．栄養指導　月別種類別件数

（単位　件）

種類＼月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		47	39	40	41	51	52	49	47	42	42	42	45	537
2型糖尿病		9	7	6	7	7	7	8	6	6	6	5	3	77
その他糖尿病						1		2		1		3	2	9
妊娠糖尿病									1	2		1	1	5
肥満		28	24	31	28	28	25	33	30	30	32	24	37	350
腎臓病		6	1	5	1	5	3	4	3	2	2	4	2	38
妊娠高血圧症候群														0
心臓病			1	1	1	2	1	2	1	1	1	3	1	15
肝臓病										2				2
膵臓病		1						1						2
フェニルケトン尿症		1	1	1		1			1		1		1	7
ガラクトース血症														0
脂質異常症			5	3		4	3		3	5	2	5	1	31
高尿酸血症														0
胃潰瘍食														0
低残渣食		1												1
小児食物アレルギー		37	43	54	56	56	57	48	58	43	53	40	48	593
貧血食		1			1								1	3
移植対応食		3	2	5	2	2	8	4		4	6	2	2	40
てんかん食(ケトン食)		1								1	1			3
がん		12	17	11	19	7	4	5	7	12	7	6	13	120
摂食・嚥下機能低下			2		1		2		3			1	1	10
ミキサー食(胃ろう)		1	3	1		3	2	2	1	4	7	2	1	27
痛風食			1						1		1	1		4
低栄養		5	5	8	7	3	1	6	4	7	7	7	8	68
調乳(標準ミルク)					1									1
調乳(高濃度ミルク)		2	2	1	3			2	2	2	1	3	2	20
調乳(特殊ミルク)			1	1			1	1	2	1	1	1		9
その他		3	8	5	4	7	1	12	10	7	4	12	2	75
合計(件)		158	162	173	172	177	167	179	180	172	174	162	171	2,047
件数	外来	108	109	118	116	127	103	118	128	123	116	117	106	1,389
	入院	50	53	55	56	50	64	61	52	49	58	45	65	658
合計（件）		158	162	173	172	177	167	179	180	172	174	162	171	2,047
人数	外来	230	233	259	256	283	212	259	285	259	249	251	237	3,013
	入院	105	113	122	120	111	148	138	110	99	125	93	131	1,415
合計（人）		335	346	381	376	394	360	397	395	358	374	344	368	4,428

（注）件数に比べ人数が多いのは、患者1人1件において、本人以外の親等にも栄養指導を行い、その人数に含めているためである。

34. リハビリテーション部

【スタッフ】

- 平成28年５月こども病院移設とともに診療部リハビリテーション科として理学療法士２名､作業療法士１名、言語聴覚士４名の体制で開設。
- 平成30年度理学療法士１名増員。
- 平成31年度（令和１年度）診療部より独立。リハビリテーション部となり、整形外科医師小林大介リハビリテーション科・部　部長就任。
- 令和２年度理学療法士１名増員。
- 令和６年度整形外科医師坂田亮介リハビリテーション科長就任。小林大介リハビリテーション部長継続
- 兵庫県レジデント制度により令和６年度よりレジデント理学療法士１名勤務。
- 令和７年度過員配置１名。

令和７年度４月現在スタッフ数

	人員	備考
医　　師	２名	リハビリテーション科長・部長
理学療法士	６名	レジデント1名、過員配置１名含む
作業療法士	１名	
言語聴覚士	４名	

【診療活動】

- 施設基準として開設時、脳血管疾患リハビリテーション料Ⅱ、運動器疾患リハビリテーション料Ⅱ、呼吸器疾患リハビリテーション料Ⅰ、廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ。
- 平成28年度９月障害児リハビリテーション料取得。
- 平成29年度がんのリハビリテーション料取得。
- 平成29年運動器疾患リハビリテーション料Ⅰ取得。
- 平成30年度早期離床リハビリテーション加算取得。
- 令和５年11月心臓大血管リハビリテーション料Ⅰ施設基準取得

令和７年度　施設基準別単位数および前年度比較（令和７年１月～12月）

１．理学療法

	施設基準	単位数	前年比
入　院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,454	104.9%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	1,086	104.6%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	1,940	172.2%
	心臓大血管リハ料（Ⅰ）	548	137.0%
	がんリハ料	1,635	159.5%
	障害児リハ料6歳未満	357	68.0%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	136	58.8%
	障害児リハ料18歳以上	4	100.0%
	廃用症候群リハ料	140	93.9%
外　来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	203	163.7%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	148	89.6%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	18	360.0%
	心臓大血管リハ料（Ⅰ）	95	76.0%
	障害児リハ料6歳未満	722	122.7%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	29	67.4%
	障害児リハ料18歳以上	1	50.0%
計		8,516	122.7%

早期離床リハビリテーション加算

	件数	保険点数
早期離床リハビリテーション加算 （令和６年１月～12月）	3,063	1,531,500

２．作業療法

	施　設　基　準	単位数	対前年比
入　　院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	552	49.4%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	100	909.0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	104	27.8%
	心大血管疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	がんリハ料	949	135.9%
	障害児リハ料6歳未満	129	26.5%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	35	53.0%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
	廃用症候群リハ料	28	35.4%
外　　来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	37	60.6%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	12	50.0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	心大血管疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	障害児リハ料6歳未満	106	30.9%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	0	0.0%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
計		2,052	60.1%

３．言語聴覚療法

	施　設　基　準	単位数	前年度比
入　　院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	653	234.0%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	536	478.5%
	がんリハ料	42	116.6%
	障害児リハ料6歳未満	129	53.0%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	28	93.3%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
	廃用症候群リハ料	0	0.0%
外　　来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	195	175.6%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	2	0.0%
	障害児リハ料6歳未満	448	113.1%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	159	212.0%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
計		2,192	150.2%

４．言語聴覚士耳鼻咽頭科関連業務件数

検　査　項　目	件　数
標準純音聴力検査	674
標準語音聴力検査	56
気導純音聴力検査	3
遊戯聴力検査	1,289
補聴器適合検査　1回目	32
補聴器適合検査　2回目以降	446
発達および知能検査	38
計	2,136

35. 家族支援・地域医療連携部

Ⅰ．組織

家族支援・地域医療連携部は、部長１名、次長兼課長１名、看護師５名、MSW ３名の９名で入退院支援・患者サポート相談窓口・虐待関連事務局・がん相談・地域連携・重症患者対応メディエーター等の業務を行っている。また、2024年度５月より入退院支援センターを開設し、専従看護師１名･専任看護師１名を配置している。予約センターは、委託業者が受診予約を担当する。

Ⅱ．2025年主な活動

１．入退院支援・在宅療養支援の推進
- ①　入退院支援の充実
- ②　医療的ケア児の在宅移行支援および療養支援
  - 制度活用支援・医療機器等の購入支援
  - 本人や家族の意思決定など精神面の支援
- ③　訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）
- ④　地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・施設訪問）
- ⑤　生活支援センターや福祉事業所など地域関連機関との連携（カンファレンス開催・施設訪問）
- ⑥　学校・保育所・児童発達支援事業所など、教育・療養機関との連携（カンファレンス開催・研修会開催）
- ⑦　在宅支援病棟での在宅支援の後方支援

２．入退院支援センターの運営・整備
- ①　入退院支援センター運用の定着

３．院内各科の診療支援
- ①　院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
- ②　返書作成の支援
- ③　家族背景へのケースワーク

４．患者家族の不安への対応
- ①　医療制度・福祉制度の説明
- ②　在宅での医療資源・福祉資源の紹介
- ③　各種手続きのサポート
- ④　重症患者メディエーターの介入
- ⑤　その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け

５．発達支援・養育支援
- ①　虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
- ②　事故予防活動（事故予防相談・地域との連携）
- ③　育児相談活動（評価、関わり方指導）

６．教育支援
- ①　教育機関とのカンファレンス

７．移行期支援
- ①　医療機関との連携・調整

Ⅲ.業務実績（2025年）

1．支援内容別業務統計

	内　　容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	417	349	370	474	464	513	516	457	502	509	476	550	5,597	5,044
2	退院援助	80	72	117	117	67	82	92	86	82	99	103	98	1,095	933
3	社会復帰援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
4	受診・受療援助	31	27	49	55	60	50	49	29	32	25	28	34	469	473
5	経済的問題の解決、調整援助	20	28	27	28	16	24	52	39	12	18	14	24	302	305
6	地域活動	3	5	5	10	10	18	16	13	20	10	13	16	139	70
7	養育支援（虐待予防を省く）	6	7	10	4	5	2	5	6	5	6	4	5	65	109
8	虐待・虐待予防関連	54	43	38	54	71	86	103	73	69	65	41	49	746	683
9	一時保護	1	1	0	2	0	0	3	5	1	2	1	0	16	12
10	がん患者の社会的問題の解決・調整	50	40	44	62	74	64	74	59	92	80	35	45	719	748
11	その他	2	1	4	2	1	0	2	1	0	0	1	2	16	30
	合　　計	664	573	664	808	768	839	912	768	815	814	716	823	9,164	8,408

2.機関別延べ連絡調整数

	項　　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	教育機関	12	13	6	26	16	16	27	10	22	11	30	16	205	164
2	保健所・保健センター	36	38	43	45	47	46	66	51	36	58	45	59	570	584
3	福祉事務所等（役所）	28	31	30	29	48	35	53	45	47	40	33	44	463	418
4	こども家庭センター（児童相談所）	29	24	21	22	33	35	45	48	59	55	37	32	440	384
5	医療福祉施設	26	19	18	20	21	32	30	33	33	21	18	28	299	332
6	療育センター	1	4	5	8	4	8	5	7	7	3	4	6	62	61
7	児童発達支援事業所	10	2	9	5	7	11	10	5	7	7	9	7	89	117
8	医療機関	96	79	106	167	125	142	133	98	129	109	121	140	1,445	1,241
9	訪問看護ステーション	114	95	129	122	110	125	144	129	137	132	126	126	1,489	1,328
10	地域生活支援センター	18	7	5	10	3	1	0	4	1	7	6	1	63	51
11	相談支援専門員連携	44	35	41	6	12	11	9	11	9	11	18	28	235	131
12	その他	23	9	4	51	36	41	56	64	65	75	32	58	514	381
	合　　計	437	356	417	511	462	503	578	505	552	529	479	545	5,874	5,192

3.関係機関カンファレンス件数

	項　　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	虐待関連カンファレンス	2	2	4	3	2	6	7	5	1	5	2	2	41	53
2	施設入所カンファレンス	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1
3	退院前カンファレンス	1	3	4	6	2	5	9	3	4	4	11	7	59	49
4	教育機関カンファレンス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	4	7
5	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1
6	重症患者初期支援カンファレンス	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	33	37
7	その他	3	1	0	2	2	1	1	2	2	5	1	1	21	23
	合　　計	10	9	11	14	10	14	21	14	11	17	18	13	162	171

4.入退院支援センター業務

項　　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
全介入患者数	141	156	143	132	148	163	188	158	151	165	157	145	1,847	1,123
対象診療科患者数	74	82	83	80	134	139	188	158	151	165	155	145	1,554	405

5．その他

	項　　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	入退院支援加算Ⅰ	315	263	284	250	296	298	354	319	321	327	256	284	3,567	3,706
2	入退院支援加算Ⅲ	33	28	37	14	37	23	34	27	26	31	24	29	343	366
3	患者サポート相談件数	27	27	20	25	33	39	50	33	29	27	28	38	376	291

2025年度は、支援業務が約800件の増加を認めた。中でも心理的・社会的問題の解決・調整や退院援助が増加しており、社会的背景を踏まえた療養･在宅支援が求められており、的確に対応できる相談員の確保と育成が必要である。

連携・調整機関については、2021年に医療的ケア児支援法が設定されて以降、教育機関との連絡・調整件数が年々増加している。また、虐待･虐待予防関連の増加に伴い、こども家庭センターや相談支援専門員との連携調整数の増加が他機関と比較し顕著となった。

入退院支援センターは、入院する患者･家族が、入院前の不安や心配ごとが最小限になり、退院後の日常生活がイメージできることを目的とし2024年度に開設した。計画的に対象診療科を拡大し、今年度下半期より全診療科に介入できている。今後も定着に向け他職種とも連携し、運用の課題を抽出し改善に務める。

家族支援・地域医療連携部（予約センター）

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約や受診報告書の発送、逆紹介業務、再診患者の予約業務などを行っている。昨年度のホームページ更新後からメールでの問い合わせが急増し、業務量が顕著に増加したため、ホームページの表示を変更し調整を図った。相談対応については、各担当で回答し対応している。

2025年は新規患者の受付件数、紹介元医療機関の新規登録件数はともに前年に比べ減少しているが、再診予約は増加をみとめる。メールや電話対応業務が増加している状況にあるため、円滑な受診予約･返書管理に支障がないよう連携をとり業務の見直しや問題解決に努める。

１．業務統計

延　べ　数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計・平均	2024年
メール相談対応数	30	32	32	22	52	45	30	42	43	30	20	21	399	121
（内訳）各科医師相談	5	1	1	2	6	3	5	2	7	5	4	1	42	29
予約センター・他部署で返答	25	31	31	20	46	42	25	40	36	25	16	20	357	92
セカンドオピニオン数	1	0	2	6	1	0	2	3	3	2	0	3	23	24
受診報告書発送数（紹介状件数）	488	439	522	541	565	543	629	528	543	526	467	483	6,274	6,345
新規医療機関件数	22	14	14	14	22	18	30	13	15	12	13	15	202	237
新患FAX予約受付件数	407	384	529	477	453	508	502	408	488	487	405	418	5,466	5,438
新患電話予約受付件数	261	292	265	260	292	288	305	223	268	320	290	296	3,360	3,617
新患予約キャンセル受付件数	5	16	15	15	12	18	22	14	18	22	18	18	193	225
再診対面・電話予約件数	2,471	2,135	2,162	2,308	2,676	2,415	2,309	1,951	2,091	2,131	1,825	2,002	26,476	25,513
その他　予約日確認などの電話件数	1,243	1,288	1,372	1,366	1,567	1,512	1,377	1,006	981	959	865	901	14,437	11,484
返書率	94.0	93.2	91.5	91.3	89.5	91.3	93.4	92	94.9	93.5	90.7	95	92.50	93.76

※新患、再診ともに予約受付件数内に変更件数含む

２．地域別紹介元医療機関新規登録数

	2025年	2024年
神　戸　市	37	53
阪　　神	32	36
西　　播	4	11
淡　　路	1	2
東　　藩	6	22
丹　　波	2	0
但　　馬	0	3
県　　外	66	95
合　　計	148	222

36. ME室

【スタッフ紹介】

課長補佐	山﨑　北斗	３学会合同呼吸療法認定士
主査	往田　有理	３学会合同呼吸療法認定士　透析技術認定士　植込みデバイス認定士 認定医療機器管理臨床工学技士　心血管インターベンション技師 認定集中治療関連臨床工学技士　認定血液浄化関連臨床工学技士 心電図検定４級　第２種ME技術者
主任	安達　一眞	日本DMAT隊員　救急医学会認定BLS/ICLSインストラクター 救急医学会認定ICLSWSインストラクター　MCLSプロバイダー ３学会合同呼吸療法認定士　認定集中治療関連臨床工学技士 MCLS大量殺傷型テロ対応セミナー修了　PFCCSプロバイダー 第２種ME技術者
副主任	山田　亮二	３学会合同呼吸療法認定士
副主任	秋山　正太	体外循環技術認定士　３学会合同呼吸療法認定士　FCCSプロバイダー 認定集中治療関連臨床工学技士
副主任	橋本　健太郎	
副主任	森谷　鉄平	透析技術認定士　体外循環技術認定士　３学会合同呼吸療法認定士 心血管インターベンション技師　認定血液浄化関連臨床工学技士 第２種ME技術者
副主任	西田　匡志	体外循環技術認定士　認定集中治療関連臨床工学技士　第２種ME技術者
副主任	阿部　翔吾	認定集中治療関連臨床工学技士
副主任	北川　澪里	第２種ME技術者
主事	藤田　麟太郎	

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
終業点検	2,244	2,067	1,923	1,803	1,771	1,952	2,068	1,646	1,863	1,779	1,686	1,827	22,629
定期点検	325	326	321	326	370	374	271	299	382	357	302	303	3,956
呼吸器ラウンド	423	379	546	356	576	573	603	565	451	573	449	517	6,011
病棟ラウンド	3	2	2	2	0	2	3	1	1	1	0	2	19

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
体外循環	17	14	14	12	14	11	15	20	12	7	10	14	160
ＥＣＭＯ	2	0	1	0	2	3	0	0	0	0	2	0	10
血液浄化	1	0	7	17	18	3	3	3	14	1	0	1	68
ペースメーカ植込み・交換	0	0	1	1	1	0	5	1	1	0	3	0	13
ＭＥＰ/ＢＣＲ	3	2	5	3	4	2	4	4	3	3	1	3	37
ＰＢＳＣＨ	3	6	1	0	4	0	0	0	5	1	1	1	22
ＢＭＰ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
ＰＥ	0	0	6	0	0	0	0	0	3	0	0	0	9

各種委員会活動

仕様策定委員会
リスクマネジメント委員会
感染対策委員会
手術室運営委員会
集中治療室運営委員会
医療ガス安全管理委員会
在宅医療機器検討委員会
呼吸療法委員会（RST）
呼吸ケア部会
医療機器安全管理部会

37. 医療安全部

医療安全部は、医療安全管理者（医療安全部長と医療安全専従の医療安全部次長兼課長）で構成され、病院長から委譲された権限のもと、医療安全管理責任者である医療安全担当副院長が所轄する医療安全管理委員会等と連携し病院全体の安全管理を担っている。また、実働メンバーとしてセーフティーマネジャー51名の中から、16名の総括セーフティーマネジャーを選任し、インシデント対応や、職員の安全意識向上のための研修、指導を行い安全・安心な医療提供体制の確立に取り組んでいる。

Ⅰ.主な活動内容

1．インシデント報告書に基づく評価・対策・周知

1）総括セーフティーマネジメント会議を毎週木曜日に開催し、インシデント報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。

2）月１回のセーフティーマネジメント部会では、各部門が前月のインシデント内容と評価･対策を報告し、院内で起こったインシデントについて集約し検討を行った。また、改善策を手順化し共有した。

3）セーフティーマネジメント部会での報告・検討結果を、医療安全管理委員会（１回／月）に報告した。

4）診療部医療安全タスクフォースを設置し、診療部に関連するインシデント報告の分析や対策の検討、助言等を実施した。また、オカレンス･死亡事例の検証を行い、診療の質と安全確保に向けた改善策の抽出とフィードバックを行った。

2．MET部会は隔月で計６回開催し、各MET事案の検討を実施した。検討結果はセーフティーマネジメント部会へ報告し、院内での改善循環につなげた。今年度のMETコール件数は18件で、前年から８件増加した。これは、看護師が懸念段階でも迷わずコールしてよいこと、バイタルサインの逸脱時には即時コールすることを周知した結果であり、早期対応につながる安全文化の深化を示すものである。

3．医療機器安全管理部会を隔月開催し（計５回）、より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図った。

4．患者が重症化するまでに早期に異常を察知し、METコールを行い対応することで、コード99症例は、今年度は２件（前年より８件減）でスムーズに対応できた。

5．ECPRも含めた蘇生チーム（ECMOチーム）招集コールは５件で、前年と変わらず横ばいであった。そのうちECMO導入は２件で全て短時間での導入ができた。

6．院内ラウンドは毎月第４木曜日の16：00～16：30に実施し、救急カートチェック、環境整備状況、生体情報モニターの適正使用などを確認した。また、インシデント報告でハード面の課題が指摘された際には、随時ラウンドを行い、現場での指導・改善策の検討を実施し、その効果を確認した。

7．インシデント報告

1）2025年のインシデント報告件数は、3,737件で前年より308件増加した。

2）レベル別報告数においては、レベル０は1,164件（前年より150件贈）、レベル１は2,199件（前年より110件増）、レベル２は267件（前年より44件増）、レベル３ａは35件（前年より７件増）であった。オカレンスは、70件（前年度より２件増）であった。割合は前年と変化はなかった。

3）レベル３ｂ以上のインシデント報告は１件（前年より３件減）であった。

4）部門別では、看護部3,073件（前年より266件増）、診療部404件（前年より39件増）薬剤部52件（前年より２件減）、放射線部63件（前年より３件減）、検査部32件（前年より１件減）、リハビリ44件（前年より１件増）、栄養管理課43件（前年より13件増）、臨床工学技士14件（前年より２件減）、事務部８件

（前年より８件増）であった。

５）インシデント報告において診療部の報告は11％（前年11％）と割合の変化なし。オカレンス報告は70件（前年より２件減）であった。

【レベル別報告件数】

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	オカレンス
1,164件（31.1%）	2,199件（58.9%）	267件（7.1%）	35件（1%）	1件（0.03%）	70件（1.9%）

【部門別インシデント報告件数】

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	臨床工学技士	リハビリ	栄養指導課	事務部
404件 （10.8%）	3,073件 （82.2%）	32件 （0.9%）	63件 （1.7%）	52件 （1.4%）	14件 （0.4%）	44件 （1.2%）	43件 （1.2 %）	8件 （0.2 %）

８．医療安全地域連携加算　相互評価

１）Ⅰ－Ⅰ連携：大阪母子医療センター（11月４日）、先方で実施

（12月２日）、当院で実施

２）Ⅰ－Ⅱ連携：みどり病院（2025年９月18日）、当院で実施

Ⅱ．主な改善に向けた取り組み

今年度は、昨年度に構築した医療安全管理体制を継続し、各ワーキンググループおよびチームの活動を発展させることで、安全性を高めるチーム医療と医療安全推進活動を展開した。誤認防止・指差し呼称WG、転倒転落・骨折予防WG、薬剤関連WG、医療対話推進WG・身体的拘束最小化チーム、MMカンファレンスチームは、院内横断的な課題の抽出と改善策の検討を継続し、多職種が協働して安全対策に取り組む体制をさらに強化した。また、当院では有害事象の中心が与薬および手術関連であったことから、「多職種で言い合える環境を作り、互いに確認し合い有害事象を防止する」ことを重点目標として設定した。医師・看護師・薬剤師をはじめとする多職種が互いに声をかけ、確認し合い、気づきを共有することで、インシデントの未然防止を図る取り組みを重点的に推進した。

Ⅲ．医療安全研修会、勉強会の開催

テ　ー　マ	開　催　日	参　加　者
第1回MMカンファレンス 「PICUにおける播種性帯状疱疹発症事例」	6月17日	診療部 38名、看護部 11名 研究部　1名
第1回医療安全研修 チームステップス（TeamSTEPPS） 「2チャレンジルールとCUSの強化」	7月8日～9月2日	全職員 976名（100％）
第2回医療安全研修 身体的拘束最小化に向けて ～医療安全とこどもの権利擁護の視点から～	11月18日 ～2026年1月29日	全職員 976名（100％）
医療安全研修　「転倒転落予防研修」	10月14日	診療部　1名、看護部 35名 その他職種　9名
第2回MMカンファレンス 「術後合併症による回復困難症例」	12月16日	診療部 27名、看護部 24名 心理士　3名
2025年度セーフティーマネジメント部会活動報告会	2026年3月10日	診療部　7名　看護部 15名 その他職種　9名
新採用医師安全教育 新採用看護師安全教育 臨時採用看護師安全教育 新採用看護補助者・ナイトサポーター安全教育 新採用保育士安全教育	4月1日 4月6日 採用時 採用時 採用時	47名 68名 7名 17名 1名
委託業者安全教育	①11月14日 ②12月１日	清掃・リネン業務職員 30名

Ⅳ．医療安全情報の提供

医療安全NEWSの発行を７回／年行った。

日本機能評価機構や病院局からの医療安全情報の提供を行った。

JACHIでの適宜情報交換を行った。

38. 感染対策室

感染対策副院長の配下に感染対策部長－感染対策課長が配置され、感染対策組織が位置づけられている。感染対策部長は院内の感染管理の実施に関する権限を有し、院内感染対策の責任者として統括的役割を担っている。また、感染対策および感染管理の実務責任者として専従の院内感染管理者が専従として感染対策室に配置され、院内の感染対策及び感染管理に関する状況把握、対策を要する事案、その他各種事項について組織横断的に活動している。

諮問機関としての感染対策委員会は、委員長を感染対策部長（感染症内科部長)、副委員長を感染対策課長(看護部次長)、小児集中治療センター長、ICTリーダー（麻酔科医）とし、委員を院長、感染対策副院長、総務部長、検査技師長、薬剤部長、栄養管理課長、看護部長、医療安全課長、感染管理認定看護師２名の他、診療部５名、看護部３名、検査部３名、薬剤部１名、放射線部１名、臨床工学技士１名、リハビリ部門１名、医事企画課１名で構成され、感染予防対策に関する最高の審議･決定機関、院長の諮問機関としての役割を担っている。

感染対策チーム（Infection Control Team；ICT）は、看護師２名、医師７名、検査技師２名、薬剤師２名、オブザーバー（感染対策部長、感染対策課長、感染症内科フェロー、ローテート専攻医）で構成され、感染対策の実働部隊として活動している。

抗微生物薬適正使用チーム（AST）は、薬剤師４名、医師10名、検査技師１名、看護師２名で構成されている。そのうち薬剤師２名、医師４名、検査技師１名、看護師１名がコアメンバーとして抗菌薬治療の適正化を支援・推進する実働部隊として活動している。

活動内容

１．定期的な会議、ラウンドの実施

１）院内感染対策委員会（毎月第２月曜日）

病原微生物の検出状況、抗緑膿菌薬の使用状況、ICTおよびAST活動などを報告

２）ICT関連

- ICTショートミーティング（毎週月、木曜日）

  感染経路別予防策対象患者の情報共有、微生物検査が必要な患者の抽出、職員の感染症発生状況の共有、その他検討事項

- ICT会議（毎週水曜日）

  病原微生物の検出状況、ICTラウンド結果の共有と検討、その他事項について検討

- ICTラウンド（毎週水曜日）　環境ラウンド

- デバイスサーベイランスカンファレンス（毎週木曜日）

  デバイス関連感染症の判定、感染対策の評価、改善策の検討をPICUスタッフと実施

- 微生物検査室ミーティング（月～木曜日）

  血液培養陽性例、迅速グラム染色結果、培養結果、ウイルス迅速検査結果を情報共有

３）AST関連

- AST定例会議（毎月第１水曜日）

  DOT、ケースカンファレンス、その他抗菌薬適正使用のための取り組みを報告

- ASTコアメンバー会議（第２・４水曜日）

  抗菌薬適正使用のための取り組み、AST研修会の企画検討

• ASTケースカンファレンス（毎週木曜日）

特定抗菌薬（抗緑膿菌薬、抗MRSA薬）使用患者

及び抗菌薬長期使用患者の抗菌薬適正使用について検討

検討症例のべ件数	AST介入のべ件数	TDM確認件数
175	122	42

取り組んだ事項

1　ショートカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング
2　第8回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会開催
3　抗微生物薬供給制限に対応
4　薬剤耐性菌対策を推進
5　新生児抗菌薬標準投与量一覧表の作成
6　術前予防抗菌薬適正使用の評価
7　静注抗菌薬セット処方の作成

2．職員教育

1月	清掃業務職員対象感染対策研修会　手袋の正しい使い方
1月	令和6年度第1回全職員対象感染対策研修会（e-learning）手指衛生はこのタイミングで必ずしてください ～手指衛生直接観察はその場面を見ています～
3月	令和6年度第2回全職員対象感染対策研修会（e-learning）経路別予防策っていったい何をどうするの？
3月	麻疹患者受け入れシミュレーション
4月	新規採用医師および看護師感染対策オリエンテーション
都度	新規採用者感染対策オリエンテーション（看護師、看護補助者、ナイトサポーターなど）
5月	令和7年度第1回全職員対象感染対策研修会（e-learning）百日咳
10月	令和7年度第2回全職員対象感染対策研修会（e-learning）みんなのための手指衛生 －安全な病院環境をつくる感染対策の基本－
11月	清掃業務職員対象感染対策研修会　針刺し予防と対応
12月	第8回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会（HART）　WEB開催

• 手指衛生遵守率向上のための取り組み

手指ピカピカ研究「手ピ研」として活動した。ICTの有志でチームを結成し、WHOの手指衛生多角的戦略に則って取り組んだ。

3．各種サーベイランスの実施

• 手指衛生サーベイランス

看護部感染対策委員会と連携して直接観察と手指消毒剤の使用量調査を継続した。

手指衛生遵守率の推移（%）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
65	63	69	64	54	63	60	54	65	57	64	63

手指衛生使用量の推移（ml/患者）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
37	36	37	41	38	36	38	42	37	39	38	38

• PICUにおけるデバイスサーベイランス

原則毎週木曜日に病棟コアメンバーと判定会議を開催した。

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 （/1000デバイス日）				尿道留置カテーテル関連 尿路感染症発生率発生率 （/1000デバイス日）				人工呼吸器関連肺炎発生率 （/1000デバイス日）			
2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020
0.0	0.4	0.0	0.7	4.0	6.3	5.6	8.2	4.6	4.4	2.8	2.6
2021	2022	2023	2024	2021	2022	2023	2024	2021	2022	2023	2024
1.0	1.0	1.2	0.7	5.8	3.9	3.2	6.3	2.3	2.6	2.9	0.9
2025				2025				2025			
1.0				3.5				2.0			

• 7Ｆ病棟における中心静脈カテーテル関連血流感染症サーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率（/1000デバイス日）	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
	1.3	1.3	2.5	2.0	2.8	0.4	1.4

• NICUにおける中心静脈カテーテル関連血流感染症サーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率（/1000デバイス日）	2023	2024	2025
	3.3	0.2	1.0

• その他：JACHRI AURサーベイランス

6．感染症発生時の対応

アウトブレイク

ノロウイルス胃腸炎：３月（７W、６W）

院内発生

ノロウイルス胃腸炎：３月（６E)、５月（５E)、アデノウイルス結膜炎：６月（５E)、

播種性帯状疱疹：８月（７W)、アデノウイルス胃腸炎：12月（６E）

飛沫感染予防策	896件	インフルエンザ138、百日咳20、マイコプラズマ13、 hMPV感染症29、アデノウイルス感染症9、溶連菌感染症1、 その他呼吸器症状680、パルボウイルス感染症（疑い含む）5
接触感染予防策	193件	ノロウイルス胃腸炎45、ロタウイルス胃腸炎13、 アデノウイルス胃腸炎13、アストロウイルス胃腸炎3、 腸管出血性大腸菌感染症（疑い含む）3、CD腸炎3、 その他感染性胃腸炎（疑い含む）112、CRE保菌者1、 アデノウイルス結膜炎疑い1、
空気感染予防策	2件	肺結核疑い1、帯状疱疹曝露者1
高度接触感染予防策	3件	CPE保菌者1、高度耐性菌保菌者2 （LZD耐性E.faecium、DAP耐性腸球菌）
空気・接触感染予防策	3件	水痘（疑い含む）2、播種性帯状疱疹1
飛沫・接触感染予防策	217件	COVID-19 48、RSウイルス感染症161、 重症ライノエンテロウイルス感染症（疑い含む）7、 腸チフス疑い1
空気・飛沫・接触感染予防策	1件	麻疹1

7．感染対策に関する各種相談への随時対応

8．各種啓発活動

感染症週報発行（毎週金曜日）

9．ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会への出席、清掃ラウンド結果のフィードバック

10. 職業感染防止の活動

- 職員の抗体検査とワクチン接種を実施

抗体採血	麻疹ワクチン	水痘ワクチン	風疹ワクチン	おたふくワクチン	MRワクチン
119名	0名	12名	12名	43名	62名

- 職員対象のインフルエンザワクチン接種（11月）
- 職員対象のＢ型肝炎ワクチン接種　42名（新規29名、その他13名）
- 針刺し・切創、血液・体液曝露についての事象発生時の対応
  15件（針刺し12件、切創０件、血液・体液曝露０件、咬傷３件、掻破０件）

11. 院外活動

- 感染防止対策加算関連
  加算１：大阪母子医療センターと相互ラウンド実施（11月に来院、12月に訪問）
  加算３：みどり病院とカンファレンス開催（５月、９月、11月、２月）
- 小児総合医療施設協議会（JACHRI）小児感染管理ネットワーク多職種会議（７月）

39. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として集中治療科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1．褥瘡対策状況

褥瘡対策委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1）褥瘡推定発生率

1.08%（過去19年で5番目に低い値　過去の推定発生率は1.4～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率＝（調査日に褥瘡を保有する患者数－院外発生患者数）÷調査日の入院患者数

2）褥瘡発生率

2.01%（発生率は過去23年で最も低い　過去の発生率は2.35%～4.0%）

褥瘡発生率＝褥瘡発生数÷総新規入院数

3）褥瘡リスクアセスメント実施数　7,452件（月平均621件）

4）危険因子評価を実施した患者のうち褥瘡に関する危険因子を有す、或いは既に褥瘡を有していた患者数　3,298人（月平均274人）

5）褥瘡ハイリスク項目に該当する患者数（特定数）1,094件（月平均91件）

6）褥瘡予防治療計画件数　1,094件（月平均91件）

7）褥瘡ハイリスク患者実施件数　932件（月平均77件）

8）褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数　150件

褥瘡発生個数　166個（自重関連褥瘡は46個、医療関連機器圧迫褥瘡は120個）

褥瘡発生件数の多い部署（10件以上）

PICU（67）、6東（21）、6西（14）5東（10）

2．褥瘡回診・カンファレンス状況

週1回木曜日午後に形成外科医師と皮膚･排泄ケア認定看護師（月1回は褥瘡対策委員会のメンバーも加わり拡大褥瘡回診としている）により、褥瘡発生者を中心に『褥瘡回診』と『カンファレンス』をおこなっている。回診、カンファレンスでは褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価･検討している。

褥瘡回診・カンファレンス実施回数49回　患者数218名（のべ）

3．新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4．領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5．各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

40．がん相談支援センター

がん相談支援センターは、小児がん医療センター長のもと、血液・腫瘍内科医師、小児看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

【スタッフ】

医師　　森健（血液・腫瘍内科医師）
看護師　　栗林佑季（小児看護専門看護師）、木下めぐみ（がん化学療法看護認定看護師）
医療福祉相談員（MSW）　　刀根玲奈、松尾さおり
医師クラーク　　柏木、堺

【令和７年　主な活動内容】

1．院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談、メール相談
- 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
- 小児・AYA世代がん患者の発育、教育、就学、就労等の療養上の相談及び支援
- がん生殖医療、がんゲノム医療、アピアランスケアに関する相談及び支援等

2．小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
- がんサロン（名称：Nanaくつろぎサロン）の開催
- がん相談支援センター通信（名称：Nana通信）の発行（４か月に１回）
- 小児・AYA世代がん患者家族教室の企画運営
- 小児がん治療中の高校生の学習支援、原籍校及び県教育委員会との連携等

3．院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
- 小児がん看護研修の企画運営
- 近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック４病院共催）
- 小児がん連携病院、地域の医療機関等に対する相談支援に関する支援等

4．小児がんを対象とする患者会との調整窓口

5．相談支援室会議
- 月１回開催、小児がん相談に関する情報の共有、がん相談支援センターの活動の評価・検討

6．小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院、成人がん診療病院との連携体制強化
- 小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会、メーリングリストへの参加
- 中国四国ブロック小児がん相談支援部会への参加
- 兵庫県がん診療連携協議会情報連携部会への参加
- 都道府県がん診療連携拠点病院協議会情報提供相談支援部会への参加
- 近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会、グループメールへの参加等

令和７年　がん相談支援室相談対応件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談件数（院内）	相談総件数	77	62	84	106	98	83	95	90	116	98	63	55	1,027
	1）対面相談	66	58	79	94	82	78	91	80	104	94	58	47	931
	2）電話相談	11	4	5	12	16	5	4	10	12	4	5	8	96
院外相談		3	5	2	1	1	4	0	0	0	0	2	4	22
計		80	67	86	107	99	87	95	90	116	98	65	59	1,049

41. 院内学級（神戸市立友生支援学校 みなと分教室・わらび訪問学級）

１．体制

従前までは長期入院のため登校できない小中学生に、友生支援学校「わらび訪問学級」として、こども病院にも訪問指導を行っていたが、こども病院のポートアイランド移転（2016年）に伴い、友生支援学校の病弱部門の教員が、こども病院の院内学級「みなと分教室」として常駐するようになった。こども病院に入院中の小中学生で、入級を希望する児童生徒は院内学級「みなと分教室」に在籍し、市内の他病院に入院中の児童生徒は、従前通り訪問指導として「わらび訪問学級」に在籍している。

院内学級の児童生徒は、教室で授業を受けられるようになったとは言うものの、児童生徒の病状から、ほとんどが、ベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。2017年度より、それまで教室に登校することを許可されていなかった児童生徒も、一定以上の抵抗力がある状態になれば、主治医の判断により登校できるようになり、教室での授業もかなり多くなった。しかし、2020年度より、新型コロナウイルス感染拡大の影響から教室での授業が無くなり、ベッドサイドでの授業とオンラインによる授業が中心となっている。

保護者への入級説明、小中学校との連絡調整などについては、主治医や病棟の紹介を経て、当部署が行っている。

２．在籍状況

2025年度　院内学級　在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部	17	18	17	17	13	12	13	13	16	12	14	18
中学部	6	10	7	8	8	8	9	5	3	2	3	3
合　計	23	28	24	25	21	20	22	18	19	14	17	21

※各月1日時点で在籍していた児童生徒数

３．次年度の課題

2021年度にスタートしたGIGAスクール構想により、日本全国の子ども１人に１台の端末が用意され、ICTを活用した教育活動が展開されてきた。今年度から端末がタブレットに変わり、より操作性が向上し、Wi-Fi環境などに課題もあり、神戸市教育委員会と相談しながら改善に取り組んでいる。

現在、教室登校が難しい児童生徒が多い。端末を活用し、離れた病室を繋いで授業を行えることは、児童生徒同士のつながりや、学びの可能性を広げることに大いに役立っている。また、退院後すぐに原籍校へ登校できない児童生徒に対しても、オンライン授業を行うことで、継続して学習支援を行うことが可能となっている。

また、病室から原籍校の授業に参加する児童生徒も増えており、院内学級として、従来の対面授業だけではなく、原籍校とのオンライン授業も両立させた、ハイブリッドな学習支援も可能となってきている。

引き続き、それぞれの児童生徒の状況に応じた柔軟な対応で、きめ細やかなサポートを行っていきたいと考えている。

42. 医師事務作業補助者（医師クラーク）

医師の業務負担軽減を図り、診療に専念できる環境をつくることを目的に、2008年の診療報酬の改定に伴い医師事務作業補助体制加算が定義された。施設基準を満たした場合、医師事務作業補助者を採用することにより診療報酬の対象となる。

兵庫県立こども病院では2012年に本格的に導入され８名でスタートした。

医局に隣接した医局クラーク室で、診療部長の指導の下、診療科からの依頼を受け業務を行っている。2016年５月に病院が移転し電子カルテが導入されて以降、外来診療補助に携わる業務が増し、他部署とのコミュニケーションを図りながら業務に取り組んでいる。

【業務内容】

- 外来診療補助
  電子カルテへの入力補助、病名登録、診察・検査予約
  患者様へのご説明、ご案内　等
  診察・手術・検査に関する電話　等
- 文書作成補助
  診断書、主治医意見書、生命保険会社の手続き書類、紹介状等の作成補助　等
- 診療に関するデータ整理、管理に関する事務
  新規患者、手術などの台帳管理及び入力、統計　等
- 治験資料、学会等からの各種調査資料等の作成、管理に関する事務
- 院外、院内における症例登録や統計、調査に関する事務
- 研修やカンファレンスのための資料作成等の準備事務
- その他所属長が必要と認める事務
  症例検討会、講演会、抄読会等の準備
  文献・画像等の取り込み、及び管理
  医師宛の外線電話への対応　等

Ⅳ　学会・研究・教育活動

1）書籍

総合診療科

- 鉄原健一：多職種連携におけるOn-the-Job Training. 小児内科, 東京医学社, 東京：1161-1162, 2025.
- 鉄原健一：子どもが頭を打ったときの対応. 小児保健ニュース, 少年写真新聞社, 東京：1400号, 2025.
- 鉄原健一：けいれん. レジデントノート, 羊土社, 東京：1353-1358, 2025.
- 鉄原健一：第一印象とABCDE. 鉄原健一, 編集. 小児救急の基本Q&A, 羊土社, 東京：76-81, 2025
- 鉄原健一：敗血症. 鉄原健一, 編集. 小児救急の基本Q&A, 羊土社, 東京：116-121, 2025
- 鉄原健一：けいれん. 鉄原健一, 編集. 小児救急の基本Q&A, 羊土社, 東京：122-127, 2025
- 鉄原健一：外傷の評価. 鉄原健一, 編集. 小児救急の基本Q&A, 羊土社, 東京：170-173.　2025
- 柏坂舞, 鉄原健一：呼吸が苦しそう！どうしよう？. チャイルドヘルス, 診断と治療社, 東京：21-24, 2025

救急科

- 竹井寛和(編・著)：それ, 小児POCUSでできます！～臨床に活きる子どものエコーの上手なあて方・見かた, 教えます！. 羊土社.：2025
- 竹井寛和：熱性けいれん. 坂本壮(著). 内科救急 好手と悪手. 医学書院, 東京：302-306, 2025
- 竹井寛和：小児の発熱に対する帰宅指示書. 坂本壮(編). 救急外来　帰宅後まで考えた病状説明とフォローアップ～帰宅指示書の書き方から頻用薬の処方, ケア移行までレジデントノート 2025年8月Vol.27 No.7, 東京：1309-1316, 2025
- 竹井寛和：小児の虫垂炎を疑った時のエコーの仕方を教えてください. 瀬良誠(編著). POCUS 救急エコー一問一答: 研修医が最初の1か月で知るべき基礎知識. Gakken KEYBOOK Beginners. 東京：166-170, 2025
- 竹井寛和：小児の熱中症. 坂本壮(編集幹事). 連載「現場のモヤモヤに答えます」熱中症のモヤモヤに答えます. 日経メディカル Online：2025
- 竹井寛和：熱性けいれん・腸重積・虫垂炎. 東裕之(編集), 瀬良誠(著). 救急診療の掟.：350-359, 2025
- 竹井寛和：虐待. 東裕之(編集), 瀬良誠(著). 救急診療の掟.：505-514, 2025

代謝内分泌科

- 柏坂舞、尾﨑佳代：糖尿病性ケトアシドーシス. 竹井寛和, 福政宏司、石原唯史、後藤保、三浦義文、木下正和、編集. 新　小児救急実践ガイドブック, 診断と治療社, 東京：281-286, 2026
- 西藤知城、尾﨑佳代：副腎不全. 竹井寛和, 福政宏司、石原唯史、後藤保、三浦義文、木下正和、編集. 新　小児救急実践ガイドブック, 診断と治療社, 東京：294-296, 2026

リウマチ科

- 水田麻雄：小児リウマチ性疾患におけるサイトカイン解析.　小児内科特集 小児科医が知っておきたいリウマチ・膠原病の知識と実践：東京医学社, 東京：1339-1342, 2025

循環器内科

- 田中敏克：三尖弁閉鎖症・純型肺動脈閉鎖症. 小児科診療2025年秋増刊号　vol.88 Sup 2, 診断と治療社, 東京：170-173, 2025
- 田中敏克：リウマチ熱、リウマチ性弁膜症. 中西敏雄, 先崎秀明, 山岸敬幸, 編著. 新　発達心臓病学, 中外医

学社, 東京：815–818, 2025
- 小川禎治：水分・塩分摂取. 石﨑優子　編集. 診る・治す・よりそう　子どもの起立性調節障害, 診断と治療社, 東京：43–47, 2025
- 小川禎治：心拍数・血圧の異常が原因　朝起きられない起立性調節障害. Pulse　vol45, 兵庫県医師会, 兵庫：8–9, 2025
- 三木康暢：先天性心疾患のこどもの神経発達. 永瀬裕朗. 発達行動小児科学, 原著第5版, エルゼビアジャパン, 東京：572–578, 2025

腎臓内科

- 貝藤裕史：腎性低尿酸血症. 加藤元博　総編集, 張田豊　専門編集. 小児診療Knowledge & Skill 3　領域横断的視点による腎・泌尿器疾患の診療, 中山書店, 東京

感染症内科

- 長沢晋也, 笠井正志：RSウイルス感染症. エキスパートナース, 11月号, 照林社, 東京, 14–18, 2025
- 坂本康大　水野真介　笠井正志：母子感染から見た新生児細菌感染症. 楠田聡, 関沢明彦, 高橋尚人, 細野茂春, 宮越敬, 山本樹生, 編集. 周産期感染症2026, 2025年Vol.55 増刊号, 東京医学社, 東京: 261–265, 2025
- 山田健太著、笠井正志・伊東健太監修. 小児感染症のトリセツ2025疾患編, 金原出版, 東京, 2025
- 大竹正悟著、笠井正志・伊東健太監修. 小児感染症のトリセツ2025抗菌薬編, 金原出版, 東京, 2025
- 田中裕也著、岡藤郁夫編、笠井正志監修. 小児アレルギーのトリセツ第2版, 金原出版, 東京, 2025
- 金森啓太著、笠井正志監修. 小児神経のトリセツ, 金原出版, 東京, 2025
- 杉野充伸. 水野真介. 笠井正志. 小児期感染症の診断と治療の基本. どう診る？小児感染症－抗菌薬・抗ウイルス薬の使い方. 加藤元博(編). 小児診療Knowledge & Skill 2巻. 中山書店, 東京.2025

精神科

- 関口典子：テクノロジーによる発達障害、行動障害、精神疾患の治療． Heidi M. Feldman(編)， 永瀬 裕朗(総監訳). 発達行動小児科学　原著第5版，エルゼビア・ジャパン, 東京：885－899, 2025.
- 持田啓：催眠、バイオフィードバック、瞑想. Heidi M. Feldman(編)， 永瀬 裕朗(総監訳). 発達行動小児科学　原著第5版，エルゼビア・ジャパン, 東京：872－877, 2025.
- 玉岡文子：精神薬理学. Heidi M. Feldman(編)， 永瀬 裕朗(総監訳). 発達行動小児科学　原著第5版，エルゼビア・ジャパン, 東京：856－871, 2025.

心臓血管外科

- 松久弘典：房室中隔欠損症. 坂本喜三郎, 廣瀬圭一, 伊藤弘毅, 編集. 先天性心疾患の手術と術前術後ケア, メディカ出版, 大阪：212–215, 2025.

整形外科

- 坂田亮介, 鎌田直子：親子で学ぶ二分脊椎　褥瘡の理解と予防的ケア. 鎌田直子監修. アルケア, 東京, 2025

眼科

- 牧仁美, 野村耕治: 小児の頭痛と眼疾患. 小児内科. 東京. 57巻2号. 213–216. 2025

耳鼻咽喉科

- 大津雅秀：福祉医療乳幼児委員会. 兵庫県耳鼻咽喉科医会七十周年記念誌編集委員会. 兵庫県耳鼻咽喉科医会７０周年記念誌. 兵庫県耳鼻咽喉科医会. 神戸：115－122, 2025

麻酔科

- 藤原孝志：Glenn. 橘一也, 竹下淳. いますぐ知りたい小児の循環管理, 第1版, 克誠堂出版, 東京：307－309, 2025
- 藤原孝志：Fontan. 橘一也, 竹下淳. いますぐ知りたい小児の循環管理, 第1版, 克誠堂出版, 東京：310－312, 2025
- 香川哲郎：小児の痛みの評価と診断. 川人伸次, 高田 香. 小児の疼痛管理, 克誠堂出版, 東京：17－25, 2025

新生児内科

- 岩谷壮太：新生児高ビリルビン血症. 福井次矢, 高木誠, 小室一成, 編集. 今日の治療指針2025, 医学書院,
- 岩谷壮太：新生児黄疸. 永井良三, 編集. 今日の診断指針第9版, 医学書院, 2025
- 岩谷壮太：高ビリルビン血症. 大石公彦, 鹿島田健一, 編集.【これからのガイドラインの読み方,使い方】海外のガイドラインから考える, 診断と治療社, 328－335, 2025
- 岩谷壮太, 西牧良：全身の異常　黄疸. ちょっと気になる新生児－お母さんの不安に答える, 周産期医学, 376－379, 2025

小児集中治療センター　集中治療科

- 青木一憲：開胸状態, 2次的胸骨閉鎖. 橘一也, 竹下淳, 編集. いますぐ知りたい小児の循環管理, 克誠堂出版, 東京：222－224, 2025.
- 青木一憲：ちょっと背伸びしてみよう 先天性心疾患を持つ小児の呼吸管理. みんなの呼吸器Respica（レスピカ）2025年2号, メディカ出版, 東京：285－289, 2025.

病理診断科

- 吉田牧子：E頸部　1鰓性異常（副耳, 鰓裂嚢胞等を含む）. 長尾俊孝, 長塚仁, 湊宏, 編集. 非腫瘍性疾患病理アトラス　頭頸部, 文光堂, 東京：113－117, 2025

看護部

- 鎌田直子：褥瘡の理解と注意事項（褥瘡について知っていますか？　褥瘡ができやすい部位）、褥瘡の予防的ケア. 鎌田直子監修. 親子で学ぶ二分脊椎　褥瘡の理解と予防的ケア, 初版, アルケア株式会社, 東京：1－4, 12－14, 15－35, 2025

2）雑誌発表

総合診療科

- 鉄原健一, 濱田洋通, 竹田津原野, 柏木充, 齋藤康, 平本龍吾, 濱崎孝史, 竹島泰弘, 日本小児科学会小児救急・集中治療委員会「急性期の小児外来診療における診断エラー調査小委員会」. 急性期の小児外来診療における診断エラー. 日本小児科学会雑誌. 129:84-94, 2025
- Tetsuhara K, Hamada H, Taketazu G, Kashiwagi M, Saito Y, Hiramoto R, Hamazaki T, Takeshima Y. Nationwide questionnaire survey on diagnostic errors in pediatric outpatient acute care. Pediatr Int. 67:e70183, 2025
- 丸谷健太朗, 赤峰哲, 上野雄司, 川上沙織, 平良遼志, 鳥尾倫子, 鉄原健一, 倉岡彩子, チョンピンフィー, 酒井康成, 吉良龍太郎. 重篤な自律神経症状に対して緊急ペースメーカ植込み術を施行した抗NMDA受容体脳炎の9歳女児例. 脳と発達. 57:354-8, 2025
- Oku T, Tetsuhara K, Tamaki A, Akamine S, Tomita Y, Kikuno R, Saito M, Hoshina T. First report of a fatal case of Clostridium porci bacteremia in an 8-month-old girl presenting with purpura fulminans associated with concurrent Yersinia pseudotuberculosis infection. Int J Infect Dis. 157:107931, 2025
- Shime N, Nakada TA, Yatabe T, Yamakawa K, Aoki Y, Inoue S, Iba T, Ogura H, Kawai Y, Kawaguchi A, Kawasaki T, Kondo Y, Sakuraya M, Taito S, Doi K, Hashimoto H, Hara Y, Fukuda T, Matsushima A, Egi M, Kushimoto S, Oami T, Kikutani K, Kotani Y, Aikawa G, Aoki M, Akatsuka M, Asai H, Abe T, Amemiya Y, Ishizawa R, Ishihara T, Ishimaru T, Itosu Y, Inoue H, Imahase H, Imura H, Iwasaki N, Ushio N, Uchida M, Uchi M, Umegaki T, Umemura Y, Endo A, Oi M, Ouchi A, Osawa I, Oshima Y, Ota K, Ohno T, Okada Y, Okano H, Ogawa Y, Kashiura M, Kasugai D, Kano KI, Kamidani R, Kawauchi A, Kawakami S, Kawakami D, Kawamura Y, Kandori K, Kishihara Y, Kimura S, Kubo K, Kuribara T, Koami H, Koba S, Sato T, Sato R, Sawada Y, Shida H, Shimada T, Shimizu M, Shimizu K, Shiraishi T, Shinkai T, Tampo A, Sugiura G, Sugimoto K, Sugimoto H, Suhara T, Sekino M, Sonota K, Taito M, Takahashi N, Takeshita J, Takeda C, Tatsuno J, Tanaka A, Tani M, Tanikawa A, Chen H, Tsuchida T, Tsutsumi Y, Tsunemitsu T, Deguchi R, Tetsuhara K, Terayama T, Togami Y, Totoki T, Tomoda Y, Nakao S, Nagasawa H, Nakatani Y, Nakanishi N, Nishioka N, Nishikimi M, Noguchi S, Nonami S, Nomura O, Hashimoto K, Hatakeyama J, Hamai Y, Hikone M, Hisamune R, Hirose T, Fuke R, Fujii R, Fujie N, Fujinaga J, Fujinami Y, Fujiwara S, Funakoshi H, Homma K, Makino Y, Matsuura H, Matsuoka A, Matsuoka T, Matsumura Y, Mizuno A, Miyamoto S, Miyoshi Y, Murata S, Murata T, Yakushiji H, Yasuo S, Yamada K, Yamada H, Yamamoto R, Yamamoto R, Yumoto T, Yoshida Y, Yoshihiro S, Yoshimura S, Yoshimura J, Yonekura H, Wakabayashi Y, Wada T, Watanabe S, Ijiri A, Ugata K, Uda S, Onodera R, Takahashi M, Nakajima S, Honda J, Matsumoto T. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2024.
  J Intensive Care. 13:15, 2025
  Acute Med Surg. 12:e70037, 2025
- Aoki R, Minamikawa S, Ishida Y, Mizuta M, Nakagishi Y. ;Non-necrotizing fasciitis: diagnostic challenges and utility of MRI. Pediatr Int.67:e70146,2025.
- Sunakawa T, Mizuta M, Mizuno S, Masuda C, Hasegawa T, Nakashima K, Aida Y, Ishida Y, Minamikawa S, Nakagishi Y. ;Clinical characteristics and efficacy of antimicrobial treatment in pediatric parapharyngeal abscess without surgical intervention. J Infect Chemother.31:102719,2025.

- Kobayashi T, Mizuta M, Norimoto S, Akasaka Y, Nakagishi Y. ;Interlobular septal thickening and periportal collar sign in infant with negative pressure pulmonary hemorrhage.Pediatr Int.67:e70113,2025.
- Odahara Y, Mizuta M, Norimoto S, Ishida Y, Morisada N, Akasaka Y, Nakagishi Y. ;Cystic fibrosis detected on abdominal imaging: pancreatic atrophy with fat deposition in a 8-yea-old girl. J Paediatr Child Health.61:1686-1688,2025.
- 皇甫奈音, 南川将吾, 合田由香利, 仲嶋健吾, 石田悠介, 水田麻雄, 石田敏章, 中岸保夫. 呼吸器症状を伴わない貧血から診断した特発性肺ヘモジデローシスのダウン症候群の幼児例. 兵庫県小児科医会報.83:48-53, 2025.

救急科

- Matsui S, Uematsu S, Miyasaka M, Miyazaki O, Nosaka S; False positives in focused assessment with sonography for trauma among children. Pediatr Int. 67 : e70070, 2025.
- Yoshimura S, Tseng ZH, Yamada T, Nakao S, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yamakawa K, Kiguchi T, Kishimoto M, Ninomiya K, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Hironaka Y, Onoe A, Matsuyama T, Okada Y, Matsui S, Nishioka N, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T; CRITICAL Study Group Investigators; Underlying Cause of Out-of-Hospital Cardiac Arrests in Japan in Survivors Versus Nonsurvivors. J Am Heart Assoc. 14 : e036968, 2025.
- Nakao S, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yamakawa K, Kiguchi T, Kishimoto M, Ninomiya K, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Hironaka Y, Onoe A, Matsuyama T, Nishioka N, Okada Y, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T, Oda J; CRITICAL Study Group Investigators; Association Between Annual Procedural Volume and Outcomes in Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation for Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Nationwide Cohort Study in Japan (the JAAM-OHCA Registry). ASAIO J. Epub 2025.
- Onodera R, Nishioka N, Yamada T, Nakao S, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yamakawa K, Kiguchi T, Kishimoto M, Ninomiya K, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Hironaka Y, Onoe A, Matsuyama T, Okada Y, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T; CRITICAL Study Group Investigators; Association between base excess level at hospital arrival and neurological outcomes in adult out-of-hospital cardiac arrest: A multicentre cohort study. Resusc Plus. 25 : 101055, 2025.
- Matsumoto T, Nishiyama M, Ishida Y, Matsui S, Maruyama A; Impact of the coronavirus disease pandemic on emergency transport times for pediatric febrile seizures: A retrospective study. Brain Dev. 47 : 104456, 2025.
- Aoi Ogawa, Kenji Kishimoto, Shogo Horikawa, Suguru Uemura, Sayaka Hyodo, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka; Incidence of and factors associated with hypophosphatemia in children and adolescents receiving cancer treatment: a single-center, retrospective study. Eur J Pediatr.184 :170, 2025.

代謝内分泌科

- 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 曽根原晶子, 松本真明, 衣笠真紀, 森貞直哉, 尾﨑佳代　update proceeding 論文：特発性若年性骨粗鬆症の発症様式を取ったPLS3遺伝子欠失例　日本内分泌学会雑誌101巻S.Update

号 p. 33－35、2025

- Saito T, Soma K, Kashisaka M, Iketani K, Matsumoto M, Ueda T, Nishiyama M, Maruyama A, Nakai R, Sakihama H, Kurosawa H, Morisada N, Kobayashi H, Ozaki K. Systemic Primary Carnitine Deficiency Presenting With Substantia Nigra and Basal Ganglia Injury: A Case Report. JIMD Rep. 66(3):e70014. 2025
- Tomoki Saito, Kana Hiromoto, Naoya Morisada, Ryosuke Sakata, Tomohiro Ishii, Tomonobu Hasegawa, Keiichi Ozono, Kayo Ozaki, Burosumab treatment for FGF23-related hypophosphatemia in a two-year-old girl with McCune-Albright syndrome, Clinical Pediatric Endocrinology, 35(1), 110－116,2025
- Ishii T, Kashimada K, Kawai M, Itonaga T, Iwasa T, Utsunomiya A, Ozaki K, Kawamura K, Kanno J, Koh J, Kojima Y, Sasaki S, Sato H, Shiraishi K, Naiki Y, Nishiyama M, Hamajima T, Fujisawa Y, Makita N, Matsui K, Yanai T, Horikawa R, Ogata T.　Clinical practice guidelines for the management of differences of sex development in Japan.Endocr J. Dec 3. 2025
- 尾﨑佳代、西藤知城、柏坂舞、池谷紀衣子、松本真明、坊亮輔、山本茜、小林弘典、森貞直哉　多施設が出生前より連携をとり、遺伝学的検査結果が出る前の周産期管理を安全に行えた全身性カルニチン欠乏症の次子例.日本マススクリーニング学会誌　35(3):27－33,2025

リウマチ科

- Haruta S, Mizuta M, Tanaka T, Kaneko S, Shimbo A, Ishida Y, Minamikawa S, Shimizu M, Nakagishi Y. ;Case series: Serum CXCL9 and sTNF-RII levels as useful disease activity markers in patients with COVID-19-associated multisystem inflammatory syndrome in children. Int J Rheum Dis. e70024, 2025.
- Haruta S, Aida Y, Yatani K, Nakashima K, Sano H, Ishida Y, Minamikawa S, Mizuta M, Inaguma Y, Kaito H, Nakagishi Y. ;A paediatric case of granulomatosis with polyangiitis presenting with Kawasaki disease-like symptoms. J Paediatr Child Health.61:985－988,2025.
- Mori S, Shabana K, Matsui T, Nozawa T, Sugita Y, Tomiita M, Nakagishi Y, Yamasaki Y, Umebayashi H, Yashiro M, Iwata N, Yasumura J, Wakiguchi H, Yamamoto T, Takezaki S, Okura Y, Yokoyama T, Shimizu M, Hirayama M, Tohma S, Okamoto N, Mori M. ;Comparison of clinical practices during the transitional and young adult phases between patients with oligoarticular/polyarticular juvenile idiopathic arthritis and those with rheumatoid arthritis in Japan.Pediatr Rheumatol Online J.23:120,2025.

神経内科

- 鈴木雄一, 大谷良子, 井上健, 井口敏之, 鈴木由紀, 柳本嘉時, 冨岡和美, 藤井智香子, 石井隆太, 石橋孝勇. 日本における回避・制限性食物摂取症の診療実態のアンケート調査報告. 子どもの心とからだ. 34(3): 390－397, 2025.
- 冨岡和美, 上田拓耶, 西山将広, 永瀬裕朗. 研究者の最新動向 小児摂食障害における脳波周波数解析を用いた脳機能評価. Precision Medicine 8(4): 326－329, 2025.
- 石田貴裕, 宮下徳久, 青木一憲, 上田拓耶, 西山将広, 丸山あずさ, 黒澤寛史. 急性期の発作制御にイソフルラン吸入療法が奏功した難治頻回部分発作重積型急性脳炎. 日本小児科学会雑誌. 129(6), 781－787, 2025.
- Asagai Y, Morisada N, Miki Y, Kurosawa H, Maruyama A, Nozu K, Kosaki K. Fatal encephalopathy and congenital heart defects with MEF2C-related disorder. Pediatr Int. 67(1):e15883, 2025.
- Kikuchi K, Kuki I, Nishiyama M, Ueda Y, Matsuura R, Shiohama T, Nagase H, Akiyama T, Sugai K, Hayashi K, Murakami K, Yamamoto H, Fukuda T, Kashiwagi M, Maegaki Y. Japanese guidelines for treat-

ment of pediatric status epilepticus - 2023. Brain Dev. 47(1): 104306, 2025.

- Tokumoto S, Nishiyama M, Yamaguchi H, Sano K, Motobayashi M, Kashiwagi M, Hattori Y, Maruyama A, Toyoshima D, Nakagawa T, Kawano G, Nagase H. Epidemiology and treatment trends for acute encephalopathy under the impact of SARS-CoV-2 pandemic based on a prospective multicenter consecutive case registry. J Neurol Sci. 15:469:123377, 2025.
- Hanafusa H, Yamaguchi H, Morisada N, Ye MJ, Oikawa S, Tokumoto S, Nishiyama M, Nozu K, Nagase H. Identification of Genetic Variants in Status Epilepticus Associated With Fever. Brain Behav. 15(2):e70279, 2025.
- Mizuno S, Tanimoto Y, Mori A, Fuse T, Ishida Y, Nishiyama M, Maruyama A, Kasai,M. Acute Encephalopathy Associated with Human Adenovirus type 14 Infection 7-Year-Old girl, Japan. Emerg Infect Dis. 31(2):377-379,2025.
- Harada S, Nishiyama M, Mizuta M, Shimizu M, Maruyama A, Kurosawa H, Nakagishi Y. Hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome with hemophagocytic lymphohistiocytosis pathology caused by cytomegalovirus infection. Brain Dev Case Reports. 3(1):100062, 2025.
- Tanaka H, Nishiyama M, Soma K, Ueda T, Aoki K, Kurosawa H, Maruyama A. Fulminant cerebellitis with Chiari malformation showing increased blood flow on arteria spin labeling imaging. Pediatr Int. 67(1):e70074, 2025.
- Saito T, Soma K, Kashisaka M, Iketani K, Matsumoto M, Ueda T, Nishiyama M, Maruyama A, Nakai R, Sakihama H, Kurosawa H, Morisada N, Kobayashi H, Ozaki K. Systemic Primary Carnitine Deficiency Presenting With Substantia Nigra and Basal Ganglia Injury: A Case Report. JIMD Rep. 66(3):e70014, 2025.
- Matsumoto T, Nishiyama M, Ishida Y, Matsui S, Maruyama A. Imapact of the coronavirus disease pandemic on emergency transport times for pediatric febrile seizures: A retrospective study. Brain Dev. 47(5): 104456, 2025.
- Yamaguchi H, Maruyama A, Nishiyama M, Ueda T, Hongo H, Oikawa S, Tokumoto S, Tomioka K, Matsui S, Hayashi T, Tanaka R, Nozu K, Nagase H. Description on Patterns in Reduced-Lead Electroencephalography Performed for Suspected Electrographic Seixures in Pediatric Patients With Altered Mental Status Using Standardized Terminology. Pediatr Neurol. 169:21-30, 2025.

血液・腫瘍内科

- Aoi Ogawa, Kenji Kishimoto, Shogo Horikawa, Suguru Uemura, Sayaka Hyodo, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa & Yoshiyuki Kosaka Incidence of and factors associated with hypophosphatemia in children and adolescents receiving cancer treatment: A single-center, retrospective study European Journal of Pediatrics　2025 Feb 1;184(2):170 doi: 10.1007/s00431-025-06002-1.
- Morishita Y, Hamada M, Uemura S, Kikuchi H, Hisakawa H, Fujikawa T, Tamura A, Okuno Y, Wakamatsu M, Muramatsu H, Takahashi Y, Hasegawa D, Kosaka Y. Cord Blood Transplantation Using Myeloablative Conditioning for Pediatric Advanced Myelodysplastic Syndrome in AMeD Syndrome With a Novel ADH5 Variant. Pediatr Blood Cancer. 2025 Feb;72(2):e31465. doi: 10.1002/pbc.31465. Epub 2024 Nov 30. PMID: 39616414
- Sekimizu M, Watanabe T, Fukushima H, Koh K, Yuza Y, Takeshima Y, Watanabe H, Anan T, Mori T,

Mori T, Kobayashi R, Nakazawa A, Ohshima K, Saito AM, Takimoto T, Tsurusawa M, Horibe K, Sunami S. Localized Lymphoblastic Lymphoma in Children and Adolescents: Results of the LLB-NHL03 Trial-A Report From the Japan Children's Cancer Group. Pediatr Blood Cancer. 2025 May;72(5):e31590. doi: 10.1002/pbc.31590. Epub 2025 Feb 13.

- Iwatani S, Ohnishi Y, Goto H, Saito A, Yoshimoto S. Extensive leukaemia cutis at birth. Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed. 2025 Aug 4:fetalneonatal-2025-329262. doi: 10.1136/archdischild-2025-329262. Online ahead of print.
- Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Nao Yoshida, Dai Keino, Daisuke Hasegawa, Tomoko Yokosuka, Asahito Hama, Maho Sato, Keisuke Okuno, Kentaro Nakashima, Yoji Sasahara, Shoji Saito, Yoshiyuki Takahashi, Yoshiko Hashii, Kimikazu Matsumoto, Ken Tabuchi, Shohei Yamamoto Impact of Conditioning Regimen Type on Outcomes in Pediatric Patients with De Novo Advanced Myelodysplastic Syndrome Undergoing Hematopoietic Stem Cell Transplantation Transplantation and Cellular Therapy 2025 Nov 19:S2666-6367(25)01602-1. doi: 10.1016/j.jtct.2025.11.027.
- Katsuyoshi Koh, Yoshiyuki Kosaka, Yasuhiro Okamoto, Naoko Maeda, Atsushi Ogawa, Ryoji Kobayashi, Daisuke Hasegawa, Nobuhiro Koga, Adrien Tessier, Yelena Shvenke, Jian Zhu, Bouchra Benettaib, Keizo Horibe, Chitose Ogawa Phase 2 multicenter study of pegaspargase in Japanese patients with previously untreated acute lymphoblastic leukemia Int J Hematol 2025 Mar 31;122(2):284-294. doi: 10.1007/s12185-025-03976-4
- Yusuke Morishita[1], Motoharu Hamada[2,3], Suguru Uemura[4], Hiroaki Kikuchi[1], Hiroaki Hisakawa[1], Tomoko Fujikawa[5], Akihiro Tamura[5], Yusuke Okuno[2], Manabu Wakamatsu[3], Hideki Muramatsu[3], Yoshiyuki Takahashi[3], Daiichiro Hasegawa[4], Yoshiyuki Kosaka[4] Cord Blood Transplantation Using Myeloablative Conditioning for Pediatric Advanced Myelodysplastic Syndrome in AMeD Syndrome With a Novel ADH5 Variant Pediatr Blood Cancer 2025 Feb;72(2):e31465. doi: 10.1002/pbc.31465. Epub 2024 Nov 30.
- Nobuyuki Yamamoto, Kikyo Ishizawa, Mayuno Umemoto, Akihiro Nishimura, Tomoko Fujikawa, Shotaro Inoue, Naoko Nakatani, Akihiro Tamura, Nanako Nino, Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Noriyuki Nishimura Evaluation of Minimal Residual Disease in Patients with Neuroblastoma Molecular Diagnosis & Therapy 2025 Jul;29(4):443-452. doi: 10.1007/s40291-025-00788-4. Epub 2025 May 31.
- Atsushi Kikuta, Hidekazu Masaki, Hiroshi Hojo, Jun-Ichi Hata, Hajime Ohkita, Hajime Hosoi, Atsuko Nakazawa, Shiro Hinotsu, Hitoshi Ikeda, Seiji Kishimoto, Michio Kaneko, Akira Kawai, Junichi Hara, Tetsuya Takimoto, Miho Kato, Takashi Kaneko, Yoshiyuki Kosaka, Yasuhide Morikawa; Japan Rhabdomyosarcoma Study Group (JRSG)
- Results of a Phase II Trial for Intermediate-Risk Rhabdomyosarcoma Treatment Protocol JRS-I: A Report From the Japan Rhabdomyosarcoma Study Group Pediatr Blood Cancer 2025 Oct;72(10):e31894. doi: 10.1002/pbc.31894. Epub 2025 Jul 3.
- Yuki Arakawa,Yuya Sato,Shuichiro Uehara,Mai Watakabe,Takahiro Aoki,Hiroko Sato,Reina Hoshi,Tsuyoshi Imai,Shigeki Yagyu,Isamu Saeki,Motohiro Kano,Dai Keino, Motonari Nomura,Katsuyoshi Koh,Yuhki Koga,Yoshiyuki Kosaka,Eiso Hiyama,Keita Terashima,Yoshiaki Kinoshita,Shigeru Ono,Tatsuo Kuroda Retrospective study of stage IV extracranial germ cell tumors: A report from the Japan Children's Cancer

Group Pediatrics International 13 November 2025 ;67(1):e70257. doi: 10.1111/ped.70257.

- Katayama S, Moriya K, Imamura T, Tamefusa K, Sakaguchi K, Ishihara T, Nishi M, Usami I, Hama A, Hasegawa D, Sato A, Suenobu S, Moriya-Saito A, Horibe K, Hara J; Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS). Outcome of chemotherapy dose reduction in overweight Japanese children with acute lymphoblastic leukemia. Int J Hematol. 2025 Nov 10. doi: 10.1007/s12185-025-04103-z.
- Ryu Yanagisawa, Satoshi Miyamoto, Yoji Sasahara, Michiko Kajiwara, Masataka Ishimura, Hirotoshi Sakaguchi, Takehiko Doi, Yoshiyuki Takahashi, Yuko Cho, Maho Sato, Saori Katayama, Katsuyoshi Koh, Masakatsu Yanagimachi, Daiichiro Hasegawa, Keiko Okada, Junko Takita, Shoji Saito, Atsushi Sato, Moeko Hino, Kimikazu Matsumoto, Ken Tabuchi, Kimikazu Yakushijin, Katsutsugu Umeda Effect of Inflammatory Bowel Disease on Clinical Outcomes of Hematopoietic Cell Transplantation for Inborn Errors of Immunity Transplantation and Cellular Therapy　2025 Nov 10:S2666-6367(25)01558-1. doi: 10.1016/j.jtct.2025.11.006.

循環器内科

- 林谷俊和, 田中敏克, 稲瀬広樹, 飯田智恵, 広田幸穂, 三木康暢, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 田村明子, 城戸佐知子. 肺動脈絞扼術後に短期間で低酸素血症を呈した18トリソミー. 日本小児科学会雑誌. 129巻1号：31-37, 2025
- 小川禎治. 起立性調節障害(OD)はなまけものではない：その機序の模索と実際の臨床経過について. 思春期学ADOLESCENTOLOGY. VOL.43 NO.1：24-27, 2025

腎臓内科

- Yatani K, Kaito H, Inaguma Y, Tanaka R, Iijima K. A rare case of steroid-resistant nephrotic syndrome complicated by Wernicke's encephalopathy. Pediatr Nephrol 2025 Jul;40(7):2193-2195.
- Iijima K, Sako M, Horinouchi T, Sakai T, Yamamura T, Hamada R, Ohtsuka Y, Tanaka S, Kamei K, Tanaka R, Kano Y, Kubota T, Shima Y, Morohashi T, Inaba A, Fujinaga S, Oka M, Kaito H, Konishi A, Nagano C, Nakanishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Ghiggeri GM, Mori R, Omori T, Nozu K; Japanese Study Group of Kidney Disease in Children JSKDC10 Study. Rituximab-induced long-term remission in childhood-onset, uncomplicated, frequently relapsing or steroid-dependent nephrotic syndrome: a randomized, placebo-controlled trial and a follow-up study. Sci Rep 2025 Oct 10;15(1):34306.
- Asagai Y, Tanaka Y, Hanafusa H, Nagano C, Horinouchi T, Ishimori S, Kaito H, Iijima K, Nozu K, Morisada N. Clinical characteristics of patients with SALL1-related disorder. Pediatr Nephrol 2025 Nov;40(11):3407-3414.
- Horinouchi T, Nozu K, Iijima K. Genetic aspects of pediatric nephrotic syndrome and anti-nephrin antibodies. Clin Exp Nephrol 2025 May;29(5):534-540.
- Tanaka Y, Nagano C, Sakakibara N, Okada E, Aoyama S, Kimura Y, Inoki Y, Ichikawa Y, Ueda C, Kitakado H, Horinouchi T, Yamamura T, Ishimori S, Iijima K, Nozu K, Morisada N. Phenotype and genotype of autosomal dominant tubulointerstitial kidney disease in a Japanese cohort. Clin Exp Nephrol 2025 Jun;29(6):788-796.
- Ichikawa Y, Sakakibara N, Aoyama S, Kimura Y, Inoki Y, Tanaka Y, Ueda C, Kitakado H, Nagano C, Yamamura T, Ishimori S, Shima Y, Okamoto H, Fujii H, Maruyama H, Iijima K, Nozu K, Horinouchi T.

Co-localization of IgG with nephrin in immune-mediated idiopathic nephrotic syndrome. Clin Exp Nephrol 2025 Dec;29(12):1821-1828.

- Kondo A, Horinouchi T, Inoki Y, Ichikawa Y, Tanaka Y, Kitakado H, Ueda C, Sakakibara N, Nagano C, Nozu K. Prolonged hypokalemia long after causative factor elimination in pseudo-Bartter/Gitelman syndrome. Clin Exp Nephrol 2025 Dec;29(12):1796-1802.
- Inoki Y, Horinouchi T, Aoyama S, Kimura Y, Ichikawa Y, Tanaka Y, Ueda C, Kitakado H, Kondo A, Sakakibara N, Kamei K, Hamada R, Fujita N, Gotoh Y, Kaku Y, Nishiyama K, Okamoto T, Toya Y, Yamamura T, Ishimori S, Nagano C, Nozu K. Differences in kidney prognosis between congenital and infantile nephrotic syndrome. Pediatr Nephrol 2025 Aug;40(8):2539-2549.
- Nagano C, Morisada N, Inoki Y, Tanaka Y, Ichikawa Y, Ueda C, Kitakado H, Aoto Y, Sakakibara N, Horinouchi T, Yamamura T, Ishimori S, Nozu K. Clinical use of the VNtyper-Kestrel pipeline for MUC1 variant detection in autosomal-dominant tubulointerstitial kidney disease. Clin Exp Nephrol 2025 Sep;29(9):1192-1199. 10.・Suzuki R, Sakakibara N, Murakami S, Ichikawa Y, Kitakado H, Ueda C, Tanaka Y, Okada E, Kondo A, Aoto Y, Ishiko S, Ishimori S, Nagano C, Yamamura T, Horinouchi T, Okamoto T, Nozu K. Genotype and X-chromosome inactivation are associated with disease severity in females with X-linked Alport syndrome. Nephrol Dial Transplant 2025 Apr 1;40(4):688-695.
- 金奏希, 貝藤裕史, 稲熊洋祐, 村上紫津, 久松千恵子, 田中亮二郎, 飯島一誠. 落差式排液による自動腹膜透析で在宅医療への移行が可能となったVATER症候群の1例. 日本小児腎不全学会雑誌(1341-5875)45巻 Page155-157.
- 貝藤裕史, 金奏希, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 飯島一誠. レニン・アンジオテンシン系阻害薬が主因と考えられた低ナトリウム血症の一例. 日本小児体液研究会誌(2423-9739)17巻 Page46-49.

感染症内科

- Nakano Y, Yamada K, Suzuki K, Yasutomi-Sakai M, Takeuchi M, Ohshima Y. An adolescent case of pancreatic tuberculosis after treatment of latent tuberculosis infection. Pediatrics International.67:e70127.2025.
- Matsui Y, Mizuno S, Anraku M, Yamaguchi T, Sugino M, Kawahara R, Kasai M. Clinical and microbiological characterization of invasive group a Streptococcus infection in children in Japan: A single-center experience. J Infect Chemother. 31:102560. 2025
- Ikeda M, Mizuno S, Aida Y, Kugo M, Nakagishi Y, Kasai M. Febrile infant with bacteremia caused by group B Streptococcus and coronavirus disease 2019 during the pandemic. Pediatr Int. 67:e70033. 2025
- Mizuno S, Tsukamura Y, Kasai M. Interpretation of Positive Roche Elecsys SARS-CoV-2 Antigen Test Results: Value for Clinical Decisions. Can J Infect Dis Med Microbiol. 2025:9054868. 2025
- Sunakawa T, Mizuta M, Mizuno S, Masuda C, Hasegawa T, Nakashima K, Aida Y, Ishida Y, Minamikawa S, Nakagishi Y. Clinical characteristics and efficacy of antimicrobial treatment in pediatric parapharyngeal abscess without surgical intervention. J Infect Chemother. 31:102719. 2025
- Mizuno S, Tanimoto Y, Mori A, Fuseya T, Ishida Y, Nishiyama M, Maruyama A, Kasai M. Acute Encephalopathy Associated with Human Adenovirus Type 14 Infection in 7-Year-Old Girl, Japan. Emerg Infect Dis. 31:377-379. 2025
- Okada S, Mizuno S, Akutsu N, Kurosawa H, Kasai M. Tuberculous Meningitis in a One-Year-Old Child

With Isoniazid-Induced Hepatotoxicity: A Case Report. Cureus. 17:e89383. 2025

- Mizuno S, Horiba K, Nakahashi T, Atsumi Y, Takahara T, Hashino M, Ito Y, Kamimura K. A 1-year-old boy presenting with roseola accompanied by bilateral eyelid oedema and acute infectious mononucleosis syndrome caused by human herpesuvirus-6B: A case report. Int J Infect Dis. 163:108213. 2025
- Aizawa Y, Tachikawa J, Ikuse T, Furuno K, Shibata M, Cho Y, Kasai M, Funaki T, Yamanaka T, Shoji T, Ito K, Kondo K, Sakurai H, Minami K, Hoshino T, Terauchi Y, Saitoh A. Parechovirus-A3 Infection in Neonates and Young Infants from the Pre-Coronavirus Disease 2019 Pandemic Period to the Post-Restriction Era from the Pediatric Parechovirus Surveillance Group in Japan. J Pediatric Infect Dis Soc. 14:piaf100. 2025
- Nakashio M, Nikaido R, Nishi J, Kasai M, Morisawa T. Haemophilus influenzae Type f Meningitis With an Intraventricular Abscess. Cureus. 17:e79187. 2025

臨床遺伝科

- Kondoh T, Ando T, Matsumoto Y, Kumagai N, Tanaka Y, Morisada N, Nozu K, Ikezumi Y. A novel PKD1 variant in a patient with very-early-onset ADPKD. Hum Genome Var. 12 : 28, 2025
- Odahara Y, Mizuta M, Norimoto S, Ishida Y, Morisada N, Akasaka Y, Nakagishi Y. Cystic Fibrosis Detected on Abdominal Imaging: Pancreatic Atrophy With Fat Deposition in an 8-Year-Old Girl. J Paediatr Child Health. 2025 Oct;61(10):1686-1688.
- Asagai Y, Tanaka Y, Hanafusa H, Nagano C, Horinouchi T, Ishimori S, Kaito H, Iijima K, Nozu K, Morisada N. Clinical characteristics of patients with SALL1-related disorder. Pediatr Nephrol. 40 : 3407-3414, 2025
- Tsujimoto Y, Yamamoto N, Fukumitsu H, Bando H, Yamamoto M, Tanaka K, Morisada N, Nagasaka M, Oe K, Niikura T, Yamauchi M, Ogawa W, Fukuoka H. Diagnosis of skeletal fragility due to Loeys-Dietz syndrome and treatment with romosozumab followed by denosumab. Bone Rep. 25 : 101849, 2025
- Nakato D, Morisada N, Iwatani S, Nishida C, Watanabe D, Yamada M, Suzuki H, Miya F, Kosaki K, Takenouchi T. RHOA-associated disorder can be non-mosaic. Eur J Med Genet. 75 : 105019, 2025
- Nozaki H, Sakakibara N, Hanafusa H, Inoki Y, Tanaka Y, Kitakado H, Ueda C, Nagano C, Horinouchi T, Yamamura T, Ishimori S, Yamaguchi H, Nozu K, Morisada N. The first case of Al-Raqad syndrome in Japan is associated with a homozygous DCPS exonic variant resulting in aberrant splicing. Brain Dev. 47 : 104366, 2025
- Nishikiori A, Miki Y, Kodera T, Nozu K, Morisada N. A Japanese boy with SUPT16H-related neurodevelopmental disorder and congenital heart defects. Pediatr Int. 67 : e70057, 2025
- Nagano C, Morisada N, Inoki Y, Tanaka Y, Ichikawa Y, Ueda C, Kitakado H, Aoto Y, Sakakibara N, Horinouchi T, Yamamura T, Ishimori S, Nozu K. Clinical use of the VNtyper-Kestrel pipeline for MUC1 variant detection in autosomal-dominant tubulointerstitial kidney disease. Clin Exp Nephrol. 29 : 1192-1199, 2025
- Saito T, Soma K, Kashisaka M, Iketani K, Matsumoto M, Ueda T, Nishiyama M, Maruyama A, Nakai R, Sakihama H, Kurosawa H, Morisada N, Kobayashi H, Ozaki K. Systemic Primary Carnitine Deficiency Presenting With Substantia Nigra and Basal Ganglia Injury: A Case Report. JIMD Rep. 66 : e70014, 2025
- Tanaka Y, Nagano C, Sakakibara N, Okada E, Aoyama S, Kimura Y, Inoki Y, Ichikawa Y, Ueda C, Kitakado H, Horinouchi T, Yamamura T, Ishimori S, Iijima K, Nozu K, Morisada N. Phenotype and genotype of autosomal dominant tubulointerstitial kidney disease in a Japanese cohort. Clin Exp Nephrol. 29 : 788-796,

2025

- Hanafusa H, Yamaguchi H, Morisada N, Ye MJ, Oikawa S, Tokumoto S, Nishiyama M, Nozu K, Nagase H. Identification of Genetic Variants in Status Epilepticus Associated With Fever. Brain Behav. 15 : e70279, 2025
- Asagai Y, Morisada N, Miki Y, Kurosawa H, Maruyama A, Nozu K, Kosaki K. Fatal encephalopathy and congenital heart defects with MEF2C-related disorder. Pediatr Int. 67 : e15883, 2025
- 白井陽子, 三浦健一郎, 安藤太郎, 石塚喜世伸, 橋本多恵子, 藤永周一郎, 野津寛大, 森貞直哉, 鈴木教郎, 服部元史. 二次性多血症を呈した嚢胞性腎疾患の8歳男児における生体腎移植の経験. 日本小児腎不全学会雑誌45 : 162-165, 2025
- 坂口晴英, 齋藤佳奈子, 松田明奈, 横田俊介, 櫻谷浩志, 田中悠, 森貞直哉, 野津寛大, 藤永周一郎. 腎外症状から早期にWDR19変異によるSenior-Loken症候群と診断した1例. 日本小児腎不全学会雑誌45 : 158-161, 2025
- 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 曽根原晶子, 松本真明, 衣笠真紀, 森貞直哉, 尾崎佳代. 特発性若年性骨粗鬆症の発症様式を取ったPLS3遺伝子欠失例. 日本内分泌学会雑誌101 Suppl.Update : 33-35, 2025
- 荒井貴子, 森貞直哉, 三村仁美, 木原智子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 松本培世, 平久進也, 洪本加奈, 芳本誠司, 船越徹. 二絨毛膜三羊膜品胎の絨毛を共有する児のうち,一子のみがSilver-Russell症候群の診断に至った一例。日本周産期・新生児医学会雑誌61 : 174-179, 2025
- 青砥悠哉, 衣笠真紀, 森貞直哉. 目で見る小児科　生後から両側外反母趾を認めた女児例. 小児科66 439-440, 2025
- 白井陽子, 飯田貴也, 安藤太郎, 石塚喜世伸, 橋本多恵子, 森貞直哉, 野津寛大, 三浦健一郎. フロセミド・フルドロコルチゾン負荷試験で尿の酸性化障害を認めなかったが総合的に遠位尿細管性アシドーシスと診断した1例. 日本小児体液研究会誌17 : 22-26, 2025
- 寺崎英佑, 中川卓, 柄川剛, 森貞直哉, 井上賢治. Clinical and imaging findings useful for early diagnosis of molybdenum cofactor deficiency: a case report of siblings. 脳と発達57 : 56-58, 2025
- 森貞直哉, 田中悠.【遺伝カウンセリングを学ぼう!】様々な場面での遺伝カウンセリング　遺伝性腎疾患. 小児科診療88 : 1064-1069, 2025
- 洪本加奈, 谷口真紀, 森貞直哉.【遺伝カウンセリングを学ぼう!】様々な場面での遺伝カウンセリング　先天異常症候群　診断後. 小児科診療88 : 965-969, 2025

小児外科

- 佐々木　航, 森田　圭一, 畠山　理.【極・超低出生体重児の治療戦略】極・超低出生体重児の先天性気管狭窄症に対する治療戦略. 小児外科. 57 :47-49, 2025
- 畠山　理.【極・超低出生体重児の治療戦略】胎便性腹膜炎. 小児外科. 57 :73-75, 2025
- 久松千恵子. 血清脂肪酸分画と便脂肪染色から静注用脂肪乳剤の投与量を検討した超短腸症児の1例. J JSPEN.　7 : 69-73, 2025
- 中谷　太一, 佐々木　航, 吉村　翔平, 福井　慶介, 冨岡雄一郎, 村上　紫津, 久松千恵子, 横井　暁子, 畠山理. 長期気管切開管理中に発症した小生後天性気管食道瘻に対して喉頭気管分離術を行った1例. 日本小児外科学会雑誌. 61 : 1,035-1,040
- Hisamatsu C, Tsugawa J. The combination use of a Japanese-ready-made fenestrated speaking cannula and speaking valve in children with tracheostomy. Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 198 : 112566

心臓血管外科

- Kawamura Y, Matsuhisa H, Nonaka Y, Fukuda T, Ikeda Y, Tabira K. Skeletal Muscle Oxygen Dynamics during Rehabilitation of Children with Congenital Heart Disease: A Comparative Study of Two Cases. - Phys Ther Res. 2025; 28: 150－155.
- Matsushima S, Takahashi R, Kubo S, Higashida A, Oshima Y, Matsuhisa H. Pulmonary expanded polytetrafluoroethylene conduits with a hand-sewn tricuspid valve. Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 40:ivaf020, 2025.
- Matsuhisa H. Patch Augmentation of Superior Bridging Leaflet in Rastelli Type A Atrioventricular Septal Defect Repair.Operative Techniques in Thoracic and Cardiovascular Surgery 2025; 30: 295－302.
- Kubo S, Morita K, Higashida A, Matsuhisa H; Anterior pulmonary artery translocation with the Damus-Kaye-Stansel and Rastelli procedures for multilevel tracheobronchomalacia with double-outlet right ventricle（S, D, L）and right pulmonary agenesis. Eur J Cardiothorac Surg. 67(10), 2025.
- Higashida A, Aoki M, Toritsuka D, Motono S, Ibuki K, Ozawa S, Hirono K, Matsuhisa H, Doi T, Yoshimura N. Surgical strategy for multiple ventricular septal defects: long-term outcomes beyond 15 years. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Dec 9. doi: 10.1007/s11748－025－02241－z.

脳神経外科

- Okada S, Mizuno S, Akutsu N, Kurosawa H, Kasai M. Tuberculous Meningitis in a One-Year-Old Child With Isoniazid-Induced Hepatotoxicity: A Case Report. Cureus. 2025 Aug 4;17(8):e89383. doi: 10.7759/cureus.89383. eCollection 2025 Aug.

整形外科

- 小林大介. 小児整形外科疾患のリハビリテーション治療　股関節疾患　総合リハビリテーション　53 - 4: 349 - 356,2025
- 坂田亮介, 薩摩眞一. 治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　発育性股関節形成不全(DDH)(解説). 日本医事新報. 5277：50－51, 2025.
- 坂田亮介. 整形外科　名人のknow-how　軽度安定型大腿骨頭すべり症に対するin situピンニング(解説). 整形・災害外科. 68(2)：102－105, 2025.
- 衣笠真紀,薩摩眞一,小林大介,坂田亮介,森下雅之,北村仁美, 有本章彦, 山本茜, 柏坂舞, 尾崎佳代, 森貞直哉, 野津寛大.　PLS遺伝子バリアントを伴うX連鎖性骨粗鬆症と診断された1例. 日本整形外科学会雑誌. 99(2):629－631, 2025
- 山本茜,森下雅之, 有本章彦,衣笠真紀,北村仁美,坂田亮介,小林大介. 足根骨癒合症を伴わない脛骨筋痙性内反足の2例.日本小児整形外科学会雑誌. 34(2): 231－234, 2025

眼科

- 豊國秀昭,河原佳奈、野村耕治. 網膜芽細胞腫との鑑別を要した結節性硬化症の乳児の1例. 眼科臨床紀要. 18(6). 385－388, 2025

耳鼻咽喉科

- Matsuzaki S, Nara K, Mutai H, Katsunuma S, Sakamoto H, Hirose M, Wakisaka N, Adachi N, Asanuma S,

Fujioka M, Matsunaga T. Clinical features of hearing loss and genotype-phenotype correlations in Alport syndrome caused by COL4A4 or COL4A5 variants. Sci Rep. 15(1):43803. 2025.

泌尿器科

- 春名晶子.〈特集〉思春期に泌尿生殖器の問題を抱える子どもたち　総排泄腔遺残と思春期の管理(小児泌尿器科医の立場から). 思春期学ADOLESCENTOLOGY. Vol.43.No.2:223-226,2025
- 杉多良文, 春名晶子, 楠瀬正史, 植松陸. 異所性尿管・尿管瘤.日本小児泌尿器科学会雑誌. Vol.34 NO.1:12-23,2025

麻酔科

- Taiki Kojima, Yusuke Yamauchi, Takashi Fujiwara, Soichiro Obara, Aya Sueda, Riku Takahashi, Sayuri Yasuda, Hiroshi Kitoh. Clinical Impact of Specific Extraocular Muscle Manipulation and the Oculocardiac Reflex on Postoperative Vomiting in Pediatric Strabismus Surgery: A Multicenter, Observational Study, Paediatric Anaesthesia, 35：163－174, 2025
- 藤原孝志. 小児心臓麻酔におけるTIVA. 臨床麻酔. 49：191－196, 2025
- Soichiro Obara, Taiki Kojima, Yusuke Yamauchi, Takashi Fujiwara, Aya Sueda, Riku Takahashi. Cost-effectiveness analysis of anaesthesia regimens for paediatric strabismus surgery based on multicentre retrospective cohort data from Japan. BJA Open. 14：100404, 2025
- 藤原孝志. 小児の周術期管理 第6回 術中編 ②麻酔関連薬剤の選択. OPE nursing. 40：90－94, 2025
- 宮本義久. お子さんが麻酔を受けるときに知っておいてほしいこと. 心臓をまもる. 736：19－23, 2025
- 藤原孝志. 小児の周術期管理 第8回 術中編 ④覚醒・抜管から退室まで. OPE nursing. 40：69－73, 2025

新生児内科

- 高橋英里, 小林孝生, 西牧良, 岩谷壮太, 相馬健人, 西山将広, 丸山あずさ, 芳本誠司. 難治てんかんに進行した片側巨脳症児における脳波所見の変化. 日本周産期新生児医学会雑誌 61(1):152-157,2025
- 松島愛香, 小林孝生, 岩谷壮太. 三次周産期医療施設に入院した新生児における院内分割製剤使用による供血者数の削減. 日本産婦人科・新生児血液学会雑誌35(1):1-2,2025
- 松島愛香, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.消化管疾患既往の児に対するロタウイルスワクチン接種 - 三次周産期医療センターでの検討. 日本新生児成育医学会雑誌 37(2):265-272,2025
- 萩元慎二、岩谷壮太、小林孝生、生田寿彦、松井紗智子、芳本誠司. 極低出生体重児における遷延する高直接ビリルビン血症が遷延する極低出生体重児の頻度とその特徴 - 在胎週数をマッチさせたケースコントロール研究. 日本周産期新生児医学会雑誌 61(2):249-255,2025
- Ikuta T, Iwatani S, Yoshimoto S.Umbilical cord blood as a substitute for neonatal blood in measuring serum albumin and immunoglobulin G levels. Am J Clin Pathol. 163(1): 20-27, 2025
- Accuracy of body weight estimation for fetuses with congenital diaphragmatic hernia. Sunakawa T, Iwatani S, Yoshimoto S. Congenit Anom (Kyoto). 65(1):e70003,2025
- Nishimaki R, Iwatani S, Kobayashi T, Shoko Tamaki, Murakami S, Hatakeyama T, Yoshimoto S. Surviving bilateral renal agenesis: Upper intestinal atresias preserving lung development without severe oligohydamnios. Pediatr Int. 67(1):e15891,2025

- Matsui S, Iwatani S, Nakamura H, Yoshimoto S. Revised treatment criteria for safe reduction of phototherapy for hyperbilirubinemia. Pediatr Int.67(1):e70015,2025
- Uho S, Iwatani S, Matsui S, Yoshimoto S. Breast milk pasteurization for preventing postnatal cytomegalovirus infection: A preliminary study in a Japanese perinatal center. Pediatrics International 67(1):e70076, 2025
- Okumura A, Hayakawa M, Arai H, Maruo Y, Kusaka T, Kunikata T, Iwatani S, Sato Y, Morioka I. Clinical Factors Related to Bilirubin Encephalopathy in Preterm Infants: A Case-Control Study. Brain and Development 7(2):104342,2025
- Takeoka E, Carlson AA, Madan N, Azimirad A, Mahmoud T, Kitano R, Akiyama S, Yun HJ, Tucker R, Im K, O'Tierney-Ginn P, Tarui T. Impact of high maternal body mass index on fetal cerebral cortical and cerebellar volumes. J Perinat Med 53(3):376-386,2025
- Wada K, Takeuchi A, Katayama Y, Ohkawa N, Kantake M, Fujioka K, Nishikubo T, Yamamoto Y, Yamada Y, Yoshimoto S, Sumi K, Ioroi T, Mure T, Wada N, Nakano Y, Takasao N, Tada K, Yamamoto T, Hirai H, Sato Y, Ide H, Kusuda S. Combined treatment with mesenchymal stem cells and therapeutic hypothermia for neonatal hypoxic ischemic encephalopathy: a phase 1/2 randomized trial. Sci Rep15(1):16302,2025
- Sunakawa T, Iwatani S, Hagimoto S, Ikuta T, Yoshimoto S. Lower bilirubin levels in newborns with hypoxic ischemic encephalopathy undergoing therapeutic hypothermia may indicate suppressed heme oxygenase activity. European Journal of Pediatrics 184(6):339,2025
- Sunakawa T, Iwatani S, Yokoi A, Hatakeyama T, Yoshimoto S. Growth restriction beginning in early infancy among survivors of congenital diaphragmatic hernia – A single-center experience. Clinical Pediatrics 64(11):1606-1612,2025
- Nakato D, Iwatani S, Nishida C, Watanabe D, Yamada M, Suzuki H, Miya F, Kosaki K, Takenouchi T. RHOA-associated disorder can be non-mosaic. European Journal of Medical Genetics 2025 Jun:75:105019.
- Kobayashi T, Iwatani S, Haruta S, Hagimoto S, Yoshida M, Yoshimoto S. Early-onset necrotizing enterocolitis during the initiation of Cow's milk formula. Pediatrics International 67(1):e70175,2025
- Kobayashi T, Iwatani S, Kurokawa D, Morioka I, Yoshimoto S. In vitro study: No displacement of bilirubin-albumin binding by erythromycin, azithromycin, acyclovir, or ganciclovir. Pediatrics International 67 (1):e70181,2025
- Iwatani S, Ohnishi Y, Goto H, Yoshimoto S. Extensive Leukemia Cutis at birth. Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed. Aug 4:fetalneonatal-2025-329262,2025
- Kobayashi T, Iwatani S, Ikuta T, Yoshimoto S. Serum IL-6 levels correlate with surgical stress factors in newborns with congenital diaphragmatic hernia. Cytokine. Dec;196:157053, 2025
- Iwatani S, Hagimoto S, Kobayashi T, Ikuta T, Matsui S, Kurokawa D, Yoshimoto S. Bilirubin-albumin molar ratio for screening high unbound bilirubin across gestational ages. Pediatr Res. Dec 22,2025
- Yoshinori Ito, Takuya Yamagishi, Chiaki Ikenoue, Naruhiko Ishiwada, Kenta Ito, Sota Iwatani, kazunobu Ouchi, Kei Kawana, Hiroyuki Shimizu, Masayoshi Shinjoh, Noriko Takeuchi, Takeshi Tsugawa, Takanori Funaki, Munehiro Furuichi, Tadashi Hoshino, Hiroshige Mikamo, Isao Miyairi, Hiroyuki Moriuchi, Ichiro Morioka, Yuka Yamagishi, Masaaki Mori. Clinical Practice Guidelines for the Management of Congenital Syphilis in Japan, 2023: Executive Summary. Pediatr Infect Dis J.44(3):e90-94,2025

産科

- 荒井貴子, 森貞直哉, 三村仁美, 木原智子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 松本培世, 平久進也, 洪本加奈, 芳本誠司, 船越徹. 二絨毛膜三羊膜品胎の絨毛を共有する児のうち,一子のみがSilver-Russell症候群の診断に至った一例. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 61:174-179,2025.
- 江本永真, 長澤友紀, 黒島瑞穂, 木原智子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 荒井貴子, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 妊娠22-24週における分娩方法の選択と新生児・母体予後の検討. 産婦人科の進歩. 77:369-372,2025.

放射線診断科

- 乗本周平. 小児の胆道疾患と膵腫瘍. 日本小児放射線学会雑誌. 41(2): 111-124, 2025.
- 田原潤子, 赤坂好宣. 小児・胎児MRI. 臨床画像. 41(11): 1264-1273, 2025.

小児集中治療センター　集中治療科

- Daisuke Matsubara, Yuri Matsubara, Mamoru Ayusawa, Hiromichi Hamada, Mitsuru Seki, Hiroyuki Yamagishi, Yoshihide Mitani, Yoshihiro Onouchi, Hiroyuki Moriuchi, Isao Miyairi, Keiko Tanaka - Taya, Tomohiro Katsuta, Hiroshi Kurosawa, Kazunori Aoki, Naoki Shimizu, Yosikazu Nakamura, Nationwide Survey of Multisystem Inflammatory Syndrome in Children Associated with Coronavirus Disease 2019 in Japan. J Clin Immunol. 2024 Nov 30, 45(1):51.
- Harada Shinji, Nishiyama Masahiro, Mizuta Mao, Shimizu Masaki, Maruyama Azusa, Kurosawa Hiroshi, Nakagishi Yasuo. Hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome with hemophagocytic lymphohistiocytosis pathology caused by cytomegalovirus infection. Brain and Development Case Reports. 2025, 3(1):100062.
- Shu-Ling Chong, Yanan Zhu, Quan Wang, Paula Caporal, Juan D. Roa, Freddy Israel Pantoja Chamorro, Thelma Elvira Teran Miranda, Hongxing Dang, Chin Seng Gan, Qalab Abbas, Ivan J. Ardila, Mohannad Ahmad Antar, Jesús A. Domínguez-Rojas, María Miñambres Rodríguez, Natalia ZitaWatzlawik, Natalia Elizabeth Gómez Arriola, Adriana Yock-Corrales, Rubén Eduardo Lasso-Palomino, Ming Mei Xiu, Jacqueline S. M. Ong, Hiroshi Kurosawa, Gabriela Aparicio, Chunfeng Liu, Rujipat Samransamruajkit, Juan C. Jaramillo-Bustamante, Nattachai Anantasit, Yek Kee Chor, Deborah M. Turina, Pei Chuen Lee, Marisol Fonseca Flores, Francisco Javier Pilar Orive, Jane Ng PeiWen, Sebastián González-Dambrauskas, Jan Hau Lee, for the Pediatric Acute and Critical Care Medicine in Asia Network (PACCMAN) and the Red Colaborativa Pediátrica de Latinoamérica (LARed). Clinical Outcomes of Hypertonic Saline vs Mannitol Treatment Among Children With Traumatic Brain Injury. JAMA Network Open. 2025;8;(3):e250438.
- Yoshitaka Asagai, Naoya Morisada, Yasunobu Miki, Hiroshi Kurosawa, Azusa Maruyama, Kandai Nozu, Kenjiro Kosaki. Fatal encephalopathy and congenital heart defects with MEF2C-related disorder. Pediatr Int. 2025 67(1):e15883.
- Tomoki Saito, Kento Soma, Mai Kashisaka, Kiiko Iketani, Masaaki Matsumoto, Takuya Ueda, Masahiro Nishiyama, Azusa Maruyama, Ryosuke Nakai, Hiroshi Sakihama, Hiroshi Kurosawa, Naoya Morisada, Hironori Kobayashi, Kayo Ozaki. Systemic Primary Carnitine Deficiency Presenting With Substantia Nigra and Basal Ganglia Injury: A Case Report. JIMD Reports. 2025; 66:e70014.
- Chen Yun Goh, Karen Ka Yan Leung, Jia Yueh Chong, Xuemei Zhu, Nattachai Anantasit, Lijia Fan, Chunfeng Liu, Louise Ngu, Kam Lun Ellis Hon, Jan Hau Lee, Wei Xu, Hiroshi Kurosawa, Dyah Kanya

Wati, Rujipat Samransamruajkit, Li Huang, Muralidharan Jayashree, Yek Kee Chor, Hongxing Dang, Chin Seng Gan, Kah Min Pon, Chian Wern Tai, Phuc Huu Phan, Kazunori Aoki, Felix Liauw, Soo Lin Chuah, Suparyatha Ida Bagus Gede, Pei Chuen Lee, Jacqueline Soo May Ong, Siew Wah Lee, Chengsi Ong, Rehena Sultana, Judith Ju-Ming Wong, on behalf of the Pediatric Acute and Critical Care Medicine Asian Network. Nutritional Status and Mechanical Ventilation Practices in Pediatric Acute Respiratory Distress Syndrome: A Secondary Analysis of the 2017–2023 PARDSAsia Stud. Pediatr Crit Care Med. 2025 Oct 1;26(10):e1242–52.

- Sakurai Yoshio, Michihata Nobuaki, Osada Kohei, Kobayashi Shingo, Sakamoto Wataru, Uchida Yuta, Ishii Kuniya, Yokohari Hiroya, Kurosawa Hiroshi, Isogai Toshiaki, Matsui Hiroki, Fushimi Kiyohide, Yasunaga Hideo. Patient Backgrounds and Outcomes of Mechanically Ventilated Children Treated in ICUs Versus General Wards in Japan: A Retrospective Cohort Study Using a National Inpatient Database. Crit Care Med. 2025 Dec 1;53(12):e2497–e2505.
- Barnaby R. Scholefield, Chair, Jason Acworth, Vice Chair, Kee-Chong Ng, Lokesh Kumar Tiwari, Tia T. Raymond, Andrea Christoff, Stephan Katzenschlager, Raffo Escalante-Kanashiro, Arun Bansal, Alexis Topjian, Monica Kleinman, Hiroshi Kurosawa, Michelle C. Myburgh, Jimena del Castillo, Joseph Rossano, Jana Djakow, Anne-Marie Guerguerian, Vinay M. Nadkarni, Thomaz Bittencourt Couto, Stephen M. Schexnayder, Gabrielle Nuthall, Janice A. Tijssen, Gene Yong-Kwang Ong, James M. Gray, Jesus Lopez-Herce, Ester Shambekela Ambunda, Jerry P. Nolan, Senior Editor, Katherine M. Berg, Senior Editor, Laurie J. Morrison, Senior Author, Dianne L. Atkins, Senior Author, and Allan R. de Caen, Senior Author on behalf of the Pediatric Life Support Task Force Collaborators. Pediatric Life Support: 2025 International Liaison Committee on Resuscitation Consensus on Science With Treatment Recommendations. Circulation. 2025;152(suppl 1):S116–S164.
- Jian Ji, Juan D. Roa G, Shu-Ling Chong, Quan Wang, Chin Seng Gan, Jane P. W. Ng, Thelma Elvira Teran Miranda, Freddy Israel Pantoja Chamorro, Lawrence Chi Ngong Chan, Qalab Abbas, Jacqueline S. M. Ong, Ivan J. Ardila, Yasser M. Kazzaz, Jesús A. Domínguez-Rojas, Hiroshi Kurosawa, Susana Beatriz Reyes Domínguez, Natalia Elizabeth Gómez Arriola, Natalia Zita Watzlawik, Adriana Yock-Corrales, Rubén Eduardo Lasso Palomino, Gabriela Aparicio, Paula Caporal, Rosa Elena de la Torre Gómez, Chunfeng Liu, Rujipat Samransamruajkit, Nattachai Anantasit, Deborah M. Turina, Marisol Fonseca Flores, Pei-Chuen Lee, Francisco J. Pilar-Orive, Hongxing Dang, Yek Kee Chor, Meixiu Ming, Juan C. Jaramillo-Bustamante, Sebastián González-Dambrauskas, Jan Hau Lee, Suyun Qian. Association Between Prophylactic Anti-Seizure Medication and Early Post-Traumatic Seizures: An International Observational Multicenter Study. MedComm, 2025; 6:e70524.
- Okada S, Mizuno S, Akutsu N, Kurosawa H, Kasai M. Tuberculous meningitis in a one-year-old child with isoniazid-induced hepatotoxicity: A case report. Cureus. 2025 Aug 4;17(8):e89383.
- Urata H, Aoki K, Sakihama H, Kurosawa H. Two cases of pediatric common peroneal nerve palsy associated with intermittent pneumatic compression. Cureus. 2025 Feb 6;17(2):e78650.
- Gabrielle Nuthall, Andrea Christoff, Laurie J Morrison, Jason Acworth, James M Gray, Joseph Rossano, Barnaby R Scholefield; International Liaison Committee on Resuscitation ILCOR Pediatric Life Support Task Force, Collaborators (International Liaison Committee on Resuscitation ILCOR Pediatric Life Support Task Force): Kee Chong Ng, Tia T Raymond, Raffo Escalante-Kanashiro, Arun Bunsal, Alexis

Topjian, Stephan Katzenschlager Hiroshi Kurosawa, Jana Djakow, Anne-Marie Guerguerian, Stephen M Schexnayder, Gene Yong-Kwang Ong, Jesus Lopez-Herce, Ester Ambunda, Allan DeCaen, Dianne L Atkins. Blood pressure targets after return of circulation following cardiac arrest in infants and children: a systematic review and meta-analysis. Resuscitation. 2025 Nov:216:110825.

- Hajime Tanaka, Masahiro Nishiyama, Kento Soma, Takuya Ueda, Kazunori Aoki, Hiroshi Kurosawa, Azusa Maruyama. Fulminant cerebellitis with Chiari malformation showing increased blood flow on arterial spin labeling imaging. Pediatr Int. 2025 67(1):e70074.
- Pediatric Acute and Critical Care Medicine Asian Network, Herng Lee Tan, Rehena Sultana, Phuc Huu Phan, Muralidharan Jayashree, Hongxing Dang, Soo Lin Chuah, Chin Seng Gan, Siew Wah Lee, Karen Ka Yan Leung, Ellis Kam Lun Hon, Xuemei Zhu, Pei Chuen Lee, Chian Wern Tai, Jacqueline Soo May Ong, Lijia Fan, Kah Min Pon, Li Huang, Kazunori Aoki, Hiroshi Kurosawa, Rujipat Samransamruajkit, Jia Yueh Chong, Felix Liauw, Nattachai Anantasit, Wei Xu, Chunfeng Liu, Jan Hau Lee, Louise Ngu, Yek Kee Chor, Suparyatha Ida Bagus Gede, Dyah Kanya Wati, Judith Ju Ming Wong. The Impact of Mechanical Power Normalized to Predicted Body Weight on Outcomes in Pediatric ARDS. CHEST Critical Care. 3(3):100162, 2025.
- 令和6年度厚生労働科学研究費補助金(移植医療基盤整備研究事業)「臓器提供に係る医療者教育に資する研究」法的脳死判定マニュアル改訂班 黒田泰弘, 河北賢哉, 渥美生弘, 中村健太郎, 杉江英理子, 成宮博理, 青木一憲, 朝見正宏, 横堀將司, 名取良弘, 佐々木真理, 伊藤浩, 園生雅弘, 吉村元, 森松博史, 大藤純, 鉄原健一, 有賀徹. 法的脳死判定マニュアル2024. 日集中医誌 2025;32:S1.
- 林谷俊和, 青木一憲, 原田晋二, 加藤愛美, 川本昌平, 宮下徳久, 黒澤寛史. 遠心型血漿分離法による血漿交換療法中にクエン酸蓄積による重篤なイオン化カルシウム濃度低下と心機能低下を呈した川崎病の男児. 日本急性血液浄化学会雑誌 2025;16(1):47-51.
- 日本集中治療医学会小児集中治療部設置指針改訂タスクフォース 黒澤寛史, 竹内宗之, 平井克樹, 池山貴也, 辻尾有利子, 三瓶智美, 八反丸善裕, 植田育也, 松本正太朗, 浅賀健彦, 板垣大雅, 岡田広, 賀来典之, 志馬伸朗. 小児集中治療部設置のための指針　2025年改訂版. 日集中医誌 2025;32:R45.

病理診断科

- 吉田牧子, 川畑順子, 中川悠衣, 中川悦美, 横井暁子, 畠山理, 二野菜々子, 斎藤敦郎, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 野村耕治, 赤坂好宣. 両眼性網膜芽腫が両側卵巣に転移した1例. 日本小児血液・がん学会雑誌. 62:119, 2025.
- 大谷宗理, 吉田牧子, 兵頭さやか, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 村上紫津, 畠山理, 木原智子, 春名晶子, 杉田良文, 田原潤子, 乗本周平, 赤坂好宣, 出水祐介, 副島俊典, 山本鉄郎. 腟腫瘍の1例. 大阪母子医療センター雑誌. 40:89-90, 2025.
- 吉田牧子, 川畑順子, 中川悠衣, 中川悦美, 乗本周平, 田原潤子, 赤坂好宣, 杉田良文. 精巣多嚢胞性病変cystic dysplasia of the rete testisの1例. 大阪母子医療センター雑誌. 40:95-96, 2025.

看護部

- 中谷扶美.【こどもまんなか小児看護技術のコミュニケーションの実際】旅立ちが近い幼児後期のこどもとのコミュニケーション. 小児看護. 48(4):489－492, 2025
- 鎌田直子. 超低出生体重児のストーマ周辺の管理とケア. 小児外科. 57巻:24－30, 2025

放射線部

- Maeda T, Hara M, Yamasaki H, Nakahara M, Tanabe Y. Optimizing radiation dose and image quality in neonatal mobile radiography. Radiation Protection Dosimetry. 201: 821–820, 2025

リハビリテーション部

- 河村勇祐：Skeletal Muscle Oxygen Dynamics during Rehabilitation of Children with Congenital Heart Disease: A Comparative Study of Two Cases., physical therapy research, 150–155, 2025

3）学会発表

総合診療科

- 小児の診断エラー. 鉄原健一. 第38回日本小児救急医学会学術集会・第32回小児集中治療ワークショップ. 2025年7月.
- 急性期の小児外来診療における診断エラーの全国調査. 鉄原健一. 第34日本外来小児科学会年次集会. 2025年8月.
- 小児救急の診断エラー. 鉄原健一. 第53回日本救急医学会学術集会. 2025年10月.
- 薬剤誘発性リンパ球刺激試験とパッチテストによりセフォタキシムが原因薬剤と同定された薬剤過敏症症候群の一例. 桝田千晶, 南川将吾, 長谷川智大, 岡崎沙也香, 浜田佳奈, 水田麻雄, 中岸保夫. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025年4月.
- 腹部CTによる膵萎縮像が診断につながった嚢胞性線維症の8歳女児例. 小田原洋一, 水田麻雄, 乗本周平, 長谷川智大, 桝田千晶, 石田悠介, 南川将吾, 森貞直哉, 中岸保夫. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025年4月.
- 抗菌薬選択に難渋したペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）髄膜炎の一例. 元植彩乃, 桝田千晶, 酒井善紀, 岡崎沙也香, 冨岡和美,南川将吾, 水田麻雄, 中岸保夫, 笠井正志. 第294回日本小児科学会兵庫県地方会, 2025年2月.
- ブルセラ症における免疫学的な解析と伝染性単核球症との類似性. 徳田真歩, 水田麻雄, 桝田千晶, 冨岡和美, 佐伯玲, 酒井善紀, 岡崎沙也香, 南川将吾, 笠井正志, 中岸保夫. 第38回近畿小児科学会, 2025年3月.

救急科

- 合同開催記念企画1 小児急性期医療のこれからの担い手をどう育てるか　小児専門病院ER型救急外来における教育体制の現状と課題. 松井鋭. 第38回日本小児救急医学会学術集会　虎ノ門ヒルズフォーラム. 2025年7月
- 小児心停止症例への遺伝学的診断（Genetic autopsy）を含めた原因究明システムの現状と課題. 松井鋭, 黒澤寛史, 花房宏昭, 谷口真紀, 森貞直哉, 笠井正志, 豊嶋大作, 西山敦史, 青木智彩子, 田中亮二郎, 野津寛大, 飯島一誠. 第38回日本小児救急医学会学術集会　虎ノ門ヒルズフォーラム. 2025年7月
- 浴槽で溺水後に心停止で搬送され死亡後の遺伝子解析でTNNT2関連心筋症が判明した12歳男児例. 松井鋭, 黒澤寛史, 花房宏昭, 豊嶋大作, 野津寛大. 第17回日本蘇生科学シンポジウム. 2025年7月
- 小児の急性腹症. 竹井寛和, 林卓郎, 松井鋭, 谷澤直子, 大西理史, 村田慧, 吉井拓眞, 田中亮二郎. 日本超音波医学会第98回学術集会. 2025年6月
- 極論で語る小児の泌尿器救急. 竹井寛和. 第38回日本小児救急医学会学術集会・第32回小児集中治療ワークショップ. 2025年7月
- 小児POCUSの進化と真価. 竹井寛和. 第17回日本ポイントオブケア超音波学会学術集会. 2025年7月
- One Probe, Infinite Possibilities 竹井寛和. 第53回日本救急医学会学術集会. 2025年10月

代謝内分泌科

- 分野別シンポジウム4成長ホルモン治療の現状と未来　小児における長時間作用型成長ホルモン治療　尾﨑佳代　第128回日本小児科学会学術集会　2025年4月18日～20日
- 教育講演1小児の発育評価と内分泌疾患の早期発見：乳児健診から学校健診まで　尾﨑佳代　第 36 回日本

小児科医会総会フォーラム in KOBE　2025年6月14日～15日

- drop outした成長ホルモン分泌不全性低身長児の成人成長ホルモン分泌不全リスクの有無 －45年間の後方視的検討－　柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 尾﨑佳代　第98回日本内分泌学会学術総会　2025/6/5－7
- Systemic primary carnitine deficiency presenting with substantia nigra and basal ganglia injury Tomoki Saito, Yu Nishibayashi, Sayaka Moriwaki,Aya, Nishikiori, Mai Kashisaka, Kiiko Iketani, Kayo Ozaki 第15回国際先天代謝異常学会 2025/9/2-6
- ランチョンセミナー　成長ホルモン治療における毎日製剤と長時間作用型製剤の比較と今後の展望　尾﨑佳代　第58回日本小児内分泌学会学術集会（2025/10/29-11/1）
- シンポジウム2病診連携　こども病院の内分泌科医の立場からみた病診連携　尾﨑佳代　第58回日本小児内分泌学会学術集会(2025/10/29-11/1)
- バセドウ病と1型糖尿病の経過中にTINU症候群を合併した1例　西林優[1)]、錦織朱[1)]、森脇彩賀[1)]、柏坂舞[1)]、西藤知城[1)]、池谷紀衣子[1)]、貝藤裕史[2)]、尾崎佳代[1)]　第58回日本小児内分泌学会学術集会(2025/10/29-11/1)
- ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を契機にFrasier症候群と診断し予防的性腺摘出術を行った3歳例　森脇彩賀、錦織朱、西林優、柏坂舞、西藤知城、池谷紀衣子、山村智彦、尾﨑佳代　第58回日本小児内分泌学会　202510/30-11/1
- 新生児マススクリーニングTSH陽性の先天性甲状腺機能低下症未治療児の長期知的発達転帰　池谷紀衣子[1]、樋口アカリ[2]、西林優[1]、錦織朱[1]、森脇彩賀[1]、柏坂舞[1]、西藤知城[1]、尾崎佳代[1]　第58回日本小児内分泌学会　202510/30-11/1
- 妊娠後burosumab中止し歩行困難を呈したX連鎖低リン血症性くる病　柏坂舞、錦織朱、西林優、森脇彩賀、西藤知城、池谷紀衣子、尾﨑佳代　第35回臨床内分泌代謝UPDATE 2025/11/7-8
- 頻回多量のレボチロキシン投与を要した先天性ネフローゼ症候群　西藤知城、森脇彩賀、西林優、錦織朱、柏坂舞、池谷紀衣子、貝藤裕史、尾﨑佳代　第35回臨床内分泌代謝UPDATE 2025/11/7-8
- 小児内分泌疾患における学童期・思春期のプレコンセプションケア　尾﨑佳代、錦織朱、西林優、森脇彩賀、柏坂舞、西藤知城、池谷紀衣子、泊菊子　第35回臨床内分泌代謝UPDATE 2025/11/7-8
- 新生児マススクリーニングTSH陽性の先天性甲状腺機能低下症未治療児の長期知的発達転帰　池谷紀衣子、尾崎佳代　第68回日本甲状腺学会　2025/11/27-29
- A Case of Mucopolysaccharidosis Type Ⅳ A Diagnosed by Genetic Analysis and Treated with Elosulfase alfa at 19 Months Kiiko Iketani , Aya Nishikiori , Yu Nishibayashi , Ayaka Moriwaki , Mai Kashisaka , Tomoki Saito Kandai Nodu, Naoya Morisada , Kayo Ozaki 第70回日本人類遺伝学会　2025/12/18-20

リウマチ科

- 全身型若年性特発性関節炎の免疫学的な病態と臨床的な特徴. 水田麻雄. 第8回日本免疫不全・自己炎症学会共催シンポジウム, 2025年2月
- 全身型若年性特発性関節炎におけるマクロファージ活性化症候群の改善を示す臨床所見.　西村謙一, 水田麻雄, 中岸保夫, 服部成良, 大原亜沙実, 林祐子, 伊良部仁,清水正樹.　　日本リウマチ学会総会・学術集会, 2025年4月
- スチル病患者さんの明るい未来につながる航路-“sJIAのこれまで”から-. 水田麻雄. 第34回日本小児リウマチ学会総会・学術集会 スポンサードシンポジウム, 2025年10月
- カナキヌマブ投与中の全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群における臨床的な特徴. 水田麻雄, 西村謙一, 服部成良, 大原亜沙実, 林祐子, 伊良部仁, 合田由香利, 清水真帆, 川邊慎司, 赤

峰敬治, 江波戸孝輔, 金子詩子, 杉田侑子, 橋本邦生, 伊藤尚弘, 安岡竜平, 脇口宏之, 安村純子, 山﨑雄一, 中岸保夫, 梅林宏明, 岡本奈美, 岩田直美, 八角高裕, 清水正樹. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2025年10月

- 新生児ループスに合併したマクロファージ活性化症候群症例の免疫学的解析. 桝田千晶, 水田麻雄, 畠野真帆, 清水正樹, 中岸保夫. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2025年10月
- 本邦の小児期発症全身性エリテマトーデスにおけるEULAR/ACR-2019分類基準の検討-PRICUREを用いた解析-. 大原亜沙美, 伊良部仁, 中村陽, 林祐子, 楢崎秀彦, 中岸保夫, 福原大介, 石田宏之, 後藤美和, 橋本邦生, 安岡竜平, 野澤智, 梅林宏明, 宮前多佳子, 山崎雄一, 岩田直美, 森雅亮, 清水正樹. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2025年10月
- 全身性エリテマトーデスに合併したマクロファージ活性化症候群の病態多様性：サイトカイン解析に基づく病型分類と治療方針への示唆. 金子修也, 畠野真帆, 真保麻実, 細矢匠, 渡邉雅慧, 鈴木翔太郎, 水田麻雄, 保田晋助, 清水正樹. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2025年10月
- 日本人スチル病(sJIA及びAOSD)患者に対するアナキンラの有効性及び安全性：第3相試験(Sobi. ANAKIN-303)中間解析結果. 森雅亮, 浅野智之, 三枝淳, 桐野洋平, 宮前多佳子, 大西秀典, 清水正樹, 中岸保夫, 下島恭弘, 高橋裕樹, 神谷晴美, Silvia Mappa. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2025年10月
- 全身性エリテマトーデス関連マクロファージ活性化症候群に対する血清IFN α /CXCL9値の診断的有用性. 金子修也, 畠野真帆, 真保麻実, 細矢匠, 渡邉雅慧, 鈴木翔太郎, 水田麻雄, 保田晋助, 清水正樹. 日本臨床免疫学会総会, 2025年10月
- 血清サイトカインプロファイル解析からみたウイルス感染症関連サイトカインストーム症候群の原因ウイルスによる病態の多様性と臨床応用. 金子修也, 畠野真帆, 水田麻雄, 赤峰敬治, 石川智朗, 高木正稔,清水正樹.日本小児感染症学会総会・学術集会, 2025年11月
- Clinical and laboratory features of macrophage activation syndrome associated with systemic juvenile idiopathic arthritis receiving tocilizumab and canakinumab. Mao Mizuta, Kenichi Nishimura, Seira Hattori, Asami Ohara, Yuko Hayashi, Hitoshi Irabu, Yukari Aida, Maho Shimizu, Shinji Kawabe, Keiji Akamine, Takasuke Ebato, Yuko Sugita, Kunio Hashimoto, Naohiro Itoh, Ryuhei Yasuoka, Hiroyuki Wakiguchi, Junko Yasumura, Yuichi Yamasaki, Yasuo Nakagishi, Hiroaki Umebayashi, Utako Kaneko, Nami Okamoto, Naomi Iwata, Takahiro Yasumi, Masaki Shimizu. 32nd European Pediatric Rheumatology Congress (PReS) in Helsinki, 2025. Sep.
- Clinical and laboratory indicators for improvement and tapering of treatment in macrophage activation syndrome associated with systemic juvenile idiopathic arthritis: a multicenter retrospective observational study. Kenichi Nishimura, Mao Mizuta, Seira Hattori, Asami Ohara, Yuko Hayashi, Hitoshi Irabu, Yukari Aida, Maho Shimizu, Shinji Kawabe, Keiji Akamine, Takasuke Ebato, Yuko Sugita, Kunio Hashimoto, Naohiro Itoh, Ryuhei Yasuoka, Hiroyuki Wakiguchi, Junko Yasumura, Yuichi Yamasaki, Yasuo Nakagishi, Hiroaki Umebayashi, Utako Kaneko, Nami Okamoto, Naomi Iwata, Takahiro Yasumi, Masaki Shimizu. 32nd European Pediatric Rheumatology Congress (PReS) in Helsinki, 2025. Sep.
- 2024－25 Japan college of rheumatology guideline for the treatment of juvenile idiopathic arthritis: therapeutic approaches for systemic juvenile idiopathic arthritis without/with macrophage activation syndrome, oligoarthritis, polyarthritis, and uveitis. Nami Okamoto, Hiroaki Umebayashi, Masaaki Shimizu, Hiroshi Takase, Hiroshi Keino, Mao Mizuta, Yuko Sugita, Kazuichi Maruyama, Takahiro Yasumi, Masaaki Mori. 32nd European Pediatric Rheumatology Congress (PReS) in Helsinki, 2025. Sep.

- The educational role of the team of middle-standing pediatric rheumatologists alliance（TEMPRA）for the continuous professional development of pediatric rheumatologists in Japan. Hiroyuki Wakiguchi, Kunio Hashimoto, Masato Yashiro, Kenichi Nishimura, Takasuke Ebato, Keiji Akamine, Yoji Uejima, Tomomi Sato, Kazutaka Ouchi, Mao Mizuta, Yuko Sugita, Natsumi Inoue, Yoshiro Kitagawa, Nami Okamoto, Yasuo Nakagishi, Masaki Shimizu. 32nd European Pediatric Rheumatology Congress（PReS）in Helsinki, 2025. Sep.
- Factors driving therapeutic decision-making in still's disease: when to start and when to stop? Data from the METAPHOR project worldwide survey. Francesco Baldo, Greta Rogani, Claudia Bracaglia, Dirk Foell, Marco Gattorno, Marija Jelusic, Jordi Anton, Paul Brogan, Scott Canna, Randy Cron, Fabrizio De Benedetti, Alexei Grom, Merav Heshin Bekenstein, AnnaCarin Horne, Raju Khubchandani, Mao Mizuta, Seza Ozen, Pierre Quartier, Angelo Ravelli, Masaki Shimizu, Grant Schulert, Rasmhi Sinha, Christiaan Scott, Nicolino Ruperto, Joost Swart, Bruno Fautrel, Sebastiaan Vastert,Francesca Minoia and PReS MAS/sJIA Working Party. 32nd European Pediatric Rheumatology Congress（PReS）in Helsinki, 2025. Sep. American college of rheumatology（ACR）convergence in Chicago, 2025. Oct.
- Real-life treatment strategies for refractory still's disease: results from a worldwide survey, the METAPHOR project. Greta Rogani, Francesco Baldo, Claudia Bracaglia, Dirk Foell, Marco Gattorno, Marija Jelusic, Jordi Anton, Paul Brogan, Scott W. Canna, Randy Q. Cron, Fabrizio De Benedetti, Alexei Grom, Merav Heshin Bekenstein,AnnaCarin Horne, Raju Khubchandani, Mao Mizuta, Seza Ozen, Pierre Quartier Dit Maire, Angelo Ravelli,Masaki Shimizu, Grant Schulert, Christiaan Scott, Rashmi Sihna, Nicolino Ruperto, Joost Swart, Bruno Fautrel,Sebastiaan Vastert, Francesca Minoia and PReS MAS/sJIA Working Party. 32nd European Pediatric Rheumatology Congress（PReS）in Helsinki, 2025. Sep. American college of rheumatology（ACR）convergence in Chicago, 2025. Oct.
- Therapeutic strategies in newly diagnosed still's disease: real-life clinician's choices from the METAPHOR project worldwide survey. Francesco Baldo, Greta Rogani, Claudia Bracaglia, Dirk Foell, Marco Gattorno, Marija Jelusic, Jordi Anton, Paul, Brogan, Scott Canna, Randy Cron, Fabrizio De Benedetti, Alexei Grom, Merav Heshin Bekenstein, AnnaCarin Horne, Raju Khubchandani, Mao Mizuta, Seza Ozen, Pierre Quartier, Angelo Ravelli, Masaki Shimizu 1, Grant Schulert, Rasmhi Sinha, Christiaan Scott, Nicolino Ruperto, Joost Swart, Bruno Fautrel, Sebastiaan Vastert,Francesca Minoia. 32nd European Pediatric Rheumatology Congress（PReS）in Helsinki, 2025. Sep. American college of rheumatology（ACR）convergence in Chicago, 2025. Oct.
- Real-life treatment strategies for refractory still disease: results from a worldwide survey, the METAPHOR project. Greta Rogani, Francesco Baldo, Claudia Bracaglia, Dirk Foell, Marco Gattorno, Marija Jelusic, Jordi Anton, Paul Brogan, Scott Canna, Randy Q. Cron, Fabrizio De Benedetti, Alexei Grom, Merav Heshin Bekenstein, AnnaCarin Horne, Raju Khubchandani, Mao Mizuta, Seza Ozen, Pierre Quartier, Angelo Ravelli, Masaki Shimizu, Grant Schulert, Christiaan Scott, Rashmi Sinha, Nicolino Ruperto, Joost Swart, Bruno Fautrel, Sebastiaan Vastert 1 and Francesca Minoia in collaboration with the PReS MAS/sJIA Working Party. 32nd European Pediatric Rheumatology Congress（PReS）in Helsinki, 2025. Sep. American college of rheumatology（ACR）convergence in Chicago, 2025. Oct.

アレルギー科

- 卵黄FPIES患者での最終症状から初回OFC実施までの期間に関する検討. 長谷川智大, 岡崎沙也香, 仲嶋健吾, 田中裕也, 浜田佳奈. 第62回日本小児アレルギー学会学術集会, 2025年10月
- 医療的ケア児の食物負荷試験について. 岡崎沙也香, 長谷川智大, 仲嶋健吾, 田中裕也, 浜田佳奈. 第62回日本小児アレルギー学会学術集会, 2025年10月
- 当院小児アレルギー患者における移行準備への意識調査移行準備評価アンケートTRAQ(Transition Readiness Assessment Questionnaire)を用いた検討. 浜田佳奈, 長谷川智大, 岡崎沙也香, 仲嶋健吾, 田中裕也. 第62回日本小児アレルギー学会学術集会, 2025年10月

神経内科

- 小児てんかんにおけるペランパネル開始後3ヶ月時点での有効性と有害事象. 相馬健人,西山将広,伊藤立人,石田悠介,丸山あずさ. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 小児てんかんに対するラコサミド単剤療法における血中濃度と有効性の関係. 伊藤立人,西山将広,相馬健人,石田悠介,丸山あずさ. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 18トリソミー症候群における年齢別てんかん有病率の検討. 石田悠介,西山将広,伊藤立人,相馬健人,鮫島智大,岩谷壮太,芳本誠司,丸山あずさ. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 熱性けいれん重積状態に続発する意識障害遷延の臨床像. 鮫島智大,西山将広,徳元翔一,山口宏,高梨潤一,本林光雄,柏木充,服部有香,丸山あずさ,豊嶋大作,中川卓,河野剛,永瀬裕朗. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 二相性臨床経過と遅発性拡散能低下を呈する乳児頭部外傷(TBIRD)における二相性発作の発症時期の検討. 川村葵,西山将広,伊藤立人,相馬健人,石田悠介,丸山あずさ,青木一憲,椎間優子,黒澤寛史,阿久津宣行,小山淳二,永瀬裕朗. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 当院での抗MOG抗体関連疾患19例の後方視検討. 上田拓耶,西山将広,相馬健人,石田悠介,徳元翔一,山口宏,野津寛大,丸山あずさ,永瀬裕朗. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 発熱を伴う30分以上のけいれん性てんかん重積状態における転帰不良関連因子:連続症例多施設コホートでの検証. 老川静香,西山将広,徳元翔一,山口宏,高梨潤一,本林光雄,柏木充,服部有香,丸山あずさ,豊嶋大作,中川卓,河野剛,永瀬裕朗. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- シンポジム8-3:小児急性脳症の到達点と将来展望　急性脳症の最適化を目指して:FACEレジストリからわかること. 西山将広,永瀬裕朗. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 委員会主催セミナー6-1:小児てんかん重積状態・けいれん重積状態治療ガイドライン改訂WG主催セミナー:小児てんかん重積状態治療ガイドライン2023発刊後の現状と課題　てんかん重積状態治療の最前線. 西山将広. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 委員会主催セミナー6-4:小児てんかん重積状態・けいれん重積状態治療ガイドライン改訂WG主催セミナー:小児てんかん重積状態治療ガイドライン2023発刊後の現状と課題　原因による治療戦略:熱性と無熱性、基礎疾患への配慮. 老川静香,西山将広. 第67回日本小児神経学会学術集会,2025年6月.
- 小児摂食障害患者の後頭部優位律動の周波数と関連する因子の検討. 上田 拓耶,冨岡 和美,永瀬 裕朗.　第43回日本小児心身医学会学術集,2025年9月.
- 当院PICUにおける持続脳波モニタリングの実施状況と臨床的意義に関する検討. 末宗和樹,西山将広,國澤久路,伊藤立人,石田悠介,青木一憲,椎間優子,黒澤寛史,丸山あずさ.第58回日本てんかん学会学術集会,2025年10月.

- 小児てんかん重積状態・けいれん重積状態の治療法に関するアンケート調査：病院到着後の治療実態. 西山将広,植田佑樹,塩濱直,松浦隆樹,本林光雄,福岡正隆,老川静香,金井創太郎,鳥尾倫子,菊池健二郎,九鬼一郎,永瀬裕朗,秋山倫之,前垣義弘. 第58回日本てんかん学会学術集会,2025年10月.
- 1年以上生存した18トリソミー児に合併したてんかんの臨床的特徴. 石田悠介,西山将広,國澤久路,末宗和樹,伊藤立人,岩谷壮太,芳本誠司,丸山あずさ. 第58回日本てんかん学会学術集会,2025年10月.

血液・腫瘍内科

- 同種造血幹細胞移植後にウイルス再活性化との鑑別を要したCIHHV-6の男性例　吉川なつこ、植村優、西村光広、森康子、二野菜々子、兵頭さやか、齋藤敦郎、神前愛子、岸本　健治、石田敏章、森健、長谷川大一郎、小阪嘉之　同種造血幹細胞移植後にウイルス再活性化との鑑別を要したCIHHV-6の男性例　第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会　2025年2月27日～3月1日
- 芽球増加を伴う小児骨髄異形成症候群に対し造血細胞移植が奏効し良好な経過をたどった症例　田中裕介、齋藤敦郎、吉川なつこ、松尾進、川場大輔、二野菜々子、植村優、兵頭さやか、神前愛子、岸本健治、石田敏章、森健、長谷川大一郎、小阪嘉之　第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会　2025年2月27日～3月1日
- An infant with hyper IgE syndrome mimicking leukemia Natsuko Yoshikawa, Suguru Uemura, Yuichiro Matsui, Kana Hamada, Naoya Morisada, Nanako Nino, Sayaka Hyodo, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, and Yoshiyuki Kosaka　第128回日本小児科学会学術集会　2025年4月18日～20日
- 小児専門医療機関における院内発生アナフィラキシーの臨床像　中野知貴, 岸本健治, 松尾進, 長谷川智大 , 浜田佳奈, 長谷川大一郎, 小阪嘉之　第128回日本小児科学会学術集会　2025年4月18日～20日
- Prognostic impact of L-asparaginase discontinuation in the JPLSG/JALSG ALL-T 11 Study Hisashi Ishida, Yasuhiro Okamoto, Atsushi Sato, Yoshihiro Hatta, Chihaya Imai, Koichi Oshima, Takao Deguchi, Yoshiko Hashii, Takashi Fukushima, Toshinori Hori, Nobutaka Kiyokawa, Motohiro Kato, Shoji Saito, Kenichi Anami, Tatsuhiro Sakamoto, Yoshiyuki Kosaka, Souichi Suenobu, Toshihiko Imamura, Akiko Kada, Akiko Saito, Atsushi Manabe, Hitoshi Kiyoi, Itaru Matsumura, Katsuyoshi Koh, Yasushi Miyazaki, Keizo Horibe　第87回日本血液学会学術集会　2025年10月10日～12日
- Significance of glutathione S-transferase P 1, M 1, T 1 variants in busufan pharmacokinetics Kenji Kishimoto, Sayaka Hyodo, Keizo Fukushima, Suguru Uemura, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Shoji Fukushima, Yoshiyuki Kosaka　第87回日本血液学会学術集会　2025年10月10日～12日
- Pediatric high-grade B-cell lymphoma in Japan: A retrospective cohort study Daiki Hori, Ryoji Kobayashi, Atsuko Nakazawa, Hideto Iwafuchi, Naoto Fujita, Tetsuo Mitsui, Yuhki Koga, Takeshi Mori, Reiji Fukano, Kentaro Ohki, Michi Kamei, Tetsuya Mori, Makito Tanaka, Kunihiko Moriya, Kayoko Tao, Akiko Kada, Masahiro Sekimizu　第87回日本血液学会学術集会　2025年10月10日～12日
- Clinical characteristics of pediatric acute lymphoblastic leukemia with hyperleukocytosis Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Natsuko Yoshikawa, Nanako Nino, Sayaka Hyodo, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Yoshiyuki Kosaka　第87回日本血液学会学術集会　2025年10月10日～12日
- Pediatric essential thrombocythemia with a novel CALR mutation Natsuko Yoshikawa, Suguru Uemura, Tomoko Fujikawa, Nobuyuki Yamamoto, Natsumi Kikuchi, Nanako Nino, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, -

Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Takahiro Okutani, Daiichiro Hasegawa　第87回日本血液学会学術集会　2025年10月10日～12日

- 非血縁臍帯血移植後に抗GD-2療法を行った高リスク神経芽腫例　High-risk neuroblastoma patients who received anti-GD2 immunotherapy following unrelated cord blood transplantation Natsuko Yoshikawa, -Suguru Uemura, Kana Tsuji, Natsumi Kikuchi, Nanako Nino, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日-21日
- 陽子線照射を受けた小児髄芽腫患者における脳障害について Brain injury following proton beam therapy in pediatric medulloblastoma Suguru Uemura, Yusuke Demizu, Atsufumi Kawamura, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Ryosuke Bessho, Sungchul Park, Shazrinasulaiman Nor, Junji Koyama, Norimoto Shuhei, Yoshinobu Akasaka, Makiko Yoshida, Nobuyoshi Fukumitsu, Sunao Tokumaru, Daiichiro Hasegawa　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日-21日
- 臍帯血移植前のブリッジング治療としてblinatumomabを投与したKMT2A遺伝子再構成陽性乳児白血病 の2例　Blinatumomab as bridging therapy before cord blood transplantation in two infants with B cell acute lymphoblastic leukemia with KMT2A-rearrangement Kana Tsuji, Suguru Uemura, Natsuko Yoshikawa, Susumu Matsuo, Natsumi Kikuchi, Nanako Nino, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Junji Koyama, Atsufumi Kawamura, Daiichiro Hasegawa　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日-21日
- びまん性橋膠腫に対する過去10年間の経験と分子標的薬による治療に至った1例　Susumu Matsuo, Atsuro Saito, Daiki Torii, Natsumi Kikuchi, Suguru Uemura, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Nobuyuki Akutsu, Junji Koyama, Yusuke Demizu, Makiko Yoshida, Daiichiro Hasegawa, Yoshinobu Akasaka, Atsufumi Kawamura　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日-21日
- 当院における臨床試験非登録髄芽腫症例の臨床像　寺尾元,石田敏章,岸本健治,植村優,斎藤敦郎,森健,神前愛子,二野菜々子,阿久津宣行,小山淳二,吉田牧子,出水祐介, 赤坂好宣,河村淳史,副島俊典, 長谷川大一郎,小阪嘉之　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日-21日
- 少量の生検検体でがん遺伝子検査を実施できた難治性LCHの3例　Three cases of refractory Langerhans Cell Histiocytosis（LCH）successfully evaluated by oncogene testing using small biopsy samples Daiki Torii, Atsuro Saito, Natsuko Yoshikawa, Susumu Matsuo, Natsumi Kikuchi, Nanako Nino, Suguru Uemura, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Makiko Yoshida, Daiichiro Hasegawa　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日-21日
- EBMT基準とデフィブロチドが導入されて以降の小児類洞閉塞症候群の管理に関するリアルワールドエビデンスReal-world evidence for management of pediatric sinusoidal obstruction syndrome in the era with EBMT criteria and defibrotide Hirotoshi Sakaguchi, Yuki Arakawa, Nao Yoshida, Reo Tanoshima, Kimikazu Yakushijin, Hideki Nakasone, Hideki Sano, Masakatsu Yanagimachi, Yoshiyuki Takahashi, Junko Takita, Maho Sato, Daiichiro Hasegawa, Utako Oba, Hisashi Noma, Yoshiko Atsuta　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日-21日
- 集学的治療後のCNSを含む全身多発転移に対し、化学療法で第3寛解を得た難治性網膜芽細胞腫の1例　A case of refractory retinoblastoma with systemic and CNS metastases following multimodal therapy, achieving a third remission with chemotherapy Yurino Fukuda, Yusuke Imanaka, Yoko Mizoguchi, Hideki Sakiyama, Mari Tanaka, Maiko Shimomura, Atsuro Saito, Shuhei Karakawa, Yusuke Demizu, Shigenobu Suzuki, Satoshi Okada　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日-21日

- Oncologic emergency を来した小児胸部腫瘤に対する治療戦略：急性期の呼吸管理と外科介入について Treatment Strategies for Pediatric Thoracic Tumors Presenting with Oncologic Emergency: Acute Respiratory Management and Surgical Intervention Ayano Uematsu, Chieko Hisamatsu, Wataru Sasaki, Shohei Yoshimura, Keisuke Fukui, Taichi Nakatani, Yuichiro Tomioka, Shizu Murakami, Akiko Yokoi, Atsuro Saitoh, Kazunori Aoki, Hiroshi Kurosawa, Daiichiro Hasegawa, Tetsuro Kagawa, Tadashi Hatakeyama　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日－21日
- CAR-T 療法後にHLA半合致移植を施行したKMT２A遺伝子再構成陽性先天性急性リンパ性白血病の再発例A relapsed case of KMT２A-rearranged congenital acute lymphoblastic leukemia treated with haploidentical hematopoietic stem cell transplantation following CAR-T cell therapy Takayuki Yokota, Noriko Fuke, Takashi Iwase, Hitoshi Okada, Shuro Nishio, Toshiaki Ishida, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Takashi Kusaka　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日－21日
- 同種移植後の肝限局性結節性過形成の長期経過 日本小児白血病研究グループ（JACLS）での検討　Long-term outcomes for focal nodular hyperplasia of the liver after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: Insights from JACLS-affiliated institutions Kozo Nagai, Keita Igarashi, Nao Yoshida, Saori Katayama, Suguru Uemura, Kana Washio, Yoshiyuki Takahashi, Masaki Yamamoto, Maho Sato, Takako Miyamura, Daiichirou Hasegawa, Astushi Sato　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日－21日
- 小児横紋筋肉腫に対する陽子線治療の治療成績　Treatment Outcomes of Proton Beam Therapy in Pediatric Rhabdomyosarcoma Ryosuke Bessho, Yusuke Demizu, Bintisulaiman Norshazrina, Sungchul Park, Nobuyoshi Fukumitsu, Takashi Suzuki, Daiichiro Hasegawa, Toshinori Soejima, Sunao Tokumaru　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日－21日
- 小児上衣腫陽子線治療後の放射線性脳障害のリスク因子の検討と照射線量に基づく予後予測モデル　Risk of Radiation-Induced Brain Injury After Proton Beam Therapy for Pediatric Ependymoma: Prognostic Modeling Based on DVH Parameters Sungchul Park, Yusuke Demizu, Ryosuke Bessho, Shazurina Nor, Nobuyoshi Fukumitsu, Takeshi Suzuki, Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Junji Koyama, Atsufumi Kawamura, Toshinori Soejima, Sunao Tokumaru　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日－21日
- 陽子線全脳全脊髄照射3年後の椎体成長と姿勢変化　Vertebral growth and postural changes 3 years after proton whole craniospinal irradiation Nobuyoshi Fukumitsu, Ryosuke Bessho, Sungchul Park, Norshazrina Sulaiman, Yusuke Demizu, Takeshi Suzuki, Daiichiro Hasegawa, Atsufumi Kawamura, Sunao Tokumaru　第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日－21日
- IGH::CEBPE を有するダウン症候群関連急性リンパ性白血病例　Down syndrome-associated acute lymphoblastic leukemia harboring IGH::CEBPE Tomoko Fujikawa, Akihiro Tamura, Shotaro Inoue, Akihiro Nishimura, Naoko Nakatani, Nobuyuki Yamamoto, Kana Tsuji, Natsuko Yoshikawa, Suguru Uemura, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Kandai Nozu 第67回日本小児血液・がん学会学術集会　2025年11月19日－21日
- Impact of conditioning intensity on outcomes in pediatric de novo advanced myelodysplastic syndrome who received allogeneic hematopoietic stem cell transplantation Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Nao Yoshida, Dai Keino, Daisuke Hasegawa, Tomko Yokosuka, Asahito Hama, Maho Sato, Keisuke Okuno, Kentaro Nakashima, Yoji Sasahara, Shoji Saito, Yoshiyuki Takahashi, Yoshiko Hashii, Kimikazu

Matsumoto, Ken Tabuchi, and Shohei Yamamoto SIOP2025　October 20–23, 2025

- FFPE-TISSUE IN-DEPTH PROTEOMIC ANALYSIS OF CHILDHOOD NEUROBLASTOMA FOLLOWED BY CO-EXPRESSION PROTEIN NETWORK-BASED DISCOVERY BIOINFORMATICS TO IDENTIFY THERAPEUTIC MARKERS AND TARGETS Akihiro Nishimura, Akihiro Tamura, Tomoko Fujikawa, Shotaro Inoue, Naoko Nakatani, Nobuyuki Yamamoto, Suguru Uemura, Tetsuya Fukuda, -Makiko Yoshida, Daiichiro Hasegawa, Yasuhiko Bando, Toshihide Nishimura SIOP 2025　October 20–23, 2025
- 複数の抗てんかん薬内服中に全般的な凝固因子の産生低下を認めた一例　川場大輔、兵頭さやか、森健、長谷川大一郎、北村仁美、澤井康子、荻原建一、野上恵嗣、小阪嘉之　第38回近畿小児科学会　2025年3月16日
- 小児・思春期がん患者における緑色連鎖球菌菌血症の臨床的特徴　植村優、長谷川大一郎、吉川なつこ、田中沙紀、水野真介、岸本健治、石田敏章、森健、笠井正志、小阪嘉之　第38回近畿小児科学会　2025年3月16日
- 小児がん患者への検査・処置に伴う苦痛を取り除くために－小児専門施設での取り組み　植村優、長谷川大一郎、香川哲郎、小阪嘉之、飯島一誠　第295回日本小児科学会兵庫県地方会　2025年5月17日
- イプタコパン単剤にて治療可能となった小児再生不良性貧血－発作性夜間ヘモグロビン尿症（AA-PNH）齋藤敦郎、鳥井大輝、辻香菜、上島可奈子、高橋知滉、松尾進、吉川なつこ、菊池菜摘、二野菜々子、植村優、神前愛子、石田敏章、森健、長谷川大一郎　第123回 近畿血液学地方会　2025年11月8日

循環器内科

- フォンタン型手術後、その出産は本当に患者にとって良かったのか？. 城戸佐知子, 田中敏克, 三木康暢. 第26回日本成人先天性心疾患学会 総会・学術集会, 2025年1月
- 閉塞したBT shunt（BTS）に対するStent-in-Stentが有用であった、三尖弁閉鎖の成人症例. 田中敏克, 福田旭伸, 三木康暢, 城戸佐知子, 上村航也. 第26回日本成人先天性心疾患学会 総会・学術集会, 2025年1月
- ADO-Ⅱ,Piccoloを用いてPDA閉鎖術を施行した症例における、保持ディスク間距離の変化に関する検討. 渡邊望, 伊藤啓太, 稲瀬広樹, 中井亮佑, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 田中敏克, 城戸佐知子. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2025年1月
- 術後肺静脈狭窄に対するバルーン治療の合併症：肺静脈解離の1例. 三木康暢, 田中敏克, 渡邊望, 伊藤啓太, 稲瀬広樹, 中井亮佑, 久保慎吾, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2025年1月
- バルーン付きマイクロバルーンカテーテル（Attendant® SP）を併用することにより達成できたcentral shuntの血管形成術. 久保慎吾, 田中敏克, 中井亮佑, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会；2025年1月
- 純型肺動脈閉鎖に対する経皮的バルーン肺動脈弁形成術―肺動脈弁逆流の増悪因子の検討―. 伊藤啓太, 田中敏克, 渡邊望, 稲瀬広樹, 飯田智恵, 中井亮佑, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2025年1月
- Williams症候群に合併した多発性末梢性肺動脈狭窄に対するBAPの治療成績. 稲瀬広樹, 田中敏克, 渡邊望, 伊藤啓太, 飯田智恵, 中井亮佑, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2025年1月
- 10回以上の心臓カテーテル検査/治療を受けた先天性心疾患症例の特徴と予後. 広田幸穂, 田中敏克, 渡邊

望, 伊藤啓太, 稲瀬広樹, 飯田智恵, 中井亮佑, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2025年1月

- 当院におけるNykanen RF wireの使用実態と成績. 田中敏克, 伊藤啓太, 渡邊望, 稲瀬広樹, 飯田智恵, 中井亮佑, 三木康暢, 久保慎吾, 亀井直哉, 城戸佐知子. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2025年1月
- 起立性調節障害・起立不耐症の診療マニュアル. 小川禎治. 第367回東播小児臨床談話会, 2025年2月
- ショック状態を呈し入院した脚気心の1例. 渡邊望, 久保慎吾, 伊藤啓太, 稲瀬広樹, 中井亮佑, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 田中敏克, 城戸佐知子. 第38回近畿小児科学会, 2025年3月
- 特発性左心耳入口部狭窄の一例. 伊藤啓太, 田中敏克, 渡邊望, 稲瀬広樹, 飯田智恵, 中井亮佑, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第39回日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会, 2025年4月
- 10回以上の心臓カテーテル検査／治療を受けた先天性心疾患症例の特徴と予後. 広田幸穂, 田中敏克, 渡邊望, 伊藤啓太, 稲瀬広樹, 飯田智恵, 中井亮佑, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第39回日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会, 2025年4月
- 体位性頻脈症候群へのアメジニウムの適応とβ遮断薬の併用. 小川禎治, 田中敏克, 城戸佐知子. 第128回日本小児科学会学術集会, 2025年4月
- 乳児期早期にdying spellを呈した心房中隔欠損症の1例. 三木康暢. 第128回日本小児科学会学術集会, 2025年4月
- 偏食を原因とするビタミンB1(Vit.Bl)欠乏による高度の肺高血圧(PH)をきたした一例. 稲瀬広樹. 第128回日本小児科学会学術集会, 2025年4月
- Williams症候群に合併する多発性末梢性肺動脈狭窄に対するカテーテル治療を考える：侵襲的アプローチによるBAPを繰り返した症例を経験して. 稲瀬広樹. 第2回UEDICC, 2025年6月
- ASDに近接した右下PVへのステント留置に関する検討. 広田幸穂. 第2回UEDICC, 2025年6月
- ECMOの送血flowのためAPCAが認識できず、複数回の治療を要した小児の1例. 中井亮佑. 第2回UEDICC, 2025年6月
- 先天性心疾患児の心不全. 三木康暢. 全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部 医療相談会, 2025年7月.
- 純型肺動脈閉鎖に対する初回治療の比較：経皮的肺動脈弁形成術と外科的肺動脈弁切開術. 伊藤啓太. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月
- 単心室に対する房室弁置換術後の血栓弁. 三木康暢. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月
- 胎児腹水を契機に診断に至った家族性MYH7遺伝子変異を伴うdysplastic tricuspid valve,left ventricular non-compactionの1例. 稲瀬広樹. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月
- 18トリソミーに対する心臓外科手術成績：長期生存率と術後合併症の検討. 林谷俊和. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月
- 当院におけるがん治療後の心機能フォローアップについて. 久保慎吾. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月
- 体位性頻脈症候群の各サブタイプにおける迷走神経活性低下の状況. 小川禎治. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月
- 左鎖骨下動脈孤立症を合併した右心型単心室の一例. 中井亮佑. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月
- ASDカテーテル治療後に感染性心内膜炎を発症した小児の2例. 田中敏克. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月

- 先天性心疾患を合併した食道閉鎖症の循環管理と治療戦略. 三木康暢. 第61回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2025年7月
- 起立性調節障害(疑い)のこどもへの対応. 小川禎治. ゆたかな教育の創造をめざす丹波地区会議　第31回総会, 2025年7月
- 安全で質の高いカテーテル治療を行うために私が考えてきたこと. 田中敏克. 第14回中国四国JCIC研究会, 2025年9月
- フォンタン手術の胸骨閉鎖時に生じたと思われる肺静脈狭窄およびフェネストレーション閉塞：胸骨閉鎖時Sequential TEEの有用性. 伊藤啓太, 上原晴香, 渡邊望, 稲瀬広樹, 中井亮佑, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子, 田中敏克. 第10回日本小児循環器集中治療研究会学術集会, 2025年9月
- 喀血に対しECMO管理下で血管内塞栓を行った小児の1例. 中井亮佑, 渡邊望, 広田幸穂, 黒澤寛史, 田中敏克. 第10回日本小児循環器集中治療研究会学術集会, 2025年9月
- 思春期の体位性頻脈症候群症例における, ヘッドアップティルト検査時の副交感神経活性の評価. 小川禎治, 田中敏克, 城戸佐知子. 第29回小児心電学会学術集会, 2025年11月
- 体位性頻脈症候群のサブタイプ分類と副交感神経の活性との関係. 小川禎治. 第8回起立不耐症研究会, 2025年11月
- A 15-Year-Old Boy with Myotonic Dystrophy Diagnosed Following The Onset of Ventricular Fibrillation During Physical Education Class. Haruka Uehara, Yoshihiko Horimoto, Kazuhiro Suzuki. 9th World congress of pediatric cardiology and cardiac surgery, December 2025
- Investigation of Q wave in PDA Before and After Transcatheter Closure. Toshikatsu Tanaka, Ryousuke Nakai, Yasunobu Miki, Shingo Kubo, Naoya Kamei, Yoshiharu Ogawa, Sachiko Kido. 9th World congress of pediatric cardiology and cardiac surgery, December 2025

腎臓内科

- 凝固線溶系のコントロールに難渋した先天性ネフローゼ症候群の女児例　木村裕香、貝藤裕史、金奏希、稲熊洋祐、田中亮二郎、飯島一誠　第38回近畿小児科学会　2025年3月
- 急性腎障害を合併し、早期より荒廃した腎組織を呈したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の一例. 金奏希, 貝藤裕史, 木村裕香, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 吉川徳茂, 飯島一誠.　第61回近畿小児腎臓病研究会. 2025年3月.
- 心不全を契機に診断された溶連菌感染後急性糸球体腎炎の一例　池田茂生, 貝藤裕史, 金奏希, 小倉愛由, 田中悠, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第295回日本小児科学会兵庫県地方会　2025年5月
- 肉眼的血尿を伴う急性腎障害を呈したIgA腎症の臨床病理学的検討　金奏希, 貝藤裕史, 田中亮二郎, 吉川徳茂, 飯島一誠. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会　2025年5月
- ADPKD関連遺伝子バリアントを同定した小児例の表現型と遺伝学的特徴　田中悠, 森貞直哉, 木村裕香, 青山周平, 猪野木雄太, 榊原菜々, 長野智那, 堀之内智子, 山村智彦, 石森真吾, 貝藤裕史, 野津寛大　第68回日本腎臓学会学術集会　2025年6月
- ADPKD関連遺伝子バリアントを同定した小児例の表現型と遺伝学的特徴　田中悠, 森貞直哉, 木村裕香, 青山周平, 猪野木雄太, 榊原菜々, 長野智那, 堀之内 智子, 山村智彦, 石森真吾, 貝藤裕史, 野津寛大　第28回兵庫県腎疾患治療懇話会　2025年7月
- 後部尿道弁に伴う続発性偽性低アルドステロン症の一例　小田原洋一, 田中悠, 池田茂生, 金奏希, 小倉愛由, 大矢暁, 貝藤裕史, 田中亮二郎, 飯島一誠　第296回日本小児科学会兵庫県地方会　2025年9月

- 常染色体顕性尿細管間質性腎疾患（ADTKD）　田中悠　小児腎臓病セミナー2025 in 秋田（厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業）
- Genotype and Phenotype in children with ADPKD-Related Gene Variants Yu Tanaka, Naoya Morisada, Atsushi Kondo, Yuka Kimura, Shuhei Aoyama, Yuta Inoki, Nana Sakakibara, China Nagano, Tomoko Horinouchi, Tomohiko Yamamura, Shingo Ishimori, Hiroshi Kaito, Kandai Nozu Kidney Week 2025　November 5-9, 2025
- 腹膜透析、腎移植を経て維持血液透析を導入した重症心身障碍児の1例　池田茂生, 貝藤裕史, 金奏希, 小倉愛由, 田中悠, 田中亮二郎,高橋雄介,中倉兵庫,下門清志,飯島一誠　第38回日本小児PD・HD研究会　2025年11月
- Genotype and Phenotype in children with ADPKD-Related Gene Variants Yu Tanaka, Naoya Morisada, Atsushi Kondo, Yuka Kimura, Shuhei Aoyama, Yuta Inoki, Nana Sakakibara, China Nagano, Tomoko Horinouchi, Tomohiko Yamamura, Shingo Ishimori, Hiroshi Kaito, Kandai Nozu 日本人類遺伝学会第70回大会　2025年12月
- 肉眼的血尿を伴う急性腎障害を呈したIgA腎症の臨床病理学的検討　金奏希, 貝藤裕史, 池田茂生, 小倉愛由, 田中悠, 田中亮二郎, 吉川徳茂, 飯島一誠. 第55回日本腎臓学会西部学術集会　2025年10月
- 腹膜透析管理中に横隔膜交通症を発症し保存的治療を選択した2例の検討　金奏希, 貝藤裕史, 池田茂生, 小倉愛由, 田中悠, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第46回日本小児腎不全学会学術集会　2025年12月

感染症内科

- 兵庫県内3施設でのマイコプラズマ肺炎の小児患者の分析.　長沢晋也, 水野真介, 濱畑啓悟, 伊藤雄介, 笠井正志.　日本感染症学会, 2025年5月9日
- 小児におけるカンジダ血症の予後に影響する因子の検討. 長沢晋也, 佐伯玲, 田中沙紀, 坂本康大, 中田絢之, 水野真介, 山田健太, 笠井正志. 日本小児科学会兵庫県地方会, 2025年9月20日
- 小児におけるバンコマイシンTDMにおける2点採血の有用性の検討. 長沢晋也, 水野真介, 網代千慧, 田中智啓, 陣田剛志, 笠井正志. 日本小児感染症学会, 2025年11月9日
- 敗血症における抗微生物薬の使い方. 水野真介. 第38回日本小児救急医学会学術集会・第32回小児集中治療ワークショップ. 2025年7月4日
- Hoagland 徴候と伝染性単核球症様症状を呈したヒトヘルペスウイルス 6B 感染症の乳児例. 水野真介. 第57回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2025年11月8日
- 能登半島地震における広報委員会の対応と今後の課題. 山田健太.第128回日本小児科学会学術集会, 2025年4月18日
- 予防接種センターとしての相談事業を振り返る. 山田健太、中田絢之、坂本康大、長沢晋也,佐伯玲、田中沙紀、杉野充伸,水野真介、笠井正志. 第296回日本小児科学会兵庫県地方会. 2025年9月20日
- 小児専門病院の救急科医師への教育介入が血液培養結果に及ぼす影響の検討. 山田健太、錦織朱、田中沙紀、坂本康大、長沢晋也, 中田絢之、佐伯玲、杉野充伸,水野真介、笠井正志. 第57回日本小児感染症学会学術集会. 2025年11月8日
- 小児侵襲性GBS感染症由来株の全ゲノム解析から見えるGBS株のゲノム特性と患者間伝播・環境内循環（会議録）笠井正志、中野哲志、小出将太, 大竹正悟, 芝田明和, 菅井基行. 第57回日本小児感染症学会学術集会. 2025年11月8日
- 先行抗菌薬投与歴のある硬膜下膿瘍に対して多項目遺伝子検査が有用だった2例. 中田絢之、水野真介、坂本

康大、長沢晋也、佐伯玲、田中沙紀、山田健太、笠井正志. 第57回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2025年11月9日

- 2025年の当院における百日咳症例の検討、坂本康大、水野真介、長沢晋也、中田絢之、佐伯玲、田中沙紀、山田健太、笠井正志、中西典子、小松頌子、日本小児感染症学会、2025年11月8日
- 縦隔膿瘍を合併した小児Brucellosis の1例. 佐伯玲、田中沙紀、水野真介、杉野充伸、徳田真歩、桝田千晶、冨岡和美、水田麻雄、中岸保夫、笠井正志. 日本小児科学会. 2025年4月19日
- 2歳以上の基礎疾患を有する児におけるRSウイルス感染症の重症度に関する検討. 佐伯玲、田中沙紀、水野真介、杉野充伸、笠井正志. 日本小児科学会. 2025年4月19日
- 間質性肺炎にアスペルギルス肺膿瘍と脳膿瘍を合併した4歳男児例. 佐伯玲、水野真介、坂本康大、長沢晋也、田中沙紀、山田健太、阿久津宣行、福井慶介、黒澤寛史、笠井正志. 2025年11月9日
- PICUでの播種性帯状疱疹患者発生時の感染対策. 佐伯玲、田中沙紀、水野真介、杉野充伸、中島由佳、笠井正志. 近畿小児科学会. 2025年3月16日

臨床遺伝科

- Naoya Morisada, Yu Tanaka, Yoshitaka Asagai, Hiroaki Hanafusa, Nana Sakakibara, China Nagano, Tomoko Horinouchi, Kandai Nozu. Genotype and phenotype of nephronophthisis-related ciliopathies in the Japanese population. 第70回日本人類遺伝学会. 2025年12月
- 三澤佑太郎, 栗原重和, 関根章成, 大庭悠貴, 水野裕基, 山内真之, 長谷川詠子, 諏訪部達也, 和田健彦, 河野圭, 大橋健一, 森貞直哉, 野津寛大, 乳原善文, 澤直樹.　ALG5遺伝子変異が同定された緩徐進行性ADPKDの一例. 第55回日本腎臓学会東部学術大会. 2025年9月
- 山本俊至, 清水健司, 松本歩, 竹内千仙, 西恵理子, 森貞直哉, 石川亜貴, 村松友佳子, 吉田健司, 大場大樹, 北洋輔. マイクロアレイ染色体検査で明らかになる染色体微細構造異常症候群を示す小児から成人 のより良い診断・診療体制の構築. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025年6月
- 岸岡歩, 栗原重和, 河野圭, 森貞直哉, 野津寛大, 乳原善文, 澤直樹. HDR症候群に巣状糸球体硬化症Perihilar variantを合併した一例. 第55回日本腎臓学会東部学術大会. 2025年9月
- 平岡由衣, 仲川真由, 遠藤周, 遠山雄大, 菅沼広樹, 青藤潤, 田中悠, 森貞直哉, 野津寛大, 大友義之, 東海林宏道. 新生児期に発見され末期腎不全に至った WDR19 変異によるネフロン癆関連シリオパシーの 男児例. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会. 2025年5月
- 木下亮,　山田祐子, 藤森大輔, 坂口真弓, 河場康郎, 森貞直哉, 野津寛大, 難波範行. フルドロコルチゾンの導入後に腎機能障害進行が抑制されたADTKD REN の一例 第60回日本小児腎臓病学会学術集会. 2025年5月
- 榊原菜々, 青山周平, 木村裕香, 猪野木雄太, 田中悠, 北角英晶, 上田知佳, 長野智那, 堀之内智子, 山村智彦, 石森真吾, 森貞直哉, 野津寛大. 当科で診断されたDent disease-1の遺伝学的背景と臨床像. 第68回日本腎臓学会学術総会. 2025年6月
- 森貞直哉. 腎疾患の遺伝子診断最前線. 第68回日本腎臓学会学術総会. 2025年6月
- 榊原菜々, 青山周平, 木村裕香, 猪野木雄太, 田中悠, 北角英晶, 上田知佳, 長野智那, 堀之内智子, 山村智彦, 石森真吾,　森貞直哉, 野津寛大. Genetic Background and Clinical Features of Dent Disease-1 第60回日本小児腎臓病学会学術集会2025年5月
- 沢登恵美, 中澤瑞葉, 金井宏明, 小林杏奈, 後藤美和, 森貞直哉, 野津寛大. 両側多発腎嚢胞を呈したPAX2遺伝子異常症の女児例. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会. 2025年5月
- 渡邊美優, 熊谷直憲, 栗田祥太郎, 島田紘行, 榎本さやか, 牧祐輝, 加納孝真, 棚橋義浩, 河野好彦, 山本ひか

る, 田中悠, 森貞直哉, 野津寛大, 原紳也. 乳児期からの腹部膨満を契機に診断された常染色体潜性多発性嚢胞腎の女児例. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会. 2025年5月

- 田中悠, 森貞直哉, 岡田絵里, 木村裕香, 青山周平, 猪野木雄太, 上田知佳, 北角英晶, 榊原菜々, 長野智那, 堀之内智子, 山村智彦, 石森真吾, 貝藤裕史, 野津寛大. ADPKD関連遺伝子バリアントを同定した小児例の表現型と遺伝学的特徴. 第68回日本腎臓学会学術総会. 2025年6月
- 荒井貴子, 江本永真, 長澤友紀, 木原智子, 窪田誌乃, 松本培世, 平久進也, 森貞直哉, 船越徹. 当院で管理した胎児臍帯ヘルニアの遺伝的背景. 第61回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2025年7月
- 角田進, 大庭悠貴, 水野裕基, 関根章成, 山内真之, 諏訪部達也, 河野圭, 大橋健一, 森貞直哉, 野津寛大, 乳原善文, 和田健彦, 澤直樹. Serial kidney biopsyで腎障害の経過を追うことができたTownes-Brocks症候群の一例. 第55回日本腎臓学会東部学術大会. 2025年9月
- 長野智那, 森貞直哉, 青山周平, 木村裕香, 猪野木雄太, 田中悠, 上田知佳, 北角英晶, 榊原菜々, 堀之内智子, 山村智彦, 石森真吾, 野津寛大. ADTKD-MUC1におけるショートリードシークエンス解析データを用いた病的バリアント検出方法. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会2025年5月
- 青砥悠哉, 藤井秀毅, 丸山順裕, 長野智那, 兵頭俊紀, 森貞直哉, 原重雄, 野津寛大. ADTKD-MUC1診断における免疫蛍光染色の有用性. 第68回日本腎臓学会学術総会. 2025年6月
- 青砥悠哉, 長野智那, 藤井秀毅, 丸山順裕, 兵頭俊紀, 田中悠, 上田知佳, 北角英晶, 榊原菜々, 堀之内智子, 山村智彦, 石森真吾, 森貞直哉, 原重雄, 野津寛大. ADTKD-MUC1診断における免疫蛍光染色の有用性. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会2025年5月
- 飯島一誠, 森貞直哉, 谷口真紀, 貝藤裕史. 腎疾患患者に対するプレコンセプションケア～小児科医の立場から. 第70回日本透析医学会学術集会・総会 2025年6月
- 森貞直哉、田中悠、叶明娟、花房宏昭、榊原菜々、長野智那、堀之内智子、野津寛大. ネフロン癆関連シリオパチーの原因遺伝子と臨床像. 第47回日本小児遺伝学会. 2025年2月
- 朝貝芳貴、花房宏昭、洪本加奈、谷口真紀、野津寛大、森貞直哉. 兵庫県立こども病院で施行した全エクソン解析症例の検討. 第47回日本小児遺伝学会. 2025年2月
- 朝貝芳貴、花房宏昭、洪本加奈、谷口真紀、野津寛大、森貞直哉. 兵庫県立こども病院で施行した全エクソン解析症例の検討. 第128回日本小児科学会. 2025年4月

小児外科

- 再手術, 再々手術を要した右先天性横隔膜ヘルニアの1例, 何が起きた？　植村光太郎, 佐々木　航, 久松千恵子. 第91回小児外科わからん会, 2025年3月.
- 出生前診断された先天性嚢胞性肺疾患における手術時期と術後中長期合併症の検討. 吉村　翔平, 久松千恵子, 佐々木　航, 植松　綾乃, 福井　慶介, 植村光太郎, 冨岡雄一郎, 森田　圭一, 村上　紫津, 横井　暁子, 畠山　理. 第125回日本外科学会定期学術集会, 2025年4月.
- 右肺欠損を伴う先天性気管狭窄症の長期予後. 横井　暁子, 森田　圭一. 第62回日本小児外科学会学術集会, 2025年6月.
- 小児外科が診療に携わった虐待・虐待疑い事例の検討. 村上　紫津, 久松千恵子, 佐々木　航, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 福井　慶介, 植村光太郎, 森田　圭一, 横井　暁子, 畠山　理. 第62回日本小児外科学会学術集会, 2025年6月.
- 当院での小児卵巣奇形腫症例に対する腫瘍核出術後フォロー期間の検討. 佐々木　航, 久松千恵子, 村上　紫津, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 福井　慶介, 植村光太郎, 冨岡雄一郎, 森田　圭一, 横井　暁子, 畠山

理. 第62回日本小児外科学会学術集会, 2025年6月.

- 当院におけるクラリーノ症候群の診断と治療. 久松千恵子, 佐々木　航, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 福井　慶介, 植村光太郎, 冨岡雄一郎, 森田　圭一, 村上　紫津, 横井　暁子, 畠山　理. 第62回日本小児外科学会学術集会, 2025年6月.
- 総排泄腔遺残症根治術における腹腔鏡下直腸授動操作の有用性. 福井　慶介, 森田　圭一, 佐々木　航, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 植村光太郎, 冨岡雄一郎, 村上　紫津, 久松千恵子, 横井　暁子, 畠山　理. 第62回日本小児外科学会学術集会, 2025年6月.
- 呼吸障害を呈した傍胸骨裂孔ヘルニアに対して腹腔鏡下根治術を施行した2乳児例. 福井　慶介, 森田　圭一, 佐々木　航, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 植村光太郎, 冨岡雄一郎, 村上　紫津, 久松千恵子, 横井　暁子, 畠山　理. 第62回日本小児外科学会学術集会, 2025年6月.
- 鼠径ヘルニア嵌頓に随伴した小腸部分捻転症の1例. 吉村　翔平, 佐々木　航, 植松　綾乃, 植村光太郎, 福井　慶介, 冨岡雄一郎, 森田　圭一, 村上　紫津, 久松千恵子, 横井　暁子, 畠山　理. 第38回日本小児救急医学会学術集会, 2025年7月.
- 18 trisomy児のC型食道閉鎖症に対する初回術式の比較検討. 佐々木　航, 久松千恵子, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 福井　慶介, 植村光太郎, 冨岡雄一郎, 森田　圭一, 村上　紫津, 横井　暁子, 芳本　誠司, 畠山理. 第61回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2025年7月.
- 出生前診断された先天性嚢胞性肺疾患の胎児診断と出生後画像診断, 病理診断の比較検討. 吉村　翔平, 久松千恵子, 佐々木　航, 植松　綾乃, 福井　慶介, 植村光太郎, 冨岡雄一郎, 森田　圭一, 村上　紫津, 横井暁子, 芳本　誠司, 船越　徹, 赤坂　好宣, 吉田　牧子, 畠山　理. 第61回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2025年7月.
- 死後ケアの一環として巨大仙尾部奇形腫を切除した1症例　死後の外科的介入の臨床的意義と倫理的課題. 植村光太郎, 久松千恵子, 佐々木　航, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 福井　慶介, 冨岡雄一郎, 森田　圭一, 村上　紫津, 横井　暁子, 畠山　理, 後藤　弘樹, 芳本　誠司. 第61回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2025年7月.
- 摘出に難渋した発光ダイオードによる気道異物の1例. 吉村　翔平, 中谷　太一, 津川　二郎, 佐々木航, 福井　慶介, 冨岡雄一郎, 村上　紫津, 久松千恵子, 横井　暁子, 畠山　理. 第61回日本小児外科学会近畿地方会, 2025年8月.
- 当院におけるIsolated hypoganglionosis患児の栄養管理の現状と今後の課題. 吉村　翔平, 佐々木　航, 植松　綾乃, 福井　慶介, 中谷　太一, 冨岡雄一郎, 村上　紫津, 久松千恵子, 横井　暁子, 畠山　理. 第52回日本小児栄養消化器肝臓学会, 2025年9月.
- 長期気管切開管理中に発症した良性後天性気管食道瘻に対して喉頭気管分離術を行った1例. 中谷　太一, 佐々木　航, 吉村　翔平, 福井　慶介, 冨岡雄一郎, 村上　紫津, 久松千恵子, 横井　暁子, 畠山　理. 第44回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会, 2025年10月.
- 食道bandingに用いる医療材料と合併症の検討. 佐々木　航, 久松千恵子, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 福井慶介, 中谷　太一, 冨岡雄一郎, 村上　紫津, 田村　亮, 横井　暁子, 畠山　理. 第44回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会, 2025年10月.
- 胃瘻造設後に低血糖性脳症に至ったタナトフォリック骨異形成症の1例. 村上　紫津, 久松千恵子, 佐々木航, 植松　綾乃, 吉村　翔平, 福井　慶介, 中谷　太一, 冨岡雄一郎, 田村　亮, 横井　暁子, 畠山　理. 第54回日本小児外科代謝研究会, 2025年10月.
- 当院における鎖肛の周術期管理と術後合併症. 田村　亮, 佐々木　航, 植松　綾乃, 冨岡雄一郎, 吉村　翔

平, 福井　慶介, 中谷　太一, 村上　紫津, 久松千恵子, 横井　暁子, 畠山　理. 第81回直腸肛門奇形研究会. 2025年10月.

- Oncologic emergencyを来した小児胸部腫瘤に対する治療戦略　急性期の呼吸管理と外科介入について. 植松　綾乃, 久松千恵子, 佐々木　航, 吉村　翔平, 福井　慶介, 中谷　太一, 冨岡雄一郎, 村上　紫津, 横井暁子, 畠山　理. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会, 2025年11月.
- Efficacy of a speaking cannula and speaking valve on laryngeal　functions pediatric patients with tracheostomy. Hisamatsu C, Tsugawa J. 17th Congress of the of European Society of Pediatric Otorhinolaryngology, May,2025.
- Characteristics of congenital bronchial atresia with cystic lesions: a single-center retrospective study. Yoshimura S, Hisamatsu C, Sasaki W, Fukui K, Nakatani T, Tomioka Y, Murakami S, Yokoi A, Hatakeyama T. 8th World Congress of World Federation of Associations of Pediatric Surgery, Nov,2025.
- Diagnosis and treatment of Currarino syndrome: a single-center case series. Hisamatsu C, Sasaki W, Uematsu A, Yoshimura S, Tomioka Y, Fukui K, Nakatani T, Murakami S, Yokoi A, Hatakeyama T. 8th World Congress of World Federation of Associations of Pediatric Surgery, Nov,2025.

心臓血管外科

- 小児領域における大動脈弁輪拡大：二方向性弁輪拡大からRoss-Konno手術への変遷. 松久弘典, 松島峻介, 岩城隆馬, 東田昭彦, 久保沙羅, 岡田翼. 第55回日本心臓血管外科学会学術総会, 2025年2月.
- DORV（subaortic VSD）修復術. 松久弘典. 第55回日本心臓血管外科学会学術総会, 2025年2月.
- 小児における大動脈基部の安定化を目指したロス手術への取り組み. 松久弘典, 松島峻介, 岩城隆馬, 東田昭彦, 久保沙羅, 岡田翼. 第55回日本心臓血管外科学会学術総会, 2025年2月.
- 修正大血管転位症に対する解剖学的1.5心室修復の中期成績. 岩城隆馬, 岡田翼, 久保沙羅, 東田昭彦, 松島峻介, 松久弘典. 第55回日本心臓血管外科学会学術総会, 2054年2月.
- 単心室房室弁形成におけるleaflet tetheringの影響. 松島峻介, 久保沙羅, 岡田翼, 東田昭彦, 岩城隆馬, 松久弘典. 第55回日本心臓血管外科学会学術総会, 2025年2月.
- Surgical treatment in the patients with coronary artery ostial atresia. 東田昭彦, 岡田翼, 久保沙羅, 松島峻介, 岩城隆馬, 松久弘典. 第55回日本心臓血管外科学会学術総会. 2025年2月.
- 治療方針決定にCT画像裸眼立体視システムが有用であったACMGA type DORVの2症例. 久保沙羅, 岡田翼, 東田昭彦, 松島峻介, 岩城隆馬, 松久弘典. 第55回日本心臓血管外科学会学術総会, 2025年2月.
- 肺動脈前方転位の適応とその有効性. 岡田翼, 松島峻介, 久保沙羅, 東田昭彦, 岩城隆馬, 松久弘典. 第55回日本心臓血管外科学会学術総会, 2025年2月.
- 私の施設と私の手術. 松久弘典. 第24回Two Hands Club, 2025年2月.
- 小児心臓外科医修練における経験値の共有について. 松久弘典, 松島峻介, 岩城隆馬, 東田昭彦, 久保沙羅, 岡田翼. 第39回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会, 2025年4月.
- 大動脈1尖弁の2尖弁化におけるCoronary orifice rotation. 松島峻介, 久保沙羅, 岡田翼, 東田昭彦, 岩城隆馬, 松久弘典. 第39回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会, 2025年4月.
- del Nido心筋保護液の検討. 岡田翼, 岩城隆馬, 久保沙羅, 東田昭彦, 松島峻介, 松久弘典.　第39回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会, 2025年4月.
- Anterior Translocation of the Pulmonary Artery for Airway and Pulmonary Artery Compression. Shunsuke Matsushima, Tasuku Okada, Sara Kubo, Akihiko Higashida, Ryuma Iwaki, Hironori Mat-

suhisa. AATS 106th Annual Meeting, 2025年5月.

- 小児rapid ECPR programの確立について. 松久弘典, 松島峻介, 岩城隆馬, 東田昭彦, 久保沙羅, 岡田翼. 第68回関西胸部外科学会学術集会, 2025年6月.
- Surgical modifications for hypoplastic left heart syndrome with a diminutive ascending aorta. 東田昭彦, 岡田翼, 久保沙羅, 松島峻介, 岩城隆馬, 松久弘典, 第68回関西胸部外科学会学術集会, 2025年6月.
- 単心室の低体重児に対してTop-hat法にて房室弁置換術を施行した1例. 岡田翼, 久保沙羅, 東田昭彦, 岩城隆馬, 松島峻介, 松久弘典. 第68回関西胸部外科学会学術集会, 2025年6月.
- 成プログラム開始から1年：課題と更なる発展に向けた取り組み. 松久弘典, 平野暁教, 小谷恭弘, 小田晋一郎, 本宮久之, 伊藤貴弘, 落合由恵, 瀧聞浄宏, 中野俊秀. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月.
- 位相差X線CT法を用いた奇形心Myofiber Orientationの左右心室間比較. 松島峻介, 松久弘典, 篠原玄, 森田紀代造, 白石修一, 高橋昌, 金子幸裕, 築部卓郎, 大嶋義博. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月.
- 半閉鎖クリップを用いた両側肺動脈絞扼術の経験. 岩城隆馬, 岡田翼, 久保沙羅, 東田昭彦, 松島峻介, 松久弘典. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月.
- in vitro実験による大動脈二尖弁の形態解析 ～Free margin length以外に弁開口へ影響する幾何学的因子の検索～. 久保沙羅, 白木宏長, 野田睦貴, 松久弘典, 岡田健次, 河南治, 松島峻介, 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月.
- Our clinical experience with del Nido Cardioplegia solution. 岡田翼, 岩城隆馬, 久保沙羅, 東田昭彦, 松島峻介, 松久弘典. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2025年7月.
- In vitro hydrodynamic evaluation of pulmonary conduits with a hand-sewn ePTFE valve. Shunsuke Matsushima, Mutsuki Noda, Sara Kubo, Hironaga Shiraki, Hironori Matsuhisa, Kenji Okada, Osamu Kawanami. The 39th EACTS Annual Meeting, 2025年10月.
- 小児心臓血管外科医生涯育成プログラムの活動状況と課題. 松久弘典, 平野暁教, 小谷恭弘, 小田晋一郎, 本宮久之, 伊藤貴弘, 落合由恵, 中野俊秀. 第78回日本胸部外科学会定期学術集会, 2025年10月.
- Intraatrial Conduit Fontan Procedure: Long-term Outcomes Beyond 30 Years. 東田昭彦, 岡田翼, 久保沙羅, 松島峻介, 岩城隆馬, 日隈智憲, 山口眞弘, 安東勇介, 岡田健次, 松久弘典. 第78回日本胸部外科学会定期学術集会. 2025年10月.
- 小児期における異型鎖骨下動脈に対する積極的介入. 久保沙羅, 松島峻介, 岡田翼, 東田昭彦, 岩城隆馬, 松久弘典. 第78回日本胸部外科学会定期学術集会, 2025年10月.
- パッチ補填の適応と形態. 松島峻介, 久保沙羅, 岡田翼, 東田昭彦, 岩城隆馬, 松久弘典. 第78回日本胸部外科学会定期学術集会, 2025年10月.
- 位相差X線CT法を用いた奇形心Myofiber Orientationの左右心室間比較. 松島峻介, 松久弘典, 篠原玄, 森田紀代造, 白石修一, 高橋昌, 金子幸裕, 築部卓郎, 大嶋義博. 第24回日本心臓血管発生研究会, 2025年11月.
- 心臓外科研究懇話会を通じた兵庫県立こども病院の発展. 松久弘典. 第23回心臓外科研究懇話会, 2025年11月.
- Surgical Outcomes of Congenital Tracheal Stenosis and Cyanotic Heart Diseases. Hironori Matsuhisa, Shunsuke Matsushima, Ryuma Iwaki, Akihiko Higashida, Sara Kubo, Toshikatsu Tanaka, Keiichi Morita. 9th World Congress of Pediatric Cardiology & Cardiac Surgery. 2025年12月.

脳神経外科

- 「キアリ奇形ってなんですか？」. 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史.　兵庫県立こども病院-理化学研究所　生命機能科学研究センター（BDR）第9回ジョイントシンポジウム, 2025年1月
- 乳児急性硬膜下血腫の虐待診断. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第48回日本脳神経外傷学会, 2025年2月
- 脊髄空洞症を伴う1型キアリ奇形における後頭蓋窩減圧術後脊髄空洞の推移. 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史. 第53回日本小児神経外科学会学術集会, 2025年6月
- 痛恨の症例：小脳髄芽腫摘出手術中に腫瘍からの動脈性出血の為, 手術を継続できなかった1例. 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史. 第53回日本小児神経外科学会学術集会, 2025年6月
- 頭部外傷をはじめとした小児神経集中治療における持続脳圧モニタリングの活用.（ランチョンセミナー）. 小山淳二. 日本脳神経外科学会 第53回日本小児神経外科学会学術集会, 2025年6月
- 乳児急性硬膜下血腫の虐待診断. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第53回日本小児神経外科学会学術集会, 2025年6月
- 片側ラムダ縫合早期癒合症と頭位性斜頭の放射線学的診断. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第21回craniosynostosis研究会, 2025年6月
- 脊髄空洞症を伴う小児キアリ奇形1.5型の特徴：治療後の脊髄空洞の変化. 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史. 日本脳神経外科学会 第84回学術総会, 2025年10月
- 両側冠状縫合早期癒合症に対する内視鏡下縫合切除術. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 日本脳神経外科学会第84回学術総会, 2025年10月
- 1型キアリに対する再手術：術後出血を来した一例. 小山淳二, 源吉駿, 中村啓介, 阿久津　宣行, 河村淳史. 第42回日本こども病院神経外科医会研修会, 2025年11月
- 神経内視鏡によるシャント回避を目指した小児水頭症治療. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第32回日本神経内視鏡学会, 2025年11月

整形外科

- こどもの側弯症　―診断、治療、およびケア―　小林大介　神戸市特別支援学校　夏季看護師研修会, 2025年7月.
- 小児整形外科疾患における移行期医療～股関節疾患～. 坂田亮介. 第13回近畿小児整形外科研修会. 2025年1月
- 発育性股関節形成不全(完全脱臼例)に対する観血的整復術とソルター骨盤骨切り術の同時手術. 坂田亮介, 小林大介, 薩摩眞一, 衣笠真紀, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦. 第144回中部日本整形外科災害外科学会. 2025年4月.
- 当院における二分脊椎外来の現状. 坂田亮介. 第42回日本二分脊椎研究会. 2025年7月.
- 小児整形救急概論. 坂田亮介. 令和7年度日本スポーツ看護学会. 2025年.
- 小児整形外科疾患後のスポーツ活動についてー先天性内反足ー. 坂田亮介, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦, 山口純伶. 第36回日本小児整形外科学会. 2025年11月.
- 重度安定型大腿骨頭すべり症に対するin-situ screw fixationの治療成績. 坂田亮介, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦. 第64回日本小児股関節研究会. 2025年6月.
- Ponseti法による先天性内反足治療後の距骨変形. 坂田亮介, 衣笠真紀, 北村仁美. 第50回日本足の外科学会. 2025年11月.
- 超音波画像と単純レントゲン画像に乖離を認めたDDHの1例. 衣笠真紀, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 北

村仁美, 有本章彦,山本茜 第73回近畿小児整形外科懇話会, 2025年1月.

- 二分脊椎の整形外科学的管理. 衣笠真紀　第112回日本泌尿器学会総会,2025年4月.
- DDHにおける超音波画像と単純X線画像の乖離. 衣笠真紀, 小林大介, 坂田亮介,森下雅之, 北村仁美, 有本章彦　第64回日本小児股関節研究会, 2025年6月.
- エコー画像で発育性股関節形成不全を自動検出する人工知能の開発−乳児健診での実用化を目指して−. 衣笠真紀, 乾淳幸, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦, 黒田良祐 第40回日本整形外科学会基礎学術集会, 2025年10月.
- DDHの診断と治療 −レントゲンと超音波画像それぞれの有用性−. 衣笠真紀, 薩摩眞一, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦, 山口純伶. 第36回日本小児整形外科学会学術集会, 2025年11月.
- 敗血症性ショック治療後に両側大腿骨頭壊死を生じた一例. 森下雅之, 小林大介, 山本茜, 有本章彦, 北村仁美, 衣笠真紀, 坂田亮介. 第64回日本小児股関節研究会, 2025年6月.
- 原発性骨・軟部腫瘍患者のADL, QOL向上への取り組み：日整会認定専門医研修施設における多発性骨軟骨腫症の診療実態調査. 森下雅之, 小林大介, 松本和, 武内章彦, 生越章, 城戸顕, 渡辺航太, 古川洋志, 小関道夫, 西田佳弘, 第58回骨・軟部腫瘍学術集会, 2025年7月.
- 小児がん患者における骨密度低下および骨折の実態調査. 森下雅之, 小林大介, 山本茜, 有本章彦, 北村仁美, 衣笠真紀, 坂田亮介. 第58回骨・軟部腫瘍学術集会, 2025年7月.
- 小児における関節内トリアムシノロンアセトニド注射の有用性. 森下雅之, 小林大介, 山口純伶, 有本章彦, 衣笠真紀, 坂田亮介. 第36回日本小児整形外科学会学術集会. 2025年11月.
- 総排泄腔外反症に対する創外固定を併用した腸骨前方骨切り術の治療成績と工夫　北村仁美、衣笠真紀、坂田亮介、森下雅之、有本章彦、山本茜、小林大介　第64回　日本小児股関節研究会　2025.6.19−20
- 被虐待児症候群の一例　北村仁美、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、森下雅之、有本章彦、山本茜　第73回近畿小児整形外科懇話会　2025.1.25
- 小児大腿骨頸部骨折における大腿骨頭壊死発症のリスク因子の検討. 有本章彦.衣笠真紀.小林 大介.坂田亮介.森下雅之.北村仁美.山口純伶.2025年6月.
- 整形外科疾患を合併したKleefstra症候群の2例. 有本章彦.小林大介.坂田亮介.衣笠真紀.森下雅之.北村仁美第74回近畿小児整形外科懇話会.2025年7月.
- 片側性大腿骨頭すべり症における対側発症予測因子. 有本章彦.小林大介.坂田亮介.衣笠真紀.森下雅之.北村仁美.山口純伶. 第36回日本小児整形外科学会学術集会. 2025年11月.
- 足趾の異所性骨化に対して外科切除を行った進行性骨異形成症候群の1例. 山口純伶, 森下雅之, 小林大介, 坂田亮介, 衣笠真紀, 北村仁美, 有本章彦. 第74 回近畿小児整形外科懇話会. 2025年7月.
- 足趾の異所性骨化に対して外科切除を行った進行性骨異形成症候群の1例. 山口純伶, 森下雅之, 小林大介, 坂田亮介, 衣笠真紀, 北村仁美, 有本章彦. 第37回 日本整形外科学会骨系統疾患研究会. 2025年11月.

眼科

- 当院における沈静下での小児のERG. 牧仁美, 豊國秀昭, 河原佳奈, 野村耕治. 第81回日本弱視斜視学会総会. 2025年6月
- 調節障害を認めたシャルコー・マリー・トゥース病の1例. 豊國秀昭, 牧仁美,　河原佳奈, 野村耕治. 第50回日本小児眼科学会総会, 2025年6月

耳鼻咽喉科

- 新生児聴覚スクリーニング検査の意義と現状. 大津雅秀. 兵庫県こどものきこえ相談センター淡路地区多職種連携会議・研修会, 2025年1月
- 5歳児健康診査の実施状況および令和5年度3歳児健康診査集計報告. 大津雅秀. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会・日本臨床耳鼻咽喉科医会合同乳幼児担当者全国会議, 2025年1月
- 高齢者難聴と補聴器並びに学会の取り組みについて. 大津雅秀. 厚生労働省委託事業　補聴器販売者技能向上研修等事業補聴器研修会, 2025年2月
- 新生児聴覚スクリーニング検査の意義と現状. 大津雅秀. 兵庫県令和6年度先天性サイトメガロウイルス感染症および新生児聴覚検査にかかる研修会, 2025年2月
- 経口胃管および経鼻胃管が未熟児の瓶哺乳時の吸啜圧に及ぼす影響. 小松岳, 古川竜也, 小林大介, 岩谷壮太, 芳本誠司, 山下俊彦, 遠藤侑未, 勝沼紗矢香, 大津雅秀, 丹生健一. 第48回日本嚥下医学会. 2025年2月
- 先天性片側外耳道閉鎖による一側性難聴小児例において軟骨伝導補聴器の継続装用を妨げる要因の検討. 勝沼紗矢香, 大津雅秀.　第20回小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会.　2025年6月.
- 新生児聴覚スクリーニング検査の現状. 大津雅秀. 神戸市教育委員会難聴学級および通級指導教室担当者研修会, 2025年9月
- 兵庫県の新生児聴覚スクリーニング検査の現状. 大津雅秀. 兵庫県令和7年度先天性サイトメガロウイルス感染症および新生児聴覚検査にかかる研修会, 2025年9月
- 小児難聴診療－新生児聴覚スクリーニング検査を中心に. 大津雅秀. 豊岡聴覚特別支援学校聴覚センター但馬地区難聴児担当者・保健師研修会, 2025年10月
- 当院で口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術を行った2歳未満の閉塞性睡眠時無呼吸症例の検討.　上坂紗貴子, 大津雅秀, 勝沼紗矢香.　第205回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会兵庫県地方部会学術講演会, 2025年11月.
- 先天性サイトメガロウイルス感染症対策と兵庫県の新生児聴覚スクリーニング検査. 大津雅秀. 第205回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会兵庫県地方部会学術講演会, 2025年11月
- 小児難聴診療―新生児聴覚検査から療育まで―. 大津雅秀. 兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会,　2025年12月
- 新生児聴覚スクリーニング検査及び先天性サイトメガロウイルス感染症の現状. 大津雅秀. 兵庫県こどものきこえ相談センター丹波地区多職種研修会, 2025年12月
- きこえのしくみと補聴器. 大津雅秀. トーシン補聴器センター講演会, 2025年12月

泌尿器科

- Ipsilateral ureteroureterostomy for complete double ureter, 植松陸, 高亜羅, 春名晶子, 杉多良文, 第112回日本泌尿器科学会総会, 2025年4月.
- 非触知精巣(診断と治療), 杉多良文, 第62回日本小児外科学会学術集会, 2025年6月.
- 【教育講演】『もやもや解消！小児泌尿器科診療』, 杉多良文, 第116回日本泌尿器科学会四国地方会, 2025年6月.
- Cystic dysplasia of the rete testis ;　A case report, 春名晶子, 第34回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2025年7月.
- 尿道下裂再手術例における口腔粘膜利用二期的尿道形成術(Bracka法)の臨床的検討, 春名晶子, 第34回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2025年7月.

- 術中に判明した三重複尿管（ureteral triplication）を伴う異所性尿管の1例, 植松陸, 高亜羅, 春名晶子, 杉多良文, 第34回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2025年7月.
- 当院の経験を踏まえた小児尿路結石治療, 植松陸, 高亜羅, 春名晶子, 杉多良文, 第34回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2025年7月.
- 重複腎盂尿管に対する同側尿管尿管吻合術の検討, 植松陸, 高亜羅, 春名晶子, 杉多良文, 第34回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2025年7月.
- 尿道下裂の排尿障害の謎を解く鍵：尿道下裂術後の尿流測定による排尿機能評価, 春名晶子, 高亜羅, 植松陸, 波越朋也, 杉多良文, 第32回日本排尿機能学会, 2025年9月.
- 二分脊椎に伴う神経因性膀胱に対する膀胱拡大術の臨床的検討, 春名晶子, 高亜羅, 植松陸, 杉多良文, 第32回日本排尿機能学会, 2025年9月.
- 停留精巣に対する腹腔鏡手術：どちらを選びますか？「Fowler-Stephens法（精巣血管離断」, 杉多良文, 第39回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会（JSER）, 2025年10月.
- 小児尿路結石45例の臨床的検討, 植松陸, 高亜羅, 春名晶子, 井上貴昭, 杉多良文, 第39回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会（JSER）, 2025年10月.
- 二分脊椎に伴う神経因性膀胱に対する膀胱拡大術の臨床的検討, 春名晶子, 第75回日本泌尿器科学会中部総会, 2025年11月.
- 膀胱尿管逆流に対する腹腔鏡下膀胱内手術の臨床的検討, 植松陸, 高亜羅, 春名晶子, 杉多良文, 第75回日本泌尿器科学会中部総会, 2025年11月.
- Positioned Instillation of contrast Cystography（PIC）の有用性の検討, 高亜羅, 植松陸, 春名晶子, 杉多良文, 第77回西日本泌尿器科学会総会, 2025年11月.

麻酔科

- これだけは知っておきたい～小児の神経ブロックとその活用法. 香川哲郎. 第12回日本区域麻酔学会, 2025年4月
- 超音波ガイド下の静脈路確保. 藤原孝志. 第50回院内研修会, 2025年4月
- 安全な日帰り手術の麻酔－小児日帰り手術の安全性、効率性と持続可能性. 末田彩. 第72回日本麻酔科学会, 2025年6月
- 先天性食道閉鎖症への麻酔管理、特に気管食道瘻への Fogarty カテーテルの挿入に関する当院の考え方. 藤原孝志. 第30回日本小児麻酔学会, 2025年10月
- 小児斜視手術における維持麻酔薬および制吐剤併用の変更が術後嘔吐発症に与える影響 分割時系列解析. 山内佑允, 藤原孝志, 末田彩, 小原崇一郎, 小嶋大樹. 第30回日本小児麻酔学会, 2025年10月
- 小児の腎芽腫および下大静脈腫瘍栓摘出術における下大静脈遮断時に心停止を生じた一例. 萩永桃子、小西麻意、藤原孝志. 第30回日本小児麻酔学会, 2025年10月
- 喉頭狭窄を合併したPierre Robin Sequenceの新生児にair-Q®#0.5で気道確保の上で気管切開を行なった一症例. ハウザー ノエル ドナルド、山内佑允、上嶋江利、香川哲郎. 第30回日本小児麻酔学会, 2025年10月
- 区域麻酔の魅力を再確認しよう. 上嶋江利. 第30回日本小児麻酔学会, 2025年10月
- 術後を見据えた小児麻酔の最適な術中管理. 山内佑允. 第45回日本臨床麻酔学会, 2025年12月
- 小児斜視手術の麻酔管理～兵庫県立こども病院での実際～. 藤原孝志. 第45回日本臨床麻酔学会, 2025年12月

新生児内科

- Bilirubin-albumin molar ratios as an index of unbound bilirubin levels in preterm newborns. Sota Iwatani, Shinji Hagimoto, Takao Kobayashi, Seiji Yoshimoto. PAS meeting 4/24-28/2025, Honolulu, US（Oral Presentation）
- Scoping review of initiation criteria for inhaled nitric oxide in preterm infants（born <34 weeks）after 7 days of age. Shin Kato, Yohei Minamitani, Miku Hosokawa, Toshinori Nakashima, Sota Iwatani, Hidehiko Nakanishi. PAS meeting 4/24-28/2025, Honolulu, US（Poster Presentation）
- Impact of high maternal body mass index on fetal cerebral cortical and cerebellar volumes. Emiko Takeoka, Afshin Azimirad, Neel Madan, Rie Kitano, Shizuko Akiyama, Hyuk Jin Yun, Richard Tucker, Kiho Im, Perrie O'Tierney-Ginn, Tomo Tarui. PAS meeting 4/24-28/2025. Honolulu, US（Poster Presentation）
- Post-removal antibiotic therapy for neonatal catheter-related blood stream infections: Is vancomycin necessary in cases of methicillin-resistant staphylococci? Toshihiko Ikuta, Sota Iwatani, Emiko Takeoka, Sachiko Matsui, Hitomi Mimura, and Seiji Yoshimoto. jENS2025 10/21-25/2025, Belgrade（Poster Presentation）
- Emerging Microfluidic and Nano-Analytical Technologies for Biomarker Detection. Iida Takuya, Takagi Yumiko, Katsumata Mami, Takemori Kosei, Kanoda Masatoshi, Hayashi Kota, Tamura Mamoru, Nakase Ikuhiko, Tokonami Shiho, Kobayashi Takao, Iwatani Sota, Murakami Masaaki, Taguchi Ayumu. Pacifichem 12/15-20/2025, Honolulu（Symposium）
- 早産児においてビリルビン・アルブミンモル比はアンバウンドビリルビンの指標となるか？ 岩谷壮太, 萩元慎二, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.　第128回日本小児科学会学術集会 4/18-20/2025　名古屋
- 高直接ビリルビン血症が遷延する極低出生体重児の栄養管理の特徴 ― 在胎週数をマッチさせたケースコントロール研究. 萩元慎二, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井 紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.第128回日本小児科学会学術集会　4/18-20/2025　名古屋
- 腹膜透析管理中の高血圧に対するニトロプルシドナトリウム水和物投与時に重症溶血性貧血を呈した早産児. 武岡恵美子, 西内徳子, 松島愛香, 後藤弘樹, 西牧良, 小林孝生, 生田寿彦, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司.第128回日本小児科学会学術集会 4/18-20/2025　名古屋
- 急性期以降に開始される早産児に対するNO吸入療法の開始基準-scoping review. 加藤晋, 南谷曜平, 細川未来, 中嶋敏紀, 岩谷壮太, 中西秀彦.第128回日本小児科学会学術集会 4/18-20/2025　名古屋
- 18トリソミー症候群における年齢別てんかん有病率の検討. 石田悠介, 伊藤立人, 鮫島智大, 相馬健人, 西山将広, 岩谷壮太, 芳本誠司, 丸山あずさ.第67回日本小児神経学会 6/4-7/2025　米子
- 新生児遅発型敗血症における血球測定の意義 – マッチドケースコントロール研究. 小林孝生, 岩谷壮太, 松島愛香.第35回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会 6/6-7/2025　札幌
- 三次周産期医療センターに入院した新生児における院内分割製剤使用による供血者数の削減. 松島愛香, 小林孝生, 岩谷壮太.第35回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会 6/6-7/2025　札幌
- 早産児においてビリルビン・アルブミンモル比はアンバウンドビリルビンの指標となるか？ 第61回日本周産期新生児医学会学術集会 7/13-15/2025　大阪
- 先天性横隔膜ヘルニアの新生児蘇生における、挿管のタイミングと予後との関係. 横井暁子, 岩谷壮太, 佐藤義朗, 臼井規朗, 丸山秀彦, 永田公二, 奥山宏臣, 照井慶太.第61回日本周産期新生児医学会学術集会 7/13-

15/2025　大阪

- 第3回早産児ビリルビン脳症全国調査結果. 奥村彰久, 森岡一朗, 日下隆, 國方徹也, 佐藤義朗, 岩谷壮太.第61回日本周産期新生児医学会学術集会7/13-15/2025　大阪
- 三次周産期医療センターに入院した新生児における院内分割製剤使用による供血者数の削減. 松島愛香, 小林孝生, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.第61回日本周産期新生児医学会学術集会 7/13-15/2025　大阪
- 消化管手術を施行した新生児では術後24時間以内に血清アルブミン値が低下する. 西牧良, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.第61回日本周産期新生児医学会学術集会 7/13-15/2025　大阪
- 生後9時間で汎下垂体機能低下症に伴う副腎クリーゼを呈した全前脳胞症の女児. 後藤弘樹, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司.第61回日本周産期新生児医学会学術集会 7/13-15/2025　大阪
- 出生前診断のない先天性横隔膜ヘルニアの臨床的特徴. 鈴木裕実子, 小林孝生, 松島愛香, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司.第61回日本周産期新生児医学会学術集会 7/13-15/2025 大阪
- 新生児ビリルビン脳症の根絶を目指して～日本の黄疸管理戦略会議～　アンバウンドビリルビン(UB)測定に基づいた早産児黄疸管理　超早産児ではなぜ高UB血症が遷延するのか? 岩谷 壮太.　第61回日本周産期新生児医学会学術集会 7/13-15/2025　大阪
- 後方視的研究に焦点を当てた原著論文の書き方. 岩谷壮太.第69回日本新生児成育医学会学術集会11/13-15/2025　横浜
- アンバウンドビリルビン測定における高直接ビリルビン血症の影響. 岩谷壮太, 萩元慎二, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.第69回日本新生児成育医学会学術集会 11/13-15/2025　横浜
- 生体重-4SD未満のSGA児における生後の身体発育. 松井紗智子, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡 恵美子, 三村仁美, 芳本誠司.第69回日本新生児成育医学会学術集会 11/13-15/2025　横浜
- 在胎25-27週で出生した超早産児の症候性動脈管開存症に対する治療薬をイブプロフェンに変更後の治療成績の変化. 武岡恵美子, 春田真之介, 西内徳子, 松島愛香, 後藤弘樹, 西牧良, 生田寿彦, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第69回日本新生児成育医学会学術集会　11/13-15/2025　横浜
- 神戸大学新基準を用いて黄疸管理した早産児の予後調査. 西牧良, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.第69回日本新生児成育医学会学術集会 11/13-15/2025　横浜
- 18トリソミー児における生存退院率の向上と退院後の課題:15年間の単施設後方視的検討. 松島愛香, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.第69回日本新生児成育医学会学術集会 11/13-15/2025　横浜
- 新生児医療は10年後までに宿日直許可なしで時間外労働時間を960時間未満にできるのか？～兵庫県における検証～. 片岡大, 岩谷壮太, 芳本誠司, 菅原勝美, 藤岡一路, 西田由伸, 宇都宮剛, 五百蔵智明, 奥谷貴弘, 高桑聖, 森沢猛, 横山直樹, 西畑昌大.第69回日本新生児成育医学会学術集会 11/13-15/2025　横浜
- OG tube抜去前後の吸啜圧を測定し得た超低出体重児例. 小松岳, 岩谷壮太, 芳本誠司.　第69回日本新生児成育医学会学術集会 11/13-15/2025　横浜
- 出生前診断のない先天性横隔膜ヘルニアの臨床的特徴. 鈴木裕実子, 松島愛香, 小林孝生, 西内徳子, 宇保早希子, 後藤弘樹, 西牧良, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第294回日本小児科学会兵庫県地方会　2/1/25　西宮

- 両側腎瘻造設を含めた集学的治療により寛解退院しえた巨大な腹腔内Kaposi型血管内皮腫の男児. 小林孝生, 岩谷壮太, 西牧良, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司.　第38回近畿小児科学会 3/16/25　大阪
- 脳波検査にて病状を追跡し大脳半球離断術が有効であった片側巨脳症. 髙橋英里, 小林孝生, 西牧良, 岩谷壮太, 三村仁美, 西山将広, 丸山あずさ, 芳本誠司. 第38回近畿小児科学会 3/16/25　大阪
- 新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法中の高血糖. 西牧良, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第38回近畿小児科学会 3/16/25　大阪
- 小腸穿孔に対して小腸瘻を造設した児へのロタウイルスワクチン接種の経験. 松島愛香, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第38回近畿小児科学会 3/16/25　大阪
- 呼吸障害を呈した両側先天性巨大水腎症に対して外科的治療介入を検討した新生児例. 大西 裕人, 後藤弘樹, 岩谷壮太, 春田真之介, 松島愛香, 西内徳子, 西牧良, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第296回日本小児科学会兵庫県地方会 9/20/25　姫路
- 生直後から体外式膜型人工肺療法を導入した最重症先天性横隔膜ヘルニアの低出生体重児 – 集学的治療の実際 井上未紗子, 西牧良, 武岡恵美子, 春田真之介, 松島愛香, 西内徳子, 後藤 弘樹, 生田寿彦, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 岩城隆馬, 松久弘典, 富岡雄一郎, 畠山 理, 山内佑允, 香川哲郎, 船越徹, 芳本誠司. 第296回日本小児科学会兵庫県地方会 9/20/25　姫路
- 10年後までに宿日直許可なしで時間外労働時間を960時間未満にできるのか？～兵庫県の新生児医療現場における検証～. 片岡大, 岩谷壮太, 芳本誠司, 菅原勝美, 藤岡一路, 西田由伸, 宇都宮剛, 五百蔵智明, 奥谷貴弘, 森沢猛, 横山直樹, 西畑昌大.第296回日本小児科学会兵庫県地方会 9/20/25　姫路

産科

- 性教育が今の社会を変えられると思う3つの理由.木原智子.令和6年度朝来市生涯学習健康づくり講演会, 2025年3月.
- 組織学的絨毛膜羊膜炎の分娩前評価ならびに分娩転帰予測における母体炎症マーカーの有用性の検討. 長澤友紀, 江本永真, 黒島瑞穂, 木原智子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 荒井貴子, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第77回日本産科婦人科学会学術集会, 2025年5月.
- 当院で周産期管理を行った羊水過少例の検討. 荒井貴子, 江本永真, 長澤友紀, 黒島瑞穂, 木原智子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第77回日本産科婦人科学会学術集会, 2025年5月.
- 臍帯動脈瘤切迫破裂に対して緊急帝王切開術を施行し生児を得た1例. 江本永真, 荒井貴子, 長澤友紀, 黒島瑞穂, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第77回日本産科婦人科学会学術集会, 2025年5月.
- 帝王切開術後にマイコプラズマ・ホミニスによる骨盤内膿瘍を来した6症例の検討.　窪田詩乃, 江本永真, 長澤友紀, 木原智子, 荒井貴子, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第152回近畿産科婦人科学会学術集会, 2025年6月.
- 産婦人科医　町へ出る. 木原智子. 令和7年度兵庫県養成医研修会, 2025年7月.
- 当院で管理した胎児臍帯ヘルニアの遺伝的背景. 荒井貴子, 江本永真, 長澤友紀, 木原智子, 窪田誌乃, 松本培世, 平久進也, 森貞直哉, 船越徹. 第61回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2025年7月.
- 生前画像診断で胎児小腸閉鎖を疑われ生後にHirschsprung病類縁疾患と判明した1症例. 松本培世, 木多杏依, 久保田いろは, 長澤友紀, 木原智子, 窪田詩乃, 荒井貴子, 平久進也, 船越徹. 第99回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 2025年8月.
- 生後に診断された単心室症. 平久進也, 荒井貴子, 窪田詩乃, 松本培世, 長澤友紀, 亀井直哉, 船越徹. 第99回

兵庫県産科婦人科学会学術集会, 2025年8月.
- 自分の未来を一緒に考える授業. 木原智子. 令和7年度心のサポート講演会, 2025年10月.
- 当院で管理した胎児脊髄髄膜瘤の臨床経過. 荒井貴子. 令和7年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会, 2025年12月.

放射線診断科

- 某年夏に偶発的に発見された肝腫瘤性病変の4例. 乗本周平, 山口千暁, 田原潤子, 赤坂好宣. 第61回日本小児放射線学会学術集会, 2025年6月.
- 児の体幹部悪性腫瘍. 乗本周平. JCRミッドサマーセミナー2025, 2025年7月.
- 小児画像恐るるに足らず ～それ, 実はよくある疾患です～. 乗本周平. 第72回香川県放射線科医会, 2025年9月.
- “定説”を超えて見えてきた 小児画像診断の勘ドコロ. 赤坂好宣. 第61回日本小児放射線学会学術集会. 2025年6月.
- 小児科医の放射線研修. 赤坂好宣. 第57回放射線医学薬師寺セミナー. 2025年7月.
- ある夏に頻出した肝腫瘤性病変. 赤坂好宣. 第92回小児外科わからん会. 2025年9月.
- 網膜芽細胞腫と鑑別を要した網膜過誤腫の一例. 田原潤子, 山口千暁, 乗本周平, 赤坂好宣. 第61回日本小児放射線学会学術集会, 2025年6月.

小児集中治療センター　集中治療科

- 小児敗血症スコア(Phoenix Sepsis Score)のPICU入室患者における有用性. 黒澤寛史, 相良優佳, 加藤愛美, 岡田怜, 浦田啓陽, 川本昌平, 古島夏奈, 黒江崇史, 宮下徳久, 青木一憲. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- 臓器提供の適応判断. 青木一憲, 岩永航, 羽田佑. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- 当院小児集中治療室への転院症例の現状把握と分析. 加藤愛美, 長井勇樹, 宮下徳久, 青木一憲, 椎間優子, 黒澤寛史. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- 小児先天性心疾患術後患者におけるPhoenix Sepsis Scoreの有用性評価. 相良優佳, 椎間優子, 加藤愛美, 黒江崇史, 鈴木雅大, 宮下徳久, 青木一憲, 黒澤寛史. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- 小児における 膜型血漿交換と遠心型血漿交換の比較. 前田未知可, 先濱大, 長井勇樹, 青木一憲, 椎間優子, 黒澤寛史. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- PICUに入室する医療的ケア児の臨床的特徴と転帰に関する後方視的観察研究. 長井勇樹,椎間優子, 青木一憲, 黒澤寛史. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- 既気管切開患者が小児専門病院の集中治療室運用に与える影響についての後方視的検討. 黒江崇史, 宮下徳久, 青木一憲, 椎間優子, 黒澤寛史. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- Norwood術後呼吸管理における圧制御量規定換気の有用性. 林谷俊和, 青木一憲 宮下徳久, 椎間優子, 黒澤寛史. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- JIPAD から拡がる重症小児データベース. 黒澤寛史. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025年3月.
- What’s New on the Management of In-Hospital Pediatric Cardiac Arrest? Hiroshi Kurosawa. 第5回アジア小児集中治療学会(APICC). 2025年5月.
- Transport and Referral of Critically Ill Children in Japan. Hiroshi Kurosawa. 第5回アジア小児集中治療学会(APICC). 2025年5月.

- A Case of Recurrent Life-Threatening Hemoptysis with Multiple Aorto-Pulmonary Collateral Arteries. Yukiho Hirota, Tadashi Kodani, Norihisa Miyashita, Kazunori Aoki, Shohei Yoshimura, Chieko Hisamatsu, Tadashi Hatakeyama, Nozomu Watanabe, Ryosuke Nakai, Toshikatsu Tanaka, Hiroshi Kurosawa. 第5回アジア小児集中治療学会（APICC）. 2025年5月.
- The Relationship between Continuous Preoperative Invasive Mechanical Ventilation and Postoperative Prolonged Mechanical Ventilation in Congenital Tracheal Stenosis. Nana Furushima, Kazunori Aoki, Yuko Shiima, Hiroshi Kurosawa. 第5回アジア小児集中治療学会（APICC）. 2025年5月.
- Utility of Pressure-regulated Volume Control Ventilation Following Systemic to Pulmonary Shunt: Comparison with Pressure-Controlled Ventilation. Toshikazu Hayashiya, Kazunori Aoki, Yuki Nagai, Yuko Shiima, Hiroshi Kurosawa. 第5回アジア小児集中治療学会（APICC）. 2025年5月.
- PICUで臨床工学技士はどのように活躍できるか ～小児集中治療医の立場から～. 青木一憲.　第35回日本臨床工学会. 2025年5月.
- PICCカテーテル. 岡田怜. 第38回日本小児救急医学会・第32回小児集中治療ワークショップ合同学術集会. 2025年7月.
- 小児ECMO. 宮下徳久. 第38回日本小児救急医学会・第32回小児集中治療ワークショップ合同学術集会. 2025年7月.
- 家族の想いに寄り添った終末期のかたち-心停止下臓器提供の選択. 加藤愛美, 青木一憲, 長井勇樹, 黒澤寛史. 第38回日本小児救急医学会・第32回小児集中治療ワークショップ合同学術集会. 2025年7月.
- こどもの蘇生にもう少し関わるために-どこが同じでどう違う？こどもと大人の同異点④脳死判定. 青木一憲. 第38回日本小児救急医学会・第32回小児集中治療ワークショップ合同学術集会. 2025年7月.
- 経頭蓋カラードプラ法を用いて脳灌流圧調整を行ったAbusive Head Traumaの新生児例. 黒江崇史, 青木一憲, 原田晋二, 浦田啓陽, 吉田美苗, 椎間優子, 黒澤寛史. 第38回日本小児救急医学会・第32回小児集中治療ワークショップ合同学術集会. 2025年7月.
- 小児重症系レジストリ・サーベイランス 全国規模の重症小児症例集積を効率的に実現するシステムの構築. 黒澤寛史. 第38回日本小児救急医学会・第32回小児集中治療ワークショップ合同学術集会. 2025年7月.
- 新生児期に手術を施行した先天性心疾患における出生前診断の有無と転帰との関連. 広田幸穂, 椎間優子, 林谷俊和, 長井勇樹, 青木一憲, 亀井直哉, 田中敏克, 黒澤寛史. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025年7月.
- 先天性心疾患術後の乳児人工呼吸患者における NAVA と PSV の同調性の定量的比較. 岡田怜, 青木一憲, 長井勇樹, 黒澤寛史. 第47回日本呼吸療法医学会学術集会. 2025年8月.
- 小児の蘇生2025アップデート. 池山貴也, 黒澤寛史. 第53回日本救急医学会総会・学術集会. 2025年10月.
- Simulation-Based Training: Essential for QI or Overrated Add-on? Hiroshi Kurosawa. 第27回インド小児科学会学術集会集中治療分科会. 2025年11月.

病理診断科

- 腸管機能不全の1例. 吉田牧子, 吉村翔平, 久松千恵子, 畠山理, 赤坂好宣, 後藤弘樹, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第87回関西小児病理研究会, 2025年6月.
- 初発時より多発骨転移をきたしていた腎明細胞肉腫の1例. 吉田牧子, 下田智晴, 山岸真代. 第66回日本臨床細胞学会総会（春期大会）, 2025年6月.
- 先天性白血病を伴った胎盤の1例. 吉田牧子, 川畑順子, 吉川千尋, 中川悦美, 筑紫和江, 木原智子), 平久進

也, 船越徹, 後藤弘樹, 芳本誠司, 松尾進, 菊池菜摘, 齋藤敦郎, 長谷川大一郎. 第45回日本小児病理研究会学術集会, 2025年9月.

- 腎腫瘍. 政岡亜実, 吉田牧子, 福井慶介, 中谷太一, 畠山理, 植村優, 森健, 長谷川大一郎, 田原潤子, 乗本周平, 赤坂好宣.　2025年日本病理学会小児腫瘍組織分類小委員会症例検討会, 2025年9月.
- 脳腫瘍の一例. 政岡亜実, 吉田牧子, 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史, 二野菜々子, 石田敏章, 長谷川大一郎, 田原潤子, 乗本周平, 赤坂好宣. 第111回日本病理学会近畿支部学術集会, 2025年12月
- 46 XY DSD femaleの性腺に生じた腫瘍の一例. 政岡亜実, 吉田牧子, 村上紫津, 畠山理, 西藤知城, 尾﨑佳代, 高亜羅, 杉田良文. 第88回関西小児病理研究会, 2025年12月.

看護部

- ストーマを保有する子どもと排便管理を必要とする子どもへの就学、就業支援. 鎌田直子. 第39回日本小児ストーマ・排泄・創傷研究会, 2025年6月.
- 全結腸型ヒルシュスプルングン病術後の管理に難渋した肛門周囲皮膚炎のケア. 茨木美鶴, 鎌田直子.第39回　日本小児ストーマ・排泄・創傷研究会, 2025年6月
- ベーシックレクチャー2　小児病棟における感染管理の実際. 中島由佳, 新谷茜. 第40回日本環境感染学会学術集会, 2025年7月
- 二分脊椎患者の排便管理～当院におけるケアの実際. 鎌田直子. 第34回日本小児泌尿器科学会, 2025年7月
- 重複障害のある小児慢性症患者への性教育. 新井志歩, 寺澤美展, 第44回日本思春期学会・学術集会, 2025年8月.
- 小児専門病院における成人移行期支援としての性教育. 寺澤美展, 新井志歩, 前田梨紗, 第60回日本母性衛生学会総会・学術集会,2025年10月.
- 小児がんが再発した患者の思い. 中谷扶美、栗林佑季. 第23回日本小児がん看護学会学術集会, 2025年11月
- 陽子線治療を受けるこどもの家族の思い. 古賀貴文. 第23回日本小児がん看護学会学術集会, 2025年11月

感染対策部

- 小児集中治療室で発生した播種性帯状疱疹への対応. 中島由佳, 田中沙紀, 新谷茜, 佐伯玲, 末田彩. 第40回日本環境感染学会学術集会, 2025年7月

犬部

- ファシリティドッグ導入への取り組み. 奈須瞳, 田阪恵, 大西美樹, 藤井美有, 三木貴久子, 林勇斗, 前田種男, 細見能文, 末田グリンドロド彩, 森健, 関口典子. 第20回兵庫県立病院学会. 2025年9月.

薬剤部

- 新任職員の業務習得度を可視化する取組み～県立病院で統一した評価方法の作成～.　末森千加子,廣瀬晃子,生盛春菜,齋籐あゆみ,中村亮博,内川晶裕,初田愛子,高井英里,大原沙織,沖元　秀都,沼田範子,西窪奈津子,石田達彦. 第20回兵庫県立病学会,2025年9月
- 小児専門病院における外来がん患者に対する「薬剤師外来」の役割. 垣尾尚美,藤井咲希,　芦原まいか,末森千加子,河原香織,石田 達彦. 第20回兵庫県立病学会,2025年9月
- 小児専門病院での造血幹細胞移植時におけるオピオイド鎮痛薬の使用実態調査. 芦原まいか,藤井咲希,垣尾尚美,末森千加子,河原香織,石田達彦. 第20回兵庫県立病学会,2025年9月

- こども病院の術後疼痛管理チームにおける薬剤師の取り組み．　井川優,澁谷菜月,網代千慧,田中智啓,門倉史枝,奥貞佳世子,末森千加子,河原香織,石田達彦．　第20回兵庫県立病学会,2025年9月
- 当院におけるオンダンセトロン注射液の使用状況及び小児におけるPONV発症リスクに関する検討. 門倉史枝,奥貞佳世子,末森千加子,河原香織,石田達彦,香川哲郎. 第52回日本小児臨床薬理学会学術集会, 2025年11月
- 小児専門病院における外来がん患者に対する「薬剤師外来」の役割. 垣尾尚美,藤井咲希，　芦原まいか,末森千加子,河原香織,石田達彦. 第35回日本医療薬学会,2025年11月
- 兵庫県立こども病院におけるマクロライド系抗菌薬の長期使用に対する調査. 馬戸俊輔,井川優,渋谷菜月,網代千慧,田中智啓,本上ほなみ,奥貞佳世子,末森千加子,河原香織,石田達彦.第47回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2026年2月
- ALL患者におけるL-アスパラギナーゼとペグアスパルガーゼの副作用発現状況比較. 小島　基彰,藤井咲希,今井瑞稀,芦原まいか,本上ほなみ,垣尾尚美,末森千加子,河原香織,石田達彦.第47回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2026年2月
- 小児領域におけるネフローゼ症候群に対するリツキサン® のインフュージョンリアクション発現の状況. 青木美穂,尾辻涼,濵名真紀,迫田萌,岡田瑞希,井上真穂,門倉史枝,末森千加子,河原香織,石田達彦. 第47回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2026年2月

検査部

- 小児の臓器提供における脳波検査を経験して. 鷹尾伏 彩,井岡 真菜,大下 伸子,青野 友美,中村 恵美,笹倉明子,藤本　恵子,千田　園子,第20回兵庫県立病院学会, 2025年9月

放射線部

- 兵庫PET技術研究会の歴史を振り返り、その果たしてきた役割を考える. 原英行. 第36回兵庫PET技術研究会, 2025年3月
- 当院におけるVMAT-TBIのコミッショニング報告. 前田貴彦, 稲村修三, 吉松詩織, 田中陽, 藤井康司. 第20回兵庫県立病院学会, 2025年9月.
- 新規放射線治療装置におけるカウチモデリング検証. 前田貴彦, 稲村修三, 吉松詩織, 田中陽, 藤井康司. 第20回兵庫県立病院学会, 2025年9月.
- 安全な放射線治療装置立ち上げのための受け入れ試験と品質管理項目の適正化に関する検討. 前田貴彦, 田辺悦章, 國井勇希, 佐伯悠介, 佐々木敏久, 後藤峻介, 井芹俊恵. 日本放射線技術学会第55回秋季学術大会, 2025年10月.
- 当院におけるVMAT-TBIのコミッショニング報告. 前田貴彦, 稲村修三, 吉松詩織, 田中陽, 藤井康司. 第63回全国自治体病院学会, 2025年10月.
- 当院における全身照射の処方MU算出方法. 田中陽, 前田貴彦, 稲村修三, 吉松詩織, 藤井康司. 第63回全国自治体病院学会, 2025年10月.

栄養管理部

- 栄養管理部門における人材育成への取り組み. 加嶋真帆, 増山香里, 有田亜美, 鳥井隆志, 株丹彩実, 佐々木洋太, 玉田真友美, 富永侑美, 北村朋加, 梅山純子, 佐藤奈生子, 風張純美, 横山愛佳, 信木由紀子, 小坂直美（令和4・5・6・7年度栄養管理部門会議教育研修委員会人材育成WG）. 第20回兵庫県立病院学会, 2025年9月.

リハビリテーション部

- 丸谷真弓: 離乳期の経口摂取中断により摂食拒否を呈した先天性気管狭窄症の一症例, 令和6年度県立病院リハビリテーション部門会第2回教育研修会, 2025.2, 神戸市
- 高田悠平:オプソクローヌスミオクローヌス症候群の1歳児に対し、長座位の機能向上を目指し介入・家族指導を行った一症例, 令和6年度県立病院リハビリテーション部門会第2回教育研修会, 2025.2, 神戸市
- 福田哲也: 理学療法士の臨床能力が向上する学習について, 第20回兵庫県立病院学会, 2025.9, 神戸市
- 丸谷真弓: 副鼻腔炎からの硬膜下膿瘍により失語症を呈した一症例, 第20回兵庫県立病院学会, 2025.9, 神戸市
- 高田悠平: オプソクローヌスミオクローヌス症候群の1歳児に対し、座位機能向上を目指し介入を行った症例, 第36回兵庫県理学療法学術大会, 2025.10, 神戸市
- 河村勇祐: デジタルデバイスを用いた活動量管理が運動耐容能改善に有用であった成人Fontan術後患者の一例, 第12回小児理学療法学会学術大会, 2025.12, 名古屋市

4）報道関連

テ　ー　マ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
感染症に異変?!インフルエンザ“過去最多”の裏で何が	集中治療科	黒澤寛史	NHKテレビ 「クローズアップ現代」	2025年１月28日
広域医療　ジェットで効果　小児10人搬送 兵庫県立こども病院など	集中治療科	黒澤寛史	読売新聞	2025年７月６日

5）実習生・研修生受け入れ状況

①　実習生

診療部

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸学院大学大学院	公認心理師実習	1	10月14日～10月24日	精神科
神戸大学医学部医学科	ベッドサイドラーニング、学外実習	100	2025年１月～11月	整形外科外来、手術室
神戸常盤大学口腔保健学科		1	2025年１月16日～２月７日	歯科外来・他
兵庫歯科衛生士学院		2	2025年９月１日～９月29日	歯科外来・他

看護部

看護師

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 病 棟
兵庫県立大学看護学部	総合看護（小児）	3	５/19～６/　　（14日間）	病棟（７東　５西）
	実践研究	1	８/12～８/22　　（９日間）	病棟（５西）
		1	８/20～８/29　　（７日間）	病棟（救急・HCU）
		1	８/18～８/29　　（10日間）	病棟（７東）
		1	８/20～９/５　　（10日間）	病棟（救急・HCU）
	生涯広域看護（小児）	18	７/８～７/17　　（８日間）	病棟（７東　６東　５西　５東）
		17	10/７～10/16　　（７日間）	病棟（７東　６東　５西　５東）
		18	10/21～10/30　　（８日間）	病棟（７東　６東　５西　５東）
		17	11/５～11/13　　（７日間）	病棟（７東　６東　５西　５東）
		17	11/18～11/27　　（７日間）	病棟（７東　６東　５西　５東）
		18	12/２～12/11　　（８日間）	病棟（７東　６東　５西　５東）
	総合看護（母性）	5	５/19～６/12　　（18日間）	病棟（産科）
	生涯広域看護（母性）	8	６/23～７/３　　（９日間）	病棟（産科　NICU　GCU）
		9	７/７～７/17　　（９日間）	病棟（産科　NICU　GCU）
	生涯広域看護（母性）補習	1	８/21～８/22　　（２日間）	病棟（産科）
	生涯広域看護（母性）	9	10/20～10/30　　（９日間）	病棟（産科　NICU　GCU）

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 病 棟
兵庫県立大学看護学部	生涯広域看護（母性）	9	11/ 4 ～11/13　（8 日間）	病棟（産科　NICU　GCU）
		9	11/17～11/27　（8 日間）	病棟（産科　NICU　GCU）
		9	12/ 1 ～12/11　（9 日間）	病棟（産科　NICU　GCU）
	合　　計	171		
関西医科大学　看護学部	統合実習	2	5 /26～ 6 / 5　（8 日間）	病棟（HCU）
	合　　計	2		
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学	4	6 /23～ 7 / 4　（8 日間）	病棟（6 東）
		4	8 /26～ 9 / 5　（9 日間）	病棟（6 東）
		3	9 / 9 ～ 9 /19　（8 日間）	病棟（6 東）
	助産診断・技術学実習Ⅰ	2	12/15～12/18　（4 日間）	病棟（産科）
		2	12/22～12/25　（4 日間）	病棟（産科）
	助産診断・技術学実習Ⅲ	2	1 / 6 ～ 1 / 8　（3 日間）	病棟（NICU　GCU）
		3	1 /13～ 1 /15　（3 日間）	病棟（NICU　GCU）
		3	1 /20～ 1 /22　（3 日間）	病棟（NICU　GCU）
	合　　計	23		
神戸常磐大学	課題別総合実習	11	6 / 9 ～ 6 /24　（12日間）	病棟（7 東　6 西　5 東）
	合　　計	11		
関西国際大学	統合看護実習（小児看護学）	4	6 / 2 ～ 6 /12　（8 日間）	病棟（救急・HCU）
		4	6 /16～ 6 /26　（8 日間）	病棟（救急・HCU）
	統合看護実習（母性看護学）	10	7 /22～ 8 / 8　（10日間）	病棟（救急・HCU）
	合　　計	18		
神戸市看護大学	ウィメンズヘルス看護	6	9 /24～ 9 /25　（2 日間）	病棟（NICU　GCU）
		6	9 /29～ 9 /30　（2 日間）	病棟（NICU　GCU）
		6	10/ 7 ～10/ 8　（2 日間）	病棟（NICU　GCU）
		6	2 / 2 ～ 2 / 3　（2 日間）	病棟（NICU　GCU）
		6	2 / 4 ～ 2 / 5　（2 日間）	病棟（NICU　GCU）
	合　　計	30		
神戸女子大学　小児	総合実習	6	5 /12～ 5 /23　（10日間）	病棟（7 西　6 西）　外来

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 病 棟
神戸女子大学　小児	総合実習	7	5 /26～ 6 / 6　　(10日間)	病棟（7 西　6 西）　外来
	課題探求	4	8 /18～ 8 /29　　(10日間)	病棟（7 西　6 西）　外来
		3	9 / 1 ～ 9 /12　　(10日間)	病棟（7 西　6 西）　外来
	成育看護実習Ⅱ（小児）	11	7 /22～ 7 /31　　（8 日間）	病棟（7 西　6 西）　外来
		12	8 / 4 ～ 8 /14　　（8 日間）	病棟（7 西　6 西）　外来
		11	9 /29～10/ 9　　（9 日間）	病棟（7 西　6 西）　外来
	合　　計	54		
神戸女子大学　助産	総合実習	3	9 /16～ 9 /18　　（3 日間）	病棟（産科　NICU　GCU）
	合　　計	3		
関西看護医療大学	小児看護学実習	5	10/28～10/31　　（4 日間）	病棟（6 西）
		10	11/26～11/28　　（3 日間）	病棟（7 西　6 西）
		5	12/ 9 ～12/12　　（4 日間）	病棟（6 西）
		10	1 /14～ 1 /16　　（3 日間）	病棟（7 西　6 西）
	合　　計	30		
兵庫医科大学	小児看護学実習	6	12/22～12/25　　（4 日間）	病棟（6 東　5 西）
		7	1 / 5 ～ 1 / 8　　（4 日間）	病棟（6 東　5 西）
		7	1 /13～ 1 /16　　（4 日間）	病棟（6 東　5 西）
		7	1 /19～ 1 /22　　（4 日間）	病棟（6 東　5 西）
		7	1 /26～ 1 /29　　（4 日間）	病棟（6 東　5 西）
		6	2 / 2 ～ 2 / 5　　（4 日間）	病棟（6 東　5 西）
		7	2 / 9 ～ 2 /13　　（4 日間）	病棟（6 東　5 西）
	合　　計	47		
甲南女子大学	小児看護学実習	6	9 / 8 ～ 9 /12　　（5 日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
		6	9 /16～ 9 /19　　（4 日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
		6	10/ 6 ～10/10　　（5 日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
		6	10/14～10/17　　（4 日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
		6	11/ 4 ～11/ 7　　（4 日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
		4	11/10～11/14　　（5 日間）	病棟（救急・HCU　HCU）

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 病 棟
甲南女子大学	小児看護学実習	6	12/1～12/5　（5日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
		6	12/8～12/12　（5日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
		5	1/19～1/23　（5日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
		5	1/26～1/30　（6日間）	病棟（救急・HCU　HCU）
	小児看護学実習　　補習	1	2/4～2/5　（2日間）	病棟（救急・HCU）
	合　　計	57		
森ノ宮医療大学	主題実習	3	7/28～8/7　（9日間）	病棟（7東）
	小児看護学実習	5	1/13～16　（4日間）	病棟（7東）
		5	1/19～1/23　（5日間）	病棟（7東）
		5	1/26～1/30　（5日間）	病棟（7東）
	合　　計	18		
大手前大学	小児看護学実習	4	11/10～11/14　（5日間）	病棟（7西）
		3	11/17～11/21　（5日間）	病棟（7西）
		5	12/1～12/5　（5日間）	病棟（7西）
		5	12/8～12/12　（5日間）	病棟（7西）
		5	12/15～12/19　（5日間）	病棟（7西）
		4	1/13～1/16　（4日間）	病棟（5東）
		4	1/19～1/23　（5日間）	病棟（5東）
		3	1/26～1/30　（5日間）	病棟（5東）
	合　　計	33		
合　　計		497		

薬剤部

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸学院大学	薬学生実務実習	1	5/19～8/1	
武庫川女子大学	薬学生実務実習	1	5/19～8/1	
神戸学院大学	薬学生実務実習	1	8/18～10/31	
		1	11/17～2/6	

検査部（検査）

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸常盤大学	臨地実習	2	2025年１月９日～３月５日	検査部

栄養管理部

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 場 所
兵庫県立大学	臨床栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習	2	2025年２月10日～２月25日	栄養管理部
同志社女子大学	臨床栄養学・給食経営管理	2	2025年３月３日～３月14日	栄養管理部
武庫川女子大学	臨地実習Ⅱ（臨床栄養学実習）	2	2025年６月２日～６月13日	栄養管理部
名寄市立大学	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	1	2025年６月16日～６月27日	栄養管理部
神戸学院大学	臨床栄養学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	2	2025年８月25日～９月12日	栄養管理部
神戸女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	2025年10月20日～10月31日	栄養管理部
甲南女子大学	臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ	1	2025年11月10日～11月21日	栄養管理部

リハビリテーション部

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸総合医療専門学校	臨床実習Ⅰ	1	2025.２.３～２.17	リハビリテーション室、耳鼻科外来
大阪人間科学大学	臨床実習Ⅰ	2	2025.８.18～８.20	リハビリテーション室
神戸総合医療専門学校	臨床実習Ⅱ	1	2025.８.25～９.22	リハビリテーション室、耳鼻科外来

見学実習

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 病 棟
平成淡路看護専門学校	小児看護学実習	36	2023/11/５（０.５　午前）	各部署ラウンドにて見学
丹波市立看護専門学校	小児看護学実習	31	2023/11/５（０.５　午後）	各部署ラウンドにて見学
合　　計		67		

大学院生

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 病 棟
関西看護医療大学大学院	母性看護・助産学Ⅱ	3	9 / 4 ～ 9 / 5　（2 日間）	病棟（ＮＩＣＵ　ＧＣＵ）
神戸女子大学大学院	小児看護実習Ⅰ	1	9 /22～10/ 6　（10日間）	病棟（5 西）
	小児看護実習　Ⅲ　Ⅳ	1	8 / 4 ～11/25　（26日間）	病棟（5 東）　CNSについて実習
合　　計		5		

教員研修

学　校　名	実　習　名	実習生数	実 習 期 間	実 習 病 棟
丹波市立看護専門学校		1	9 /24　9 /25	病棟（5 西）

②研修生

診療部

依　頼　元	研　修　名	研修生数	研 修 期 間	研 修 場 所
兵庫県立尼崎総合医療センター	兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科専門研修プログラム	1	2025/ 7 / 1 ～ 8 /31	感染症内科
兵庫県立尼崎総合医療センター	兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科専門研修プログラム	1	2025/ 9 / 1 ～ 9 /30	感染症内科
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科	神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科専攻医プログラム	1	2025.9（木，金曜日）. 2025.11（木，金曜日）.	病理診断科

6）院外合同研修会（2025年）

1　公開研修会

名　　称	主　　催	開催日	時　間	場　所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者 / 担当	所属科名
予防接種センター医療従事者等向け研修	兵庫県立こども病院予防接種センター	3月9日	15:30～17:00	Web開催	0	52	52	外国出生児の予防接種取り組みについて	倉橋幸也	神戸大学医学部付属病院感染症内科
第8回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会	兵庫県立こども病院感染対策委員会、抗微生物薬適正使用支援チーム	12月21日	10:30～12:15	Web開催	10	325	335	地域と世界をつなぐ一歩～小さな一歩が変える国際医療～	水野真介「地域における薬剤耐性菌の脅威と国際医療保険の役割」仲里泰太郎「国際医療救援の現場で薬剤師ができること」	兵庫県立こども病院感染症内科 大阪赤十字病院薬剤部兼国際医療救援部
第12回こども病院循環器連携カンファレンス	循環器内科・心臓血管外科	2月8日	14:00～16:00	Web開催	14	24	38	単心室	亀井直哉、久保慎吾、松久弘典	循環器内科・心臓血管外科
第13回こども病院循環器連携カンファレンス	循環器内科・心臓血管外科	6月28日	14:00～16:00	Web開催	14	33	47	大動脈縮窄・離断	亀井直哉、東田昭彦	循環器内科・心臓血管外科
第14回こども病院循環器連携カンファレンス	循環器内科・心臓血管外科	12月20日	14:00～16:00	Web開催	14	42	56	総肺静脈還流異常	亀井直哉、中井亮佑、松久弘典	循環器内科・心臓血管外科
令和7年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会	周産期医療センター	12月6日	14:00～17:00	兵庫県医師会館	13	22	35	1）院外出生で入院した児の家族への関わりについて―施設間でのよりよい連携に向けて― 2）当院で管理した胎児脊髄髄膜瘤の臨床経過 3）特別講演：小児難聴診療―新生児聴覚検査から療育まで―	1）梁京玉 2）荒井貴子 3）大津雅秀	1）NICU 2）産科 3）兵庫県こどものきこえ相談センター長
第1回小児集中治療セミナー	集中治療科	2025年1月12、13日	12日13～19時、13日8時半～12時	講堂	3	21	24	小児集中治療の基礎を学ぶ	黒澤寛史、青木一憲、長井勇樹、宮下徳久、先濵大、古島夏奈、黒江崇史、川本昌平、相良優佳、加藤愛美、三浦和樹、林谷俊和、西田圭吾、原田晋二	集中治療科

V　ボランティア

2025年　イベントボランティアの状況

開催月	日程	内　　容		
4月	15日	春の交通安全キャンペーン	CS	外来
5月	12日	ファシリティードッグ案件	病院	
6月	4日	カナディアンスクール演奏会	末田	外来
	10日	サッカー権田選手		病棟
	11日	楽器演奏　スマイルホスピタルジャパン		6階
	21日	サッカー板倉選手		5階
	26日	ジャグリング　スマイルホスピタルジャパン		7階東
7月	9日	楽器演奏　スマイルホスピタルジャパン		産科病棟
	15日	何処でも万博		講堂・病棟PR
	22日	外来コンサート		外来
8月	6日	バスケットボールパフォーマンス		6東/5東病棟
	19日	科学実験　スマイルホスピタルジャパン		6東病棟
	20日	外来コンサート　スマイルホスピタルジャパン		外来
	20日	病棟　コンサート　スマイルホスピタルジャパン		6西病棟
	26日	科学実験　スマイルホスピタルジャパン		5西病棟
9月	10日	バスケットボールパフォーマンス		7東/7西病棟
	30日	絵本サーグル　ピコ		5東/5西/6西
10月	2日	ダジック・アース　DMHC　神戸ハウス合同企画	院内学級	講堂
	30日	絵本サーグル　ピコ		6東/6西/ 救急・HCU
11月	5日	バルンアート	有坂、他1名	2部署

ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸　ボランティアの状況

ドナルド・ マクドナルド・ ハウス神戸	①　ハートフルカート	①　2025.4～2026.3 毎月2回	3～4人/回	7東西・6東西・ 5東西・救急 HCU・外来
	②　ダジックアース（講堂にて）	②　年1回		